

講義要録 2023

SYLLABUS

愛国学園大学

目 次

2023年度 授業科目の概要

	2023年度入学者	2022・2021年度入学者	2020年度入学者	教員名	ページ数	
共通教養科目	(初年次教育科目)					
	11010	人間文化入門	人間文化入門	人間文化入門	梶原	2
	(基礎科目)					
	11020	現代と人間	現代と人間	現代と人間	岡庭	4
	11030	人文科学と人間	人文科学と人間	日本語入門Ⅰ	伏見	6
	11040	社会科学と人間	社会科学と人間	環境学入門	中村	8
	11050	自然科学と人間	自然科学と人間	現代科学入門	呉	10
	11060	論理と表現	論理と表現	日本語入門Ⅱ	溝田	12
	11070	PBL演習	PBL演習	基礎演習	日坂	14
	11080	日本文化入門	日本文化入門	日本文化入門	梶原	16
	11090	日本国憲法	日本国憲法	現代の法律Ⅰ	太田和	18
	11100	現代社会と女性	現代社会と女性	家族社会学	栂澤	20
	11110	仕事と人生	仕事と人生	職業と人生	赤羽根	22
	(第1外国語科目)					
	12011	英語ⅠA-1	英語ⅠA	英語ⅠA	栗林	24
	12012	英語ⅠA-2				26
	12021	英語ⅠB-1	英語ⅠB	英語ⅠB	安藤	28
	12022	英語ⅠB-2				30
	12031	英語ⅠC-1	英語ⅠC	英語ⅠC	栗崎	32
	12032	英語ⅠC-2				34
	12041	英語ⅠD-1	英語ⅠD	英語ⅠD	伏見	36
	12042	英語ⅠD-2				38
	12051	英語ⅡA-1	英語ⅡA	英語ⅡA	栗林	40
	12052	英語ⅡA-2				42
	12061	英語ⅡB-1	英語ⅡB	英語ⅡB	山崎	44
	12062	英語ⅡB-2				46
	12071	英語ⅡC-1	英語ⅡC	英語ⅡC	伏見	48
	12072	英語ⅡC-2				50
	12081	英語ⅡD-1	英語ⅡD	英語ⅡD	栗崎	52
	12082	英語ⅡD-2				54
	(第2外国語科目)					
	12091	中国語Ⅰ	中国語	中国語Ⅰ	市川	56
	12092	中国語Ⅱ				58
	12101	スペイン語Ⅰ	スペイン語		辻	60
	12102	スペイン語Ⅱ				62
	12111	日本語Ⅰ	日本語	外国語としての日本語Ⅱ-3	部田	64
	12112	日本語Ⅱ				66
	(コンピュータ科目)					
	13010	情報基礎演習	情報基礎演習	情報基礎演習	呉	68
	13020	文書処理演習	文書処理演習	文書処理演習	溝田	70
	13030	表計算演習	表計算演習	表計算演習	溝田	72
	13040	プレゼンテーション演習	プレゼンテーション演習	プレゼンテーション演習	呉	74
	(キャリア形成科目)					
	14010	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインⅠ	就職対策演習Ⅰ	赤羽根	76
	14020	キャリアデザインⅡ	キャリアデザインⅡ	就職対策演習Ⅱ	日坂	78
	14030	秘書学概論	秘書学概論	秘書学概論	赤羽根	80
	14040	秘書学演習	秘書学演習	秘書学演習	赤羽根	82
	(スポーツ健康科目)					
	15010	健康とスポーツ	健康とスポーツ	健康とスポーツ	高橋衍	84
	15020	保健体育論	保健体育論	体育実技	佐藤・佐藤	86
	(選択科目)					
	05040			思考と表現	岡庭	88
	05050			自己表現演習	日坂	90

		2023年度入学者	2022・2021年度入学者	2020年度入学者	教員名	ページ数
専攻科目 (日本理解専攻)	21010	日本文化論	日本文化論	日本文化論	伏見	92
	21020	日本語学概論Ⅰ	日本語学概論Ⅰ	日本語学概論Ⅰ	部田	94
	21030	日本語学概論Ⅱ	日本語学概論Ⅱ	日本語学概論Ⅱ	部田	96
	21040	日本史学概論	日本史学概論	史学概論	梶原	98
	21050	日本社会史	日本社会史	歴史と現代Ⅰ	梶原	100
	21060	歴史と現代	歴史と現代	歴史と現代Ⅱ	梶原	102
	21070	現代日本事情Ⅰ	現代日本事情Ⅰ	日本事情Ⅰ	部田	104
	21080	現代日本事情Ⅱ	現代日本事情Ⅱ	日本事情Ⅱ	部田	106
	21090	西洋文化論	西洋文化論	西洋文化論	伏見	108
	21100	日本と西洋文化	日本と西洋文化	西洋の言語文化	伏見	110
	21110	東洋文化論	東洋文化論	東洋文化論Ⅰ	山崎	112
	21120	日本とアジア	日本とアジア		梶原	114
	21130	日本と国際社会	日本と国際社会		梶原	116
	21140	国際関係論	国際関係論	国際関係論	梶原	118
	21150	国際協力学	国際協力学	国際協力学	梶原	120
	21160	異文化理解	異文化理解	異文化理解	清水	122
	21170	バイリンガル教育論	バイリンガル教育論	東洋文化論Ⅱ	清水	124
	21180	観光学Ⅰ	観光学Ⅰ	地域研究Ⅳ	羽田	126
	21190	観光学Ⅱ	観光学Ⅱ	地域研究Ⅴ	羽田	128
	21200	地域文化と観光	地域文化と観光		羽田	130
	21210	観光地理学	観光地理学	地誌学概論	栗林	132
	21220	観光学フィールドワーク	観光学フィールドワーク		羽田	134
	21230	日本研究	日本研究	現代の社会	岡庭	138
	21240	華道演習	華道演習	文化芸術演習	木原	140
	21250	茶道演習	茶道演習		宮近	142
	21260	ポップカルチャー論Ⅰ	ポップカルチャー論Ⅰ	現代文化論	さちみ	144
	21270	ポップカルチャー論Ⅱ	ポップカルチャー論Ⅱ	日本文化研究	さちみ	146
専攻科目 (心理・生活専攻)	22010	心理学基礎	心理学基礎	心理学概論Ⅰ	原島	148
	22020	心理学概論	心理学概論	心理学概論Ⅱ	佐久間	150
	22030	社会心理学Ⅰ	社会心理学Ⅰ	社会心理学Ⅰ	原島	152
	22040	社会心理学Ⅱ	社会心理学Ⅱ	社会心理学Ⅱ	原島	154
	22060	教育心理学	教育心理学	教育心理学	佐久間	156
	22070	性格心理学	性格心理学	性格心理学	原島	158
	22090	臨床心理学	臨床心理学	臨床心理学	原島	160
	22100	産業心理学	産業心理学	産業心理学	原島	162
	22110	認知心理学	認知心理学	認知心理学	佐久間	164
	22120	色彩心理学	色彩心理学	色彩心理学	佐久間	166
	22130	心理学研究法Ⅰ	心理学研究法Ⅰ	心理学研究法Ⅰ	佐久間	168
	22140	心理学研究法Ⅱ	心理学研究法Ⅱ	心理学研究法Ⅱ	佐久間	170
	22150	心理学実験実習Ⅰ	心理学実験実習Ⅰ	心理学実験実習Ⅰ	原島・佐久間	172
	22160	心理学実験実習Ⅱ	心理学実験実習Ⅱ	心理学実験実習Ⅱ	原島・佐久間	175
	22180	生活科学概論Ⅰ	生活科学概論Ⅰ	生活科学入門	市川	178
	22190	生活科学概論Ⅱ	生活科学概論Ⅱ	生活科学概論	市川	180
	22200	食文化論	食文化論	日本及びアジアの食文化	市川	182
	22210	食品機能学	食品機能学		市川	184
	22220	食品衛生学	食品衛生学		市川	186
	22230	社会福祉論	社会福祉論	社会福祉論	赤羽根	188
	22240	女性労働論	女性労働論	女性労働論	赤羽根	190
	22250	介護・児童福祉論	介護・児童福祉論	介護福祉論/児童福祉論	赤羽根	192
	22260	生活経済学	生活経済学	生活経済学	赤羽根	194
	22270	障がい者コミュニケーション	障がい者コミュニケーション	比較文化論Ⅰ	小川	196

		2023年度入学者	2022・2021年度入学者	2020年度入学者	教員名	ページ数
専攻科目 (地域共生専攻)	23010	法律学概論	法律学概論	現代の法律Ⅱ	太田和	198
	23020	社会学概論	社会学概論		晨	200
	23030	経済学概論	経済学概論	現代経済入門	中村	202
	23040	環境学概論	環境学概論	環境行政と福祉行政Ⅰ	岡庭	204
	23050	公共政策学	公共政策学	現代政治入門	岡庭	206
	23060	福祉政策学	福祉政策学	生活福祉論	太田和	208
	23070	環境政策学	環境政策学	環境行政と福祉行政Ⅱ	岡庭	210
	23080	環境社会学	環境社会学		中村	212
	23090	生活環境学	生活環境学	生活環境学概論	市川	214
	23100	農業経済学	農業経済学		中村	216
	23110	文化人類学	文化人類学	文化人類学入門	山崎	218
	23120	地方自治論	地方自治論		岡庭	220
	23130	地域資源論	地域資源論		岡庭	222
	23140	地域ブランド論	地域ブランド論		山崎	224
	23150	まちづくり論	まちづくり論		岡庭	226
	23160	循環型社会論	循環型社会論		山崎	228
	23170	協同組合論	協同組合論		中村	230
	23180	移民政策論	移民政策論	現代の政治	栗林	232
	23190	多文化共生社会論	多文化共生社会論	多文化共生論	羽田	234
	23200	地域文化と共生	地域文化と共生	地域研究Ⅰ	晨	236
	23210	社会調査法	社会調査法	比較文化論Ⅱ	山崎	238
	23220	社会経済史	社会経済史	現代の経済	中村	240
	23230	農業史	農業史		中村	242
	23240	生涯学習論	生涯学習論		太田和	244
	23250	地域共生演習Ⅰ	地域共生演習Ⅰ	地域研究Ⅱ	栗林	246
	23260	地域共生演習Ⅱ	地域共生演習Ⅱ	地域研究Ⅲ	栗林	248
	23270	地域共生フィールドワーク実習	地域共生フィールドワーク実習		中村・山崎	250
専攻科目 (ビジネス専攻)	24010	情報科学概論	情報科学概論	情報科学概論	日坂	254
	24020	ビジネス情報学	ビジネス情報学	ビジネス情報学	梶澤	256
	24030	プログラミング基礎	プログラミング基礎	プログラミング基礎	日坂	258
	24040	プログラミング応用	プログラミング応用	情報システム論	梶澤	260
	24050	情報資格演習	情報資格演習	情報資格対策演習	日坂	262
	24060	WEBデザイン演習	WEBデザイン演習	WEBデザイン演習	日坂	264
	24070	セキュリティ概論	セキュリティ概論	情報管理・セキュリティ概論	日坂	266
	24080	情報数学	情報数学	情報数学	日坂	268
	24090	データベース演習	データベース演習	データベース演習	梶澤	270
	24110	基礎統計学	基礎統計学	基礎統計学	溝田	272
	24120	コンピュータ会計演習	コンピュータ会計演習	コンピュータ会計演習	梶澤	274
	24130	ビジネスモデル論	ビジネスモデル論	eビジネス概論	羽田	276
	24140	ビジネスモデル演習	ビジネスモデル演習	ビジネス実務総合演習	羽田	278
	24150	女性起業論	女性起業論	女性起業論	久保田	280
	24160	ソーシャルビジネス概論	ソーシャルビジネス概論	ソーシャルビジネス概論	梶澤	282
	24170	ベンチャービジネス論	ベンチャービジネス論	インターネットマーケティング	梶澤	284
	24180	簿記論	簿記論	簿記Ⅰ	呉	286
	24190	簿記演習	簿記演習	簿記演習Ⅰ	呉	288
	24200	会計学概論	会計学概論	会計学概論	呉	290
	24210	財務管理論	財務管理論	財務管理論	呉	292
	24220	原価計算論	原価計算論	原価計算論	呉	294
	24230	経営学概論	経営学概論	経営学概論	溝田	296
	24240	マーケティング論	マーケティング論	マーケティング論	溝田	298
	24250	経営組織論	経営組織論	経営組織論	溝田	300
	24260	経営管理論	経営管理論	経営管理論	梶澤	302
	24270	経営戦略論	経営戦略論	経営戦略論	溝田	304

		2023年度入学者	2022・2021年度入学者	2020年度入学者	教員名	ページ数
人間文化演習	31011		日本理解専攻		伏見	306
					梶原	309
					羽田	312
					部田	315
					清水	318
	31012		心理・生活専攻		市川	321
					赤羽根	324
					原島	327
					佐久間	330
	31013		地域共生専攻		岡庭	333
					中村	336
					山崎	339
					栗林	342
	31014		ビジネス専攻		溝田	345
					呉	348
					梶澤	351
					日坂	354
卒業研究演習	31021			人間文化分野	原島	358
					佐久間	361
					部田	364
					山崎	367
	31022			生活科学分野	市川	370
	31023			環境福祉分野	岡庭	373
					赤羽根	376
	31024			情報科学分野	梶澤	379
					日坂	382
	31025			ビジネス経営分野	溝田	385
					呉	388
	31026			国際協力分野	伏見	391
					梶原	394
					栗林	397
外国人留学生日本語支援科目	41071	日本語ⅠA-1前	日本語ⅠA-1	日本語ⅠA-1	清水	400
	41072	日本語ⅠA-1後		日本語ⅠB-1	清水	402
	41081	日本語ⅠA-2前	日本語ⅠA-2	外国語としての日本語Ⅰ-2	高橋	404
	41082	日本語ⅠA-2後			高橋	406
	41091	日本語ⅠB-1前	日本語ⅠB-1	外国語としての日本語Ⅰ-1	長谷川	408
	41092	日本語ⅠB-1後			長谷川	410
	41101	日本語ⅠB-2前	日本語ⅠB-2	日本語ⅠA-2	清水	412
	41102	日本語ⅠB-2後		日本語ⅠB-2	清水	414
	41111	日本語ⅡA-前	日本語ⅡA	外国語としての日本語Ⅱ-1	高橋	416
	41112	日本語ⅡA-後			高橋	418
	41121	日本語ⅡB-前	日本語ⅡB	日本語ⅡA-1	清水	420
	41122	日本語ⅡB-後		日本語ⅡB-1	清水	422
	41131	日本語ⅡC-前	日本語ⅡC	日本語ⅡA-2	部田	424
	41132	日本語ⅡC-後		日本語ⅡB-2	部田	426

科目名	人間文化入門（人間文化入門）			科目コード	11010	
英 文 名	First-Year Experience			科目区分	【共通教養科目】 初年次教育科目（必修）	
担当教員	梶原 健嗣 他		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	大学生の初年次教育として、本学で目指す教育目的・内容を明らかにする。各回ごとに担当が違う”オムニバス形式”の講義となる。					
授業の狙い・到達目標	大学教育では主体的に学び、探究する姿勢が重要となり、意識の転換が必要になる。そうした転換を支えるために行う初年次教育として、人間文化入門が位置付けられている。各教員が提示する様々な事項を吸収し、「主体的な学び」の基礎を確立することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	初年次教育であり、内容は基礎的なことがらである。しかし、基礎にこそ事物の本質がある。1つ1つの講義を疎かにせず取り組むこと。関連科目は、本学が提供する全講義科目である。					
授業外学習（予習・復習）	大学案内や履修案内・シラバスをしっかりと読み、本学の教育体系を把握する。今後の4年間でどのような学習になるのかを把握することが予習・復習となる。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし。 担当教員より、レジュメ等が配布されることがある。					
参考書・その他教材	特になし。 担当教員より、レジュメ等が配布されることがある。					
課題に対するフィードバック	オムニバス形式であり、各回ごとに対応は異なる。担当の教員に指示に適切に従うこと。					
成績評価方法	授業への貢献度を平常点として評価する(30%)。7～8回の成果(レポート)が40%、第14～15回講義に相当する歴史民俗博物館の見学レポートを30%で評価する。					
成績評価基準	本学の学業成績判定に関する基準に照らし、評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	本講義は大学生活を円滑にスタートさせるために不可欠な初年次教育科目であり、高い目的意識をもって本講義に臨むことを期待する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	代表して、 kajiwara@aikoku-u.org					

授業スケジュール

人間文化入門

1 回	学習内容 予習 復習	担当・太田和, 建学の精神, 校訓, 教育目的ほか, 本学の教育について 「履修案内」中の単位制, 学内マナーに関する説明, 規則などを熟読し, 理解しておくこと。 授業内容を振り返り, 大学における学習の在り方についてさらに理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	担当・佐久間, 大学教員と高校教員。その違いと大学での「学び」の意義+学生生活 『履修案内』のなかの, 「学生生活の心得」を読んでくること。 授業で紹介されたことを, 実際の学生生活に生かす。
3 回	学習内容 予習 復習	担当・赤羽根, ライフプランを作成して, 仕事を通じて形成されるキャリアについて考える。 現在, 興味のある職業について, その仕事内容と必要な資格などを調べておくこと。 授業内容(人生とキャリア)について振り返り, 目標達成のための計画を実践していくこと。
4 回	学習内容 予習 復習	担当・伏見, 図書館の利用の仕方, 文献の探し方 実際に図書館を訪れてみること。 履修前は知らなかった事項につき, 実際に図書館を利用してみること。
5 回	学習内容 予習 復習	担当・日坂, インターネットを用いた情報検索方法, 情報リテラシーの基礎等を学ぶ。 「ICTシステム・機器利用の手引き 2021」を熟読して理解し, 質問をまとめておくこと。 講義中で指示する情報源より, 統計情報等を検索して入手, 保存, 管理, 提出する。
6 回	学習内容 予習 復習	担当・清水, 日本語力をいかに磨くか。その理論と実践スキル 日本語力とは何か, 日本語力を磨くにはどうしたらいいのかについて, 予め考えてくること。 講義・配布資料をヒントに, 日本語力を磨くための具体的な方法を考え, 実行すること。
7 回	学習内容 予習 復習	担当・山崎, レポートの書き方①, トピックセンテンスを展開させてパラグラフを立てる。 文章がどのように書かれているかを学ぶために, 新聞記事を読んでおく。 授業で提示したテーマについて, パラグラフを立てる練習をする。
8 回	学習内容 予習 復習	担当・栗林, 大学レベルのレポートを書くための基本的なレポートスキル 前回の講義内容をよく復習し, これまでの自分のレポートの書き方の欠点をチェックする。 講義を踏まえて, 実際にレポートを書いてみること。
9 回	学習内容 予習 復習	日本理解専攻説明【専攻・所属教員】 履修案内や大学案内をよく読み, 各専攻の特徴・教育の狙いを把握しておくこと。 説明を踏まえ, 各専攻が自分にあっているかを検討し, 半年後の専攻選択の基礎とすること。
10 回	学習内容 予習 復習	心理・生活専攻の説明【専攻・所属教員】 履修案内や大学案内をよく読み, 各専攻の特徴・教育の狙いを把握しておくこと。 説明を踏まえ, 各専攻が自分にあっているかを検討し, 半年後の専攻選択の基礎とすること。
11 回	学習内容 予習 復習	地域共生専攻の説明【専攻・所属教員】 履修案内や大学案内をよく読み, 各専攻の特徴・教育の狙いを把握しておくこと。 説明を踏まえ, 各専攻が自分にあっているかを検討し, 半年後の専攻選択の基礎とすること。
12 回	学習内容 予習 復習	ビジネス専攻の説明【専攻・所属教員】 履修案内や大学案内をよく読み, 各専攻の特徴・教育の狙いを把握しておくこと。 説明を踏まえ, 各専攻が自分にあっているかを検討し, 半年後の専攻選択の基礎とすること。
13 回	学習内容 予習 復習	担当・梶原・溝田, 歴博の事前学習および北総地域の文化について 北総地域の歴史や産業, 文化等について, 自分なりに調べてみる。 講義を振り返り, 歴博見学でどこに注目するか, シミュレーションしてみる。
14 ・ 15 回	学習内容 予習 復習	国立歴史民俗博物館への見学。教務委員会で引率する。 日本の歴史または, 千葉県の歴史について事前学習しておくこと。 歴博案内の紹介動画が最も効率的な事前学習となる。 見学を踏まえて, レポートを完成させること。 また見学のなかで興味を持った事項について, 学習を深めること。

科目名	現代と人間			科目コード	11020	
英 文 名	Introduction to Comtemporany Society Studies			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本講は、現代社会に生きる私たちが直面するさまざまな課題とその解決に向けた多様な取り組みについて、建学の精神に基づき、共生と協働の観点から整理と解説を試みるものである。					
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 人間社会の諸問題を講義で解説した概念と理論を用いて説明することができる。 [到達目標②] 現代社会における共生と協働の実現を構想し自らの言葉で提案することができる。 [到達目標③] 身近な生活上の課題を発見し、科学的な思考に基づき説明することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	大学教育のスタートに当たり、思考力を広げ、深めていく力を養うための講義である。同時に具体的なテーマとして、現代社会の様々な問題点につき、体系的に理解することも目指す。					
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 日常生活の中で感じた疑問やバリアについて、体系的に整理しておくこと。 [事後学習] 講義で学習した内容を可能な限り自己の問題意識や生活上の課題に接続させ、その解決や理解を深めること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	・山下晋司編『公共人類学』東京大学出版会(2014) ・山岸俊男『安心社会から信頼社会へ』中公新書(1999) ・山本哲士『ディスカールの政治学 -フーコー、ブルデュー、イリイチを読む-』新曜社(1987)					
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①](50%)、 ・講義中の小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](30%)、 ・講義への参加状況(20%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	日常生活におけるさまざまな事象や課題に関心をもち、今後の学びを展望しながら主体的に学習することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー共生社会と協働のしくみー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	「誰一人とりのこさない」持続可能な社会とSDGsの世界 持続可能な開発目標(SDGs)における17のゴールと169のターゲットを調べておくこと。 SDGsの課題と実現可能性について振り返り、自らの考えをまとめ理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	家族・ジェンダーの変化と「多様な性」の未来 家族の役割、ワークライフバランス、LGBT・SOGIなどの用語や概念について調べておくこと。 講義の内容を振り返り、身近な課題に結びつけながら自らの考えをまとめ理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	少子高齢化と福祉の社会学 日本における少子高齢化がもたらすさまざまな社会問題について調べておくこと。 少子高齢化の背景と福祉の問題について振り返り、自己の考えをまとめ理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	民族の共生と「想像の共同体」 異文化理解の経験や世界の人々との共生の可能性について問題意識を涵養しておくこと。 多様な人々との共生や協働の実現に必要な取り組みについて振り返り、理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	観光とまちづくり 世界各地の観光資源、観光地・事業、みやげものなどについて具体的に調べておくこと。 観光による地域活性化・まちづくりの具体的な事例を整理し理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	環境問題と災害の社会史 地球温暖化に伴う環境変動、自然災害、公害などの具体的な事例や歴史を調べておくこと。 環境問題や自然災害が私たちの社会に与えた影響について自らの考えを整理し理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	EI(感情的知性):安心社会から信頼の構造へ 私たちがヒトやモノに「共感する」とはどのようなことだろうか、自らの考えをまとめておくこと。 信頼に基づく社会が生まれる要件について振り返り、共感の意味について理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	芸術、文化、サブカルチャー 芸術、文化、サブカルチャー(漫画、音楽、アニメ等)の具体的な事例について調べておくこと。 芸術・文化の領域が個人や社会を豊かにしている仕組みについて省察し理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	神話・伝説と現代社会 現代社会に伝承されている神話・伝説(都市伝説を含む)について事前に調べておくこと。 現代社会において神話・伝説が伝承・共有される理由や背景について振り返り理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	祈りの世界史 信仰的世界観、超自然的存在(妖怪、祖霊、神々など)の具体的な事例について調べておくこと。 私たちの暮らしの中にある日常と非日常という異質な原理の併存について振り返り理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	公衆衛生とQOL(ケアの社会学) QOL(Quality of Life)やケアの概念が生まれた歴史的背景や考え方について調べておくこと。 講義を振り返り、私たちにとって幸せな人生や質の高い生活とは何を意味するのか省察する。
13 回	学習内容 予習 復習	象徴と境界理論 花言葉、誕生石など、身近な象徴の事例を発見し、表象の意味と過程について調べておくこと。 象徴と分類の体系について振り返り、分類困難な境界領域の論理について理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	対立の構造と共生の論理 世界中に看取される紛争や対立の事例をニュースや新聞などで調べておくこと。 紛争や対立を乗り越え多様な人々が互いに尊重して共生する社会の実現について考察する。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー個性の尊重と多様性の未来ー これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科目名	人文科学と人間（日本語入門Ⅰ）				科目コード	11030	
英 文 名	Introduction to Cultural Sciences (Introduction to Japanese Linguistics Ⅰ)				科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)	
担当教員	伏見 親子		教員コード	121	単 位 数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	西洋思想・東洋思想・日本思想に基づくそれぞれの文化を、特に文学と美術を通して概観する。日本文化はそれぞれの文化の影響のもとに発展してきたので、外国文化の日本文化への影響という観点からの講義となる。						
授業の狙い・到達目標	洋の東西を問わず、古代から現代に至る、人文科学に対する幅広い教養を得ることが目標である。日本文化が、古代は東洋(特にインドと中国)の、戦国時代を経て明治維新以降は西洋(とアメリカ)の影響を受けて発展してきたことを理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	自然科学と人間、社会科学と人間、人文科学と人間で一体となって、大学生としての広範な教養への入門となっている。						
授業外学習(予習・復習)	人文科学全般にわたる講義なので、思想史、哲学書、新聞の文芸欄などに目を通しておくこと				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	プリント教材を配付する。						
参考書・その他教材	授業で指導する。できれば、百科事典アプリのついた電子辞書を持ってくること						
課題に対するフィードバック	レポート小試験提出後、コメントをつけて返却する。						
成績評価方法	レポート小試験70%、授業への積極的な関与を貢献度として30%、で評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	レポート試験は、必ず遅れず提出すること。遅れて提出した場合は、減点対象となる。授業途中での退席は早退とみなす。やむを得ない場合は、教員の許可を得て学籍番号を告げること						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問は、原則的にfushimi@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

人文科学と人間(日本語入門Ⅰ)

共通教養科目
(基礎科目)

1 回	学習内容 予習 復習	西洋の思想 1 シラバスの授業概要と授業の目標をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	西洋の思想 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	東洋の思想 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	東洋の思想 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	日本の思想 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	日本の思想 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	日本文学 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	日本文学 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	西洋文学 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	西洋文学 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	日本美術 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	日本美術 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	西洋美術 1 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	西洋美術 2 事前に配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	授業進度の調整 これまでに配付した資料を、事典を引いてよく読んでおくこと レポートの課題を仕上げること

科 目 名	社会科学と人間（環境学入門）				科目コード	11040	
英 文 名	Intoroduction to Social Sciences (Intoroduction to Environmental Studies)				科目区分	【共通教養科目】 基礎科目（必修）	
担当教員	中村 塑		教員コード	138		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	社会科学は社会の真理を探究する学問であり、ここには法学や政治学、経済学、歴史学などが含まれる。社会科学の研究成果を踏まえて、わたしたちはどのように生きていけばよいのかを考える。						
授業の狙い・到達目標	社会科学の特長を理解し、基本的な知識を身につけることができる。 身近なところから国際的レベルにまで存在する社会の諸問題に向き合うための知識を得ることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生のレベルとしては入門レベルである。 関連科目：法律学概論、経済学概論						
授業外学習（予習・復習）	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	井手英策・宇野重規・坂井豊貴・松沢裕作『大人のための社会科』（有斐閣）2017年						
参考書・その他教材	授業の回によってはレジュメ等を配布することがある。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントする。						
成績評価方法	定期試験（70％）、レポート（30％）						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	社会問題に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

社会科学と人間(環境学入門)

共通教養科目
(基礎科目)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	GDPについて 教科書第1章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	勤労について 教科書第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	時代について 教科書第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	多数決について 教科書第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	運動について 教科書第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	私について 教科書第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	前半で学習したことの確認 第1回から第7回までの授業で学んだことについて、教科書・ノート等を見直すこと 教員の指示に従って、レポートを作成すること
9 回	学習内容 予習 復習	公正について 教科書第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	信頼について 教科書第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	ニーズについて 教科書第9章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	歴史認識について 教科書第10章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	公について 教科書第11章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	希望について 教科書第12章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科 目 名	自然科学と人間（現代科学入門）			科目コード	11050	
英 文 名	Introduction to Natural Sciences (Introduction to Contemporary Sciences)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目（必修）	
担当教員	呉 鷹		教員コード	157	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	自然科学の進歩は著しく人間の生活・生産、自然環境に大きな影響を与えている。本講義での学習を通じて、自然科学が人間活動と自然環境に与える影響力を理解し、自然科学がもたらしたプラスの影響とマイナスの影響を考えるための基礎を養う。本講義では、持続可能な社会の構築という視点からも考察を行う。					
授業の狙い・到達目標	自然科学の基礎知識を理解し、持続可能な社会の構築に対して自分の考えることができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	本講義は、自然科学に関する入門編であるが、自然科学と社会発展の関係性を考える力が身に付く科目でもある。 本講義は、本学にある数少ない自然科学関連の科目である。					
授業外学習（予習・復習）	予習：積極的に配布資料等の予習を行う。 復習：配布資料等を復習し、基礎知識と考え方を身につけるように振り返る。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	担当教員が作成する配布資料 古川安著『科学の社会史：ルネサンスから20世紀まで』ちくま学芸文庫（2018）					
参考書・その他教材	参考書（授業のための購入は不要） 宮本憲一著『環境経済学』岩波書店（2007） 三浦慎悟著『動物と人間：関係史の生物学』東京大学出版会（2018）					
課題に対するフィードバック	翌週の授業時に解説を行う。					
成績評価方法	期末試験（70%）、課題提出と授業中の発表（20%）、平常点（10%）					
成績評価基準	講義内容への理解度、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	社会活動、自然現象と自然科学の関連性について自分なりに考える必要がある。考える力を養うことが大事である。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)あるいは対面で対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー（新年度に掲示）に対応する。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、自然科学に対する認識、基礎力テストと講評 シラバスを事前に確認する。 配布資料と基礎力テストの内容を復習し、学習のポイントと目標を明確にする。
2 回	学習内容 予習 復習	自然科学とは何か 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、自分の考えと感想を400字でまとめて次回の授業で発表する。
3 回	学習内容 予習 復習	自然科学と農業 その1 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、農業と自然科学の関連性を考える。
4 回	学習内容 予習 復習	自然科学と農業 その2 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、農業と自然科学の関連性について考えを深める。
5 回	学習内容 予習 復習	農業と公害、緑の革命、環境保全型農業 配布資料を予習し、事例に関して事前に調べる。 配布資料等を復習し、農業がもたらした公害問題と自然科学の関連性を考える。
6 回	学習内容 予習 復習	自然科学と工業化 その1 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 配布資料等を復習し、工業の発展と自然科学の関連性を考える。
7 回	学習内容 予習 復習	自然科学と工業化 その2 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 配布資料等を復習し、工業の発展と自然科学の関連性について考えを深める。
8 回	学習内容 予習 復習	工業の発展と公害問題 配布資料と教科書の指定ページを予習し、事例に関して事前に調べる。 工業化がもたらした公害問題と自然科学の関連性を考え、発表内容を作成する。
9 回	学習内容 予習 復習	前半(第1回から第8回まで)の復習、履修生による発表 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 第1～8回の配布資料等を復習し、自分の考えを深めるようにレポートを作成する。
10 回	学習内容 予習 復習	生物学とその功罪 その1(遺伝子組み換え問題) 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、遺伝子組み換えのメリットとデメリットについて考える。
11 回	学習内容 予習 復習	生物学とその功罪 その2(感染症とワクチン) 配布資料を予習する。 配布資料を復習し、生物学のプラスの側面とマイナスの側面について考えを深める。
12 回	学習内容 予習 復習	自然科学と気候変動(地球の温暖化) 配布資料を予習する。 配布資料等を復習し、自然科学と気候変動の関連性を考え、次回の授業で発表する。
13 回	学習内容 予習 復習	自然科学と再生エネルギー 配布資料を予習する。 配布資料等を復習し、自然科学、再生エネルギーと気候変動の関連性を考える。
14 回	学習内容 予習 復習	生物の多様性と持続可能な社会 配布資料を予習する。 生物多様性、自然科学と持続可能な社会の構築の関連性を考える。
15 回	学習内容 予習 復習	総括(第1回から第14回までの要点整理)、履修生による発表 第1～14回の講義内容を復習し、発表内容を作成する。 これまでの配布資料等を復習し、自然科学と人間活動の相互作用について考えを深める。

科目名	論理と表現（日本語入門Ⅱ）				科目コード	11060	
英 文 名	Logic and Expression (Introduction to Japanese Linguistics Ⅱ)				科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)	
担当教員	溝田 俊之		教員コード	156		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本講義は、自己表現や意見表明を適切に行うための文章力の養成を目的とする。読み手にわかりやすい文章で、自分の意見を説得力をもって展開する技術を学び、最終的には、学術レポートが書けるようになることを目的とする。						
授業の狙い・到達目標	1) 論理的な思考力、伝達したい情報の構成力を身につけること。 2) その思考を文章で表現する技術を身につけること。 3) 学術レポートが書けるようになること。						
授業内容のレベル・関連科目	おそらく、レポートや論文とは何かを初めて考える機会となるであろう。社会に出てから問題のない報告がかけられるレベルを目指したい。						
授業外学習(予習・復習)	シラバスを読んで予習復習を行うこと。毎回の授業で出す指示をよく聞いておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法第3版』慶応義塾大学出版会						
参考書・その他教材	戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス 木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫						
課題に対するフィードバック	授業中に小レポート、小テストを行い、その内容や出来を受けて、後の授業で理解を補強するための解説を行う。						
成績評価方法	最終レポート(40%)、中間レポート・授業中の課題(40%)、平常点(20%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどれくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	「単位を取ること」が目標ではなく、「文章で人に情報を伝える能力を身につけること」が目標という意識をしっかりと持ち、主体的に取り組むことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to:mizota@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:授業の内容、進め方などについて学ぶ。 シラバスをよく読んでおく。 推薦した参考書や、類する書籍を探してみる。
2 回	学習内容 予習 復習	レポートとはなにか、論文とはなにかについて学ぶ 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
3 回	学習内容 予習 復習	説得力のあるレポート・論文を書くために何が必要か。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
4 回	学習内容 予習 復習	読む力を鍛える。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
5 回	学習内容 予習 復習	レポート作成の5ステップ。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
6 回	学習内容 予習 復習	論文作成の5ステップ。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
7 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法① 題名の付け方、定義の仕方。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
8 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法② 引用の方法。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
9 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法③ パラグラフの書き方。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
10 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文の作法④ 事実の意見を区別する。 教科書の該当箇所を読み疑問点をまとめてくる。 授業内容を簡潔にまとめた小レポートを作成する。
11 回	学習内容 予習 復習	報告型レポートの作成 指定するテーマについて情報を収集し、レポート用紙にまとめておく。 フィードバックを参考に文章を修正する。
12 回	学習内容 予習 復習	論証型レポートの作成① 指定するテーマについて情報を収集し、レポート用紙にまとめておく。 フィードバックを参考に文章を修正する。
13 回	学習内容 予習 復習	論証型レポートの作成② 指定するテーマについて情報を収集し、レポート用紙にまとめておく。 フィードバックを参考に文章を修正する。
14 回	学習内容 予習 復習	期末レポートの作成 テーマについて情報を収集し、レポート用紙にまとめておく。 レポート執筆をする。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ:レポートの自己評価、相互評価、総括的な振り返り。 これまでの授業内容の要点をまとめておく。 フィードバックを参考に文章を修正する。

科目名	PBL演習（基礎演習）			科目コード	11070	
英 文 名	Practice of Problem-based Learning (Basic Practice for Academic Learning)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う	☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☒	5.学習の過程で発見した課題を探究する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本授業はPBL(問題解決型学習)形式の授業である。ここでは、「学習者が問題を発見し、解決の見通しをつけて実行し、何らかの形で結論を得るための学習法」を共通する要素とみなし、ProblemとProjectの双方を意識した演習形式で進行する。					
授業の狙い・到達目標	グループで課題を解決するための演習である。この演習を通して、問題解決の思考方法、フレームワーク及び仲間と協力して問題解決を図る協働スキルを習得できる。					
授業内容のレベル・関連科目	PBL、AL(Active Learning)の基礎／共通教養科目全般					
授業外学習(予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	SDGs(Sustainable Development Goals)に関連する文献およびWebsite全般					
課題に対するフィードバック	教員はファシリテーターとして、適宜学習促進の役割を果たす。					
成績評価方法	グループ内での活動状況(貢献と内容及び発表)(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	普段より新聞、テレビ、インターネット等を通じて、対象課題に関心を向けておくこと。 グループワークは、基本的にGoogle Classroomをプラットフォームとする。集合して作業を行う必要がある場合には、厳に三密を避けるなど感染症対策に留意すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org					

授業スケジュール

PBL演習(基礎演習)

共通教養科目
(基礎科目)

1 回	学習内容 予習 復習	この演習の目的 — PBL(問題解決型学習)とは シラバスを熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 PBLの事例について調査し、まとめておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(1) — グループ毎に取り組む問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
3 回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(2) — グループ毎に取り組む問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
4 回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(3) — グループ毎に取り組む問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
5 回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(4) — グループ毎に取り組む問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
6 回	学習内容 予習 復習	問題発見と認識(5) — グループ毎に取り組む問題発見と認識 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。 ファクトシートの指定範囲に関連する統計データや報告書を調査し、資料収集する。
7 回	学習内容 予習 復習	グループ決定と計画作成 — 各グループ毎に作業手順や役割分担の決定 自分の希望テーマを明確にしておく。 GSE Classroomでグループ内コミュニケーションが図れることを確認する。
8 回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(1) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
9 回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(2) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
10 回	学習内容 予習 復習	原因調査と分析(3) — 調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析 グループ毎に調査、資料収集、情報の整理統合、議論、分析
11 回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(1) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
12 回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(2) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
13 回	学習内容 予習 復習	解決方法の策定(3) — 立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる グループ毎に立案、議論、検証、結論をまとめる
14 回	学習内容 予習 復習	発表と評価 — 各グループの発表と評価(1) グループ毎に発表準備をする 発表の振り返りをする。
15 回	学習内容 予習 復習	発表と評価 — 各グループの発表と評価(2) グループ毎に発表準備をする PBLのフレームワークを定着させる。

科目名	日本文化入門（日本文化入門）			科目コード	11080	
英 文 名	Introduction to Japanese Culture			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目（必修）	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	現在の日本文化は、各時代に花開いた様々な文化的が重層的に折り重なったものである。そうした観点に立ち、歴史的に日本文化の発展・変容を理解することを目指す。					
授業の狙い・到達目標	歴史学習で重要なのは、政治・社会の流れのなかで各時代の文化的特徴を理解することである。その点を心掛けて講義を行い、学生は知識の断片にならない多面的な日本文化の理解に到達することができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	内容は、講義名のとおり、入門レベル。日本史学概論や日本社会史が幕末から始まる近現代史であるのに対し、本講義は先史時代からの通史である。歴史と現代（歴史と現代Ⅱ）が地域史として、また日本とアジアが、外交史として、古代・中世なども扱っている。					
授業外学習（予習・復習）	本講義では、世界遺産に登録されている文化遺産や寺社を多く扱う。「百聞は一見に如かず」であり、これらを実際に訪れてみることも、またそれらの紹介資料（ホームページ、紹介映像）を閲覧することが、予習・復習として効果的である。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15％、筆記試験85％（中間テスト含む）					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ？」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問（kajiwara@aikoku-u.org）、またはオフィスアワー（新年度に掲示）。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス, 講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返しするとともに, 左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	石器時代から縄文時代まで。加曽利貝塚, 三内丸山遺跡などを取り上げる。 加曽利貝塚や三内丸山遺跡の解説動画を見える。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	弥生時代から古墳時代まで。登呂遺跡, 吉野ケ里遺跡などを取り上げる。 登呂遺跡や吉野ケ里遺跡の解説動画を見える。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	飛鳥時代から奈良時代まで。世界遺産の法隆寺, 古都・奈良の文化財を取り上げる。 世界遺産「古都・奈良」を構成する社寺につき, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	平安時代。世界遺産として登録されている, 古都・京都の文化財を取り上げる。 世界遺産「古都・京都」を構成する社寺につき, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	平安後期から鎌倉時代。浄土信仰ほか, 宗教の民衆社会の広まりについて概説する。 浄土信仰について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	室町時代。金閣寺・銀閣寺や伝統芸能(能)を中心に, その文化を概説する。 北山, 東山文化について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	江戸時代初期。城郭建築と世界遺産・日光を中心に, 17世紀の文化を概説する。 世界遺産・日光の社寺について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で, 第2回～第8回までの講義をおさらいする。 第2回～第8回までの講義を改めて復習してくる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	近代的発展の基礎がつけられた時代として江戸時代を捉え, その歴史・文化を概説する。 江戸時代の今日的意義について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	明治維新の「国際化・近代化」を概説し, 同時代の歴史と文化を学ぶ。 明治維新の意義について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	大正デモクラシーと当時の「モダンライフ」を総合的に捉え, その歴史的意義を理解する。 大正デモクラシーの現代的意義について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	戦後復興と高度成長の意義を, 「大衆消費社会」という文化的側面から捉え直す。 昭和の時代(とりわけ戦後)の文化的特徴について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	平成以降の現代を, IT社会とグローバル化をキーワードに捉え直す。 平成の文化的特徴について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で, 第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。

科目名	日本国憲法（現代の法律Ⅰ）			科目コード	11090	
英 文 名	The Constitution of Japan (Contemporary Law Ⅰ)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目(必修)	
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本国憲法についての基本的知識並びに国民主権、人権尊重主義、平和主義などの憲法の基本原理を学ぶ。 授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。					
授業の狙い・到達目標	我が国の社会システムの基本原理を規定する日本国憲法について理解を深め、様々な問題に立ち向かい解決できる人の育成を目指す。 国民主権、人権尊重主義などの基本的な価値観の意味を理解できるとともに、関連する社会情勢についても関心を持ち、自分なりの考え方を持てるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	必要とする先修科目はないが、高等学校の社会科などの知識が必要であり、これらが基礎となる。 関連する科目としては、「法律学概論(現代の法律Ⅱ)」がある。					
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	吉田成利『大学生のための日本国憲法入門』慶応義塾大学出版会					
参考書・その他教材	e-Gov法令検索（web上で提供される日本の法令の検索・閲覧システム）					
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日常の生活を通じて、法について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。					
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には、★印を付して下線を引いてある。					
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to:ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

日本国憲法(現代の法律Ⅰ)

共通教養科目
(基礎科目)

1 回	学習内容 予習 復習	【イントロダクション】授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2 回	学習内容 予習 復習	社会規範と法の関係並びに法制度の概要について学ぶ。 社会規範の中の法の役割について調べ、理解を得ること 授業内容(法制度の概要)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
3 回	学習内容 予習 復習	憲法の定義と目的、憲法の基本原理と構造について学ぶ。 教科書の第1章「日本国憲法とは？」を読んで理解を得ること 授業内容(日本国憲法の概要)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
4 回	学習内容 予習 復習	憲法に定める人権とはどのようなことかについて学ぶ。 教科書の第3章「人権の制限」及び第15章「新しい人権」を読んで理解を得ること 授業内容(人権)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
5 回	学習内容 予習 復習	人権はどのような場合に制限されるのかについて学ぶ。 教科書の第3章「人権の制限」を読んで理解を得ること 授業内容(人権の制限)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
6 回	学習内容 予習 復習	憲法に定める「自由」と「責任」について学ぶ。 束縛を受けないで、自らの意思や本性に従う「自由」が必要な理由を考えてくること 授業内容(自由と責任)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
7 回	学習内容 予習 復習	信教の自由、政教分離の原則について学ぶ。 教科書の第4章「信教の自由と政教分離」を読んで理解を得ること 授業内容(信教の自由、政教分離の原則)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	表現の自由、知る権利、通信の秘密、プライバシー権、肖像権などについて学ぶ。 教科書の第5章「表現の自由とプライバシーの侵害」を読んで理解を得ること 授業内容(表現の自由、通信の秘密など)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	★学問の自由、教育を受ける権利と義務教育について学ぶ。 教科書の第6章「学問の自由と義務教育」を読んで理解を得ること 授業内容(学問の自由、義務教育制度など)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	婚姻の自由、男女平等について学ぶ。 教科書の第7章「婚姻の自由と男女平等」を読んで理解を得ること 授業内容(婚姻の自由、男女平等など)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
11 回	学習内容 予習 復習	勤労の自由、生存権、財産権について学ぶ。 教科書の第8章「勤労の自由と生存権」を読んで理解を得ること 授業内容(勤労の自由、生存権、財産権)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
12 回	学習内容 予習 復習	民主主義の原則について学ぶ。 民主主義の政治形態は、どのような原則で実現されているのか考えてくること 授業内容(民主主義の原則)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
13 回	学習内容 予習 復習	★立法、行政、司法について学ぶ。 教科書の第9章「立法と国会」、10章「行政と内閣」、11章「司法と裁判所」を読んで理解を得ること 授業内容(立法、行政、司法)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	★地方自治の本旨と地方公共団体の組織・機能について学ぶ。 教科書の第12章「地方自治」を読んで理解を得ること 授業内容(地方自治制度)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	【まとめ】憲法をめぐる今日的諸問題について学ぶ。 教科書の第13章「憲法9条と自衛隊」、第15条「新しい人権」等を読んで理解を得ること 全15回の授業を振り返り、日本国憲法についての諸課題をとりまとめること

科 目 名	現代社会と女性（家族社会学）			科目コード	11100	
英 文 名	Contemporary Society and Women Family Sociology			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目（必修）	
担当教員	栴澤 恭子		教員コード	160	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	女性と仕事の関りを学ぶ。 女性活躍の取り組みについて学ぶ。 法律や政策の理念を理解する。					
授業の狙い・到達目標	グローバル化や情報化が進むなど、現代社会は大きく変化し、女性を取り巻く状況も大きく変わってきている。その流れや背景を的確に理解し、その中で、現代を生きる女性のあり方はどうあるべきか、自分自身がどう考えたのかをアウトプットできるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	教養科目として基本的なレベルの内容となる。 関連科目としては 職業と人生がある。					
授業外学習（予習・復習）	予習・復習については教員からの指示に従い行うこと。 ディスカッションやグループワークにも積極的に発言をすること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が資料を配布する。					
参考書・その他教材	講義内で必要となった場合に指示する。					
課題に対するフィードバック	最終講義でグループワークのフィードバックを行う。					
成績評価方法	課題レポート(40%)、講義への取り組み(30%)、グループワーク発表(30%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	時事ニュースに目を向け、自分なりに感想を持つ練習をしておくことと良い。 ジェンダーやダイバーシティ&インクルージョンに関する記事などにも目を通しておくこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kabasawa@aikoku-u.org)またはオフィスアワー（初回講義時にアナウンスする）。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

現代社会と女性(家族社会学)

共通教養科目
(基礎科目)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方、どのような記事を読んだらよいかなどの説明など) シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	現代に至るまでの女性と仕事の歴史について学ぶ 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	現代に至るまでの女性と仕事の歴史について学ぶ 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	男女共同参画社会基本法の基本理念と変遷について理解する 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	女性の職業生活における活躍の推進に関する法律について理解する 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	各会社の事例・企業の取り組みについて学ぶ 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	これまでの講義の復習 これまでの講義の疑問点をまとめておくこと 女性活躍に対する取り組み等を理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	ダイバーシティ&インクルージョンとはどういったものかを理解する ダイバーシティ、インクルージョンの言葉について自分なりに調べておく 自分が思っていたダイバーシティ、インクルージョンと実際とを比較して理解しておく
9 回	学習内容 予習 復習	働く女性の活躍と現状について学ぶ(レポート) 女性が活躍している企業にはどのような企業があるのか調べておく 自分の考えをレポートとしてまとめ整理しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	ジェンダー平等と女性のエンパワーメント ジェンダーに対する意味を調べておくこと ジェンダー平等に対する考えを理解できるようにしておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	女性をとりまくこれまでの変化、第9回のレポートに関するディスカッション ジェンダーに対する意味を調べておくこと 女性の未来について自分の意見をまとめておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	これまでの講義の復習と発表に向けての説明 これまでの講義の疑問点をまとめておくこと これまでの講義の論点を整理しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	グループワーク(課題:講義を踏まえて女性が活躍する社会とはどんな社会なのか) 講義で学んだことを踏まえて自分なりの考えをまとめておく グループワークを進める
14 回	学習内容 予習 復習	グループワーク(課題:講義を踏まえて女性が活躍する社会とはどんな社会なのか) グループ討議をまとめておく グループワークを進める
15 回	学習内容 予習 復習	グループワークの発表およびこれまでの講義の振り返り、総括 講義で学んだことを踏まえて自分なりの考えをまとめておく 他者の意見と自身の意見の同意点や相違点を自分なりにまとめておく

科目名	仕事と人生（職業と人生）			科目コード	11110	
英 文 名	Work & Life (Vocationl Education)			科目区分	【共通教養科目】 基礎科目（必修）	
担当教員	赤羽根 和恵		教員コード	152	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	人生において働く意味を考え、充実した人生を送るために、大学生活をどう送るか、将来の職業にどう繋げていくかキャリアについて考える。女性が仕事をする上で必要な知識、ワーク・ライフ・バランスなど今日的な課題についての理解も深め、ライフプランを作成する。					
授業の狙い・到達目標	到達目標①:働く意味について理解を深め、職業観を持つことができる。 到達目標②:大学生活と将来について考え、ライフプランを作成することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	大学での学びを将来に生かし適職につくために、自己研鑽が必要である。「キャリアデザインⅠ」の受講でさらに自己理解を深め、「キャリアデザインⅡ」で、具体的な就職活動に向けた準備を行う事が望ましい。					
授業外学習（予習・復習）	事前学習:日常で出会う働いている人の仕事内容や態度を観察する。 ニュースを見て時事問題について理解しておく。 事後学習:授業で学んだことを復習して、次の授業に備える。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	毎回、資料を配布する。					
参考書・その他教材	講義内で適宜紹介をする。					
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。 最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	授業参加度(30%)、中間レポート(30%)、期末レポート(40%)として評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。準備を必要とする課題が多いので積極的に取り組み、遅刻・欠席をせずに参加をすること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:akabane@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

仕事と人生(職業と人生)

共通教養科目
(基礎科目)

1 回	学習内容 予習 復習	働く意味について考える シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	社会構造の変化と若者の就労① 社会構造の変化について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	社会構造の変化と若者の就労② 雇用統計を見ておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	産業分類・職業分類 興味のある産業、企業、職業などを書き出しておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	大学生生活の過ごし方 これまでの授業を振り返り、大学生生活に必要なことを考えておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	将来の仕事と必要な資格 将来の仕事について考え、その職業に就く場合に必要な資格を調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	女性のキャリア形成① キャリアについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	女性のキャリア形成② 男性と女性のキャリアの共通すること、異なることについて考えておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	就労に関する法律 働くことに関する法律を調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	女性の働き方とワーク・ライフ・バランス ワーク・ライフ・バランスについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	ライフプラン① ライフイベントについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	ライフプラン②グループワーク ライフプランの続きを作成してくる。 ライフプランを完成させ、作成する上で考えたことをまとめてレポートを作成して提出する。
13 回	学習内容 予習 復習	自己理解・他者理解 自分の得意な事、苦手な事を書き出してくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	大学生生活の目標設定・発表 「大学生生活の目標と計画」の発表を行う準備をしてくる。 発表後の気付きを加えて、レポートにまとめ提出すること。
15 回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り これまでの授業を振り返り、レジュメを見返しておく。 全15回の授業を振り返り、仕事と人生についての考えをまとめる。

科目名	英語 I A-1 (英語 I A)			科目コード	12011	
英 文 名	English I A			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目(選択必修)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	英文法を基礎から学びなおしながら、リーディング能力の向上を目指す。 また、テキストによる学習のほか、適宜、英語に関する様々なトピックを紹介していく。学生にも輪番で英語に関する話題提供をしてもらう。					
授業の狙い・到達目標	英語の4技能の基礎レベルをバランス良く身につけ、学生が自立的な英語学習を行えるようになることがねらいである。その第一歩として、関連科目としてあげた一連の各科目の履修を見据えつつ、この科目では、英文法の総復習をする。 到達目標)英語の基礎文法を理解し、簡単な語彙の英文を正しく理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	基本的な英文法、英語語彙の習得が事前に必要である。 関連科目として、後期に履修する英語 I A-2と、次年度に履修予定となる英語 II A-1と II A-2がある。					
授業外学習(予習・復習)	前週の教員の案内に従い、予習してから授業に出席すること。特に、英単語や熟語は事前に調べておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	木村啓子・田川憲二郎・Edward R. Howe 2005 『First Voyage 大学基本英文法&リーディング』 南雲堂(NAN'UN-DO.,Ltd.).					
参考書・その他教材	授業内で適宜案内する。なお、進行によっては教科書を追加する場合がある。その場合は、受講者と相談の上、決定する。					
課題に対するフィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。					
成績評価方法	平常点(30%) 定期試験(70%)					
成績評価基準	平常点は、①授業への参加意欲 ②発言等による授業への貢献 ③周囲との共同・協調の各項目を評価する。 定期試験は、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	外国語学習は、十分に時間をとり、反復しながら学習することが重要である。 授業内容の予習、復習はもちろん、授業以外においても自主的努力をすることが必要となる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

授業スケジュール

英語 I A-1 (英語 I A)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション シラバスを読み、授業内容について確認しておく。 英語学習のモチベーションと今年度の学習計画を考える。
2 回	学習内容 予習 復習	Unit0 Be動詞と一般動詞 テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
3 回	学習内容 予習 復習	Unit1 否定文 "It's the Titanic!" テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
4 回	学習内容 予習 復習	Unit2 疑問文 "A Floating Palace" テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
5 回	学習内容 予習 復習	Unit3 助動詞 Departure テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
6 回	学習内容 予習 復習	Unit4 第1文型と第2文型 Iceberg (1) テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
7 回	学習内容 予習 復習	Unit5 第3文型と第4文型 Iceberg (2) テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
8 回	学習内容 予習 復習	Unit6 進行形 Iceberg(3) テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
9 回	学習内容 予習 復習	Unit7 受動態 Lifeboat テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
10 回	学習内容 予習 復習	Unit8 第5文型(知覚、認識など) The Miracle of Philip Aks (1) テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
11 回	学習内容 予習 復習	Unit9 第5文型(使役、許可、願望など) The Miracle of Philip Aks (2) テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
12 回	学習内容 予習 復習	Unit10 完了形 The Miracle of Philip Aks (3) テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
13 回	学習内容 予習 復習	Unit11 動名詞 Mr. Smith's "White Lie" テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
14 回	学習内容 予習 復習	Unit12 不定詞 1 Together until the End of Their Lives (1) テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
15 回	学習内容 予習 復習	前期のふりかえり 前期の授業内容のうち、十分に習得できなかったものを振り返る。 必要に応じて、今後の英語学習の方法を教員と相談する。

共通教養科目
(第1外国語科目)

科 目 名	英語 I A-2 (英語 I A)			科目コード	12012	
英 文 名	English I A			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目(選択必修)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	初歩的なリーディング、ライティング、リスニングの英語運用力を身につける。 また、テキストによる学習のほか、適宜、英語に関する様々なトピックを紹介していく。学生にも輪番で英語に関する話題提供をしてもらう。					
授業の狙い・到達目標	英語の4技能の基礎レベルをバランス良く身につけ、学生が自立的な英語学習を行えるようになることがねらいである。前期に引き続きリーディング力を高めるほか、ライティング、リスニングに関しても取り組んでいく。 到達目標)テキストに出題されるレベルの問題を、おおむね解答できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	基本的な英文法、英語語彙の習得が事前に必要である。 関連科目として、前期に履修する英語 I A-1と、次年度に履修予定となる英語 II A-1と II A-2がある。					
授業外学習(予習・復習)	前週の教員の案内に従い、予習してから授業に出席すること。特に、英単語や熟語は事前に調べておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	Terry O'Brien・三原 京・前田康二・木村博是 2018 『English Indicator 1 <Essential> 英語総合インディケーター<初級>』南雲堂(NAN'UN-DO.,Ltd.).					
参考書・その他教材	授業内で適宜案内する。なお、進行によっては教科書を追加する場合がある。その場合は、受講者と相談の上、決定する。					
課題に対するフィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。					
成績評価方法	平常点(30%) 定期試験(70%)					
成績評価基準	平常点は、①授業への参加意欲 ②発言等による授業への貢献 ③周囲との共同・協調の各項目を評価する。 定期試験は、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	外国語学習は、十分に時間をとり、反復しながら学習することが重要である。 授業内容の予習、復習はもちろん、授業以外においても自主的努力をすることが必要となる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

授業スケジュール

英語 I A-2 (英語 I A)

1 回	学習内容 予習 復習	夏期休業中の学習成果の確認 夏期休業中に勉強した内容をまとめておく。 年度の開始時に設定した学習スケジュールの見直しをする。
2 回	学習内容 予習 復習	Unit 1 The Royal Family テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
3 回	学習内容 予習 復習	Unit 2 The Beatles テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
4 回	学習内容 予習 復習	Unit 3 Very Cold! テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
5 回	学習内容 予習 復習	Unit 4 Euro Money テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
6 回	学習内容 予習 復習	Unit 5 To Your Health テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
7 回	学習内容 予習 復習	Unit 6 Recycling テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
8 回	学習内容 予習 復習	Unit 7 The UK テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
9 回	学習内容 予習 復習	Unit 8 A Quiet Life テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
10 回	学習内容 予習 復習	Unit 9 My Company テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
11 回	学習内容 予習 復習	Unit 10 Advertising テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
12 回	学習内容 予習 復習	Unit 11 Business Trips テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
13 回	学習内容 予習 復習	Unit 12 Get It Cleaned テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
14 回	学習内容 予習 復習	Unit 13 A Storm テキストの該当ページを予習しておくこと。 同ページを復習し、文法上の不明点を残さないようにすること。
15 回	学習内容 予習 復習	後期のふりかえり 後期の授業内容のうち、十分に習得できなかったものを振り返る。 必要に応じて、今後の英語学習の方法を教員と相談する。

共通教養科目
(第1外国語科目)

科目名	英語 I B-1（英語 I B）			科目コード	12021	
英 文 名	English I B			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目（選択必修）	
担当教員	安藤 郁子		教員コード	260	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	前期では、基本的な文法と使用法の確認をしつつ、英語を通じて世界についても学ぶ。自分自身や身近な話題についての表現方法を身につけながら、人前で発表することに慣れ、発話の楽しさや英語への興味を引き出すことを目標とする。					
授業の狙い・到達目標	リーディング・ライティング・スピーキング・リスニングの四技能を総合的に上達させつつ、平易な英語を使いながら自己表現ができるようになる。 世界の国々や文化についても学び、今後さらに必要不可欠になる英語の重要性を認識する。					
授業内容のレベル・関連科目	前期では、中学・高校で学んだ文法の再確認をしつつ、簡単な内容を英語で表現し、発表の練習を繰り返すことで発話に自信をつけ、後期に行うプレゼンテーションの基礎を学ぶ。					
授業外学習（予習・復習）	自宅で、文法・単語の復習や、発表の準備を、前向きに楽しんで取り組めることが望ましい。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に無し。単語力を増やす為に毎回プリントを配布し、次週に簡単なテストを行う。					
参考書・その他教材	必要に応じてプリントや、簡単な英字新聞の記事や関連記事の資料等を配布する。洋楽から英語の持つリズムや発音、フレーズを学び、リスニング強化につなげる。					
課題に対するフィードバック	小テストや英作文の解説を行い、生徒の発表やミニ・プレゼンテーションには、クラス全体でフィードバックをする。					
成績評価方法	授業への積極的な取り組み・貢献度（50％）、課題・発表内容（40％）、小テスト（10％）					
成績評価基準	学習の到達目標にどれくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	基礎的な文法であっても、疑問点は必ず質問し分からないままにしないこと。単語力は英語力の上達に不可欠なので、小テストには真剣に取り組んで欲しい。					
科目に関連した教員の実務経験	海外での生活と外資系企業に就労していた経験を活かし、幅広い年齢の英会話や文法、音読の指導、時事英語、ビジネス英語、各種資格試験の面接対策指導を行っている。					
担当教員への連絡方法	質問はメール（初回授業で提示）でも受け付ける。本文には学籍番号・氏名を必ず記載すること。返信が無い場合は、再度連絡方法を確認すること。					

授業スケジュール

英語 I B-1 (英語 I B)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション。授業内容、評価基準を説明。Introduce yourself ; Get to know each other. シラバスを読んでおくこと。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
2 回	学習内容 予習 復習	時制① 時制の種類と使い分け。過去形・過去分詞形不規則動詞の復習。 Talking about your interests or hobbies.簡単に発表できるよう準備する(ストラクチャーは指示)。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
3 回	学習内容 予習 復習	時制② 現在完了形と過去完了形の復習。 Show and tell ; your favorite things.簡単に発表できるよう準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
4 回	学習内容 予習 復習	時制③ 未来完了形と、時制を表す過去分詞形の応用。 Talking about your dream.簡単に発表できるよう準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
5 回	学習内容 予習 復習	不定詞① 不定詞の種類と応用。 Talking about your country and hometown.簡単に発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
6 回	学習内容 予習 復習	不定詞② 会話に使われる不定詞を使った表現。 Talking about your culture; food.簡単に発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
7 回	学習内容 予習 復習	形容詞① 形容詞と副詞の使い分け。 Talking about your culture; fashion.簡単に発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
8 回	学習内容 予習 復習	形容詞② 比較級と最上級の復習。会話でよく使われる表現。 Talking about your favorite culture; art and music.簡単に発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
9 回	学習内容 予習 復習	名詞 可算名詞・不可算名詞・単複同形名詞復習。 Talking about reading material; books, magazines and comics.簡単に発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
10 回	学習内容 予習 復習	冠詞 定冠詞・不定冠詞・無冠詞の復習。 Talking about your favorite places.簡単に発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
11 回	学習内容 予習 復習	限定詞 指示詞・代名詞の復習。 Talking about your daily life; weekdays and weekends.簡単に発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
12 回	学習内容 予習 復習	頻度を表す副詞、未来形の種類と用法の復習。 Talking about people; family and friends.簡単に発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
13 回	学習内容 予習 復習	動名詞① 動詞との用法、形容詞との用法 Talking about cooking; easy recipes to share.簡単に発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
14 回	学習内容 予習 復習	動名詞② 会話で使われる動名詞を使った表現 Talking about traveling; good memories and bad memories.簡単に発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
15 回	学習内容 予習 復習	学習進度の調整。前期内容のふり返し。 Talking about summer holiday; holiday plans.簡単に発表できるように準備する。 配布プリントの復習。前期復習テストの準備。

科 目 名	英語 I B-2（英語 I B）			科目コード	12022	
英 文 名	English I B			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目（選択必修）	
担当教員	安藤 郁子		教員コード	260	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	前期に引き続き、基本的な文法と単語の復習、応用に取り組みながら、与えられた課題について時間をかけて調べてまとめ、プレゼンテーションをする。					
授業の狙い・到達目標	前期で繰り返し練習したミニ・プレゼンテーションを発展させ、プロジェクトとして、グループまたは個人で考えや意見をまとめ、発表し、質疑応答ができる積極性を持たせることを目標とする。次年度以降に、更に高度なプレゼンテーションやディベートが出来るようになる為の基礎を固める。					
授業内容のレベル・関連科目	前期で復習、確認したアカデミックな文法表現を活かし、課題について調べて発表し、自発的にクラスメートと質疑応答、フィードバックを行えるようにする。					
授業外学習（予習・復習）	自宅で、文法・単語の復習や、プロジェクトの為の準備を、前向きに楽しんで取り組めることが望ましい。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	特に無し。単語力を増やす為に毎回プリントを配布し、次週に簡単なテストを行う。					
参考書・その他教材	必要に応じて、簡単な英字新聞の記事や関連記事、洋楽の歌詞等、プリントを配布する。					
課題に対するフィードバック	単語の小テストや、文法の復習テストの解説を行い、プロジェクトには、クラス全体でフィードバックをする。					
成績評価方法	授業への積極的な取り組み・貢献度（50％）、課題・発表内容（40％）、小テスト（10％）					
成績評価基準	学習の到達目標にどれくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	疑問点は必ず質問し分からないままにしないこと。単語力の上達に不可欠な小テストには、真剣に取り組んで欲しい。授業内で調べ物が出来るように、インターネットで検索出来る物を持参する。					
科目に関連した教員の実務経験	海外での生活と外資系企業に就労していた経験を活かし、幅広い年齢の英会話や文法、音読の指導、時事英語、ビジネス英語、各種資格試験の面接対策指導を行っている。					
担当教員への連絡方法	質問はメール（初回授業で提示）でも受け付ける。本文には学籍番号・氏名を必ず記載すること。返信が無い場合は、再度連絡方法を確認すること。					

授業スケジュール

英語 I B-2 (英語 I B)

1 回	学習内容 予習 復習	後期イントロダクション。授業内容、評価基準を説明。前期の復習テスト。 シラバスを読んでおくこと。前期復習テストの準備。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
2 回	学習内容 予習 復習	使役動詞と知覚動詞。復習テストの解説。 Travel plan① places to visit in Japan. 配布プリントの復習。単語テストの準備。
3 回	学習内容 予習 復習	助動詞① 種類と用法の復習。 Travel plan② activities and entertainments. 配布プリントの復習。単語テストの準備。
4 回	学習内容 予習 復習	助動詞② 可能性を表す用法の復習。 Travel plan③ transportations and accomodations. 配布プリントの復習。単語テストの準備。
5 回	学習内容 予習 復習	助動詞③ その他の慣用表現。 Travel plan④ tour schedule and information. 配布プリントの復習。単語テストの準備。
6 回	学習内容 予習 復習	仮定法① if を使った表現の復習。 Travel plan⑤ プレゼンテーションリハーサル、フィードバック。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
7 回	学習内容 予習 復習	仮定法② 現在形と過去形の表現の復習。 Travel plan⑥ プレゼンテーション、質疑応答、フィードバック。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
8 回	学習内容 予習 復習	仮定法③ wish を使った表現の復習。 Person you respect① who and why? 配布プリントの復習。単語テストの準備。
9 回	学習内容 予習 復習	仮定法④ 可能性の度合いを表す表現と応用表現。 Person you respect② history, background, life story, etc. 配布プリントの復習。単語テストの準備。
10 回	学習内容 予習 復習	分詞① 副詞節を作る分詞の復習。 Person you respect③ achievements and influences. 配布プリントの復習。単語テストの準備。
11 回	学習内容 予習 復習	分詞② 分詞構文の用法の復習。 Preson you respect ④ プレゼンテーションリハーサル、フィードバック。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
12 回	学習内容 予習 復習	分詞③ 分詞構文を使った慣用表現の復習。 Preson you respect⑤ プレゼンテーションリ、質疑応答、フィードバック。 配布プリントの復習。単語テスト、復習テストの準備。
13 回	学習内容 予習 復習	後期の文法のまとめ、復習テスト。 Talking about your achievements in the 1st grade.発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。
14 回	学習内容 予習 復習	復習テスト解説、練習問題。 Talking about your plans and goals in the 2nd grade.発表できるように準備する。 配布プリントの復習。単語テストの準備。復習テスト見直し。
15 回	学習内容 予習 復習	学習進度調整。一年間のまとめ。 Talking about countries you want to visit in the near future. 次年度に向けての課題点、学習方法の再確認、準備。教員に相談も可。

科目名	英語 I C-1 (英語 I C)			科目コード	12031	
英 文 名	English IC			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目(選択必修)	
担当教員	栗崎 由子		教員コード	248	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	平易な英語を使った寸劇やプレゼンテーション、動画作成などを使う演習形式で英語会話によるコミュニケーションの基礎を学ぶ。会話の理解を助けるため、文法の基礎事項を適宜確認する。					
授業の狙い・到達目標	講師は会話の力を身につけることは、生きる力を身につけることだと考える。英語の発話を習慣化し、簡単な会話が自分から進んでできるようになることを目指す。そのために、学習した経験や知識(語彙、表現、構文など)を援用する。					
授業内容のレベル・関連科目	自分の意志を伝えるには、日本の中学校で履修したレベルの語彙や文法知識で十分である。それを使いこなすことで、「使える英語」に高めていく。そうした英会話を、発話の段階から学ぶ。適宜基礎的な文法の復習を行う。					
授業外学習(予習・復習)	事前に次の学習箇所の単語を調べておく。復習を行う。毎回復習、予習を目的とした宿題を出す。				授業外学習に必要な時間	各回2時間、合計30時間
使用教科書	Eric Bray, "New Time to Communication", 南雲堂, 2018					
参考書・その他教材	適宜、学習課題に沿ったプリントの配布、動画の紹介を行う。 短いビデオ作成や調査・発表の課題があるので、スマホを持っていることが望ましい。					
課題に対するフィードバック	授業では講師との会話の機会を設け、一人一人に発話を促す。 毎回提出する宿題にコメントを入れて返却する。同時に各自の才提出物やプレゼンテーションを教材としてクラス全体でフィードバックを行ない、学生が相互に学び合う仕組みを作る。					
成績評価方法	授業への積極的な参加(質問、発言などを含む)(60%)、課題の提出(40%)で総合的に判断する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	教室での間違いは学びの始まりです。間違っても良いから、教室では積極的に発話することが、英会話の習熟への近道です。					
科目に関連した教員の実務経験	担当講師は約30年間、欧州の国際機関や、多国籍企業で英語を使って実務経験を積んだほか、現在は大人を対象にビジネス英会話を指導している。 この経験は各回の授業に反映されている。					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(初回の授業で提示する) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

英語 I C-1 (英語 I C)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、授業の約束、評価基準、etc. シラバスを読んでおくこと p7を書き取る。P8 3) Task
2 回	学習内容 予習 復習	Unit 1 人に会う、会話二往復、分からない単語を確認する、Follow-up Questions (FUQ)導入 p7を書き取る。P8 3) Task P10 About yourself 書く、話す練習を5回行う
3 回	学習内容 予習 復習	P9, Unit 1 人に会う、会話三往復目標、FUQを作る練習 p10 About yourself 書く、話す練習を5回行う Homework -- 宿題の見直しとUnit 2, P11書き取り
4 回	学習内容 予習 復習	Unit 2 クラスメートを知る、家族を紹介する、FUQを作る練習 Unit2の書き取り Homework -- 宿題の見直しとUnit 2, P12-2)
5 回	学習内容 予習 復習	Unit 2 クラスメートを知る、FUQを作る練習(P13) Unit2の書き取り 宿題の見直しとUnit3 書き取り, P16
6 回	学習内容 予習 復習	Unit 3 授業について、分からない単語の確認、会話練習、P17 Unit3の書き取り 宿題の見直しとUnit3 p17 書く
7 回	学習内容 予習 復習	Unit 1-3の復習、自己紹介の発表、2分以上 Unit3 P17 7行以上書く。 自撮りビデオの完成と提出
8 回	学習内容 予習 復習	会話ビデオの相互鑑賞、相互学習 Unit4 書き取り P 20 -21, Unit 4練習問題
9 回	学習内容 予習 復習	会話ビデオの相互鑑賞、Unit 4 頻度の表現を学ぶ P 20 -21, Unit 4 練習問題 P22, Unit 4 練習問題
10 回	学習内容 予習 復習	Unit 1-4 ふり返り P23 課題に取り組む 次回以降に使う台本の書き取り
11 回	学習内容 予習 復習	寸劇(1) 導入 (1)、落語について調べる。落語を解説した動画で学ぶ。 台本の書き取り(小咄を予定) セリフの暗記
12 回	学習内容 予習 復習	寸劇(1) 導入 (2) 落語の調査結果を発表する、台本を読み込み、人物設定を行う 落語について調査し、発表資料を作る□ 台本の暗記、各自の発表のふり返り
13 回	学習内容 予習 復習	寸劇(1) 台詞の暗記の確認、人物設定から動作へ 台本の暗記の定着 台本の暗記
14 回	学習内容 予習 復習	寸劇(1) 台詞の暗記、動作の練習 台本の暗記と動作の練習 動作を練習する
15 回	学習内容 予習 復習	寸劇(1)ビデオ撮影と提出 台本の暗記と動作の練習 寸劇のグループでふり返りを行う

科目名	英語 I C-2 (英語 I C)			科目コード	12032		
英 文 名	English IC			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目(選択必修)		
担当教員	栗崎 由子		教員コード	248		単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	平易な英語を使った寸劇やプレゼンテーション、動画作成などを使う演習形式で英語会話によるコミュニケーションの基礎を学ぶ。会話の理解を助けるため、文法の基礎事項を適宜確認する。						
授業の狙い・到達目標	講師は会話の力を身につけることは、生きる力を身につけることだと考える。英語の発話を習慣化し、寸劇やビデオなどで学んだ台詞を使って、簡単な会話ができるようになることを目指す。そのために、学習した経験や知識(語彙、表現、構文など)を援用する。						
授業内容のレベル・関連科目	自分の意志を伝えるには、日本の中学校で履修したレベルの語彙や文法知識で十分である。それを使いこなすことで、「使える英語」に高めていく。そうした英会話を、発話の段階から学ぶ。適宜基礎的な文法の復習を行う。						
授業外学習(予習・復習)	事前に次の学習箇所の単語を調べておく。復習を行う。毎回復習、予習を目的とした宿題を出す。					授業外学習に必要な時間	各回2時間、合計30時間
使用教科書	Eric Bray, "New Time to Communication", 南雲堂, 2018						
参考書・その他教材	適宜、学習課題に沿ったプリントの配布、動画の紹介を行う。 短いビデオ作成や調査・発表の課題があるので、スマホを持っていることが望ましい。						
課題に対するフィードバック	授業では講師との会話の機会を設け、一人一人に発話を促す。 毎回提出する宿題にコメントを入れて返却する。同時に各自の才提出物やプレゼンテーションを教材としてクラス全体でフィードバックを行ない、学生が相互に学び合う仕組みを作る。						
成績評価方法	授業への積極的な参加(質問、発言などを含む)(60%)、課題の提出(40%)で総合的に判断する						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	教室での間違いは学びの始まりです。間違っても良いから、教室では積極的に発話することが、英会話の習熟への近道です。						
科目に関連した教員の実務経験	担当講師は約30年間、欧州の国際機関や、多国籍企業で英語を使って実務経験を積んだほか、現在は大人を対象にビジネス英会話を指導している。 この経験は各回の授業に反映されている。						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(初回の授業で提示する) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

英語 I C-2 (英語 I C)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、授業の約束、評価基準、etc.、寸劇(1)のビデオの相互鑑賞、相互フィードバック シラバスを読んでおくこと Unit7の書き取り
2 回	学習内容 予習 復習	Unit 7 週末について、動詞の過去形、置き換え練習、p35 知識の確認 Unit 7書き取り Unit 7 課題練習 P35
3 回	学習内容 予習 復習	Unit 7 週末について、動詞の過去形、P35 知識の確認(続き)、作文練習 Unit 7 課題練習 P35 Unit 7 課題練習
4 回	学習内容 予習 復習	Unit 7 週末について、動詞の過去形、P36 Taskを元に会話練習 Unit 7 Unit10 書き取り+D46課題練習 Unit10 書き取り
5 回	学習内容 予習 復習	Unit 10 好きな食べ物、順序立てて話す文型、聴き取り、必要な語彙、聴き取り練習 Unit10 書き取り Unit 10 p49 書き取り
6 回	学習内容 予習 復習	Unit 10 プレゼンテーション -- 好きな食べ物、聴き取り、必要な語彙、聴き取り練習 Unit 10 p49 書き取り 発表の準備
7 回	学習内容 予習 復習	Unit 10 プレゼンテーション -- 好きな食べ物、発表のリハーサル、相互フィードバック、質問を作る プレゼンの準備 プレゼンの改善と練習
8 回	学習内容 予習 復習	Unit 10 プレゼンテーション -- 好きな食べ物、発表の本番、相互フィードバック、質問を作る プレゼンの改善と練習 Unit 12書き取り
9 回	学習内容 予習 復習	Unit 12 郷里の街について調べて発表する、質問を作る、基礎知識の導入 Unit 12書き取り Homework -- 動画で聴き取り練習をする
10 回	学習内容 予習 復習	Unit 12 郷里の街、知らない土地について調べて発表する(リハーサル)、相互フィードバック プレゼンの準備 プレゼンの改良、補足調査
11 回	学習内容 予習 復習	Unit 12 郷里の街について調べて発表する、本番、質問する、相互フィードバック プレゼンの改良、補足調査 プレゼンのふり返し、台本を書き写す
12 回	学習内容 予習 復習	寸劇(2)導入 台本を書き写す Homework -- 進度を見て決める
13 回	学習内容 予習 復習	寸劇(2)登場人物キャラクターづくりから演技へ 台詞の暗記、動作を付ける 動作の練習、台本の暗記
14 回	学習内容 予習 復習	寸劇(2)リハーサルと相互フィードバック 台詞の暗記、動作を付ける フィードバックを元にふり返し、改善
15 回	学習内容 予習 復習	寸劇(2)の発表、ビデオ撮影と提出 寸劇の台詞の暗記、動作の研究 寸劇のグループでふり返しを行う

科目名	英語 I D-1 (英語 I D)			科目コード	12041	
英 文 名	English I D			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目(選択必修)	
担当教員	伏見 親子		教員コード	121	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	原則としてTOEIC®受験経験のない1年次の学生を対象とする入門の授業である。授業進度によっては授業項目の変更もある。留学生が苦手とする日本語の単語との対応も念頭に置いて授業を進める。					
授業の狙い・到達目標	TOEIC®受験を視野に入れた科目である。学生がTOEIC®のテスト形式に慣れることを目的とする。リスニングでは話されている状況を把握し、リーディングではまず基本的文法事項を理解し、次年度への足掛かりとする。TOEIC®スコア500相当の実力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	TOEIC®スコア400程度の学力のある学生が対象である。留学生の日本語能力を考慮に入れ、日本人向けのテキストを用い、英語と日本語の対応も教える。 関連科目としては、英語ⅡCがあげられる。					
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業内容をテキストを読んで辞書を引き、予習しておくこと 授業で板書したところは重要事項なので、必ず確認しておくこと				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	安丸雅子 他、 SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC® L&R TEST TOEIC® L&Rテスト攻略の鍵 KINSEIDO					
参考書・その他教材	CheckLinkというサイトにアクセスして解答するテスト形式を用いるので、教科書は必ず購入し、そこにある情報をサイトに入力すること。 辞書(英語対各国語)					
課題に対するフィードバック	各1Unit終了後、レビューシートを書かせて、解答・フィードバックする。試験後には解答及び解説する時間を設け、質問に応じる。					
成績評価方法	筆記試験70%、予習に基づく授業への貢献度30%で評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	必ず予習して授業に臨むこと。辞書必携。スマホなど電子機器の使用は用語の検索のみに用い、それ以外の用途は認めず減点の対象とする。授業中の退席は早退として取り扱う。やむを得ない場合は、教員の許可を得て学籍番号を告げること					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問は、原則的にfushimi@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

英語 I D-1 (英語 I D)

1 回	学習内容 予習 復習	授業概要の説明 及び e-learning 対応のCheckLinkのログイン方法、利用方法を説明する。 シラバスの授業概要と目標をよく読んでおくこと 授業方法、特にCheckLinkについて、理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	Unit 1 Daily Life Listening 疑問詞を使った疑問文について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
3 回	学習内容 予習 復習	Unit 1 Daily Life Reading 文型・品詞に関して調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
4 回	学習内容 予習 復習	Unit 2 Shopping Listening 設問と選択肢を先読みしておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
5 回	学習内容 予習 復習	Unit 2 Shopping Reading 代名詞・疑問詞について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
6 回	学習内容 予習 復習	Unit 3 Parties & Events Listening 場所と相手の関係について押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
7 回	学習内容 予習 復習	Unit 3 Parties & Events Reading 形容詞と副詞の働きを調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
8 回	学習内容 予習 復習	Unit 4 Traffic & Travel Listening 風景と前置詞の使い方を調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
9 回	学習内容 予習 復習	Unit 4 Traffic & Travel Reading 前置詞の種類について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
10 回	学習内容 予習 復習	Unit 5 Office Work Listening 会話に使われる図表を読み取っておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
11 回	学習内容 予習 復習	Unit 5 Office Work Reading 接続詞について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
12 回	学習内容 予習 復習	Unit 6 Marketing & ICT Listening 場所や位置関係、図表をよく見ておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
13 回	学習内容 予習 復習	Unit 6 Marketing & ICT Reading 文の構造を確認しておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
14 回	学習内容 予習 復習	授業進度の調整 授業進度に合わせて指示する。 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
15 回	学習内容 予習 復習	前期の総復習 特に文法事項と頻出単語について復習しておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと

科目名	英語 I D-2 (英語 I D)			科目コード	12042	
英 文 名	English I D			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目(選択必修)	
担当教員	伏見 親子		教員コード	121	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	原則としてTOEIC®受験経験のない1年次の学生を対象とする入門の授業である。授業進度によっては授業項目の変更もある。留学生が苦手とする日本語の単語との対応も念頭に置いて授業を進める。					
授業の狙い・到達目標	TOEIC®受験を視野に入れた科目である。TOEIC®のテスト形式に慣れることを目的とする。リスニングでは話されている状況を把握し、リーディングではまず基本的文法事項を押さえ、次年度への足掛かりとする。TOEIC®スコア500相当の実力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	TOEIC®スコア400程度の学力のある学生が対象である。留学生の日本語能力を考慮に入れ、日本人向けのテキストを用い、英語と日本語の対応も教える。 関連科目としては、英語ⅡCがあげられる。					
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業内容をテキストを読んで辞書を引き、予習しておくこと 授業で板書したところは重要事項なので、必ず確認しておくこと				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	安丸雅子 他、 SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC® L&R TEST TOEIC® L&Rテスト攻略の鍵 KINSEIDO					
参考書・その他教材	CheckLinkというサイトにアクセスして解答するテスト形式を用いるので、教科書は必ず購入し、そこにある情報をサイトに入力すること。 辞書(英語対各国語)					
課題に対するフィードバック	各1Unit終了後、レビューシートを書かせて、解答・フィードバックする。試験後には解答及び解説する時間を設け、質問に応じる。					
成績評価方法	筆記試験70%、予習に基づく授業への貢献度30%で評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	必ず予習して授業に臨むこと。辞書必携。スマホなど電子機器の使用は用語の検索のみに用い、それ以外の用途は認めず減点の対象とする。授業中の退席は早退として取り扱う。やむを得ない場合は、教員の許可を得て学籍番号を告げること					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問は、原則的にfushimi@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

英語 I D-2(英語 I D)

1 回	学習内容 予習 復習	前期試験の返却 解答及び解説 前期試験出題部分をよく見ておくこと 不正解箇所をもう一度よく見直しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	Unit 7 Production & Logistics Listening 助動詞のイディオムを確認しておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
3 回	学習内容 予習 復習	Unit 7 Production & Logistics Reading 助動詞・群助動詞について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
4 回	学習内容 予習 復習	Unit 8 Employment Listnening 進行形と完了形の違いを押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
5 回	学習内容 予習 復習	Unit 8 Employment Reading 時制の表現について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
6 回	学習内容 予習 復習	Unit 9 Personnel Listening オフィスやビジネス関連の用語を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
7 回	学習内容 予習 復習	Unit 9 Personnel Reading 受動態について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
8 回	学習内容 予習 復習	Unit 10 Business Listening 変則的な応答問題について理解しておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
9 回	学習内容 予習 復習	Unit 10 Business Reading 分詞と分詞構文について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
10 回	学習内容 予習 復習	Unit11 Health & Environment Listening 専門用語が使われる場合を想定すること 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
11 回	学習内容 予習 復習	Unit 11 Health & Environment Reading 不定詞・動名詞の違いについて調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
12 回	学習内容 予習 復習	Unit 12 Finance Listening 数詞など数字を含む表現についてよく見ておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
13 回	学習内容 予習 復習	Unit 12 Finance Reading 関係代名詞、関係副詞について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
14 回	学習内容 予習 復習	授業進度の調整 授業進度に合わせて指示する。 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
15 回	学習内容 予習 復習	後期の総復習 特に文法事項と頻出単語について全体を見直しておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと

共通教養科目
(第1外国語科目)

科目名	英語ⅡA-1（英語ⅡA）			科目コード	12051	
英 文 名	English ⅡA			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目（選択必修）	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・4時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	昨年度に引き続き、コミュニケーションのための英文法をテキストを用いて学習する。また、視聴覚資料等を用いて、スピーキングやリスニングについても繰り返し練習を行う。					
授業の狙い・到達目標	本科目のねらいは、英語の4技能をバランス良く身につけることにより英語力の基礎を養い、今後の英語学習の足がかりをつくることである。 到達目標）主にテキストで取り扱った内容を軸として、既習の英文法を再確認し、短い英文の読解や発話、聞き取りが正確にできるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	基礎的な英文法の習得が事前に必要である。 前年度履修の英語ⅠAで学んだ文法や語彙について、復習をしておくこと。					
授業外学習（予習・復習）	前週の教員の案内に従い、予習してから授業に出席すること。特に、英単語や熟語は事前に調べておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	JACETリスニング研究会『パワーアップ・イングリッシュ＜入門編＞(Power-Up College English <Intro>)』南雲堂(NAN'UN-DO.,Ltd.)、2021年					
参考書・その他教材	授業内で適宜案内する。なお、進行によっては教科書を追加する場合がある。その場合は、受講者と相談の上、決定する。					
課題に対するフィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。					
成績評価方法	平常点(30%) 定期試験(70%)					
成績評価基準	平常点は、①授業への参加意欲 ②発言等による授業への貢献 ③周囲との共同・協調の各項目を評価する。 定期試験は、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	外国語学習は、十分に時間をとり、反復しながら学習することが重要である。 授業内容の予習、復習はもちろん、授業以外においても自主的努力をすることが必要となる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

授業スケジュール

英語ⅡA-1（英語ⅡA）

1 回	学習内容 予習 復習	春季休業中の学習成果の確認 春季休業中に勉強した内容をまとめておく。 年度の開始時に設定した学習スケジュールの見直しをする。
2 回	学習内容 予習 復習	英語ニュース&ディスカッション(第1週) 作成要領に従い、気になる英語ニュースのプレゼンテーションファイルを準備する。 指摘された修正箇所や、内容に関するアドバイスをまとめておく。
3 回	学習内容 予習 復習	英語ニュース&ディスカッション(第2週) 作成要領に従い、気になる英語ニュースのプレゼンテーションファイルを準備する。 指摘された修正箇所や、内容に関するアドバイスをまとめておく。
4 回	学習内容 予習 復習	Unit 6 テキスト p.29～p.32を予習する。 同ページを復習する。
5 回	学習内容 予習 復習	Unit 5～6 文法事項と語彙の確認 テキスト p.25～p.32を復習する。 不明点を再確認する。
6 回	学習内容 予習 復習	Unit 7 テキスト p.33～p.36を予習する。 同ページを復習する。
7 回	学習内容 予習 復習	Unit 8 テキスト p.37～p.40を予習する。 同ページを復習する。
8 回	学習内容 予習 復習	Unit 7～8 文法事項と語彙の確認 テキスト p.33～p.40を復習する。 不明点を再確認する。
9 回	学習内容 予習 復習	Unit 9 テキスト p.41～p.44を予習する。 同ページを復習する。
10 回	学習内容 予習 復習	Unit 10 テキスト p.45～p.48を予習する。 同ページを復習する。
11 回	学習内容 予習 復習	Unit 9～10 文法事項と語彙の確認 テキスト p.41～p.48を復習する。 不明点を再確認する。
12 回	学習内容 予習 復習	Unit 11 テキスト p.49～p.52を予習する。 同ページを復習する。
13 回	学習内容 予習 復習	Unit 12 テキスト p.53～p.56を予習する。 同ページを復習する。
14 回	学習内容 予習 復習	Unit 11～12 文法事項と語彙の確認 テキスト p.49～p.56を復習する。 不明点を再確認する。
15 回	学習内容 予習 復習	前期のふりかえり 前期の授業内容のうち、十分に習得できなかったものを振り返る。 必要に応じて、今後の英語学習の方法を教員と相談する。

科目名	英語ⅡA-2（英語ⅡA）			科目コード	12052	
英 文 名	EnglishⅡA			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目（選択必修）	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・4時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	昨年度に引き続き、コミュニケーションのための英文法をテキストを用いて学習する。また、視聴覚資料等を用いて、スピーキングやリスニングについても繰り返し練習を行う。					
授業の狙い・到達目標	本科目のねらいは、英語の4技能をバランス良く身につけることにより英語力の基礎を養い、今後の英語学習の足がかりをつくることである。 到達目標）主にテキストで取り扱った内容を軸として、既習の英文法を再確認し、短い英文の読解や発話、聞き取りが正確にできるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	基礎的な英文法の習得が事前に必要である。 前年度履修の英語ⅠAで学んだ文法や語彙について、復習をしておくこと。					
授業外学習（予習・復習）	前週の教員の案内に従い、予習してから授業に出席すること。特に、英単語や熟語は事前に調べておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	JACETリスニング研究会『パワーアップ・イングリッシュ＜入門編＞(Power-Up College English <Intro>)』南雲堂(NAN'UN-DO.,Ltd.)、2021年					
参考書・その他教材	授業内で適宜案内する。なお、進行によっては教科書を追加する場合がある。その場合は、受講者と相談の上、決定する。					
課題に対するフィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。					
成績評価方法	平常点(30%) 定期試験(70%)					
成績評価基準	平常点は、①授業への参加意欲 ②発言等による授業への貢献 ③周囲との共同・協調の各項目を評価する。 定期試験は、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	外国語学習は、十分に時間をとり、反復しながら学習することが重要である。 授業内容の予習、復習はもちろん、授業以外においても自主的努力をすることが必要となる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

授業スケジュール

英語ⅡA-2（英語ⅡA）

1 回	学習内容 予習 復習	夏期休業中の学習成果の確認 夏期休業中に勉強した内容をまとめておく。 年度の開始時に設定した学習スケジュールの見直しをする。
2 回	学習内容 予習 復習	Unit 13 テキスト p.57～p.60を予習する。 同ページを復習する。
3 回	学習内容 予習 復習	Unit 14 テキスト p.61～p.64を予習する。 同ページを復習する。
4 回	学習内容 予習 復習	Unit 13～14 文法事項と語彙の確認 テキスト p.57～p.64を復習する。 不明点を再確認する。
5 回	学習内容 予習 復習	テキスト総復習① テキスト p.9～p.64を復習する。 不明点を再確認する。
6 回	学習内容 予習 復習	テキスト総復習② テキスト p.9～p.64を復習する。 不明点を再確認する。
7 回	学習内容 予習 復習	学習成果の計測(リーディング) テキストの解説で取り上げた文法事項を中心に復習をしておく。 不明点を再確認する。
8 回	学習内容 予習 復習	学習成果の計測(リスニング) テキストの音声を中心に、平易なコミュニケーション英語のリスニングを復習しておく。 不明点を再確認する。
9 回	学習内容 予習 復習	学習成果の計測(ライティング) 短い英文による表現ができるよう、これまでの学習内容を復習しておく。 不明点を再確認する。
10 回	学習内容 予習 復習	英語資格試験対策演習① TOEICの問題形式や受験申し込み締め切りを調べておく。 授業の内容をよく復習し、今後の英語学習の目標を設定する。
11 回	学習内容 予習 復習	英語資格試験対策演習② 英語資格試験の結果を何に用いるかを考え、特に自身のキャリアと結びつけて考えてみる。 授業の内容をよく復習し、目標達成までの英語学習のスケジュールを設定する。
12 回	学習内容 予習 復習	英語資格試験対策演習③ 英語学習の目標を考え、TOEICであれば何点程度が必要か、検討しておく。 今後の英語関係の目標を定め、スケジュールを考えるとともに、資格試験対策の具体案を練る。
13 回	学習内容 予習 復習	英語スピーチ&ディスカッション「10年後の自分、これからのキャリア(第1週)」 英語によるスピーチを練習しておく。スピーチ全体の構造についても、英語らしい構成を意識する。 指摘された修正箇所や、内容に関するアドバイスをまとめておく。
14 回	学習内容 予習 復習	英語スピーチ&ディスカッション「10年後の自分、これからのキャリア(第2週)」 英語によるスピーチを練習しておく。スピーチ全体の構造についても、英語らしい構成を意識する。 指摘された修正箇所や、内容に関するアドバイスをまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	英語スピーチ&ディスカッション「10年後の自分、これからのキャリア(第3週)」 英語によるスピーチを練習しておく。スピーチ全体の構造についても、英語らしい構成を意識する。 指摘された修正箇所や、内容に関するアドバイスをまとめておく。

共通教養科目
(第1外国語科目)

科目名	英語ⅡB-1（英語ⅡB）			科目コード	12061	
英 文 名	EnglishⅡB			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目（選択必修）	
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	食をテーマに、テキストの読解から始め、世界のレシピを受講生に主体的に調べてもらいながら、自らレシピを作成し、プレゼンテーションを行う。					
授業の狙い・到達目標	リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの総合力を身に着けながら、楽しく英語を学ぶ。また、世界のレシピや物語に触れることで、異文化や価値観の違いなどについても理解を深められるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	簡易な英語で書かれた物語を読めることが望ましい。また、英語でオリジナルのレシピを作れるよう、創造力・想像力も求められる。					
授業外学習（予習・復習）	授業のみならず、積極的に予習・復習することが語学力の向上に不可欠である。各自ノートを用意し、授業で使用するテキストや物語の語彙を調べたり、授業後に内容についてまとめたりする必要がある。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。各回のテーマに合わせて資料を配布する。					
参考書・その他教材	各自、毎回の授業に必ず辞書を持参すること。英英辞典も用意するのが望ましい。					
課題に対するフィードバック	テーマごとに出す課題に対しては、翌週の授業でコメントやアドバイスをする。					
成績評価方法	課題への取り組み（50％）、プレゼンテーション（50％）					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	語彙や表現などを主体的に調べ書き留めるノートを準備すること。他クラスと合同授業を実施することが複数回ある。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

英語ⅡB-1（英語ⅡB）

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	食に関するテキストを読む①Food for Thought15～18頁 As American as Apple Pie 事前に配布する資料を読み、分からない単語などを調べておくこと。 テキストのテーマを参考にして、出身地の食材を1つ取り上げて、説明できるよう準備すること。
3 回	学習内容 予習 復習	食に関するテキストを読む②Food for Thought23～26頁 The End of Home Cooking? 事前に配布する資料を読み、分からない単語などを調べておくこと。 テキストのテーマを参考にして、現代社会における食のあり方についてレポートを書くこと。
4 回	学習内容 予習 復習	食に関するテキストを読む③Food for Thought51～54頁 Giving Thanks 事前に配布する資料を読み、分からない単語などを調べておくこと。 テキストのテーマを参考にして、出身地における行事と食について紹介できるよう準備すること
5 回	学習内容 予習 復習	出身地の行事と食、特産品・名産品についてプレゼンテーションを行う。 これまでの授業で調べた内容をもとに、発表の準備をしておくこと。 他の受講生の発表を受けて、質問とコメントを提出すること。
6 回	学習内容 予習 復習	英語でレシピ①世界のレシピを調べる 興味のある料理のレシピを準備すること。 他の受講生が調べたレシピについて、共通点・良い点などをまとめておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	英語でレシピ②「作りたくなる/食べたくなるレシピ」についてのディスカッション 第6回で出された複数のレシピを比較して、良い点、改善点について考えておくこと。 ディスカッションの内容をまとめておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	英語でレシピ③コラムを書く レシピに関する歴史・食材の話・マナーなどについて、調べてくること。 コラムを完成させ、提出すること。
9 回	学習内容 予習 復習	英語でレシピ④レシピの構想を練る 出身地の料理の中から1～2つ、選んでくること。 コラムを含めてどのような内容にするか、考えておくこと。
10 回	学習内容 予習 復習	英語でレシピ⑤レシピを書く 材料・道具を用意してくること。 授業中のアドバイスを受けて、見直ししながら書き進めること。
11 回	学習内容 予習 復習	英語でレシピ⑥レシピを推敲する レシピを仕上げてくること。 授業中のアドバイス、コメントを受けて、加筆修正を行うこと。
12 回	学習内容 予習 復習	英語でレシピ⑦プレゼンテーション レシピを完成させ、発表の準備をしておくこと。 他の受講生のプレゼンテーションを聞いて、気づいた点、取り入れたい点などをまとめること。
13 回	学習内容 予習 復習	英語でレシピ⑧ディスカッション 他の受講生と各々のレシピについて議論ができるよう、まとめておくこと。 ディスカッションの結果を踏まえ、レシピを再検討すること。
14 回	学習内容 予習 復習	レシピの実践 実際に調理をし、食べてもらった方々からのコメントをまとめてくること。 レシピを作り調理するまでの過程をふりかえり、レポートにまとめて提出すること。
15 回	学習内容 予習 復習	前期のまとめとして、レポートのフィードバックを行なう。 これまでの授業で取り組んだ内容を振り返っておくこと。 よくできた点、改善すべき点などをまとめておくこと。

共通教養科目
（第1外国語科目）

科目名	英語ⅡB-2（英語ⅡB）				科目コード	12062	
英 文 名	EnglishⅡB				科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目（選択必修）	
担当教員	山崎 寿美子			教員コード	147	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	物語をとりあげ、読解力・リスニング力をつけるとともに、グループで劇をするなどの実践も取り入れる。						
授業の狙い・到達目標	リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの総合力を身に着けながら、楽しく英語を学ぶ。また、世界のレシピや物語に触れることで、異文化や価値観の違いなどについても理解を深められるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	簡易な英語で書かれた物語を読めることが望ましい。また、英語で物語を作れるよう、創造力・想像力も求められる。						
授業外学習（予習・復習）	授業のみならず、積極的に予習・復習することが語学力の向上に不可欠である。各自ノートを用意し、授業で使用するテキストや物語の語彙を調べたり、授業後に内容についてまとめたりする必要がある。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。各回のテーマに合わせて資料を配布する。						
参考書・その他教材	各自、毎回の授業に必ず辞書を持参すること。英英辞典も用意するのが望ましい。						
課題に対するフィードバック	テーマごとに出す課題に対しては、翌週の授業でコメントやアドバイスをする。						
成績評価方法	課題への取り組み（50％）、プレゼンテーション（50％）						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	語彙や表現などを主体的に調べ書き留めるノートを準備すること。他クラスと合同授業を実施することが複数回ある。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

英語ⅡB-2（英語ⅡB）

1 回	学習内容 予習 復習	夏季休暇中の過ごし方について簡単なスピーチをする。 スピーチの準備をしておくこと。 スピーチの内容を推敲してまとめ、提出すること。
2 回	学習内容 予習 復習	物語Frog and Toad are FriendsのThe Story リスニング 事前に配布した資料に目を通して、単語を調べておくこと。 授業での解説をふまえ、物語を読み返し、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	物語Frog and Toad are FriendsのThe Story 読解 授業中に指示した箇所を訳しておくこと。 授業での解説をふまえ、物語を読み返し、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	物語Frog and Toad are FriendsのA Lost Button リスニング 事前に配布した資料に目を通して、単語を調べておくこと。 授業での解説をふまえ、物語を読み返し、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	物語Frog and Toad are FriendsのA Lost Button 読解 授業中に指示した箇所を訳しておくこと。 授業での解説をふまえ、物語を読み返し、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	物語Frog and Toad are FriendsのThe Letter リスニング 事前に配布した資料に目を通して、単語を調べておくこと。 授業での解説をふまえ、物語を読み返し、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	物語Frog and Toad are FriendsのThe Letter 読解 授業中に指示した箇所を訳しておくこと。 授業での解説をふまえ、物語を読み返し、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	Frog and Toad are Friendsを題材にした人形劇①グループワーク 授業で取り上げた内容を振り返り、どれを選ぶか考えておくこと。 グループで劇のための製作・割り振りなどを進める。
9 回	学習内容 予習 復習	Frog and Toad are Friendsを題材にした人形劇②中間報告 グループでの作業を進め、途中経過を報告できるようにしておくこと。 コメントを受けて、グループで話し合いを進めること。
10 回	学習内容 予習 復習	Frog and Toad are Friendsを題材にした人形劇③プレゼンテーション グループで話し合いと練習を進め、発表に備えること。 他のグループの発表を受けて、よくできた点、改善すべき点をまとめて、提出すること。
11 回	学習内容 予習 復習	物語Alice in Wonderlandの読解 Introduction, Chapter 1, Chapter 2 該当箇所に目を通し、分からない単語を調べたうえで、大まかな内容を理解しておくこと。 授業で行なったQ&Aを参照しつつ、物語を読み返し、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	物語Alice in Wonderlandの読解 Chapter 3, Chapter 4 該当箇所に目を通し、分からない単語を調べたうえで、大まかな内容を理解しておくこと。 授業で行なったQ&Aを参照しつつ、物語を読み返し、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	物語Alice in Wonderlandの読解 Chapter 5, Chapter 6 該当箇所に目を通し、分からない単語を調べたうえで、大まかな内容を理解しておくこと。 授業で行なったQ&Aを参照しつつ、物語を読み返し、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	Alice in Wonderlandの「続き」を書く 登場人物の特徴をまとめ、物語の展開を考えてくること。 「続き」のストーリーを完成させ、提出すること。
15 回	学習内容 予習 復習	Alice in Wonderlandの「続き」のストーリーについてフィードバックを行なう。 2つの物語および文法について、配布資料等を見ながら復習しておくこと。 全体を通して、よくできた点、改善すべき点などについてまとめておくこと。

共通教養科目
（第1外国語科目）

科目名	英語ⅡC-1（英語ⅡC）			科目コード	12071	
英 文 名	EnglishⅡC			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目（選択必修）	
担当教員	伏見 親子		教員コード	121	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・4時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	英語ⅠDに続いて、TOEIC®の演習となる。スコアアップをめざし、本番同様のMini Testを行って問題形式に慣れるとともに、評価の対象として、TOEIC®の実践に対応する力をつけるよう指導する。各Unit冒頭の頻出語句を繰り返し使用することで定着を図り、授業の効率を上げる。					
授業の狙い・到達目標	学生は、各Unitに付くMini Testのややレベルの高い確認問題を解くことで実践に慣れ、最終的にはTOEIC®スコア600点以上の実力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	TOEIC®スコア400～500程度の学力のある学生が対象である。TOEIC®関連科目としては、英語ⅠDがあげられる。					
授業外学習（予習・復習）	毎回の授業内容をテキストを読んで辞書を引き、予習しておくこと 授業で板書したところは重要事項なので、必ず見直して確認しておくこと				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	早川幸治、番場直之 著、GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST（KINSEIDO）					
参考書・その他教材	CheckLinkというサイトにアクセスして解答するテスト形式を用いるので、教科書は必ず購入し、そこにある情報をサイトに入力すること。辞書（英語対各国語）					
課題に対するフィードバック	各1Unit終了後、レビューシートを書かせて、解答・フィードバックする。試験後には解答及び解説する時間を設け、質問に応じる。					
成績評価方法	筆記試験80%(CheckLink 対応＋Mini Test)、予習に基づく授業への貢献度20%で評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	必ず予習して授業に臨むこと。辞書必携。スマホなど電子機器の使用は用語の検索のみに使い、それ以外の用途は認めず減点の対象とする。授業中の退席は早退として取り扱う。やむを得ない場合は、教員の許可を得て学籍番号を告げること					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問は、原則的にfushimi@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

英語ⅡC-1（英語ⅡC）

1 回	学習内容 予習 復習	Unit 1 Travel Part1-Part4 旅行に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
2 回	学習内容 予習 復習	Unit 1 Travel Part5-Part7 名詞の格、可算名詞・不可算名詞について確認しておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	Unit 2 Dining Out Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 食事・料理に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
4 回	学習内容 予習 復習	Unit 2 Dining Out Part5-Part7 形容詞の用法と語尾変化について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	Unit 3 Daily Life Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 日常生活に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
6 回	学習内容 予習 復習	Unit 3 Daily Life Part5-Part7 副詞の用法と語尾変化について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	Unit 4 Entertainment Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 娯楽に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
8 回	学習内容 予習 復習	Unit 4 Entertainment Part5-Part7 代名詞の格と用法について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	Unit 5 Purchasing Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 買い物に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
10 回	学習内容 予習 復習	Unit 5 Purchasing Part5-Part7 時制の動詞の使い方・変化について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	Unit 6 Offices Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 職場に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
12 回	学習内容 予習 復習	Unit 6 Offices Part5-Part7 主語と動詞の一致に関して調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	Unit 7 Clients Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 取引先に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
14 回	学習内容 予習 復習	Unit 7 Clients Part5-Part7 能動態と受動態の関係について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	Unit 8 Recruiting Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 採用・求人に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと

共通教養科目
（第1外国語科目）

科目名	英語ⅡC-2（英語ⅡC）			科目コード	12072	
英 文 名	EnglishⅡC			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目（選択必修）	
担当教員	伏見 親子		教員コード	121	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・4時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	英語ⅠDに続いて、TOEIC®の演習となる。スコアアップをめざし、本番同様のMini Testを行って問題形式に慣れるとともに、評価の対象として、TOEIC®の実践に対応する力をつけるよう指導する。各Unit冒頭の頻出語句を繰り返し使用することで定着を図り、授業の効率を上げる。					
授業の狙い・到達目標	学生は、各Unitに付くMini Testのややレベルの高い確認問題を解くことで実践に慣れ、最終的にはTOEIC®スコア600点以上の実力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	TOEIC®スコア400～500程度の学力のある学生が対象である。TOEIC®関連科目としては、英語ⅠDがあげられる。					
授業外学習（予習・復習）	毎回の授業内容をテキストを読んで辞書を引き、予習しておくこと 授業で板書したところは重要事項なので、必ず見直して確認しておくこと				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	早川幸治、番場直之 著、GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST（KINSEIDO）					
参考書・その他教材	CheckLinkというサイトにアクセスして解答するテスト形式を用いるので、教科書は必ず購入し、そこにある情報をサイトに入力すること。辞書（英語対各国語）					
課題に対するフィードバック	各1Unit終了後、レビューシートを書かせて、解答・フィードバックする。試験後には解答及び解説する時間を設け、質問に応じる。					
成績評価方法	筆記試験80%(CheckLink 対応＋Mini Test)、予習に基づく授業への貢献度20%で評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	必ず予習して授業に臨むこと。辞書必携。スマホなど電子機器の使用は用語の検索のみに使い、それ以外の用途は認めず減点の対象とする。授業中の退席は早退として取り扱う。やむを得ない場合は、教員の許可を得て学籍番号を告げること					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問は、原則的にfushimi@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

英語ⅡC-2（英語ⅡC）

1 回	学習内容 予習 復習	Unit 8 Recruiting Part5-Part7 動名詞と不定詞の用法について確認しておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	Unit 9 Personnel Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 人事に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
3 回	学習内容 予習 復習	Unit 9 Personnel Part5-Part7 比較表現(原級・比較級・最上級)について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	Unit 10 Advertising Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 広告・宣伝に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
5 回	学習内容 予習 復習	Unit 10 Advertising Part5-Part7 前置詞の種類について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	Unit 11 Media Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること メディアに関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
7 回	学習内容 予習 復習	Unit 11 Media Part5-Part7 接続詞の用法について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	Unit 12 Finance Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 財務に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
9 回	学習内容 予習 復習	Unit 12 Finance Part5-Part7 接続詞と前置詞の用法の違いについて調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	Unit13 Meetings Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 会議・打ち合わせに関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
11 回	学習内容 予習 復習	Unit13 Meetings Part5-Part7 関係代名詞の格について調べておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	Unit14 Sales & Marketing Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること 売上・販売促進に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
13 回	学習内容 予習 復習	Unit14 Sales & Marketing Part5-Part7 頻出語彙の確認をしておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	Unit 15 Seminar & Workshop Part1-Part4 課題のMini TestをCheckLinkに入力すること セミナー・研修に関する語句・表現を押さえておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと
15 回	学習内容 予習 復習	Unit 15 Seminar & Workshop Part5-Part7 慣用表現について確認しておくこと 板書部分をテキストと照らしてよく読んでおくこと Mini Testを解いて、CheckLinkに入力すること

科目名	英語ⅡD-1（英語ⅡD）			科目コード	12081		
英 文 名	English ⅡD			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目（選択必修）		
担当教員	栗崎 由子		教員コード	248		単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	平易な英語を使った寸劇やプレゼンテーション、動画作成などを使う演習形式で英語によるコミュニケーションの基礎を学ぶ。会話の理解を助けるため、文法の基礎事項を適宜確認する。						
授業の狙い・到達目標	講師は会話の力を身につけることは、生きる力を身につけることだと考える。英語の発話を習慣化し、簡単な会話が自分から進んでできるようになることを目指す。そのために、学習した経験や知識（語彙、表現、構文など）を援用する。						
授業内容のレベル・関連科目	自分の意志を伝えるには、日本の中学校で履修したレベルの語彙や文法知識が基本である。この授業ではその知識を発話の反復によって「話して使う英語」に育てて行く。適宜基礎的な文法の復習を行う。						
授業外学習（予習・復習）	事前に次の学習箇所の単語を調べておくこと。授業の復習や次の学習の導入を目的とした宿題を出す。				授業外学習に必要な時間	各回2時間、 合計30時間	
使用教科書	笹島滋他著、CLIL Seeing the World through Maps, 英語と地図で学ぶ世界事情「改訂版」、三修社						
参考書・その他教材	適宜、学習課題に沿ったプリントの配布、動画の紹介を行う。 短いビデオ作成や調査・発表の課題があるので、スマホを持っていることが望ましい。						
課題に対するフィードバック	授業では講師との会話の機会を設け、一人一人に発話を促す。 毎回提出する宿題にコメントを入れて返却する。同時に各自の提出物やプレゼンテーションを教材としてクラス全体でフィードバックを行ない、学生が相互に学び合う。						
成績評価方法	授業への積極的な参加（質問、発言などを含む）(60%)、課題の提出(40%)で総合的に判断する						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	教室での間違いは学びの始まりです。間違っても良いから、教室では積極的に発話することが、英会話の始まりであり習熟への近道です。						
科目に関連した教員の実務経験	担当講師は約30年間、欧州の国際機関や、多国籍企業で英語を使って実務経験を積んだほか、現在は大人を対象にビジネス英会話を指導している。 この経験は各回の授業に反映されている。						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。（初回の授業で提示する） 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、授業の約束、評価基準、etc. シラバスを読んでおくこと 教科書 P44, 45 & 46: 黙読して、知らない単語の意味を調べる。
2 回	学習内容 予習 復習	Area & Southeast Asia 地域の導入、地名と地図の照合、聴き取り、P45 導入 教科書 P44, 45 & 46: 黙読して、知らない単語の意味を調べる。 リサーチのふり返りと修正
3 回	学習内容 予習 復習	P45 Spectacular sights リサーチの発表、相互フィードバック P45 Spectacular sights 写真と地名の関連、写真にあげられた名物の基礎情報を調べる リサーチの発表をふり返り改善点をリストにする
4 回	学習内容 予習 復習	P46 Explore Indonesia ディクテーション、分からない言葉、文型練習、会話練習 P46 Explore Indonesia を3回書き取る P46 を読み、全ての単語が分かるようになる。
5 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。P47 Task 1 全員で教科書を読み、国のデータを確認する。リサーチ。 P47 Task 1 読んで答えを書く、Task 2 東南アジアの国を一つ選び、P17 Task2の項目について調べる リサーチを元にプレゼンを作成する。
6 回	学習内容 予習 復習	グループ学習選択した国について一回目のプレゼン(リハーサル)。フィードバック。 フィードバックを元に、プレゼンを改善する。 最終発表に向けてプレゼンを改善する。
7 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。P47 Task 2 最終発表。学生からのフィードバック、自分のふり返り。 最終発表に向けてプレゼンを改善する。 P48 分からない単語を調べる
8 回	学習内容 予習 復習	p48 単語の確認、意味の説明(学生が行う)、会話練習 P48 分からない単語を調べる P48を読んで理解を定着させる、P49を読む、空欄を埋める
9 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。東南アジア地域の歴史。主なイベントを一つ選ぶ、予備調査(相互学習) P49 Task 3を読む、空欄を埋める、p49 Task 4 調べる 担当するイベントの調査、プレゼンの準備
10 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。東南アジア地域の歴史(続き)。リサーチ結果を発表する。リハーサル、フィードバック(相互学習) 担当するイベントの調査、プレゼンの準備 プレゼンの改善
11 回	学習内容 予習 復習	最終発表、フィードバック、ふり返り(相互学習) プレゼンの改善 台本の書き取り
12 回	学習内容 予習 復習	寸劇 (Violin) 音読、内容理解から人物設定へ、前年の学生の録画を見る 台本の書き取り セリフの暗記
13 回	学習内容 予習 復習	寸劇 (Violin) の台詞の暗記、人物設定 セリフの暗記 セリフの暗記と定着、動作を考える。
14 回	学習内容 予習 復習	寸劇 (Violin) の台詞の暗記、動作の練習、 セリフの暗記と定着、動作を考える。 セリフの暗記と定着、動作を工夫する。
15 回	学習内容 予習 復習	寸劇 (Violin)のビデオ撮影と提出 課題の寸劇の台詞を暗記する 落語 自撮り(ペアワーク)

科目名	英語ⅡD-2（英語ⅡD）			科目コード	12082		
英 文 名	English ⅡD			科目区分	【共通教養科目】 第1外国語科目（選択必修）		
担当教員	栗崎 由子		教員コード	248		単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	平易な英語を使った寸劇やプレゼンテーション、動画作成などを使う演習形式で英語によるコミュニケーションの基礎を学ぶ。会話の理解を助けるため、文法の基礎事項を適宜確認する。						
授業の狙い・到達目標	講師は会話の力を身につけることは、生きる力を身につけることだと考える。英語の発話を習慣化し、簡単な会話が自分から進んでできるようになることを目指す。そのために、学習した経験や知識（語彙、表現、構文など）を援用する。						
授業内容のレベル・関連科目	自分の意志を伝えるには、日本の中学校で履修したレベルの語彙や文法知識が基本である。この授業ではその知識を発話の反復によって「話して使う英語」に育てて行く。適宜基礎的な文法の復習を行う。						
授業外学習（予習・復習）	事前に次の学習箇所の単語を調べておくこと。授業の復習や次の学習の導入を目的とした宿題を出す。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	笹島滋他著、CLIL Seeing the World through Maps, 英語と地図で学世界事情「改訂版」、三修社						
参考書・その他教材	適宜、学習課題に沿ったプリントの配布、動画の紹介を行う。 短いビデオ作成や調査・発表の課題があるので、スマホを持っていることが望ましい。						
課題に対するフィードバック	授業では講師との会話の機会を設け、一人一人に発話を促す。 毎回提出する宿題にコメントを入れて返却する。同時に各自の提出物やプレゼンテーションを教材としてクラス全体でフィードバックを行う。						
成績評価方法	授業への積極的な参加（質問、発言などを含む）(60%)、課題の提出(40%)で総合的に判断する						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	教室での間違いは学びの始まりである。間違っても良いから、教室では積極的に発話することが、英会話の始まりであり習熟への近道である。						
科目に関連した教員の実務経験	担当講師は約30年間、欧州の国際機関や、多国籍企業で英語を使って実務経験を積んだほか、現在は大人を対象にビジネス英会話を指導している。 この経験は各回の授業に反映されている。						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。（初回の授業で提示する） 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

英語ⅡD-2（英語ⅡD）

共通教養科目
（第1外国語科目）

1 回	学習内容 予習 復習	South America 地域の導入、地名と地図の照合、ディクテーション、リサーチと説明 教科書 P62, 63 & 64: 黙読して、知らない単語の意味を調べる。 教科書 P62, 63 & 64を読み直す。知識の定着。
2 回	学習内容 予習 復習	P63 Spectacular sights リサーチの発表、相互フィードバック、発表のふり回り P63 Spectacular sights 写真と地名の関連、写真にあげられた場所の基礎情報を調べる リサーチの発表の改善点をリストにする
3 回	学習内容 予習 復習	P64 Explore South America ディクテーション、分からない言葉、文型練習、グループ学習の導入 P64 Explore South America を3回書き取る P65 Task 1 読んで答えを書く、Task 2 南米の国を一つ選び、教科書の項目について調べる
4 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。P65 Task 1 全員で教科書を読み、国のデータを確認する。調査国の選定。調査計画の発表とフィードバック P65 Task 1 読んで答えを書く、Task 2 南米の国を一つ選び、教科書の項目について調べる フィードバックを元に、最終発表に向けて前回のプレゼンの改善
5 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。P65 Task 1 プレゼン、リハーサル(目的 聴き手に分かり易いか?) P65 Task 1 最終発表に向けて前回のプレゼンの改善 P65 Task 1 最終発表に向けて前回のプレゼンの改善
6 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。P65 Task 1 改善した最終発表のプレゼン(目的 聴き手に分かり易いか?) P65 Task 1 最終発表に向けて前回のプレゼンの改善 P66 読んで分からない単語を調べる
7 回	学習内容 予習 復習	p66 単語の確認、意味の説明(学生が行う)、会話練習 P66 読んで分からない単語を調べる P66を読んで理解を定着させる、P67を読む、空欄を埋める
8 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。P67 南米と日本の移民について歴史。主なイベントを理解し調査テーマを決める P67Task 3を読む、空欄を埋める、p49 Task 4 調べる グループで決めたイベントを調査する。
9 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。日本移民の歴史(続き)。調査結果プレゼン(リハーサル)。聴き手からのフィードバック グループで決めたイベントを調査する。感想を書く。 プレゼンのふり回りと改善。追加調査。
10 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。日本移民の歴史(続き)。調査結果の最終プレゼン。聴き手からのフィードバック プレゼンのふり回りと改善。追加調査。 プレゼンのふり回りと感想を書く。
11 回	学習内容 予習 復習	予備時間、進行を見て適宜テーマを設定する。 第11回のテーマに即した予習を第10回の授業時に与えるので、それを自習すること。 台本を書き写す、暗記する
12 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。寸劇(2)導入 課題ビデオを観て台詞を書く 台本の暗記、動作を付ける
13 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。寸劇(2)登場人物キャラクターづくりから演技へ 台詞の暗記、動作を付ける セリフと動作の練習
14 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。寸劇(2)リハーサルと相互フィードバック 台詞の暗記、動作を付ける セリフと動作の仕上げ
15 回	学習内容 予習 復習	グループ学習。寸劇(2)の発表、ビデオ撮影と提出 寸劇の台詞の暗記、動作の研究 寸劇のグループでふり回りを行う

科目名	中国語Ⅰ（中国語Ⅰ）			科目コード	12091	
英文名	Chinese I			科目区分	【共通教養科目】 第2外国語科目（選択必修）	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単位数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	中国語の発音を中心に勉強する。中国語の挨拶、自己紹介など語句を勉強しながら、中国語だけでなく、中国の歴史や遺産、現代の姿、雄大な自然と工夫を凝らした造形美など多様な側面をもつ中国の社会について学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	学習の到達目標は中国を理解し、中国語の基礎能力をつけることを目指す。中国でよく使われる挨拶や日常的表現、基本的な言い回しを聞き取ることができる。自己紹介など、中国語での簡単な会話を行うことができる。簡単な文章を読むことができる。					
授業内容のレベル・関連科目	総合的な中国語の基礎学力を養う。中国語初級レベル。					
授業外学習（予習・復習）	授業後に学習内容が身につくように復習し、再確認すること。毎回小テストを行うので、指定された部分の漢字・ピンイン・意味を覚えること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	遠藤光暁監修，衛榕群・汪暁京著『入門 ビジュアル中国』朝日出版社					
参考書・その他教材	早稲田大学商学部中国語教室『中国語基本単語帳』朝日出版社					
課題に対するフィードバック	講義中の小テストは、その場で解説する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	課題への取り組み（50％）、毎回の小テスト（50％）で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	テキストは必ず用意すること。 主体的に学習に取り組むこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。（ichikawa@aikoku-u.org）					

授業スケジュール

中国語Ⅰ（中国語Ⅰ）

1 回	学習内容 予習 復習	発音1 ピンイン、声調、母音 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 基本的な発音規則と簡単なフレーズを覚えること。
2 回	学習内容 予習 復習	発音2 子音 授業の前に毎回の新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 練習を繰り返し、正確な発音を復習すること。
3 回	学習内容 予習 復習	発音3 鼻音 授業の前に毎回の新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 練習を繰り返し、正確な発音を復習すること。
4 回	学習内容 予習 復習	発音4 軽声 授業の前に毎回の新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 練習を繰り返し、正確な発音を復習すること。
5 回	学習内容 予習 復習	発音の復習 母音、子音、鼻音の発音を暗記すること。 発音1～発音4の練習を繰り返し、正確な発音を復習すること。
6 回	学習内容 予習 復習	第1課 开学第一天（キャンパス用語） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 キャンパス用語を復習し、単語を暗記すること。
7 回	学習内容 予習 復習	第2課 中华民族园（常用形容詞） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 常用形容詞を復習し、単語を暗記すること。
8 回	学習内容 予習 復習	第3課 傣族新年（期日と曜日） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 期日と曜日を復習し、単語を暗記すること。
9 回	学習内容 予習 復習	第4課 旅游（家族紹介） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 家族紹介を復習し、単語を暗記すること。
10 回	学習内容 予習 復習	ユニット① コラム 該当する教科書について一読すること。 授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認すること。
11 回	学習内容 予習 復習	第5課 新家（時間帯と時刻） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 時間帯と時刻を復習し、単語を暗記すること。
12 回	学習内容 予習 復習	第6課 兵馬俑（常用動詞と目的語の組み合わせ） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 常用動詞と目的語の組み合わせを復習し、単語を暗記すること。
13 回	学習内容 予習 復習	第7課 西安（時間の量） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 時間の量を復習し、単語を暗記すること。
14 回	学習内容 予習 復習	総合復習 授業の前に第1課～第7課の単語と文法を暗記すること。 総合復習の問題をしっかりと復習、暗記すること。
15 回	学習内容 予習 復習	小テスト、解説(小テスト)、全体のまとめ。 第1課～第7課の練習問題をしっかりと覚えること。 15回の授業を振り返り、総合復習の問題をしっかりと復習すること。

共通教養科目
（第2外国語科目）

科 目 名	中国語Ⅱ（中国語Ⅰ）			科目コード	12092	
英 文 名	Chinese I			科目区分	【共通教養科目】 第2外国語科目（選択必修）	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	中国語の語句や基礎文法を勉強しながら、中国語だけでなく、中国の歴史や遺産、現代の姿、雄大な自然と工夫を凝らした造形美など多様な側面をもつ中国の社会について学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	学習の到達目標は中国を理解し、中国語の基礎能力をつけることを目指す。中国語のよく使われる挨拶や日常的表現、基本的な言い回しを聞き取ることができる。自己紹介など、中国語での簡単な会話を行うことができる。簡単な文章を読むことができる。					
授業内容のレベル・関連科目	総合的な中国語の基礎語学力を養う。中国語初級レベル。 中国語Ⅰを受講した学生のみ選択できる科目である。					
授業外学習（予習・復習）	授業後に学習内容が身につくように復習し、再確認すること。毎回小テストを行うので、指定された部分の漢字・ピンイン・意味を覚えること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	遠藤光暁監修，衛榕群・汪暁京著『入門 ビジュアル中国』朝日出版社					
参考書・その他教材	早稲田大学商学部中国語教室『中国語基本単語帳』朝日出版社					
課題に対するフィードバック	講義中の小テストは、その場で解説する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	課題への取り組み（50％）、毎回の小テスト（50％）で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	中国語Ⅰを受講した学生のみ選択できる科目である。 テキストは必ず用意すること。主体的に学習に取り組むこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。（ichikawa@aikoku-u.org）					

授業スケジュール

中国語Ⅱ（中国語Ⅰ）

1 回	学習内容 予習 復習	中国語Ⅰ内容の総復習 発音、第1課～第7課の単語と文法を覚えること。 授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認すること。
2 回	学習内容 予習 復習	第8課 上海世界博览会（中国と日本の都市名） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 中国と日本の都市名を復習し、単語を暗記すること。
3 回	学習内容 予習 復習	ユニット② コラム 該当する教科書について一読すること。 授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認すること。
4 回	学習内容 予習 復習	第9課 国名（常用動詞と結果補語の組み合わせ） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 常用動詞と結果補語の組み合わせを復習し、単語を暗記すること。
5 回	学習内容 予習 復習	第10課 苏州园林（中国の世界遺産） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 中国の世界遺産を復習し、単語を暗記すること。
6 回	学習内容 予習 復習	第11課 天坛（北京の観光スポット） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 北京の観光スポットを復習し、単語を暗記すること。
7 回	学習内容 予習 復習	第12課 少林寺（趣味のいろいろ） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 趣味のいろいろを復習し、単語を暗記すること。
8 回	学習内容 予習 復習	ユニット③ コラム 該当する教科書について一読すること。 授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認すること。
9 回	学習内容 予習 復習	第13課 清明节（中国の祝日） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 中国の祝日を復習し、単語を暗記すること。
10 回	学習内容 予習 復習	第14課 在茶馆喝茶（飲み物のいろいろ） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 飲み物のいろいろを復習し、単語を暗記すること。
11 回	学習内容 予習 復習	第15課 京剧（常用疑問詞） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 常用疑問詞を復習し、単語を暗記すること。
12 回	学習内容 予習 復習	第16課 艺术区（常用可能補語） 授業の前に新出単語を実際に発音し、意味を覚えること。 常用可能補語を復習し、単語を暗記すること。
13 回	学習内容 予習 復習	ユニット④ コラム 該当する教科書について一読すること。 授業の後で学習内容が身につくように復習し再確認すること。
14 回	学習内容 予習 復習	総合復習 授業の前に第8課～第16課の単語と文法を暗記すること。 総合復習の問題をしっかりと復習、暗記すること。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、全体のまとめ。 第8課～第16課の練習問題をしっかりと覚えること。 15回の授業を振り返り、総合復習の問題をしっかりと復習すること。

共通教養科目
（第2外国語科目）

科目名	スペイン語 I			科目コード	12101	
英 文 名	Spanish			科目区分	【共通教養科目】 第2外国語科目(選択必修)	
担当教員	辻 ミリアン		教員コード	261	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	最小限の単語と概略の文法(直説法まで)を学習する。同時にそれらを使った対話を練習する。スペイン語圏各国の伝統的な行事、工芸品、料理等を紹介し、それぞれの文化に触れる機会を持つ。					
授業の狙い・到達目標	日常生活で遭遇する状況に(挨拶、自己紹介、買い物等)対応できるようになる。興味のある事柄(趣味、家族、友人、専門等)については、自分の考えをある程度表現出来るようになる。紹介するスペイン語圏の事物や教師との対話を通し、その相似や違いを知ること。					
授業内容のレベル・関連科目	授業内容は、スペイン語検定試験、DELE A1合格レベルとほぼ一致する。					
授業外学習(予習・復習)	予習 毎回の授業で次回の授業に合わせて指示する。 復習 新しく出てきた単語を使い、学習した文法で文を組み立ててみる。頭の中で対話のリハーサル練習をする。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	木村琢也「スペイン語の基礎」朝日出版社					
参考書・その他教材	プログレッシブ スペイン語辞典、小学館					
課題に対するフィードバック	課題に対しては、返却時にそれぞれ評価を行う。期末の授業で全体の復習、フィードバックを行う。					
成績評価方法	定期試験(40%) 授業への貢献度(30%) 課題(30%)					
成績評価基準	基礎的な文法の理解度、持っている語彙の数、それらを使って行うINPUT、OUTPUTの様子を総合的に判断。					
履修上の注意事項や学習上の助言	スペイン語は、抑揚さえ気をつければかなり楽に発音できる。間違っても構わないので、授業では出来る限り発話すること。慣れることが習熟につながる。					
科目に関連した教員の実務経験	スペイン語講師としての語学学校での講師経験。母国での教員経験。					
担当教員への連絡方法	初回の授業でEメールアドレスを提示する。					

授業スケジュール

スペイン語 I

1 回	学習内容 予習 復習	自己紹介 ラテンアメリカ諸国の紹介(Paraguay) お菓子の試食 授業のガイダンス シラバスを読んでおく。 簡単な挨拶の仕方を憶える。
2 回	学習内容 予習 復習	アルファベットと単語の発音、アクセント p.3 発音、p.6 アクセントについて読んでおく。 発音の仕方とアクセントの置き方を確認する。
3 回	学習内容 予習 復習	イースター(Semana Santa)の紹介 スペイン語圏の概略説明 発音とアクセントの復習 スペイン語圏各国の位置を地図で確認する。 イースターやスペイン語圏、興味を引くことを自分で調べてみる。発音アクセントの練習。
4 回	学習内容 予習 復習	ser動詞について 活用と使い方(名前、職業、国籍etc) p.10 ser動詞の活用を読んでおく。 SER動詞を使いながら、新出の単語を憶える。
5 回	学習内容 予習 復習	名詞と冠詞、形容詞について 女性名詞と男性名詞、複数と単数 p.7 名詞の性と冠詞について読んでおく。 p.9 練習問題 1、2を行う。
6 回	学習内容 予習 復習	サンファン祭り(Fiesta San Juan)の紹介 指示形容詞と場所を表す副詞、疑問形 p.11 形容詞の性、指示形容詞、疑問代名詞について読んでおく。 ser動詞を使って、指示形容詞で文を作る。
7 回	学習内容 予習 復習	estar動詞について 場所と状態を示す動詞 前置詞の使い方 p.10 estarの使い方を読んでおく。 p.13 練習問題1をやってみる。estar動詞で文を作る。
8 回	学習内容 予習 復習	ラテンアメリカ諸国の紹介(アルゼンチン) estar、ser動詞を使ってみる。 アルゼンチンについて調べる。 アルゼンチンについて、ESTAR動詞を使い文を作る。
9 回	学習内容 予習 復習	ser動詞とestar動詞の違い Soy japonesa. Soy amable. Estoy bien. Estoy en casa. p.10 serとestarの使い分けを読んでおく。 serとestarを使って文を作る。
10 回	学習内容 予習 復習	haber”hay”の使い方 場所を表す動詞 hayとestarの違い p.11 3を読んでおく。 Hayを使って大学の周りにあるものを描写してみる。
11 回	学習内容 予習 復習	ラテンアメリカ諸国の紹介(ボリビア) haber動詞”hay”を使ってみる。 ボリビアについて調べてみる。 ボリビアについてHayを使って文を作る。
12 回	学習内容 予習 復習	tener動詞について 所有形容詞を使いながら文章を作る。(家族、色、感情) p.18 1、p.26 2を読んでおく。 家族についてtener動詞と所有形容詞を使い文を作る。
13 回	学習内容 予習 復習	数字と時間、日付 cuál、cuándo、cuánto、疑問詞 不定語と否定語 p.38、9 p.82を読んでおく。 家族や自分の大切な日や時間をスペイン語で言うてみる。
14 回	学習内容 予習 復習	ラテンアメリカ諸国の紹介。(チリ) 疑問詞を使って質問する。 ここまで習った疑問詞を再確認しておく。 チリについて、疑問詞を使った疑問文を作り、それに返答する文章を作ってみる。
15 回	学習内容 予習 復習	前期の復習。 疑問点や質問をまとめておく。 前期を振り返る。

科目名	スペイン語Ⅱ			科目コード	12102	
英 文 名	Spanish			科目区分	【共通教養科目】 第2外国語科目(選択必修)	
担当教員	辻 ミリアン		教員コード	261	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要口	最小限の単語と概略の文法(直説法まで)を学習する。同時にそれらを使った対話を練習する。スペイン語圏各国の伝統的な行事、工芸品、料理等を紹介し、それぞれの文化に触れる機会を持つ。					
授業の狙い・到達目標	日常生活で遭遇する状況に(挨拶、自己紹介、買い物等)対応できるようになる。興味のある事柄(趣味、家族、友人、専門等)については、自分の考えをある程度表現出来るようになる。紹介するスペイン語圏の事物や教師との対話を通し、その相似や違いを感じること。					
授業内容のレベル・関連科目	授業内容は、スペイン語検定試験、DELE A1合格レベルとほぼ一致する。					
授業外学習(予習・復習)	予習 毎回の授業で次回の授業に合わせて指示する。 復習 新しく出てきた単語を使い、学習した文法で文を組み立ててみる。頭の中で対話のリハーサル練習をする。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	木村琢也「スペイン語の基礎」朝日出版社					
参考書・その他教材	プログレッシブ スペイン語辞典、小学館					
課題に対するフィードバック	課題に対しては、返却時にそれぞれ評価を行う。期末の授業で全体の復習、フィードバックを行う。					
成績評価方法	定期試験(40%) 授業への貢献度(30%) 課題(30%)					
成績評価基準	基礎的な文法の理解度、持っている語彙の数、それらを使って行うINPUT、OUTPUTの様子を総合的に判断。					
履修上の注意事項や学習上の助言	スペイン語は、抑揚さえ気をつければかなり楽に発音できる。間違っても構わないので、授業では出来る限り発話すること。慣れることが習熟につながる。					
科目に関連した教員の実務経験	スペイン語講師としての語学学校での講師経験。母国での教員経験。					
担当教員への連絡方法	初回の授業でEメールアドレスを提示する。					

1 回	学習内容 予習 復習	前期の復習。直説法現在の規則活用 動詞 hablar comer vivir p.14を読んでおく。 p.17 1、2の練習問題を行う。
2 回	学習内容 予習 復習	直説法現在の不規則活用(1) 動詞 hacer(天気の表現) venir ir p.18 1、p.19 3を読んでおく。 hacer 動詞を使い天気についての文を作り話してみる。
3 回	学習内容 予習 復習	Ir動詞+a+不定詞 近い未来を表す。 主な前置詞 p.18 2を読んでおく。 p.21 1の練習問題を行う。
4 回	学習内容 予習 復習	ラテンアメリカのお盆”死者の日”の紹介 直説法現在の不規則活用 動詞querer poder p.22 1を読んでおく。 Querer poder pedir を使って文を作り話してみる。
5 回	学習内容 予習 復習	直説法現在の不規則活用(3) 動詞 decir saber conocer dar ¿Conoces España? p.22 2を読んでおく。 p.25 1の練習問題を行う。
6 回	学習内容 予習 復習	目的格人称代名詞 動詞 gustar Me gusta la música. p.23 5、6を読んでおく。 p.29 1の練習問題を行う。
7 回	学習内容 予習 復習	Gustar動詞の仲間 encantar parecer interesar p.26 1を読んでおく。 自分の好きなもの、好きなことを文にする。話してみる。
8 回	学習内容 予習 復習	これまでに出来た動詞の活用をもう一度確認、練習する。 ここまで出来た動詞の活用を整理しておく。 ここまで出来た動詞を使い文を作る。自分のことを話してみる。
9 回	学習内容 予習 復習	再帰代名詞と再帰動詞 ¿Cómo te llamas? ¿A qué hora te levantas? p.30 を読んでおく。 p.33 1の練習問題を行う。
10 回	学習内容 予習 復習	再帰代名詞と再帰動詞 ¿Cómo te llamas? ¿A qué hora te levantas? p.30 を読んでおく。 再帰動詞を使って文を作り話してみる。
11 回	学習内容 予習 復習	Navidad(クリスマス)の紹介 ¿Cómo se celebra en España y América Latina? ここまで習った動詞を使い、自分の国のクリスマスについて話してみる。 クリスマスカードを実際書いてみる。
12 回	学習内容 予習 復習	比較級と最上級 ¿Quién estudia más? p.27 を読んでおく。 比較級と最上級を使った文を作る。家族について話してみる。
13 回	学習内容 予習 復習	カーニバルの紹介 El carnaval es el día más alegre. カーニバルについて調べる。 カーニバルについて比較級と最上級を使った文を作り、話してみる。
14 回	学習内容 予習 復習	直説法点過去の規則活用 動詞 hablar comer vivir ¿Dónde naciste? p.34 2を読んでおく。 過去の出来事について文を作り話してみる。
15 回	学習内容 予習 復習	後期の復習 疑問点や質問をまとめておく。 後期を振り返る。

科目名	日本語Ⅰ（外国語としての日本語Ⅱ-3）			科目コード	12111	
英 文 名	Japanese (Japanese as Foreign Language Ⅱ)			科目区分	【共通教養科目】 第2外国語科目(選択必修)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	授業はテキストの精読と内容理解を中心に進めるが、文章内に出てくる重要語彙・文法も扱い、定着のための確認テストも随時行う。また、各章の終わりにはテーマについての自身の考えをクラス内でディスカッションし、意見を文章にまとめる。					
授業の狙い・到達目標	多様なトピックについて書かれた長い文章を理解し、要点を押さえながら読むことができるようになる。また、社会性のある話題について、口頭、文書の両方で相手に的確に自分の意見を伝えられるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPT N1相当レベル 関連科目:「日本語Ⅱ」					
授業外学習(予習・復習)	予習:語彙や意味を確認し、読解の妨げにならないようにする。 復習:再読し、内容理解を深め、授業で扱った文法を確認する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	奥山貴之他『考える人の「上級」日本語読解』凡人社					
参考書・その他教材	教員が都度紹介する。					
課題に対するフィードバック	翌週に授業で扱った語彙や文法についての簡単な確認テストを行う。					
成績評価方法	期末テスト70%、課題提出と復習テスト30%					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から日本語を読むという習慣をつけ、漢字・語彙の習得や長文の内容理解に努めること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org					

授業スケジュール

日本語 I (外国語としての日本語 II-3)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション N1相当の中文、長文読解(教員が準備) 各自長い文章を読むなどの準備をしておく 扱った語彙や文法を確認し、教員が提示した作文課題をする(次回小テストあり)。
2 回	学習内容 予習 復習	N1相当の中文、長文読解(教員が準備) 各自長い文章を読むなどの準備をしておく 扱った語彙や文法を確認し、教員が提示した作文課題をする(次回小テストあり)。
3 回	学習内容 予習 復習	第1章「ゲームと人と社会と私」読む①考える① 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
4 回	学習内容 予習 復習	第1章「ゲームと人と社会と私」読む②考える② 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
5 回	学習内容 予習 復習	第1章「ゲームと人と社会と私」考えるヒント ディスカッション 作文(宿題) 文章を再読し、教員の与えた課題を作成する 授業で話し合ったことをまとめる(作文)
6 回	学習内容 予習 復習	第2章「言語と向き合う」読む①考える① 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
7 回	学習内容 予習 復習	第2章「言語と向き合う」読む②考える② 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
8 回	学習内容 予習 復習	第2章「言語と向き合う」考えるヒント ディスカッション 作文(宿題) 文章を再読し、教員の与えた課題を作成する 授業で話し合ったことをまとめる(作文)
9 回	学習内容 予習 復習	第3章「子どもと自尊感情」読む①考える① 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
10 回	学習内容 予習 復習	第3章「子どもと自尊感情」読む②考える② 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
11 回	学習内容 予習 復習	第3章「子どもと自尊感情」考えるヒント ディスカッション 作文(宿題) 文章を再読し、教員の与えた課題を作成する 授業で話し合ったことをまとめる(作文)
12 回	学習内容 予習 復習	第4章「変わりゆく世界」読む①考える① 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
13 回	学習内容 予習 復習	第4章「変わりゆく世界」読む②考える② 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
14 回	学習内容 予習 復習	第4章「変わりゆく世界」考えるヒント ディスカッション 作文(宿題) 文章を再読し、教員の与えた課題を作成する 授業で話し合ったことをまとめる(作文)
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの内容を振り返る 第1～4章で分からなかったところ、曖昧なところなどをまとめておく 全体を通した復習課題をする

科目名	日本語Ⅱ（外国語としての日本語Ⅱ-3）			科目コード	12112	
英 文 名	Japanese (Japanese as Foreign Language Ⅱ)			科目区分	【共通教養科目】 第2外国語科目(選択必修)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	授業はテキストの精読と内容理解を中心に進めるが、文章内に出てくる重要語彙・文法も扱い、定着のための確認テストも随時行う。また、各章の終わりにはテーマについての自身の考えをクラス内でディスカッションし、意見を文章にまとめる。					
授業の狙い・到達目標	多様なトピックについて書かれた長い文章を理解し、要点を押さえながら読むことができるようになる。また、社会性のある話題について、口頭、文書の両方で相手に的確に自分の意見を伝えられるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPT N1相当レベル 関連科目:「日本語Ⅰ」					
授業外学習(予習・復習)	予習:語彙や意味を確認し、読解の妨げにならないようにする。 復習:再読し、内容理解を深め、授業で扱った文法を確認する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	奥山貴之他『考える人の「上級」日本語読解』凡人社					
参考書・その他教材	教員が都度紹介する。					
課題に対するフィードバック	翌週に授業で扱った語彙や文法についての簡単な確認テストを行う。					
成績評価方法	期末テスト70%、課題提出と復習テスト30%					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から日本語を読むという習慣をつけ、漢字・語彙の習得や長文の内容理解に努めること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org					

授業スケジュール

日本語Ⅱ（外国語としての日本語Ⅱ-3）

1 回	学習内容 予習 復習	第5章「自分で作るキャリア」読む①考える① 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
2 回	学習内容 予習 復習	第5章「自分で作るキャリア」読む②考える② 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
3 回	学習内容 予習 復習	第5章「自分で作るキャリア」考えるヒント ディスカッション 作文(宿題) 文章を再読し、教員の与えた課題を作成する 授業で話し合ったことをまとめる(作文)
4 回	学習内容 予習 復習	第6章「貿易とグローバル化」読む①考える① 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
5 回	学習内容 予習 復習	第6章「貿易とグローバル化」読む②考える② 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
6 回	学習内容 予習 復習	第6章「貿易とグローバル化」考えるヒント ディスカッション 作文(宿題) 文章を再読し、教員の与えた課題を作成する 授業で話し合ったことをまとめる(作文)
7 回	学習内容 予習 復習	第7章「フェア？アンフェア？」読む①考える① 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
8 回	学習内容 予習 復習	第7章「フェア？アンフェア？」読む②考える② 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
9 回	学習内容 予習 復習	第7章「フェア？アンフェア？」考えるヒント ディスカッション 作文(宿題) 文章を再読し、教員の与えた課題を作成する 授業で話し合ったことをまとめる(作文)
10 回	学習内容 予習 復習	第8章「いのちと科学」読む①考える① 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
11 回	学習内容 予習 復習	第8章「いのちと科学」読む②考える② 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
12 回	学習内容 予習 復習	第8章「いのちと科学」考えるヒント ディスカッション 作文(宿題) 文章を再読し、教員の与えた課題を作成する 授業で話し合ったことをまとめる(作文)
13 回	学習内容 予習 復習	第9章「科学を考える」読む①考える① 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
14 回	学習内容 予習 復習	第9章「科学を考える」読む②考える② 巻末の語彙と意味を確認しておく。読解に自信のない人は前もって文を読んでおく。 教員が提示した課題をする。
15 回	学習内容 予習 復習	第9章「科学を考える」考えるヒント ディスカッション 作文(宿題) 文章を再読し、教員の与えた課題を作成する 授業で話し合ったことをまとめる(作文)

科目名	情報基礎演習（情報基礎演習）			科目コード	13010	
英 文 名	Introduction to Information processing			科目区分	【共通教養科目】 コンピュータ科目（必修）	
担当教員	呉 鷲		教員コード	157	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	情報基礎演習を通して、コンピュータ(PC)を活用するための基礎的な知識と技能を習得する。 Windows環境でのパソコンの基本操作、文字の入力(タイピング)、フォルダの作成、Word、Excel、Power Pointによるファイルの作成と基本操作を学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	①コンピュータ(PC)の基本操作ができる。②Wordで日本語の入力と簡単な文章の作成ができる。③Excelの基本的な機能を理解する。④PowerPointの基本的な機能が理解できる。					
授業内容のレベル・関連科目	大学の勉学や社会生活において必要不可欠なコンピュータ(PC)の基礎技能を身につける。					
授業外学習(予習・復習)	予習:授業の計画を事前に確認して、操作の手順について積極的に予習に取り組む。復習:教科書などを確認しながら、授業で操作した内容を身につけるように振り返る。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	実務出版企画開発部編著『30時間でマスター Office2019』実教出版(2019)					
参考書・その他教材	担当教員が作成する配布資料 留学生(副読本):榎村麻里子等著『留学生のためのかんたんWord入門』技術評論社(2018)					
課題に対するフィードバック	特になし。授業で演習課題を出し、その場で操作の練習をする。					
成績評価方法	①パソコン(PC)の基本操作スキル(20%)、②日本語入力の課題(30%)、③Excelで簡単な表の作成(30%)、④平常点(20%)					
成績評価基準	①パソコン(PC)の基本操作がスムーズに行えること、②WordとExcelを用いて課題作成ができることなどについて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業中、課題演習を行うため、必ず出席し、遅刻しないこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)あるいは対面で対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー(新年度に掲示)に対応する。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(学習のポイントを概説し、達成目標を確認する。) シラバスを事前に確認する。 配布資料を再度確認し、学習のポイントと目標を明確にする。
2 回	学習内容 予習 復習	パソコン(PC)の基本操作、フォルダとファイルの概念 配布資料を事前に学習する。 演習課題を振り返り、基本操作のポイントを覚える。
3 回	学習内容 予習 復習	キーボードで入力、タイピングの練習 配布資料を熟読し、キーボードの特徴を覚える。 キーボードの特徴、タイピングの要領と指の正しい使い方を復習して覚える。
4 回	学習内容 予習 復習	日本語の文字の入力方法(ローマ字)、漢字の変換と記号の入力 日本語のローマ字表記 演習課題を振り返り、基本操作のポイントを整理する。
5 回	学習内容 予習 復習	日本語の文章の入力 配布資料をベースに、文章入力のポイントを予習する。 演習課題を振り返り、基本操作のポイントを覚える。
6 回	学習内容 予習 復習	Wordの基本操作、基本編集機能(1) 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
7 回	学習内容 予習 復習	Wordの基本操作、基本編集機能(2) 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	コンピュータ(PC)の基本操作、到達度の確認 (Wordで日本語の文章を作成する) 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、追加の演習課題を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	前回演習課題に関する講評、ビジネス文章の作成 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	前半(第2回から第9回)の復習、練習 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、基本操作のスキルを身につける。
11 回	学習内容 予習 復習	Excelの基本操作、表の作り方 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、基本操作のポイントを覚える。
12 回	学習内容 予習 復習	Excelの基本操作、表の作り方の練習(統計データの整理等) 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、基本操作のポイントを覚える。
13 回	学習内容 予習 復習	PowerPointの基本操作と機能の習得、演習課題の作成と発表 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	後半(第11回から第13回まで)を中心とした復習、練習 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 教科書の指定ページと配布資料を復習し、基本操作のスキルを上達させる。
15 回	学習内容 予習 復習	総括(ビジネスで役立つ資料の作成要領)、到達度の確認 (Excelで表を作成する) 教科書の指定ページと配布資料を復習する。 教科書、配布資料を復習し、スキルアップのための自主練習を行う。

科目名	文書処理演習（文書処理演習）			科目コード	13020	
英 文 名	Practice of Word Processing			科目区分	【共通教養科目】 コンピュータ科目（必修）	
担当教員	溝田 俊之		教員コード	156	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	ビジネスのコミュニケーション手段として文書は極めて重要な役割を持っている。ビジネス文書では内容の正確さだけでなく、一定の形式が求められる。ワードの基本的な操作から始まり、ビジネスに役立つ文書作成を学習し、さらに、検定試験合格を目指し、実力を身につけるよう演習する。					
授業の狙い・到達目標	本演習の目標は3つである。 ①ワープロソフト(Word)の基本操作を身につける。 ②ビジネス文書の作成方法を身につける。 ③応用編として、ワープロ技能検定試験やMOS試験を目指すことのできる力を身につける。					
授業内容のレベル・関連科目	ワープロソフトによる文書処理の基礎編である。 関連科目は、その他のコンピュータ科目で、積極的な履修を望む。					
授業外学習(予習・復習)	演習科目だが、教科書を使った予習が必要。授業前に必ず該当する教科書のページに目を通して、何を学ぶのかをまとめておくこと。復習では、数日以内に授業内容をパソコンにて操作し理解度を確認し、不明点は次回授業で確認すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	実教出版企画開発部編、『30時間でマスターWORD2019』、実教出版					
参考書・その他教材	榎村麻里子、松下孝太郎他著、『留学生のための簡単Word入門』、技術評論社					
課題に対するフィードバック	演習に対し授業内でフィードバックを行う。					
成績評価方法	期末演習試験(50%)、演習課題(40%)、平常点(10%)					
成績評価基準	本講義の到達目標である「ビジネス文書」作成について、本学の成績評価基準に基づき、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	教室では携帯電話、スマートフォンの使用厳禁。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to:mizota@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

文書処理演習

1 回	学習内容 予習 復習	授業の進め方、目標の確認、Wordはじめの一步 シラバスを読んでくること 授業の進め方、目標などを振り返り、確認すること
2 回	学習内容 予習 復習	文字入力の基本や漢字変換の仕方などタイピングの基本について学習する。 授業前に必ず該当する教科書のページに目を通してくる 数日以内にパソコンを使って復習する
3 回	学習内容 予習 復習	基本入力演習。文章の入力を演習により学習する。 授業前に必ず該当する教科書のページに目を通してくる 数日以内にパソコンを使って復習する
4 回	学習内容 予習 復習	ワードの編集機能。複写、削除、移動、書式設定など編集機能について学習する。 授業前に必ず該当する教科書のページに目を通してくる 数日以内にパソコンを使って復習する
5 回	学習内容 予習 復習	ワードの編集機能2 フォントの変更、表の作成、均等割付などについて学習する。 授業前に必ず該当する教科書のページに目を通してくる 数日以内にパソコンを使って復習する
6 ・ 7 ・ 8 回	学習内容 予習 復習	基本文書作成演習。実際の文書を作成する。 授業前に必ず該当する教科書のページに目を通してくる 数日以内にパソコンを使って復習する
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 回	学習内容 予習 復習	ビジネス文書作成演習。実際にビジネス文書を作成する。 授業前に必ず該当する教科書のページに目を通してくる 数日以内にパソコンを使って復習する
13 ・ 14 回	学習内容 予習 復習	応用問題 今まで学習したことを振り返っておく 数日以内にパソコンを使って復習する
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと総合演習 14回の配布資料全体に目を通すこと 全15回の授業を振り返り、総復習しておくこと

科目名	表計算演習（表計算演習）			科目コード	13030	
英 文 名	Practice of Spreadsheet Software			科目区分	【共通教養科目】 コンピュータ科目（選択）	
担当教員	溝田 俊之		教員コード	156	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	ビジネス世界では「表計算」のスキルは必要不可欠となっている。本授業では演習を通して、基本的なEXCELの操作から始まり、ビジネスに役立つ表の作成を学習する。					
授業の狙い・到達目標	①表計算ソフト(EXCEL)の基本操作を身につける。 ②表の設計や関数を使った表を作り、ビジネスで役立つ表を自分で作れる力を身につける。 ③応用編として、情報処理技能検定試験・表計算やMOS試験もめざすことのできる力を身につける。					
授業内容のレベル・関連科目	EXCEL特有の構造や操作など丁寧に進めていく。毎回出題する課題を積極的に取り組んでいく。関連科目は「情報基礎演習」、「文書処理演習」					
授業外学習（予習・復習）	授業の際に配付するワークシートに基づき予習・復習を行う				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	実教出版企画開発部『30時間でマスター Excel2019』実教出版					
参考書・その他教材	留学生（副読本）：榎村麻里子，松下孝太郎，津木裕子『留学生のためのかんたんEXCEL入門』技術評論社					
課題に対するフィードバック	演習中、課題演習の出来具合を確認し、直接フィードバックする。					
成績評価方法	①期末演習試験（50％）、②演習課題（40％）、③平常点（10％）により評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどれくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	教室では携帯電話、スマートフォンの使用厳禁。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。（mail to:mizota@aikoku-u.org） 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

表計算演習

1 回	学習内容 予習 復習	<表計算基礎>表の概念とセル操作の基本 シラバスをあらかじめ読んでおくこと 本授業の目標の確認、授業の進め方などについて振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	<表計算基礎>合計の計算(計算式、SUM関数)と簡単なグラフ作成 配付スライドを見ておくこと 授業内容を振り返ること
3 回	学習内容 予習 復習	<表計算基礎>簡単な関数(平均、最大、最小)と表の整形(罫線と文字配置など) 配付スライドを見ておくこと 授業内容を振り返ること
4 回	学習内容 予習 復習	<表計算基礎>ワークシートの編集(セル幅設定、文字割付、業・列の挿入と削除) 配付スライドを見ておくこと 授業内容を振り返ること
5 回	学習内容 予習 復習	<作表基礎>表の編集 配付スライドを見ておくこと これまでの演習課題についてまとめておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	<作表基礎>表の編集 つづき 配付スライドを見ておくこと 授業内容を振り返ること
7 回	学習内容 予習 復習	<作表応用>いろいろな関数(COUNT関数、ROUND関数、ROUNDUP関数ほか) 配付スライドを見ておくこと 授業内容を振り返ること
8 回	学習内容 予習 復習	<作表応用>ビジネスで使う表の作成1 配付スライドを見ておくこと 授業内容を振り返ること
9 回	学習内容 予習 復習	<関数応用>IF関数による判断 配付スライドを見ておくこと 授業内容を振り返ること
10 回	学習内容 予習 復習	<関数応用>IF関数による判断(IF関数と論理関数、ネストIF) 配付スライドを見ておくこと 授業内容を振り返ること
11 回	学習内容 予習 復習	<作表応用>条件付き書式、スパークライン グラフ作成 配付スライドを見ておくこと これまでの授業のまとめを作成すること
12 回	学習内容 予習 復習	<作表応用>応用グラフ 配付スライドを見ておくこと 演習内容を振り返ること
13 回	学習内容 予習 復習	<表計算応用>データベースの作成と利用1 配付スライドを見ておくこと 演習内容をまとめておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	<表計算応用>データベースの作成と利用2 配付スライドを見ておくこと これまでの演習課題についてまとめておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと総合演習 14回の配布資料全体に目を通すこと 全15回の授業を振り返り、“表計算演習”の課題について理解度を確認する

科目名	プレゼンテーション演習（プレゼンテーション演習）			科目コード	13040	
英 文 名	Practice of Presentation			科目区分	【共通教養科目】 コンピュータ科目（選択）	
担当教員	呉 鷲		教員コード	157	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	プレゼンテーション演習を通して、プレゼンテーションの基礎知識を学ぶ。卒業論文の発表をはじめとして、大学生活や社会生活に必要なプレゼンテーションのスキルを身につける。					
授業の狙い・到達目標	情報基礎演習の講義を踏まえ、Microsoft PowerPointのスキルをステップアップさせることを目的とする演習である。情報化社会において、大学でも一般社会でも必要不可欠になったプレゼンテーションの資料を作成するための基本的なスキルを習得して使いこなせるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	情報基礎演習の講義を発展させた内容となる。 人間文化演習／卒業研究演習などで、実践的な活用場面が出てくるはずである。					
授業外学習（予習・復習）	予習：授業の計画を事前に確認して、操作の手順について積極的に予習に取り組む。復習：教科書などを確認しながら、授業で操作した内容を身につけるように振り返る。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	実務出版企画開発部編著『30時間でマスター Office2019』実教出版（2019）					
参考書・その他教材	担当教員が作成する配布資料					
課題に対するフィードバック	特になし。授業で演習課題を出し、その場で操作の練習をする。					
成績評価方法	課題発表（パワーポイントファイルの作成とプレゼンテーション）（80%）、平常点（20%）					
成績評価基準	①Microsoft PowerPointの基本操作がスムーズに行えること、②Microsoft PowerPointを用いて課題作成ができることについて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業中、課題演習を行うため、必ず出席し、遅刻しないこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール（wu@aikoku-u.org）あるいは対面で対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー（新年度に掲示）に対応する。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(学習のポイントを概説し、達成目標を確認する。) シラバスを事前に確認する。 配布資料を再度確認し、学習のポイントと目標を明確にする。
2 回	学習内容 予習 復習	PowerPointの機能を理解し、ファイルを作成してみる。 教科書指定ページと配布資料を予習する。 教科書指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
3 回	学習内容 予習 復習	前回課題の発表と講評、言語の表現力・構成案作成の練習(1) 教科書指定ページと配布資料を予習する。 教科書指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
4 回	学習内容 予習 復習	前回課題の発表と講評、言語の表現力・構成案作成の練習(2) 教科書指定ページと配布資料を予習する。 教科書指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
5 回	学習内容 予習 復習	前回課題の発表と講評、表現技術と図表・写真での表現力の習得と練習 教科書指定ページを予習する。 教科書指定ページと配布資料を復習し、演習課題を作成する。
6 回	学習内容 予習 復習	前回課題の発表と講評、視覚化、ビジュアル要素、色彩の基礎知識の習得と応用 教科書指定ページと配布資料を予習する。 教科書指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
7 回	学習内容 予習 復習	前回課題の発表と講評、第2～6回までの基礎知識とスキルの復習、演習課題の作成 教科書指定ページと配布資料を予習する。 教科書指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	前回課題の発表と講評、効果的なスライドの表現(配色、グラフ、アニメーション)の習得 教科書指定ページと配布資料を予習する。 教科書指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	前回課題の発表と講評、PowerPointの基本操作とスキルの総合的練習(1) 教科書指定ページと配布資料を予習する。 教科書指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	PowerPointの基本操作とスキルの総合的練習(2)、演習課題の発表と講評 教科書指定ページと配布資料を予習する。 教科書指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
11 ・ 12 回	学習内容 予習 復習	テーマ型プレゼンテーション資料の作成要領の習得、演習課題の作成 教科書指定ページと配布資料を予習する。 教科書指定ページと配布資料を復習し、演習課題を完成する。
13 回	学習内容 予習 復習	テーマ型プレゼンテーションと聞き手による評価(1)、講評 教科書指定ページと配布資料を予習する。 聞き手による評価と講評を踏まえ、演習課題を修正する。
14 回	学習内容 予習 復習	テーマ型プレゼンテーションと聞き手による評価(2)、講評 教科書指定ページと配布資料を予習する。 聞き手による評価と講評を踏まえ、演習課題を修正する。
15 回	学習内容 予習 復習	テーマ型プレゼンテーションと聞き手による評価(3)、講評 教科書指定ページと配布資料を予習する。 聞き手による評価と講評を踏まえ、演習課題を修正して再提出する。

科目名	キャリアデザインⅠ（就職対策演習Ⅰ）			科目コード	14010		
英 文 名	Career DesignⅠ (Employment Skills TrainingⅠ)			科目区分	【共通教養科目】 キャリア形成科目（必修）		
担当教員	赤羽根 和恵		教員コード	152		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・5時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	キャリアとは人生そのものであり、大学での学び、アルバイトの経験、趣味や日常生活など経験をしたすべてのことを指す。かけがえのない人生を主体的に生きるために、生涯を通じたキャリア発達ができる力を身に付けることを目的とする。						
授業の狙い・到達目標	到達目標①：自己理解と他者理解を深めて、自分の適性や職業について考えることができる。 到達目標②：産業・業態・職種について知り、就職活動の準備に取り組むことができる。 到達目標③：主体的に生きるために必要な目標を設定することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学での学びを将来に生かし適職につくために、自己研鑽が必要である。引き続き、「キャリアデザインⅡ（就職対策演習Ⅱ）」で具体的な就職活動を理解して、準備を行う事が望ましい。						
授業外学習（予習・復習）	事前学習：日常で出会う働いている人の仕事内容や態度を観察する。 ニュースを見て時事問題について理解しておく。 事後学習：授業で学んだことを復習して、次の授業に備える。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	毎回、資料を配布する。						
参考書・その他教材	講義内で適宜紹介をする。						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。 最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	授業参加度(30%)、中間レポート(30%)、期末レポート(40%)として評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。準備を必要とする課題が多いので積極的に取り組み、遅刻・欠席をせずに参加をすること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:akabane@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

キャリアデザイン I (就職対策演習 I)

1 回	学習内容 予習 復習	キャリアに関する考え方(キャリア理論)、グループワーク シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	ライフステージ、ライフロール、ライフ・キャリア・レインボー ライフステージについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	過去の自分を振り返る(ライフラインの作成)、グループワーク 子どもの頃からの思い出を振り返りメモを作成しておく。 授業内に記入シートが完成しなかった場合は、加筆して完成をしておく。
4 回	学習内容 予習 復習	現在の自分と向き合う(エゴグラム)、グループワーク これまでの授業内容を振り返っておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	自分の強みを知る(SWOT分析)、現在と将来のライフロールの作成 自分の得意な事と苦手な事を考えてくる。 授業内に記入シートが完成しなかった場合は、加筆して完成をして提出をすること。
6 回	学習内容 予習 復習	自己理解と他者理解のためのグループディスカッション・発表 クラスメートへの自己紹介を考えてくること。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	学生生活の充実(目標設定表の作成、PDCAサイクル) 大学時代にやりたいことを書き出してくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	社会人基礎力の理解と測定 仕事をする上で必要な能力について考えてくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	社会人基礎力を高めるためのグループワーク 前回の社会人基礎力の中で自分に備わっている力と足りない力について見直しておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	社会人に求められるコミュニケーション能力、グループワーク コミュニケーション能力について調べておく。 授業内容について振り返り、レポートにまとめて提出をする。
11 回	学習内容 予習 復習	多様な社会への対応(多様な働き方と人材への理解) 雇用の問題について調べてくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	職業理解(業種・業態・職種、ホランドの六角形理論) 将来就きたい職業を具体的に言えるように調べてくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	就職活動の全体像とスケジュール 大学生の就職活動に必要なことについて調べてくる。 授業内容について振り返り、理解をを深める。
14 回	学習内容 予習 復習	ワーク・ライフ・バランスとキャリア(キャリアプランの作成) ワーク・ライフ・バランスについて調べてくる。 授業内に記入シートが完成しなかった場合は、加筆して完成をしておく。
15 回	学習内容 予習 復習	キャリアプランの発表・授業の振り返り キャリアプランの発表の準備をしてくる。 全15回の授業を振り返り、就職活動についての課題をとりまとめる。

科 目 名	キャリアデザインⅡ（就職対策演習Ⅱ）			科目コード	14020		
英 文 名	Career Design Ⅱ (Employment Skills Training Ⅱ)			科目区分	【共通教養科目】 キャリア形成科目（必修）		
担当教員	日坂 彰		教員コード	137		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探究する		☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日本における就職活動の各段階に対応した実践的演習である。						
授業の狙い・到達目標	自分がどのように生きていきたいかを思慮し、自分のキャリア、将来の人生を設計する契機とする。「自己PR」と「志望動機」の考案を中心に、自分自身に対する哲学的な考察も深める。大学に入学して学修する目的と意味を再確認し、卒業までの大学生活を点検する。日本における就職活動の各段階で要求される基本的技能と成果物作成能力を習得できる。						
授業内容のレベル・関連科目	就職活動の基礎、「就職対策演習Ⅰ」の履修を前提とする。						
授業外学習（予習・復習）	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	岡茂信「就職活動がまるごと分かる本 内定獲得のメソッド いつ？どこで？なにをする？」マイナビ出版 ※毎年改訂出版されるシリーズであり、最新版を入手すること。						
参考書・その他教材	愛国学園大学 就職活動マニュアル 日本五大紙、特に日本経済新聞						
課題に対するフィードバック	各段階毎に成果物を点検、フィードバックを行う。						
成績評価方法	成果物（履歴書、ES等作成文書、口頭試問、各種面接など）（70%）、授業への貢献度（30%）						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	必要に応じて就職相談室を利用すること、あるいは就職委員会や学務課就職担当の支援を求めることを推奨する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	キャリア・ガイダンス — キャリアデザイン 現時点までのキャリア実現に向けての活動状況や成果を整理しておくこと。 キャリアを実現するための短期、中期、長期計画を立てること。
2 回	学習内容 予習 復習	自己分析 — 自己PR(第2回～第4回) ※以後PDCAにより改訂を繰り返す 「学業、ゼミ、研究室などで取り組んだ内容」を250字以内で作成する。 「学業、ゼミ、研究室などで取り組んだ内容」を授業内容を踏まえて改訂する。
3 回	学習内容 予習 復習	自己分析 — 自己PR(第2回～第4回) 「学生時代に最も打ち込んだこと」を400字以内で作成する。 「学生時代に最も打ち込んだこと」を授業内容を踏まえて改訂する。
4 回	学習内容 予習 復習	自己分析 — 自己PR(第2回～第4回) 「自己PR」を400字以内で作成する。 「自己PR」を授業内容を踏まえて改訂する。
5 回	学習内容 予習 復習	進路研究調査 — 業界・職種・企業研究／進学先研究(第5回～第7回) 指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 「企業調査表」の作成を進める。
6 回	学習内容 予習 復習	進路研究調査 — 業界・職種・企業研究／進学先研究(第5回～第7回) 「企業調査表」の作成を進める。 「企業調査表」の作成を進める。
7 回	学習内容 予習 復習	進路研究調査 — 業界・職種・企業研究／進学先研究(第5回～第7回) 「志望動機」を400字以内で作成する。 「志望動機」を授業内容を踏まえて改訂する。
8 回	学習内容 予習 復習	書類作成 — 履歴書、エントリーシート、就活報告書や進学願書等の作成(第8回～第9回) 本学既定書式の履歴書を入手し、全項目を記入作成する。 履歴書を授業内容を踏まえて改訂する。
9 回	学習内容 予習 復習	書類作成 — 履歴書、エントリーシート、就活報告書や進学願書等の作成(第8回～第9回) エントリーシートを作成する。 エントリーシートを授業内容を踏まえて改訂する。
10 回	学習内容 予習 復習	ビジネスマナー — 服装や敬語の使い方、メールの書き方など(第10回～第11回) 指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 就職活動用の服装を点検すること、敬語の使い方を整理しておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	ビジネスマナー — 服装や敬語の使い方、メールの書き方など(第10回～第11回) 指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 メールの書き方など定型的な文章等を整理しておくこと。
12 回	学習内容 予習 復習	個人面接 — 模擬個人面接、1分スピーチ(第12～第13回) 個人面接における想定問答を作成しておくこと。 模擬面接での回答を振り返り、次に同じ質問がされた場合に備えた改訂を行うこと。
13 回	学習内容 予習 復習	個人面接 — 模擬個人面接、1分スピーチ(第12～第13回) 自己紹介用の1分スピーチを考案し、時間計測も含め練習をしておくこと。 模擬面接での回答を振り返り、次に同じ質問がされた場合に備えた改訂を行うこと。
14 回	学習内容 予習 復習	集団面接 — 模擬集団面接、グループディスカッション(第14回～第15回) 集団面接、グループディスカッションにおける想定問答を作成しておくこと。 模擬面接での回答を振り返り、次に同じ質問がされた場合に備えた改訂を行うこと。
15 回	学習内容 予習 復習	集団面接 — 模擬集団面接、グループディスカッション(第14回～第15回) 集団面接、グループディスカッションにおける想定問答を作成しておくこと。 模擬面接での回答を振り返り、次に同じ質問がされた場合に備えた改訂を行うこと。

科目名	秘書学概論（秘書学概論）			科目コード	14030	
英 文 名	Outline of Secretarial Studies			科目区分	【共通教養科目】 キャリア形成科目（選択）	
担当教員	赤羽根 和恵		教員コード	152	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	組織における秘書の職務を理解する。秘書の職能、資質、専門的な実務、上司とのペアワークについて学ぶ。なお、本授業の内容は、現代企業での業務遂行にあたり、秘書だけでなく多くの職種に必要な能力である。					
授業の狙い・到達目標	到達目標①: 秘書実務に必要な知識・スキル・態度を学び、事例問題について適切な行動の選択ができる。 到達目標②: 上司や経営者の視点で考え、効果的にサポートするために必要なことを説明できる。					
授業内容のレベル・関連科目	日常生活を通じて、仕事について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。 「上級秘書士」認定のために、引き続き「秘書学演習」を受講することが望ましい。					
授業外学習（予習・復習）	事前学習: テキストを読み、問題を解いてくる。 事後学習: 授業で学んだことを復習して、問題を出来るまで解く。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『秘書検定実問題集2級2022年度版』実務技能検定協会					
参考書・その他教材	『秘書検定ケーススタディで学ぶ集中講義2級』実務技能検定協会 その他、講義内で適宜紹介をする。					
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。 最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	授業参加度(30%)、課題(30%)、期末実技試験(40%)として評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	全回テキストを使用する。資格取得に関わるため必ず購入すること。グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。遅刻・欠席をせずに参加をすること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to: akabane@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

秘書学概論

1 回	学習内容 予習 復習	「上級秘書士」資格及び「秘書検定」試験の概要 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	必要とされる資質（職業人としての自覚と心構え、要求される資質） テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	職務知識（秘書の機能と役割、業務と心得） テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、レポートにまとめ提出する。
4 回	学習内容 予習 復習	一般知識①企業と経営 テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	一般知識②社会常識 テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	マナー・接遇①人間関係と話し方・聞き方、敬語・接遇用語 テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	マナー・接遇②電話応対、交際 テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	マナー・接遇③交際・慶事・弔辞・贈答 テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、レポートにまとめ提出する。
9 回	学習内容 予習 復習	技能①会議 テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	技能②ビジネス文書の作成 テキストを読んでおく。 課題として出されたビジネス文書を作成して提出する。
11 回	学習内容 予習 復習	技能③ビジネス文書の取り扱い テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	技能④資料管理 テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	技能⑤日程管理 テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	技能⑥環境整備・オフィス管理 テキストを読んでおく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り テキストを読んでおく。 全15回の授業を振り返り、上級秘書士の業務についてまとめること。

科目名	秘書学演習（秘書学演習）			科目コード	14040		
英 文 名	Practice of Secretarial Studies			科目区分	【共通教養科目】 キャリア形成科目（選択）		
担当教員	赤羽根 和恵		教員コード	152		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本授業は、前期の「秘書学概論」を基に、秘書として求められる多様な職業能力の基盤となる総合的実務実践力（課題発見・解決力）を習得する。組織で活躍するためには、円滑なコミュニケーションも求められる。秘書の責務を果たす上でも必要不可欠であり、対人関係のスキル向上も行う。						
授業の狙い・到達目標	到達目標①：実技演習によって、上司とのペアワークを行うスキルを身に付けることができる。 到達目標②：社内外の人間関係について理解を深め、対応できるコミュニケーション能力を養うことができる。						
授業内容のレベル・関連科目	日常生活を通じて、仕事について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。 本科目の受講にあたり、先に「秘書学概論」を受講して基礎知識を習得しておくことが望ましい。						
授業外学習（予習・復習）	事前学習：テキストを読んでくる。 事後学習：授業で学んだことを復習して、問題を出来るまで解く。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『秘書検定実問題集2級2022年度版』実務技能検定協会						
参考書・その他教材	講義内で適宜紹介をする。						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。 最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	授業参加度（30％）、課題（30％）、期末実技試験（40％）として評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	全回テキストを使用する。資格取得に関わるため必ず購入すること。グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。遅刻・欠席をせずに参加をすること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける（mail to: akabane@aikoku-u.org） 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

秘書学演習

1 回	学習内容 予習 復習	「上級秘書士」資格及び「秘書検定」試験の概要 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	必要とされる資質ケーススタディ テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	職務知識ケーススタディ テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、レポートにまとめ提出する。
4 回	学習内容 予習 復習	一般知識①企業と経営ケーススタディ テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	一般知識②社会常識問題 テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	マナー・接遇①接遇ペアワーク テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	マナー・接遇②電話応対ペアワーク テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	マナー・接遇③交際・慶事・弔辞・贈答 テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	マナー・接遇④コミュニケーションスキル テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、レポートにまとめ提出する。
10 回	学習内容 予習 復習	技能①会議ケーススタディ テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	技能②社内文書作成と取扱い テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	技能③社外文書作成と取扱い テキストを読み問題を解いておく。 課題として出されたビジネス文書を作成して提出する。
13 回	学習内容 予習 復習	技能④資料管理・ファイリング テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	技能⑤各種管理ケーススタディ テキストを読み問題を解いておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り テキストを読み問題を解いておく。 全15回の授業を振り返り、秘書業務についての諸課題をとりまとめること。

科目名	健康とスポーツ（健康とスポーツ）				科目コード	15010	
英 文 名	Health and Sports				科目区分	【共通教養科目】 スポーツ健康科目（選択）	
担当教員	高橋 衍		教員コード	230		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義＋実技	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
		3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	2度の体力テストにより、日ごろの体力づくりが体力向上に寄与する経緯を知る。講義により、ヒトの身体の特徴を知り、身体活動の必要性・大切さを学ぶ。実技により、体力づくりの実施方法を知り、軽スポーツの楽しさを体験する。						
授業の狙い・到達目標	2度にわたる体力テストの実施により、その変容を体験する。エクササイズ、ストレッチ、軽スポーツの体験を日常生活にいかにかすかを学ぶ。講義及び実技を通して身体活動と健康が密接な関係にあることをことが実感できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	各種エクササイズ等においては普通の体力の持ち主であれば何ら問題はない。 ただ、ターゲットバードゴルフについては、かなり技術的に高度なので、しっかりと取り組まないと中途半端なままに終わってしまうことになる。 関連科目としては保健体育論がある。						
授業外学習（予習・復習）	講義内容については しっかりと予習・復習を重ねて 自分のものとする 必要があり、「目覚めエクササイズ」等については日常生活の中に 組み入れて日々実践してもらいたい。「わかる」というだけではだめ、 「できる」「実践している」ところまでもってゆく。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	高橋 衍『ながら運動』 発行・四街道市教育委員会						
参考書・その他教材	「目覚めエクササイズ」「椅座エクササイズ」等 教員作成資料						
課題に対するフィードバック	体力テスト結果の変容⇒個人の傾向や全員の一覧表を作成し、それらを比較・検討し、考察の上、自分自身の問題として生涯にわたって日常生活へどう活用できるかという段階まで進めたい。さらには講義内容と併せて、各種エクササイズ⇒自身の健康寿命の延伸に関連づけ、実践する習慣を身につける段階まで持っていけたらと考えている。						
成績評価方法	・講義聴講に臨む態度(20%) ・体力テスト結果変更の状況(10%) ・ターゲットバードゴルフ大会成績(10%)				・実技受講に臨む態度(20%) ・ターゲットバードゴルフ技術(10%) ・レポート(30%)		
成績評価基準	学習した到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づいて評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	きちんとしたスポーツウェア及びスポーツシューズ(体育館用・グラウンド用)を着用すること。高い気温の中での受講が多いので、タオルやグラウンドなどでは帽子を準備するなど暑さ対策を工夫して臨むこと。授業中にスマホや携帯電話等の使用はしないこと。誠実に、真剣な姿勢で授業に臨むこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	愛国学園大学附属四街道高等学校へ連絡						

授業スケジュール

健康とスポーツ

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業内容、評価方法等を説明し、受講者を決定) どのような授業なのかを知るためにしっかり聴講する気持ちで臨むこと 次回の授業内容を事前に調べておき、服装やシューズ等忘れないように準備を整えておく
2 回	学習内容 予習 復習	次回の授業内容を事前に調べておき、服装やシューズ等忘れないように準備を整えておく 今まで体験したスポーツ経験等を確認する 体力テストのためにストレッチ等しておくこと 筋肉疲労が予想されるため 授業後はよくマッサージ等しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	・講義(運動の必要性等) ・目覚めエクササイズ等の実施方法説明 初めての資料やエクササイズなので聞き漏らしのないように 運動の必要性等を理解し、目覚めエクササイズ等を日常生活に組み入れて実践してゆこう
4 回	学習内容 予習 復習	・講義(ヒトの身体特徴Ⅰ) ・目覚めエクササイズ等の実施 ・ターゲットバードゴルフ(基本) 目覚めエクササイズを日々実践しよう ターゲットバードゴルフの基本の整理 ヒトの身体特徴Ⅰを整理しておこう 目覚めエクササイズ等の実践を忘れずに
5 回	学習内容 予習 復習	・講義(ヒトの身体特徴Ⅱ) ・目覚めエクササイズ等の実施 ・ターゲットバードゴルフ(基礎) ターゲットバードゴルフの基本の考察 ヒトの身体特徴Ⅱを整理しておこう ターゲットバードゴルフ技術の確認
6 回	学習内容 予習 復習	・講義(ヒト独自の筋肉) ・目覚めエクササイズ等の実施 ・ターゲットバードゴルフ(試しのゲーム) ターゲットバードゴルフの基本の確認 目覚めエクササイズ等の実践 ヒト独自の筋肉のを整理しておこう ターゲットバードゴルフ技術の確認
7 回	学習内容 予習 復習	・講義(トレーニング法) ・レポート提出予告 ・ターゲットバードゴルフ(試しのゲーム) 目覚めエクササイズ等の実践 ターゲットバードゴルフの試しのゲームの問題点を探る トレーニング法を整理しておこう ターゲットバードゴルフの試しのゲームの攻略の考察
8 回	学習内容 予習 復習	・講義(健康とスポーツ) ・ターゲットバードゴルフ(正式ゲーム) 目覚めエクササイズ等の実践 ターゲットバードゴルフの正式ゲームの確認 健康とスポーツの関連を考察 正式ゲーム攻略法の考察
9 回	学習内容 予習 復習	アイソメトリックトレーニングの実施の仕方 ・ターゲットバードゴルフ(正式ゲーム) アイソメトリックトレーニングとは ターゲットバードゴルフの正式ゲームでの攻略の考察 アイソメトレを思い起こして実践へ移そう 正式ゲームでの攻略法工夫
10 回	学習内容 予習 復習	アイソメトリックトレーニングの実施 ・ターゲットバードゴルフ(正式ゲーム) ターゲットバードゴルフの正式ゲームでの攻略の考察 アイソメトレを思い起こして実践へ移そう 正式ゲームでの攻略を探る
11 回	学習内容 予習 復習	・目覚めエクササイズ等の実施 ・ターゲットバードゴルフ(正式ゲーム) ターゲットバードゴルフの正式ゲームでの攻略の考察 正式ゲームでの攻略を探る
12 回	学習内容 予習 復習	椅座エクササイズの実施 ・ターゲットバードゴルフ選手権大会(第一回) ・ターゲットバードゴルフ選手権大会をどう攻略するか考察しておく 椅座エクササイズの確認 ・ターゲットバードゴルフ選手権大会 今回を振り返って問題点掘り起し
13 回	学習内容 予習 復習	第一回選手権大会成績発表 ・ターゲットバードゴルフ選手権大会(第二回) ・レポート提出締切り ・ターゲットバードゴルフ選手権大会 今回をどう攻略するか ・ターゲットバードゴルフ選手権大会 第二回を顧みて
14 回	学習内容 予習 復習	第二回選手権大会成績発表・アンケート調査(第二回)・体力テスト(第二回) 各種エクササイズ ・ターゲットバードゴルフ選手権大会成績発表 前回は振り返って ・ターゲットバードゴルフ選手権大会 第二回を顧みて
15 回	学習内容 予習 復習	体力テスト結果の総括 ・女性の健康寿命延伸のために ・修了式 各種エクササイズを日常生活に取り入れて生活の一部にしておくよう 日常生活にて実践 この講座を受講して、学んだエクササイズ等が自身の健康寿命に生かされるよう活用

共通教養科目
(スポーツ健康科目)

科目名	保健体育論（体育実技）			科目コード	15020	
英 文 名	Health and Physical Education (Physical Education)			科目区分	【共通教養科目】 スポーツ健康科目（選択）	
担当教員	佐藤 誠／佐藤 清香		教員コード	244／253	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	講義＋実技
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	【バスケットボール】球技の楽しさや喜びを深く味わうとともに、バスケットボールのゲームに必要な技能を習得し、組織的に攻防を展開できるようにする。 【バドミントン】各種ストロークにおける使い方を学び、実践で打ち分けられるようにする。 【ダンス】基本的なステップを身につけ、全身を使ったり変化まとまりを付けて作品を完成させる。 【ソフトバレーボール】基本的な技術を身につけ、ルールを理解して試合ができるようにする。					
授業の狙い・到達目標	【バスケットボール】ルールの変遷からバスケットの成り立ちを学び、3×3(FIBAがオリンピック正式種目)を体験する。 【バドミントン】技能の段階に応じて、作戦を立てて勝敗を競い合う球技の楽しさや喜びを味わおうとする。 【ダンス】ストレッチやダンスの効果を理解し、感じを込めて踊ったり、仲間と自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わおうとする。それぞれ特有の表現や踊りを高めて交流や発表ができるようになる。 【ソフトバレーボール】仲間と協力し、ラリーをつなげて点を競う楽しさを味わおうとする。					
授業内容のレベル・関連科目	普通の体力の持ち主であれば何ら問題はない。 関連科目としては健康とスポーツがある。					
授業外学習（予習・復習）	予習として、実技に関する資料(ルール、競技方法等)を事前に確認しておくこと。 各種目ごとに復習を含むレポートを提出すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	FIBA, "2019 OFFICIAL 3×3 BASKETBALL RULES "					
課題に対するフィードバック	各単元ごとに知識と実技の確認テストを実施し、採点、評価をし、次時に解説を行う。					
成績評価方法	講義聴講状況・実技受講状況(40%)レポート(20%)知識・実技の確認テスト(40%)を総合的に評価する。					
成績評価基準	愛国学園大学学業成績判定に関する規程に基づいて評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	実技の時間は、スポーツウェア、スポーツシューズ(体育館用)等を必ず着用。 タオル持参(汗対策)バスケットボールは接触を伴うため、装飾品(時計・アクセサリ類)はすべて外すかテープで覆うこと。爪は切ること。眼鏡の固定バンド(怪我防止)授業時間中の情報端末機器の使用は厳禁。真剣な態度で受講すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	授業時に直接質問すること。					

授業スケジュール

保健体育論(体育実技)

1 回	学習内容 予習 復習	体育実技授業計画/履修上の注意事項説明 3×3(2021東京オリンピック正式種目採用までの経緯) / 国内大会の現状 / スポーツと経済 確認テスト(知識)
2 回	学習内容 予習 復習	球技(バスケットボール 3×3) バスケットボールの歴史・スキルチェック(ショット・ドリブル・パス) 競技方法・ルール資料配布 確認テスト(知識・実技)
3 回	学習内容 予習 復習	球技(バスケットボール 3×3) ファンダメンタル・アウトナンバーゲーム(数的優位 2on1・3on2) 競技方法・ルール資料配布 確認テスト(実技)
4 回	学習内容 予習 復習	球技(バスケットボール 3×3) ファンダメンタル・ピックアップゲーム(3on3) 競技方法・ルール資料配布 3×3についてのレポート
5 回	学習内容 予習 復習	球技(バドミントン) ストレッチ・リアクションステップ&フォア・バック 競技方法・ルール資料配布 確認テスト(知識)
6 回	学習内容 予習 復習	球技(バドミントン) フォア・バックストローク・サーブ(ショート・ロングハイ) 競技方法・ルール資料配布 確認テスト(実技)
7 回	学習内容 予習 復習	球技(バドミントン) サーブからリターン ハイクリア・スマッシュ・ドライブ 競技方法・ルール資料配布 確認テスト(知識・実技)
8 回	学習内容 予習 復習	球技(バドミントン) ダブルスゲーム(ラリーポイント 10点先取制)リーグ戦 競技方法・ルール資料配布 バドミントンについてのレポート
9 回	学習内容 予習 復習	「ストレッチの効果」「ダンスについて」(講義) ストレッチの効果についての資料配布 確認テスト(知識)
10 回	学習内容 予習 復習	ストレッチ・リズムダンス(基本のステップ) ストレッチの効果、実施内容確認 確認テスト(実技:ストレッチ)
11 回	学習内容 予習 復習	ストレッチ・リズムダンス(基本のステップ) 基本ステップ動画 確認テスト(実技:基本のステップ)
12 回	学習内容 予習 復習	球技(ソフトバレーボール) ボール慣れ・アンダーハンドパス・オーバーハンドパス 競技方法・ルール資料配布 確認テスト(実技:アンダーハンド・オーバーハンドパス)
13 回	学習内容 予習 復習	球技(ソフトバレーボール) チーム分け・エンジンパス・対面パス 競技方法・ルール資料配布 確認テスト(実技:チームパス)
14 回	学習内容 予習 復習	球技(ソフトバレーボール) ミニゲーム 競技方法・ルール資料配布 確認テスト(知識・実技)
15 回	学習内容 予習 復習	球技(ソフトバレーボール) ミニゲーム 競技方法・ルール資料配布 確認テスト(知識・実技)

共通教養科目
(スポーツ健康科目)

科目名	思考と表現				科目コード	05040	
英 文 名	Methodology of Logical Thinking and Representation				科目区分	【共通科目】(選択科目)	
担当教員	岡庭 義行			教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本講は、身近な日常生活に課題を探究して、それらの発見や気づき、文脈理解、論理的理解、合理的思考、適切な表現と伝達、そして自己への省察を学ぶことを目的とした講義です。						
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 自己を取り巻く生活環境の中に潜在するさまざまな課題を発見することができる。 [到達目標②] 自らの言葉も用いて、自己の考えや意見を適切に表現することができる。 [到達目標③] 非言語領域の表現技術を用いて、自身が感じたことを他者に伝えることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	本講は、専門学習の基礎となる思考と表現技法を養うための講義です。学修にあたり、物事や人々の多様性に柔軟且つ寛容な姿勢が期待されます。						
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 各回の講義テーマに自己の関心を結びつけながら、日常に潜在する多様な事例と日常の社会的経験を整理しておくこと。 [事後学習] 講義で学んだ事項を振り返り、体系化して理解の深化に努めること。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	各テーマに基づき講義中に資料を配布するとともに、参考文献の一覧を配布する。						
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。						
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②] (50%)， ・講義中の小課題・リアクション・ペーパー[到達目標③] (20%) ・講義への参加状況 (30%)						
成績評価基準	授業の狙いに基づいた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	自己を表現することを心がけるとともに、表現という技法とプロセスの多義性を意識しながら、その活用と自己の成長を結びつけていくことが期待されます。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	☐ 講義終了後(教室、または研究室等) ☐ オフィス・アワー(掲示参照) ☐ メール(okaniwa@aikoku-u.org)						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション -「思考と表現」とは何か- シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	発見と気づき① - 身近な情報を感得する - 日常生活に潜在するさまざまな情報を収集し、興味関心のある課題を記録しておく。 講義を振り返り、私たちの生活空間には多様な情報が存在していることを理解する。
3 回	学習内容 予習 復習	発見と気づき② - フィールドワーク - 人々の話を直接聞く力(傾聴力)について調べ、信頼関係の構築について考えておく。 ラポール(rapport)の意義について振り返り、フィールドワークの実務について理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	理解と整理① - 時事問題の整理 - 直近のニュースや新聞報道などを精読し、自分が関心を抱いた記事の概要と理由を整理しておく。 報道の特性と課題を振り返り、報道等から情報を収集する場合の功罪について理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	理解と整理② - 統計データの特性と誤謬(ごびゅう) - 関心のある公開された統計データやアンケート結果等について、事前にリソースを確認しておくこと。 講義を振り返り、整理や体系化によって異なる結果が導き出される可能性について理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	多様な表現方の世界① ～「前言語」領域～ 言葉を覚える以前の発達段階にある乳児がどのような思考と表現を試みているのか調べておこう。 人間に限らず、あらゆる生き物に看取される「行動」という表現の体系について理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	多様な表現の世界② ～ことばと文字～ ことばや文字を用いた表現領域(文学や書画など)について調べておくこと。 ことばと文字の特性を振り返り、日本語の世界観について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	多様な表現の世界③ ～非文字の体系～ 口頭伝承からことばを用いた日常の伝達まで、文字を使わないことばの世界を事前に調べておくこと。 文字を使わない表現やコミュニケーションの特性と意味について理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	多様な表現の世界④ ～空間表現・造形・視覚的コミュニケーション～ 絵画、造形、音楽、パフォーマンスなどの非言語領域にはどのようなものがあるか調べておくこと。 コミュニケーションのツールは言語領域だけではないことを振り返り、今後の学修に役立てる。
10 回	学習内容 予習 復習	思考と表現の実践① ～評論の技法～ 自分がおすすめる図書を1冊選んで、キャッチやポップを考えておくこと。 評論やレビューの技法の特性と役割について振り返り、実践的に活用できるよう理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	思考と表現の実践② ～ディスクリプションの理解と活用～ 非言語領域が言語化された事例を探索し、具体的な事例について調べておくこと。 非言語領域が言語化されるとき特性と課題について振り返り、実践的な理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	思考と表現の実践③ ～ディスクリプションの効果と役割～ 非言語領域が言語化された事例を探索し、具体的な事例について調べておくこと。 非言語領域が言語化されるとき特性と課題について振り返り、実践的な理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	思考と表現の実践④ ～PowerPointの理解と活用～ PowerPointの活用方法を事前に学習し、プレゼンテーションの題材を準備しておく。 講義の成果を振り返り、卒業論文発表会をはじめ今後の自身の発表技術に接続させる。
14 回	学習内容 予習 復習	思考と表現の実践⑤ ～PowerPointの効果と課題～ PowerPointの活用方法を事前に学習し、プレゼンテーションの題材を準備しておく。 講義の成果を振り返り、卒業論文発表会をはじめ今後の自身の発表技術に接続させる。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 「思考と表現」を活用した学びの世界 これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科 目 名	自己表現演習				科目コード	05050		
英 文 名	Self-expression Training				科目区分	【共通科目】(選択科目)		
担当教員	日坂 彰			教員コード	137		単 位 数	2単位
開講期間	前期		曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態		演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける				2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	自己表現には様々な形式があり、この授業では多様な表現形式の基本を学び、演習形式で実践する。限られた時間の中で、相手に自分の主張を的確に伝え、理解してもらうためにはどうしたらよいのかを学ぶ。複数回のプレゼンテーションを通じて、自分を的確に表現するための演習を実施する。また議論や討論では、思考を構築する訓練、チームワーク、他者の視点への気づきについて学ぶ。							
授業の狙い・到達目標	プレゼンテーション、議論および討論の基本的なルールと技術を理解できる。それにより、時事問題などに対して自分の意見を持ち、それを分かりやすく論理的に伝えることができるようになる。							
授業内容のレベル・関連科目	基本的なプレゼンテーションが実施できること。「プレゼンテーション演習」と深く関連があり、同科目の履修を推奨する。							
授業外学習(予習・復習)	日常的に新聞やニュースに関心を抱いて情報を収集し、自分の意見をもつこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	指定しない。							
参考書・その他教材	資料はテーマに応じて授業の中で配布する。							
課題に対するフィードバック	受講生が取り組んだ課題についてコメントを付したものをフィードバックする。							
成績評価方法	課題への取り組み(30%)、演習(各種プレゼンテーション、議論、討論)(70%)							
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。							
履修上の注意事項や学習上の助言	課題やプレゼンテーションを中心とする授業であるため、主体的に参加すること。							
科目に関連した教員の実務経験	特になし							
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org							

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	自己表現と自己主張 自己表現と自己主張についての概要を調べてくること。 自己表現と自己主張について学んだことを整理しておくこと。
3 回	学習内容 予習 復習	自己紹介と他己紹介 自己紹介の準備を行う。また、他者についての紹介の仕方をイメージしておくこと。 今後自己紹介する場合に備えて今回の自己紹介を検証、改訂する。
4 回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション技術①プレゼンテーションの基本 プレゼンテーションの概要を調べてくること。 今回までの内容を報告用にまとめ、パワーポイントファイルとして作成すること。
5 回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション技術②プレゼンテーション実施 前回までの内容を報告用にまとめ、パワーポイントファイルとして作成すること。 プレゼンテーション実施時の課題を洗い出しておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	時事問題評論①新聞記事読解 事前に配布する新聞記事を読んでくること。 自身の関心に従って、新聞記事を選んでおくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	時事問題評論②論評 新聞記事を選び、それに関する情報を調べてくること。 次のプレゼンテーションに備え、意見をまとめておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	時事問題評論③プレゼンテーション レポートとしてまとめ、プレゼンテーションの準備をする。 質疑応答で出された質問や意見についてまとめる。
9 回	学習内容 予習 復習	議論①議論とテーマ設定 議論についての概要を調べてくること。 設定されたテーマについての資料を収集し、理解しておくこと。
10 回	学習内容 予習 復習	議論②グループディスカッション 複数の意見を想定し、ディスカッションの準備をする。 今回のグループディスカッションの内容をグループワークでまとめておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	議論③グループ発表 前回内容をグループでプレゼンテーションする準備をしておくこと。 今回のグループ発表を検証し、改善点を考えること。
12 回	学習内容 予習 復習	討論①討論とテーマ設定 討論についての概要を調べてくること。 設定されたテーマについての資料を収集し、理解しておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	討論②肯定側と否定側に分かれて実施 「立論」を準備しておくこと。また、相手の「立論」を想定し「反対尋問」も準備しておくこと。 「立論」「反対尋問」「反駁」「最終弁論」を検証し、立場を逆転した次回に備えること。
14 回	学習内容 予習 復習	討論③前回と立場を逆転して実施(肯定側は否定側に、否定側は肯定側に) 「立論」を準備しておくこと。また、相手の「立論」を想定し「反対尋問」も準備しておくこと。 「立論」「反対尋問」「反駁」「最終弁論」を検証し、改善点を考えること。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ これまでのテーマを振り返り、要点をまとめておくこと。 全体を通して、得られたことや課題についてまとめ、レポートを提出すること。

科 目 名	日本文化論（日本文化論）			科目コード	21010	
英 文 名	Japanese Culture			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	伏見 親子		教員コード	121	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	四季のある国で暮らす日本人の生活という視点から、日本文化の基盤にある歳時記を取り上げる。暦法から暦(カレンダー)による暮らしの変化を学び、今に至る日本人の精神性(宗教観、道徳観など)を、季節ごとの行事から俯瞰する。					
授業の狙い・到達目標	日本の四季に応じた行事に込められた日本人の伝統的な精神性を理解し、日本文化と生活を結び付けて考えられるようになることを目的とする。日本の民俗文化から、宗教・美術・工芸・文学などあらゆるものが見えてくることと思う。日本がビジネスとテクノロジーだけの国ではなく、深くアジアと結びついていることも理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	民俗学に類する内容である。日本の全体像を把握するための科目として、日本に関する他の科目、日本事情、日本文化入門、さらには比較文化論と共に履修すると効果的である。					
授業外学習(予習・復習)	日本の行事などについての新聞記事や気象予報に関心を向け、ニュースなども見ておくこと プリントを配付するので、授業前に読んでおくこと				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	プリント教材を配付する					
参考書・その他教材	授業で指導する。日本古来の漢字の読みが難しいので、辞書を持ってくる					
課題に対するフィードバック	レポート試験提出後、コメントをつけて返却する。					
成績評価方法	レポート試験70%、授業への積極的な関与を貢献度として30%、で評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	レポート試験は、必ず遅れず提出すること。遅れて提出した場合は、減点対象となる。授業途中での退席は早退とみなす。やむを得ない場合は、教員の許可を得て学籍番号を告げること					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問は、原則的にfushimi@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること					

1 回	学習内容 予習 復習	日本の旧暦とは何か: 太陰太陽暦について シラバスの授業概要と授業の目標をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
2 回	学習内容 予習 復習	旧暦と新暦 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
3 回	学習内容 予習 復習	二十四節気・七十二候 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
4 回	学習内容 予習 復習	雑節・五節句 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
5 回	学習内容 予習 復習	歳時記: 睦月、如月 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
6 回	学習内容 予習 復習	歳時記: 弥生、卯月 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
7 回	学習内容 予習 復習	歳時記: 皀月、水無月 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
8 回	学習内容 予習 復習	歳時記: 文月、葉月 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
9 回	学習内容 予習 復習	歳時記: 長月、神無月 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
10 回	学習内容 予習 復習	歳時記: 霜月、師走 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
11 回	学習内容 予習 復習	六曜 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
12 回	学習内容 予習 復習	十干十二支: 歳 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
13 回	学習内容 予習 復習	十干十二支: 時刻と方位 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
14 回	学習内容 予習 復習	十干十二支: 陰陽五行説 事前に配付した資料をよく読んでおくこと 板書部分を配付資料と照らして理解しておくこと(漢字の読みに注意)
15 回	学習内容 予習 復習	授業進度の調整 これまでに配付した資料をよく読んでおくこと レポートの課題を仕上げる

科目名	日本語学概論Ⅰ（日本語学概論Ⅰ）			科目コード	21020	
英 文 名	Outline of Japanese Linguistics Ⅰ			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日常的な言語現象を観察し、なぜそのような使い方や言い方になるのか、そこにどのような規則があるのかについて学生自身が考え、日本語の言語学的特徴について学んでいく。Ⅰでは主に助詞や文の組み立て、時制、モダリティといった、日本語学の基礎的な文法を扱う。					
授業の狙い・到達目標	日本語を「外国語」として客観的に捉えられるようになる。日常で何気なく使っている日本語からその言語的特徴を見出し理解することで、日本語について外国人にも分かりやすく説明できるような知識を身に付けることができる。また、普段から見聞きする言葉に意識を向け、疑問を持ったり答えを導き出したる思考力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	留学生は基礎的な日本語文法の知識が必要 関連科目：日本語学概論Ⅱ					
授業外学習（予習・復習）	予習)教員が指示する次回テーマに関する課題をする。 復習)授業の復習となるまとめ課題を次週までに作成する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が準備したプリントを使用。					
参考書・その他教材	『日本語要説改訂版』ひつじ書房 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法改訂版』くろしお出版 庵功雄『新しい日本語入門第2版』スリーエーネットワーク					
課題に対するフィードバック	宿題の復習課題を全員で確認し、簡単な復習テストを行う。					
成績評価方法	期末テスト70%、課題提出と復習テスト30%					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から身の回りで使われている日本語を観察し問題意識を持つこと。留学生は講義内容をより確実に理解するため、基本的な日本語文法はしっかり身に付けておくこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 「日本語学」とは？「は」と「が」① シラバスの内容を確認しておく 教員が提示した復習課題を行う
2 回	学習内容 予習 復習	「は」と「が」② 格助詞 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
3 回	学習内容 予習 復習	自動詞・他動詞 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
4 回	学習内容 予習 復習	ヴォイス①受動態 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
5 回	学習内容 予習 復習	ヴォイス②可能態 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
6 回	学習内容 予習 復習	ヴォイス③使役態 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
7 回	学習内容 予習 復習	時制①テンス 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
8 回	学習内容 予習 復習	時制②アスペクト 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
9 回	学習内容 予習 復習	モダリティ① 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
10 回	学習内容 予習 復習	モダリティ② 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
11 回	学習内容 予習 復習	とりたて 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	指示詞 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
13 回	学習内容 予習 復習	授受① 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	授受② 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	これまでのまとめ これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う

科目名	日本語学概論Ⅱ（日本語学概論Ⅱ）			科目コード	21030	
英 文 名	Outline of Japanese Linguistics Ⅱ			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日常的な言語現象を観察し、なぜそのような使い方や言い方になるのか、そこにどのような規則があるのかについて学生自身が考え、日本語の言語学的特徴について学んでいく。Ⅱでは主に文章や談話に見られる文法や、社会と言語について扱う。					
授業の狙い・到達目標	日本語を「外国語」として客観的に捉えられるようになる。日常で何気なく使っている日本語からその言語的特徴を見出し理解することで、日本語について外国人にも分かりやすく説明できるような知識を身に付けることができる。また、普段から見聞きする言葉に意識を向け、疑問を持ったり答えを導き出したりする思考力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	留学生は日本語文法の知識が必要 関連科目：日本語学概論Ⅰ					
授業外学習（予習・復習）	予習)教員が指示する次回テーマに関する課題をする。 復習)授業の復習となるまとめ課題を次週までに作成する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が準備したプリントを使用。					
参考書・その他教材	『日本語要説改訂版』ひつじ書房 益岡隆志・田窪行則『基礎日本語文法改訂版』くろしお出版 庵功雄『新しい日本語入門第2版』スリーエーネットワーク					
課題に対するフィードバック	宿題の復習課題を全員で確認し、簡単な復習テストを行う。					
成績評価方法	期末テスト70%、課題提出等30%					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から身の回りで使われている日本語を観察し問題意識を持つこと。留学生は講義内容をより確実に理解するため、基本的な日本語文法はしっかり身に付けておくこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 日本語の語彙 シラバスをよく読んでおく 教員が提示した復習課題を行う
2 回	学習内容 予習 復習	文章表現①文体 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
3 回	学習内容 予習 復習	文章表現②複文(1) 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
4 回	学習内容 予習 復習	文章表現③複文(2)条件節 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
5 回	学習内容 予習 復習	文章表現④名詞修飾 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
6 回	学習内容 予習 復習	話し言葉の特徴 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
7 回	学習内容 予習 復習	ポライトネス① 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
8 回	学習内容 予習 復習	ポライトネス②敬語(1) 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
9 回	学習内容 予習 復習	ポライトネス③敬語(2) 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
10 回	学習内容 予習 復習	社会と言語①言葉のゆれ(1) 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
11 回	学習内容 予習 復習	社会と言語②言葉のゆれ(2) 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	社会と言語③位相 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行
13 回	学習内容 予習 復習	社会と言語④若者言葉 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	他言語と日本語の対照 前の週に教員が出した課題をしておく 教員が提示した復習課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	これまでのまとめ これまでの内容で不明な点があればまとめておく 教員が提示した復習課題を行う

科目名	日本史学概論（史学概論）			科目コード	21040	
英 文 名	Outline of Japanese History (Outline of History)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本講義は、日本の近現代史である。幕末の開国の時期から現代まで日本の歴史を、政治及び外交分野を中心に概説する。「概論」講義であり、教養レベルとして必須の事項を概説する。					
授業の狙い・到達目標	講義は前半が戦前、後半が戦後である。前半では、明治憲法体制と5度の対外戦争を中心に学習していく。後半の戦後でも、対外関係を中心に学習し、前半の学習と対応させる。その結果、日本と国際社会の位置づけを歴史的に理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	概論講義であり、それほど専門的なものは求めない。関連科目としては、同じ近現代史である日本社会史(歴史と現代Ⅰ)が最も関連が深い。ついで、歴史と現代(歴史と現代Ⅱ)が関連が深い。併せて履修することで、理解が深まるものと考ええる。					
授業外学習(予習・復習)	高校までの教科書でいうと、「日本史A」と同じ範囲である。その復習が講義をスムーズに理解するうえで有用である。また、講義レジュメの参照資料URLをたどってみると、発展的な復習になる。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト含む)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ？」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

授業スケジュール

日本史学概論(史学概論)

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	江戸時代について概説し、幕末に至る歴史を理解する。 戦国時代から江戸時代に至る流れについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	開国から明治維新に至るまでの政治過程を概説する。 明治維新と幕末の騒乱について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	明治国家の形成と発展を、「明治憲法体制」として概説する。 自由民権運動や大日本帝国憲法について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	近代日本最初の対外戦争である日清戦争、またその後の日露戦争の意義を概説する。 日清、日露戦争や19世紀末の日本につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	第1次世界大戦の経緯・意義を、日本及びアジアを中心に概説する。 第1次世界大戦の展開につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	大正期の日本社会を、シベリア出兵そして関東大震災を中心に概説する。 関東大震災の政治・社会・経済的な意義(影響)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	第2次世界大戦の経緯・意義を、日本及びアジアを中心に概説する。 第2次世界大戦の展開につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第8回までの講義をおさらいする。 第2回～第8回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	占領下で成立した戦後体制を概説する。概ね、昭和20年代が講義内容となる。 占領下の日本のできごとにつき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	高度成長と55年体制の成立を概説する。概ね、昭和30年代が講義内容となる。 55年体制を構成した自民党、社会党について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	ソ連、韓国、中国との国交回復過程をたどり、日本の「戦後処理」について概説する。 日本の戦後外交について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	世界的には冷戦崩壊、国内的には55年体制の崩壊だった1990年代を概説する。 1990年代の世界的な動向について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	グローバル化と日本社会の変容をテーマに、平成以降の時代を概説する。 平成以降の日本社会の変容について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で、第10回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	日本社会史（歴史と現代Ⅰ）			科目コード	21050	
英 文 名	Social History of Japan (History and Contemporary Society Ⅰ)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	政治史・外交史の分野で日本の近現代を学ぶ日本史学概論(史学概論)に対して、本講義では社会経済史として、日本の近現代史を学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	前半では、プレモダンとしての江戸時代から講義を始め、明治時代を中心に日本の近代化を概説する。後半の戦後社会では、現代社会の様々な問題の起源を探る形で、テーマ別に戦後史を概説する。そのような学修を通じて、歴史的に形成されてきた現代を理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	日本理解・専門科目であり、若干、発展的な内容を含む。日本史学概論(史学概論)や日本文化入門の講義は、基礎学習の意味をもつ。また、歴史と現代(歴史と現代Ⅱ)をあわせて受講することで、理解が深まるものと考え。					
授業外学習(予習・復習)	日本文化入門(後半部分)、日本史学概論、歴史と現代が、本講義の関連科目である。これらの講義を併せて履修する学生が、その講義レジュメを参照することが、有益な予復習となる。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト含む)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ？」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

授業スケジュール

日本社会史(歴史と現代Ⅰ)

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	江戸時代①、近代的発展の基礎が築かれた時代として、江戸時代を捉え直す。 Pre-Modernとしての江戸時代とはどういうことか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	江戸時代②、開国に至る流れを概説し、明治期の国際化を学ぶ基礎を概説する。 開国から幕末の騒乱の時期について、社会・経済の視点から、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	明治時代①、開国と国際化・近代化を概説し、明治維新の社会経済的意義を理解する。 開国後の混乱、社会の変容について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	明治時代②、殖産興業をキーワードに、明治前期の社会経済史を概説する。 富岡製糸場など、殖産興業の時代を代表する工場等について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	明治時代③、明治時代を中心に、戦前の産業・交通の発展を概説する。 第4～5回のレジュメを見返すとともに、参考資料から発展的復習をしておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	大正時代、都市化と交通の発展、関東大震災とその影響、植民地統治などを概説する。 大正時代の都市生活と社会・文化について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	戦後史①、戦後復興史の概説。第10回以降の講義の基礎となる概説を行う。 戦後史の基本的な流れを、自分なりに学習してみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	戦後史②、過疎化・過密化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 戦後日本の人口移動について、東京圏を中心に学習してみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	戦後史③、都市化と公害をテーマに、戦後社会の課題を解説する。 四大公害病について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	戦後史④、戦後日本の災害(水害、震災)をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 戦後の主要な災害について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	戦後史⑤、少子高齢化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 少子高齢化の何が問題か、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	戦後史⑥、国際化・グローバル化をテーマに、戦後社会の課題を概説する。 日本社会が、現在どれほどグローバル化しているか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で、第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

専攻科目
(日本理解専攻)

科 目 名	歴史と現代（歴史と現代Ⅱ）				科目コード	21060	
英 文 名	History and Contemporary Society (History and Contemporary Society Ⅱ)				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針と の対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日本社会史(歴史と現代Ⅰ)が、江戸時代からの社会経済史を通史的に概説したのに対して、本講義では地域史として、現代社会につながる「歴史」を概説する。						
授業の狙い・ 到達目標	地域には様々な歴史の刻印がある。そうした歴史の刻印を掘り起こし、現代社会に生きる私たちが歴史を学ぶ意義を実感できる講義を目指す。そのような学修を通じ、日本社会の多様性、社会の重層的な発展に気が付けるようになる。						
授業内容の レベル・関連科目	日本理解専攻の専門科目であり、少し発展的な内容を含む。日本史学概論(史学概論)や日本文化入門の講義は、基礎学習の意味をもつ。また、日本社会史(歴史と現代Ⅰ)をあわせて受講することで、理解が深まるものと考える。						
授業外学習 (予習・復習)	日本文化入門(後半部分)、史学概論、歴史と現代が、本講義の関連科目である。これらの講義を併せて履修する学生が、その講義レジュメを参照することが、有益な予復習となる。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・ その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対する フィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト含む)						
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ？」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

授業スケジュール

歴史と現代(歴史と現代Ⅱ)

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス, 講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返しするとともに, 左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	【千葉県の歴史と現代①】 北総地域の発展史を成田を中心に概説する。 「加曽利貝塚博物館・特別史跡加曽利貝塚」(Youtube)は, おすすめ。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	【千葉県の歴史と現代②】 北総地域の発展史を四街道・佐倉を中心に概説する。 大学正門前の碑に書かれている文字を読んでみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	【江戸／東京の歴史と現代】 家康入府以来の江戸(東京)の歴史を概説する。 東京の発展は災害と不即不離の関係にある。明暦の大火や関東大震災について, 調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	【京都の歴史と現代】 世界遺産「古都・京都の文化財」を中心に, その歴史を概説する。 世界遺産を構成する, 古都・京都の文化財について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	【大阪の歴史と現代】 古代の難波津の時代から, 商都・大阪の発展史を概説する。 大阪城築城以降の大阪の歴史について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	【神戸の歴史と現代】 大輪田泊から近代神戸, そして阪神大震災までを概説する。 阪神大震災が現代社会に与えた影響について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で, 第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	【横浜の歴史と現代】 幕末の開港から, 国際都市・横浜の150年を概説する。 横浜も関東大震災の影響は大きかった。関東大震災について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	【長崎の歴史と現代】 「鎖国」下で, 4つの口の1つだった長崎の歴史を概説する。 長崎の近代では, 原爆投下の影響も取り上げる。これにつき, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	【広島県の歴史と現代】 近代広島県の発展を, 「軍都・広島」の視点を中心に, 概説する。 近代以前の広島では, 厳島神社を取り上げる。自分なりに, 調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	【北海道の歴史と現代】 「蝦夷地」と呼ばれた時代から, 現在までの歴史を概説する。 アイヌ民族と日本人の交流などについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	【沖縄の歴史と現代】 琉球王国の時代から, 沖縄戦・米軍占領までの歴史を概説する。 琉球王国の時代や沖縄戦について, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	【福島県の歴史と現代】 戊辰戦争, 安積疎水, 福島第一原発などについて, 概説する。 常磐炭鉱や福島第一原発事故などについて, 自分なりに調べてみる。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で, 第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限, 配布したレジュメ, 小テストを見直すこと。

科 目 名	現代日本事情Ⅰ（日本事情Ⅰ）				科目コード	21070	
英 文 名	Contemporary JapanⅠ (Japan & Its SocietyⅠ)				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	部田 和美			教員コード	153	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	前半は「時事問題」「生活」「文化」といったテーマの話題を毎回1つ定め、関連記事や資料等を読み、内容を把握し自身の意見をまとめて形にする。後半は、学生自らが前半で扱ったテーマから特に興味のあるものを1つ選び、より深く掘り下げる。グループ単位での発表とそれをもとにした個人発表を行う。						
授業の狙い・到達目標	時事問題や生活文化に関する知識と理解を深め、自ら問題提起をして解決策を考える力をつける。また、自身の意見を簡潔にまとめ相手に伝える能力を身につけることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	関連科目：現代日本事情Ⅱ						
授業外学習（予習・復習）	予習)次週の資料を前もって読み、理解しておく。 復習)扱ったテーマについて自身で調べまとめる(宿題)。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員、担当学生が用意した資料を使用						
参考書・その他教材	都度講義内で指定する。						
課題に対するフィードバック	毎回の作文課題の修正点を確認し、重要な点は授業で共有する。						
成績評価方法	毎週の宿題20%、グループ発表20%、スピーチ発表30%、最終レポート30%						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から様々な時事ニュースや身近な出来事に関心を持ち、それらについて考える習慣をつけてほしい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org						

授業スケジュール

現代日本事情Ⅰ（日本事情Ⅰ）

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 時事問題(1) 青少年に関する問題① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
2 回	学習内容 予習 復習	時事問題(2) 青少年に関する問題② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
3 回	学習内容 予習 復習	時事問題(3) 社会生活に関する問題① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
4 回	学習内容 予習 復習	時事問題(4) 社会生活に関する問題② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
5 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(1) 伝統文化の今昔① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
6 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(2) 伝統文化の今昔② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
7 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(3) 日本のサブカルチャー① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
8 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(4) 日本のサブカルチャー② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
9 回	学習内容 予習 復習	グループ発表(1) 発表テーマを決めるための〈全体・グループ〉ディスカッション グループ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
10 回	学習内容 予習 復習	学生のグループ発表(2) 発表のための〈全体・グループ〉ディスカッション グループ発表・スピーチ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
11 回	学習内容 予習 復習	学生のグループ発表(3) グループ発表と質疑応答 スピーチ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	学生のグループ発表(4) 発表を終えての反省とまとめ スピーチ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
13 回	学習内容 予習 復習	学生のスピーチ発表(1) スピーチ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	学生のスピーチ発表(2) スピーチ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	スピーチ発表を終えての反省とまとめと授業全体のまとめ 授業で扱ったプリント等を再読し、自身で振り返りを行う 特になし

専攻科目
（日本理解専攻）

科 目 名	現代日本事情Ⅱ（日本事情Ⅱ）				科目コード	21080	
英 文 名	Contemporary Japan Ⅱ (Japan & Its Society Ⅱ)				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	前半は「時事問題」「生活」「文化」といったテーマの話題を毎回1つ定め、関連記事や資料等を読み、内容を把握し自身の意見をまとめて形にする。後半は、学生自らが前半で扱ったテーマから特に興味のあるものを1つ選び、より深く掘り下げる。グループ単位での発表とそれをもとにした個人発表を行う。						
授業の狙い・到達目標	時事問題や生活文化に関する知識と理解を深め、自ら問題提起をして解決策を考える力をつける。また、自身の意見を簡潔にまとめ相手に伝える能力を身につけることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	関連科目：現代日本事情Ⅰ						
授業外学習（予習・復習）	予習)次週の資料を前もって読み、理解しておく。 復習)扱ったテーマについて自身で調べまとめる(宿題)。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員、担当学生が用意した資料を使用						
参考書・その他教材	都度講義内で指定する。						
課題に対するフィードバック	毎回の作文課題の修正点を確認し、重要な点は授業で共有する。						
成績評価方法	毎週の宿題20%、グループ発表20%、スピーチ発表30%、最終レポート30%						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から様々な時事ニュースや身近な出来事に関心を持ち、それらについて考える習慣をつけてほしい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org						

授業スケジュール

現代日本事情Ⅱ(日本事情Ⅱ)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 時事問題(1) 社会生活の問題① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する 教員の提示した課題を行う
2 回	学習内容 予習 復習	時事問題(2) 社会生活の問題② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
3 回	学習内容 予習 復習	時事問題(3) 国際社会と日本① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
4 回	学習内容 予習 復習	時事問題(4) 国際社会と日本② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
5 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(1) 日本の行事と習慣① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
6 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(2) 日本の行事と習慣② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
7 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(3) 日本人の精神性① 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
8 回	学習内容 予習 復習	日本の文化(4) 日本人の精神性② 次回テーマの配布資料を読み、課題を作成する テーマに対する自身の考えをまとめる(作文課題)
9 回	学習内容 予習 復習	グループ発表(1) 発表テーマを決めるための〈全体・グループ〉ディスカッション グループ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
10 回	学習内容 予習 復習	学生のグループ発表(2) 発表のための〈全体・グループ〉ディスカッション グループ発表・スピーチ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
11 回	学習内容 予習 復習	学生のグループ発表(3) グループ発表と質疑応答 スピーチ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	学生のグループ発表(4) 発表を終えての反省とまとめ スピーチ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
13 回	学習内容 予習 復習	学生のスピーチ発表(1) スピーチ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	学生のスピーチ発表(2) スピーチ発表に向けての準備 教員の提示した課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	スピーチ発表を終えての反省とまとめと授業全体のまとめ 授業で扱ったプリント等を再読し、自身で振り返りを行う 特になし

専攻科目
(日本理解専攻)

科 目 名	西洋文化論（西洋文化論）				科目コード	21090	
英 文 名	Western Culture				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻（選択）	
担当教員	伏見 親子			教員コード	121	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	古代ギリシャから現代まで、西洋のそれぞれの時代の政治、宗教、風俗、価値観を美術を通して概観する。事前にテキストの指定部分を読むことを課し、その予習に基づいて、解説を加える方式をとる。						
授業の狙い・到達目標	西洋美術は時代のあらゆる文化(政治・思想を含む)を映しており、為政者は治世に、民衆は時世に対する自己の主張に、美術を利用してきた。それを「読み解く」ことで、時代ごとの西洋文化を視覚的に理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	西洋美術史の入門レベルであるが、グローバルに活躍する世代には基本的な教養として必須である。						
授業外学習(予習・復習)	事前にテキストの指定した部分を読んでから、授業に参加すること。担当部分を割り当て、その発表を授業への貢献度として、評価する。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	木村泰司 著、世界のビジネスエリートが身につける教養 西洋美術史 ダイアモンド社						
参考書・その他教材	西洋美術に関する書籍全般 及び 西洋史概説など						
課題に対するフィードバック	授業内容のまとめをレポートとして課し、コメントをつけて返却する。						
成績評価方法	レポート試験70%、授業への積極的な関与を貢献度として30%、で評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	レポート試験は、必ず遅れず提出すること。遅れて提出した場合は、減点対象となる。授業途中での退席は早退とみなす。やむを得ない場合は、教員の許可を得て学籍番号を告げること						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問は、原則的にfushimi@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

西洋文化論

1 回	学習内容 予習 復習	神中心の世界観 ギリシャ美術 シラバスの授業概要と授業の目標をよく読んでおくこと 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	神中心の世界観 ローマ美術 pp.16-39を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	神中心の世界観 宗教(キリスト教)美術、ロマネスク pp.40-49を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	神中心の世界観 ゴシック美術 pp.50-59を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパ都市経済 ルネサンス pp.62-73を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパ都市経済 北方ルネサンス pp.74-89を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパ都市経済 ヴェネツィア派 pp.90-101を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパ都市経済 バロック pp.102-117を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパ都市経済 オランダ絵画 pp.118-131を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	美術大国フランス フランス古典主義 pp.134-147を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	美術大国フランス ロココ pp.148-157を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	美術大国フランス 新古典主義、ロマン主義 pp.158-173を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	近代社会(産業革命 以降) レアリズム pp.176-189を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	近代社会(産業革命 以降) イギリス美術 pp.190-205を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	近代社会から現代へ パルビゾン派、印象派 現代アート pp.206-237を読んでおくこと（担当者を指名する） 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと

専攻科目
(日本理解専攻)

科 目 名	日本と西洋文化（西洋の言語文化）			科目コード	21100	
英 文 名	Japan and Western Culture (Western Language Culture)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	伏見 親子		教員コード	121	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本の歴史・伝統、現代の暮らしまでを、英語で表現する方法を学ぶ授業である。日本独特の文化を西洋の文化と言語に置き換える作業を通じて、双方の理解を深めていく。					
授業の狙い・到達目標	日本語と英語で読み比べることで、日本と西洋の視点の違いを知って国際相互理解への足掛かりとし、その知識をもとに初歩的な英語を使って、コミュニケーションを図れるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	英語初級レベル(TOEIC®350程度)である。日本語と英語併記のため、比較的理解しやすい。					
授業外学習(予習・復習)	事前にテキストの指定した部分を読んでから、授業に参加すること。担当部分を割り当て、その発表を授業への貢献度として、評価する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	松本美江 著、改訂版 英語で日本紹介ハンドブック アルク					
参考書・その他教材	学生向けの英字新聞Japan Times alpha などを読むことを薦める。					
課題に対するフィードバック	レポート提出後、添削、コメントをつけて返却する。					
成績評価方法	レポート試験70%、授業への積極的な関与を貢献度として30%、で評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	レポート試験は、必ず遅れず提出すること。遅れて提出した場合は、減点対象となる。授業途中での退席は早退とみなす。やむを得ない場合は、教員の許可を得て学籍番号を告げること					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問は、原則的にfushimi@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

日本と西洋文化(西洋の言語文化)

1 回	学習内容 予習 復習	日本人の暮らし 家族について → 外国人の疑問 シラバスの授業概要と授業の目標をよく読んでおくこと pp.12-15 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	日本の住居について → 外国人の疑問 pp.16-19を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	日本の教育について → 外国人の疑問 pp.20-25を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	日本の食文化について → 外国人の疑問 pp.26-35を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	日本の家計について → 外国人の疑問 pp.38-39を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	日本の社会保障について → 外国人の疑問 pp.40-43を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	日本人の仕事観について → 外国人の疑問 pp.44-51を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	日本の結婚事情について → 外国人の疑問 pp.54-59を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	日本の葬祭について → 外国人の疑問 pp.60-63を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	日本の宗教について → 外国人の疑問 pp.64-73を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	日本の女性の立場について → 外国人の疑問 pp.74-77を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	日本人の健康について → 外国人の疑問 pp.80-85を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	日本語の起源や文字について → 外国人の疑問 pp.92-95を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	日本の風物について → 外国人の疑問 pp.164-169を読んでおくこと (担当者を指名する) 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	授業進度の調整 巻末の歴史年表を読んでおくこと 板書部分をテキストの該当部分と照らして理解しておくこと

専攻科目
(日本理解専攻)

科 目 名	東洋文化論（東洋文化論Ⅰ）				科目コード	21110	
英 文 名	Oriental Culture (Oriental Culture Ⅰ)				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	東洋が西洋からどのようにイメージされ、記述されてきたか、文化の表象という問題を考える。そのうえで、東洋的な精神や文化的様相について議論する。						
授業の狙い・到達目標	「オリент(東洋)」というイメージがどのように作られてきたかについて、文献や資料を通して、植民地時代の状況をふまえて理解を深められるようになる。また、履修生の出身国・出身地域の文化がどのように表現されているかについて、客観的に考えることができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	新聞の国際欄、文化欄などが読めると望ましい。また、英語の資料もとりあげるので、英語の読解力も必要とする。(関連科目)文化人類学						
授業外学習(予習・復習)	各回の授業の冒頭に小テストを行うので、授業で配布された資料や教員の講義を振り返り、理解を深めておくこと。また、簡単な課題を出す場合もあるので、教員の指示に従って提出すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて随時参考文献を指示する。						
課題に対するフィードバック	前週の授業の復習を兼ねて小テストを添削しコメントをする。						
成績評価方法	小テスト(30%)、期末試験(70%)で評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	普段から自文化や異文化に関心を抱き、東洋と西洋という分け方について自分なりの意見をもっておくこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

東洋文化論Ⅰ（東洋文化論）

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	西洋と東洋という分け方について批判的に考える。 西洋、東洋のイメージについて考えてくること。 授業前のイメージと講義の内容を比較し、感想をまとめて提出する。
3 回	学習内容 予習 復習	芸術作品を通して西洋からみた東洋について考える。 事前に配布した資料に目を通し、芸術作品の印象をまとめてくること。 授業前のイメージと講義の内容を比較し、感想をまとめて提出する。
4 回	学習内容 予習 復習	『文明の生態史観』（梅棹忠夫著）を読む①西洋と東洋という分け方の問題点について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	『文明の生態史観』（梅棹忠夫著）を読む②アジアの中の日本という捉え方について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 第2回から第5回までの資料を読み返しておくこと。 授業で指示された課題の内容にとりくみ提出すること。
7 回	学習内容 予習 復習	文化を書くことの問題点について人類学の視点から考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	表象とは何かについて概説する。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	アジアにおける植民地統治について概観する。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	探検記を読み、植民地時代のインドシナについて学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	東南アジアの植民地統治に関する論文を読む。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	植民地博覧会を例に、表象の問題点を考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	近代国家の形成過程で国民がどのように創られてきたかについて学ぶ。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	観光における民族や文化の表象について考える。 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科 目 名	日本とアジア			科目コード	21120	
英 文 名	Japan and Asia			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本の歴史と対外関係史として学ぶ。日本と国際社会が、対アジア、対欧米を含み、地誌学的視点も含めて幅広い学修になるのに対し、本講義では対アジアと特化、歴史を基本とした。					
授業の狙い・到達目標	現代社会に生きる我々の立ち位置を的確に把握するうえで、歴史の学修は重要である。本講義では、日本にとって重要な対外関係であるアジア(対中、対韓)、欧米(対米、対欧)などを幅広く学び、日本の対外関係の歴史の基礎が理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	日本の歴史は、いかにアジアをはじめとする外交関係に大きな影響を受けてきたか。それを実感できる講義を展開したい。おそらく、政治史である日本史学概論が一番関連が深い。					
授業外学習(予習・復習)	高校までの教科書でいうと、「日本史B」と同じ範囲である。その復習が講義をスムーズに理解するうえで有用である。また、講義レジュメの参照資料URLをたどってみると、発展的な復習になる。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト含む)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ？」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返すとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	志賀島・金印から、魏志倭人伝まで。対中関係を中心に5世紀まで。 魏志倭人伝と卑弥呼・邪馬台国につき、現在の知見を自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	仏教の伝来と遣隋使・遣唐使の意義。5世紀までの朝鮮半島、中国との関係史を概説する。 遣隋使や遣唐使の派遣によって、日本が得ようとしたもの、そして実際に得たものを調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	白村江の戦いとその影響を中心に、7～8世紀の日本社会の「動揺」について概説する。 7世紀後半、古代律令国家の建設期にいかに対外関係が大きな影響を与えているか、調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	遣唐使廃止と国風文化、11世紀の日宋貿易、そして元寇に至る流れを概説する。 国風文化の時代の代表的世界遺産・平等院鳳凰堂について、調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	14世紀の東アジア国家再編と倭寇・勘合貿易、16世紀の朱印船貿易に至る流れを概説する。 前期倭寇と後期倭寇の違いについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	江戸時代と「4つの口」。鎖国下における外交関係として、アジアとの交流を学ぶ。 4つの口とは何か、自分で調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	日清戦争前夜。19世紀後半の日中・日韓関係を学ぶ。 中世の冊封体制が、近代になっていかに変容したか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	韓国併合（日韓併合）に至る、19世紀から20世紀前半の対韓関係を学ぶ。 日清戦争と日露戦争の繋がり、日露戦争と日韓兵棒の繋がりについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	満洲事変・日中戦争、20世紀中盤の日中戦争を戦史として学ぶ。 満洲事変から日中戦争、日中戦争から北部・南部仏印侵攻に至る歴史を、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	太平洋戦争の背景とその流れについて概説する。 日中戦争から北部・南部仏印侵攻、真珠湾攻撃に至る歴史を、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	戦後日本とアジア外交。戦後のアジア外交を、政治・経済双方の視点から学ぶ。 アジア太平洋戦争の「戦後処理」について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	グローバル化と日本・アジア、今日のアジア諸国との交流を考える。 アジアのなかの日本／アジアと日本という視点から、現代社会を考えてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。中間テスト形式で、第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	日本と国際社会			科目コード	21130	
英 文 名	Japan and International Society			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本と世界の関わりを、地域別に学ぶ講義である。取り上げる国は、いずれも日本と関わりの深い主要国であり、その地誌、歴史(対日関係)を学ぶ講義となる。					
授業の狙い・到達目標	国際化のなかで、日本の立ち位置・ありようを学ぶことができる講義にしたい。グローバル化が深化する現代社会を生きるにあたり、必須の知識を身に着けることが目標となる。歴史を扱う日本とアジアに対し、「地誌」的に世界を理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	世界の主要国につつき、地誌学的な視点を中心に学ぶが、時として歴史的な視点も補足する。20世紀の国際政治・経済が学修できる国際関係論やテーマ別に戦後の国際関係を学べる国際協力学が、関連性が高い。					
授業外学習(予習・復習)	国際ニュースは本講義にとって、とても重要な関連学習である。いま、世界で何が起きているか、積極的に学んでほしい。同時に、その背景となる歴史を考える姿勢を持ってほしい。それが本講義の狙いでもあり、最も効果的な予習・復習となる。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。					
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。					
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。					
成績評価方法	平常点15%、筆記試験85%(中間テスト含む)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ?」という問いを大事にしながら学習すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返しすとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	【中国】 中国社会の現状を概説し、そのうえで戦後の日中関係を学ぶ。 日清戦争や北清事変について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	【朝鮮半島】 朝鮮半島の現状を概説し、そのうえで戦後の日韓・日朝関係を学ぶ。 独立後の朝鮮半島と日本の関係につき、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	【東南アジア①】 タイ、ベトナムなどインドシナ地域の現状と対日関係を概説する。 在留ベトナム人が、いつから増えたのか。自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	【東南アジア②】 マレーシア、インドネシアの現状と対日関係を概説する。 プラザ合意やODAについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	【東南アジア③】 フィリピン、カンボジアの現状と対日関係を概説する。 プラザ合意やODAについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	【南アジア】 インド、アフガニスタンの現状と対日関係を概説する。 四街道市になぜアフガニスタン人が多いか、自分でも調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	【西アジア】 中東地域とのかかわりを、石油を中心に学ぶ。 第1次オイルショック(1973)について、その原因・意義(影響)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ(日本とアジア)。中間テスト形式で、第2回～第8回までの講義をおさらいする。 第2回～第8回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	【米国】 米国の現状と対日関係を概説する。 BMS運動の背景について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	【中南米】 ブラジルを中心に、南米の現状と対日関係を概説する。 日系ブラジル人、ペルー人について、自分なりに、その原因や実態を調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	【ヨーロッパ】 イギリス、ドイツ、EUを中心に、欧州諸国の現状と対日関係を概説する。 EUの歴史、イギリスのEU脱退について、その背景・意義などを自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	【ロシア】 ロシアの現状と対日関係を概説する。 北方領土問題について、日ソ共同宣言(1956)以来の歴史を調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	【アフリカ】 アフリカの現状と対日関係を概説する。 アパルトヘイト、南アフリカ共和国について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ(日本と欧米)。中間テスト形式で、第10回～第14回までの講義をおさらいする。 第10回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科目名	国際関係論（国際関係論）				科目コード	21140	
英 文 名	International Studies				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻（選択）	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	20世紀、とりわけ戦後の国際関係を政治・経済両分野で的確に理解することをも目的とする。その時、歴史の流れを正確に理解することを重点目標とする。						
授業の狙い・到達目標	国際政治では、第1次世界大戦時の国際連盟に遡って国連の成り立ちや役割等を講義する。経済面では、ブレトンウッズ体制の形成から変容の過程を米国、アジアを中心に講義する。国際政治・経済の側面から、国際関係論の基礎を理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	これからのグローバル社会に生きるうえで、不可欠な知識を教授するもので、基礎レベルである。「国際協力学」が関連科目で、併せて受講すると理解に幅と深みが出る。						
授業外学習（予習・復習）	講義では、重要事項をビジュアルで紹介していく。そのURLをたどって当該ページを閲覧することは、発展的な復習として、理解を深めるのに効果的である。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	平常点15％、筆記試験85％（中間テスト含む）						
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ？」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問（kajiwara@aikoku-u.org）、またはオフィスアワー（新年度に掲示）。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返しすとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	国際政治①、第1次世界大戦から、国際連盟が誕生する(1920)までの歴史を概説する。 第1次世界大戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	国際政治②、第2次世界大戦の原因と経緯。ヨーロッパ、アジアを中心に概説する。 第2回講義を復習したうえで、第2次世界大戦について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	国際政治③、第3回講義を踏まえて、国連の仕組みや主要機関を概説する。 第2回、3回講義を復習し、2度の世界大戦の原因を把握しておくこと。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	国際政治④、ロシア革命とソ連の成立、冷戦の始まりと展開の基本を概説する。 社会主義国について、その特徴と問題点を自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	国際政治⑤、冷戦下で4つの国が分断国家となった。その歴史的展開を概説する。 4つの分断国家(ドイツ、ベトナム、朝鮮半島、中国)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	国際政治⑥、冷戦崩壊後の国際情勢を、なおも続く国際紛争・テロを中心に概説する。 湾岸戦争、9.11テロ、イラク戦争などを自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	国際政治⑦、前半のまとめ。中間テスト形式で、第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	国際経済①、第2次世界大戦の経済的原因から、ブレトンウッズ体制の意義を理解する。 世界恐慌(1929)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	国際経済②、戦後のアメリカ経済、1970年代のブレトンウッズ体制の変容を概説する。 ベトナム戦争の経済的意義について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	国際経済③、オイルショックとその影響につき、日米欧を中心に概説する。 オイルショックについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	国際経済④、中国経済の変容。中国経済の発展の経緯や特徴を概説する。 人民公社の時代、改革開放政策について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	国際経済⑤、開発独裁とアジアの経済成長。韓国を中心に概説する。 開発独裁国家の歩みについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	国際経済⑥、プラザ合意(1985)とアジア経済危機(1997)を概説する。 第10回～第13回講義を復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	国際経済⑦、後半のまとめ。中間テスト形式で、第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科 目 名	国際協力学（国際協力学）				科目コード	21150	
英 文 名	International Cooperation Studies				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻（選択）	
担当教員	梶原 健嗣			教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	戦後の国際関係、国連を中心に学ぶことで、国際社会の相互依存・関係を学習する。本講義の学習を通じて、今日の国際社会の様々な問題点を体系的に理解して欲しい。						
授業の狙い・到達目標	講義では、まず国際連合の成り立ち、組織を総論として講義する。その後、安全保障理事会をはじめ、国連の主要機関について解説していく。本講義を通じて、今日の国際社会のありよう、また問題点を歴史的に理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	2年次以降を対象とする専門科目であり、若干、発展的内容を含む。最も関連性が高い科目は、国際関係論である。日本と国際社会も、関連性がある。						
授業外学習（予習・復習）	新聞の国際面を読むことが一番効果的な発展学習である。本講義の予習にも、復習にもなる部分があるはずである。講義レジュメの引用資料も、発展的復習として効果的である。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	教員が自作のレジュメを用意し、教科書は使用しない。						
参考書・その他教材	特になし。 ただ、講義レジュメに引用した資料などは、できれば帰宅後の復習のなかで参照してほしい。						
課題に対するフィードバック	特になし。 講義中に行う小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	平常点15％、筆記試験85％（中間テスト含む）						
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、小テストの復習は入念に。 講義とはいえ、「なぜ？」という問いを大事にしながら学習すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問（kajiwara@aikoku-u.org）、またはオフィスアワー（新年度に掲示）。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスをよく読んでおくこと。 配布したレジュメを見返しすとともに、左ページ「授業外学習」で例示した復習をすること。
2 回	学習内容 予習 復習	総論①、第2次世界大戦の原因・経緯から始め、国際連合の誕生までを概説する。 第2次世界大戦の展開について、自分なりに調べてくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	総論②、国連を構成する主要な組織について、体系的に概説する。 国際連盟と国際連合の違いについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	各論①、安全保障理事会の役割と特徴を概説し、戦後の集団安全保障体制を理解する。 戦後の国際紛争(武力紛争)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	各論②、NPTとIAEAの役割と特徴を概説し、戦後の核管理体制について、理解する。 核兵器禁止条約について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	各論③、ブレトンウッズ体制の役割と特徴を概説し、戦後の国際経済の基礎を理解する。 世界銀行やIMFの意義について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	各論④、GATTとWTOの役割と特徴を概説し、戦後の国際貿易体制を理解する。 関税と自由貿易(FTAを含む)について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。第2回～第7回までの講義をおさらいする。 第2回～第7回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	各論⑤、UNCTADの役割と特徴を概説し、戦後の南北問題について、的確に理解する。 南北問題について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	各論⑥、UNHCRの役割と特徴を概説し、戦後の難民問題について、的確に理解する。 現在の難民問題について、日本の実情も含め、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	各論⑦、IPCCの役割と特徴を概説し、地球温暖化問題の現状と課題について、理解する。 地球温暖化対策の進展と問題点について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	各論⑧、世界遺産の意義とそれを通じた国際交流について、概説する。 自分の出身地・出身国に世界遺産として、どのようなものがあるか、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	その他①、EU設立の経緯と意義について概説し、戦後ヨーロッパについて理解する。 イギリスのEU離脱について、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	その他②、ODAの役割と特徴を概説し、戦後の開発援助について、理解する。 日本のODAについて、自分なりに調べてみる。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。第9回～第14回までの講義をおさらいする。 第9回～第14回までの講義を改めて復習してくること。 最低限、配布したレジュメ、小テストを見直すこと。

科 目 名	異文化理解（異文化理解）			科目コード	21160	
英 文 名	Cross-cultural Understanding			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	異文化についての基礎的な知識を得ることと共に、その知識を実生活上を照らし合わせながら異文化理解とは何かを体得していく。					
授業の狙い・到達目標	異文化とは何かを理解し、自分を知り、他人を受容できるような人間として成長できることを目指す。その結果、人間文化に関する知見を深めることができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	異文化理解について基礎的な知識を学ぶ。異文化との接し方をわかりやすく説明し、それを実生活に応用できるようにする。					
授業外学習（予習・復習）	教科書に沿って授業を進めるので、事前に読んでくること。授業後も教科書を読み直すこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	原沢伊都夫『異文化理解入門』 研究社					
参考書・その他教材	特になし					
課題に対するフィードバック	教科書に付属している課題を行い、毎回授業中でフィードバックを行う。					
成績評価方法	課題60%、感想文40%で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのぐらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	課題は、各自購入した教科書に直接書き込むスタイルで提出する。 また感想文は、4回提出してもらう。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to : shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

異文化理解

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める
2 回	学習内容 予習 復習	異文化を理解する 教科書の第1章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
3 回	学習内容 予習 復習	文化とは(その1) 教科書の第2章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
4 回	学習内容 予習 復習	文化とは(その2) 教科書の第3章読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文1を書く。
5 回	学習内容 予習 復習	異文化適応 教科書第4章読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
6 回	学習内容 予習 復習	違いに気づく 教科書の第6章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文2を書く。
7 回	学習内容 予習 復習	異文化の認識 教科書の第7章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
8 回	学習内容 予習 復習	差別を考える 教科書の第8章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
9 回	学習内容 予習 復習	世界の価値観 教科書の第9章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文3を書く。
10 回	学習内容 予習 復習	異文化トレーニング 教科書の第10章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
11 回	学習内容 予習 復習	異文化受容 教科書の第11章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
12 回	学習内容 予習 復習	自分を知る 教科書の第12章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する。感想文4を書く。
13 回	学習内容 予習 復習	非言語コミュニケーション 教科書の第13章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
14 回	学習内容 予習 復習	アサーティブ・コミュニケーション 教科書の第14章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する
15 回	学習内容 予習 復習	多文化共生社会の実現に向けて 教科書の第15章を読んでくる 教科書を読み直し、自分自身のことと照らし合わせながら学んだことを確認する

科 目 名	バイリンガル教育論（東洋文化論Ⅱ）			科目コード	21170	
英 文 名	Bilingual Education (Oriental Culture Ⅱ)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	バイリンガル教育とは何か、子どもを中心に言語の発達と年齢の関係、バイリンガル教育の理論と実践を紹介していく。					
授業の狙い・到達目標	バイリンガル教育の講義を通じて、言語や異文化に対する知見を得ることができる。最終的に人間文化とは何かについて、より深く理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	授業内容のレベルはトピックによってはやや専門的なものもあるが、丁寧に説明することを心かける。なお、「異文化理解」と併せて学習することが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進めるので、事前に読んでくること。授業後も教科書を読み直すこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	中島和子『完全改訂版 バイリンガル教育の方法』アルク					
参考書・その他教材	特になし					
課題に対するフィードバック	各章の終わりに、確認小テストをし授業でフィードバックを行う。					
成績評価方法	確認小テスト80%、レポート20%で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのぐらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	小テストは教科書持ち込みのみ許可する。したがって、教科書をコピーしたプリントを用いて小テストを受ける場合は成績に反映されないので、注意してください。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to :shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

バイリンガル教育論(東洋文化論Ⅱ)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める
2 回	学習内容 予習 復習	バイリンガルとは何かについて学ぶ 教科書の第1章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
3 回	学習内容 予習 復習	子どもの母語の発達と年齢について学ぶ 教科書の第2章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
4 回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育理論(前半) 教科書の第3章(p.36～47)を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
5 回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育理論(後半) 教科書の第3章(p.48～56)を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
6 回	学習内容 予習 復習	家庭で育てるバイリンガル 教科書の第4章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
7 回	学習内容 予習 復習	イマージョン方式のバイリンガル教育 教科書の第5章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
8 回	学習内容 予習 復習	年少者英語教育とバイリンガル教育 教科書の第6章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
9 回	学習内容 予習 復習	マイノリティ言語児童生徒とバイリンガル教育 教科書の第7章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
10 回	学習内容 予習 復習	海外児童生徒とバイリンガル教育 教科書の第9章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
11 回	学習内容 予習 復習	バイリンガルと文化の習得 教科書の第10章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
12 回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育への疑問 教科書の第11章を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
13 回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育の日本の言語教育への貢献(前半) 教科書の第12章(p.237～241)を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
14 回	学習内容 予習 復習	バイリンガル教育の日本の言語教育への貢献(後半) 教科書の第12章(p.241～247)を読んでくる 教科書を読み直し、学んだことを確認する
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ 教科書を読み返す これまでの授業で取り上げた内容について振り返り、レポートにまとめる

専攻科目
(日本理解専攻)

科 目 名	観光学Ⅰ（地域研究Ⅳ）			科目コード	21180	
英 文 名	Tourism StudiesⅠ (Area StudiesⅣ)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(必修)	
担当教員	羽田 利久		教員コード	155	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	観光は地域と密接な関係にあると言える。地域を理解するための一環として、観光学の基礎的な内容について、国内や海外などの事例を用いながら講義をおこなう。					
授業の狙い・到達目標	地域の良いものを見に行くことが観光であるように、観光は地域がなくては成り立たないものであり、また地域も観光から得る影響は大きい。その関係について観光学から理解するために、観光学全般について学ぶ。観光学の分野は多岐にわたるが、地域についても同様に、国際的な観点も含め、様々な視点から見る必要があることを理解できるようにする。					
授業内容のレベル・関連科目	観光学の入門的なレベルの講義である。 観光学の範囲は広いため、その要素を絞り込み、初めて受講するものでも理解しやすいように事例を多く用いて授業をおこなう。					
授業外学習(予習・復習)	授業計画を確認して、参考になりそうな事象について事前に確認しておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習をおこなうこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。					
参考書・その他教材	日本旅行業協会(2022)『数字が語る旅行業2022』(オンラインで入手可能) 島川崇(2020)『新しい時代の観光学概論』ミネルヴァ書房 講義内で参考資料は随時紹介していく。					
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストを課し、そのフィードバックは随時おこなう。 その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。					
成績評価方法	期末試験(50%)、授業への貢献度(30%)、小レポート等(20%)により、総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。 復習を重点的におこない、授業内容の理解を深めること。 授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。					
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当(経験) (第7回～第13回は実務経験を踏まえた講義である)					
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をして臨むこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	観光が地域にもたらす効果 観光による影響はどのようなものがあるか、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	観光で使われる言葉（中国語由来の観光、英語由来のツーリズム） 「観光」という単語は何を意味するか、調べておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	世界の観光史 人は何故旅をするのか、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	日本の観光史 自分が初めてした旅行はいつどういう状況か思い出しておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	観光を構成する要素・観光資源 観光を成り立たせるために必要な要素について考えておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	観光関連産業(1) 旅行業、イギリス・トーマスクック社から日本のHISまで 知っている旅行会社の名前を挙げ、どのような旅行を販売しているか調べておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	観光関連産業(2) 宿泊産業、日本の旅館と海外のホテルとの違いなど 泊まってみたい宿泊施設をとりあげ、その施設について調べておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	観光関連産業(3) 交通運輸業1 鉄道会社や航空会社など 交通運輸業にはどのような業種があるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	観光関連産業(4) 交通運輸業2 クルーズなど 観光の目的となる交通運輸業とは何か、考えておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	観光関連産業(5) 観光施設 テーマパークなど 行ってみたい観光施設、行ったことがある観光施設についてまとめておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	観光とマーケティング 旅に出たくなる理由について考え、どうすればそれを促すことができるか考えておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	観光と情報 紙のガイドブックから海外のオンライントラベルエージェントまで 自分が旅行に行く場合にどのような情報源から情報を得るか、まとめておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	観光と国際交流 海外から日本に来る観光客が増えることで起こる影響について考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ これまでの授業で配布した資料を振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、観光と地域についての理解を深めること。

科 目 名	観光学Ⅱ（地域研究Ⅴ）				科目コード	21190	
英 文 名	Tourism Studies Ⅱ (Area Studies Ⅴ)				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	羽田 利久			教員コード	155	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	地域や観光関連産業と消費者とを繋ぐ役割をしている組織に焦点を当て、具体的事例を元に講義をおこなう。						
授業の狙い・到達目標	観光によってもたらされる地域や周辺産業への影響、旅行を通じた地域振興等について、旅行業や旅行業に関連する組織の業務を通じて理解できるようになる。さらに、旅行のビジネスモデルの変化から、観光の国際的な潮流の変化について理解することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	観光学の入門的なレベルの講義である。 観光学Ⅰのなかから、旅行産業に特化して講義をおこなう。初めて受講するものでも理解しやすいように事例を多く用いて授業をおこなう。						
授業外学習(予習・復習)	授業計画を確認して、参考になりそうな事象について事前に確認しておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習をおこなうこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。						
参考書・その他教材	橋本亮一(2017)『最新<業界の常識>よくわかる旅行業界』日本実業出版社						
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストを課し、そのフィードバックは随時おこなう。 その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。						
成績評価方法	期末試験(50%)、授業への貢献度(30%)、小レポート等(20%)により、総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。 復習を重点的におこない、授業内容の理解を深めること。 授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。						
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当(経験) (第2回～第9回は実務経験を踏まえた講義である)						
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をして臨むこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	海外旅行と国内旅行(1) 旅行会社の分類と実態 旅行会社の会社名を調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	海外旅行と国内旅行(2) 旅行の販売 自分が旅行会社を使うのはどのような場合か考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	海外旅行と国内旅行(3) 旅行会社の責任範囲 旅行中に起きるトラブルにはどのようなものが考えられるかまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	海外旅行と国内旅行(4) 旅行商品の流通 何故「旅行商品」と呼ぶのか、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	海外旅行と国内旅行(5) 旅行会社の業務 旅行会社の仕事について思いつくものを列記しておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	旅行会社と地域振興 観光客が増えると、地域にどのような影響があるか考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	旅行の広告宣伝手法(1) 紙媒体 旅行会社の店頭や新聞などの紙による旅行広告を意識してしておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	旅行の広告宣伝手法(2) インターネット 自分が旅行を探す際に閲覧するインターネットのサイトについて調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	旅行の変化(1) 海外旅行 旅行の目的は変化しているが、それはどのようなものが考えられるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	旅行の変化(2) 食事 旅行の目的として食事が挙げられることが多いが、どのようなものがあるか調べておくこと 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	旅行の変化(3) ユニバーサルツーリズム ユニバーサルツーリズムとはどういったものか、自分なりに調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	旅行の変化(4) 着地型観光 観光する場所を選ぶ際、誰からの情報を元にするか、自分の経験から考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	旅行のビジネスモデルの変化(5) クルーズ クルーズ旅行と聞いて思い浮かぶイメージは何か、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、地域と旅行業についての理解を深めること。

科 目 名	地域文化と観光				科目コード	21200	
英 文 名	Tourism and Local Cultures				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	羽田 利久			教員コード	155	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける				2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本各地にある様々な人文観光資源について、映像などを使用しながら理解しやすく説明する。 なお、人文観光資源とは宗教、芸術、歴史など人文学的な観点から捉えることのできる観光資源のことである。						
授業の狙い・到達目標	人と人とのかかわり方が変化している現在、観光振興を図ることにより交流人口を増加させるという、新たな街づくりの手法が模索されている。本講義を受講することにより、地域文化や伝統を含有する人文観光資源を通じて地域の理解を深め、現代社会ならびに日本の地域について把握することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	観光学の入門的なレベルの講義である。 観光全般について理解を深めるために、観光学Ⅰ、Ⅱの履修を推奨する。						
授業外学習(予習・復習)	授業計画を確認して、参考になりそうな事象について事前に確認しておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習をおこなうこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。						
参考書・その他教材	昭文社(2020)『旅地図日本』、昭文社 旅行のパンフレットやガイドブック、時刻表などは積極的に手にして目を通すこと。						
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストを課し、そのフィードバックは随時おこなう。 その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。						
成績評価方法	期末試験(50%)、授業への貢献度(30%)、小レポート等(20%)により、総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。 復習を重点的におこない、授業内容の理解を深めること。 授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。						
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当(経験) (第3回～第13回は実務経験を踏まえた講義である)						
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をしておくこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	観光資源の類型と分類・人文、自然、社会、それぞれの観光資源の違い 観光資源とはどのようなものが考えられるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(1) 神社、寺院、教会 関東地方で有名な神社や寺を見つけて調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(2) 城跡、城郭、宮殿 日本の国宝となっている城について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(3) 集落、街 観光地として有名な集落、街はどのような場所があるか調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(4) 郷土景観 日本らしい郷土景観とはどのようなものか、またその場所はどこか、調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(5) 街道、古道 道をたどる観光とはどういうことを指すのか。自分なりに考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(6) 建造物 橋や塔など、著名な建造物はどのようなものがあるか、調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(7) 博物館、美術館 行ってみて素晴らしかった、あるいは行ってみたい博物館、美術館について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(8) 宗教と旅 旅と宗教の具体的な事例とはどのようなものがあるか、確認しておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(9) 年中行事、祭り 見に行きたい日本の祭りを一つ取り上げ、その内容について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(10) 食 日本らしい食とはどのようなものか、自分なりの意見をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	日本の人文観光資源(11) 温泉 日本の温泉地を一つ取り上げ、その内容について調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	新しい人文観光資源 これから人文観光資源を加えるとしたら、どのようなものがあるか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、人文観光資源についての理解を深めること。

科 目 名	観光地理学（地誌学概論）			科目コード	21210	
英 文 名	Tourism Geography (Outline of Regional Geography)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻（選択）	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	観光について、主に地理学の観点から取り上げる。様々な地域の事例から、地域が持つ観光資源や、観光産業によって生じる地域的変化について理解を深める。					
授業の狙い・到達目標	本科目のねらいは、地域と観光がどのような相互作用を有しているのかを知り、地域を変容させる要因について理解を深めることである。 到達目標）観光地理学の基本的な考え方を理解し、観光地域の立地や形成・発展要因、観光による地域の変化について考察できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。					
授業外学習（予習・復習）	講義内容から疑問点や関心を探し、自分の知っている地域にも当てはめて考えながら予習・復習をすること。 授業内課題の準備として、講義の内容はよく復習し、不明な用語は調べておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。					
課題に対するフィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。					
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%)					
成績評価基準	平常点は、①授業への参加意欲 ②発言等による授業への貢献 ③周囲との共同・協調の各項目を評価する。授業内課題と定期試験は、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

授業スケジュール

観光地理学(地誌学概論)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 観光地理学とは何か シラバスを読み、授業内容について確認しておく。 授業内容と進め方について、確認しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	現代の観光産業と地域① 観光業の歴史について予習をしておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	現代の観光産業と地域② 観光業にどのような特徴や役割があるかを考えておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	世界の観光地 世界にどのような著名な観光地があるか、確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	日本の観光地 行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	都市観光① 東京の観光地に関して、その成り立ちや特徴を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	都市観光② 京都・大阪の観光地に関して、その成り立ちや特徴を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	農村と自然の観光① 農村地域や自然に関する観光地を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	農村と自然の観光② 農村地域や自然に関する観光地を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 フードツーリズム、祭礼文化 観光資源にはどのような種類が存在するか、調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 コンテンツツーリズム サブカルチャーを用いた観光振興について、事例を調べておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	観光資源と地域 ダークツーリズム ダークツーリズムという用語についてあらかじめ調べ、どのような地域や施設が該当するか考える。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	身近な観光地 千葉県① 千葉県内の行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	身近な観光地 千葉県② 千葉県内の行ったことのある観光地を確認しておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。

専攻科目
(日本理解専攻)

科 目 名	観光学フィールドワーク				科目コード	21220	
英 文 名	Fieldwork of Tourism Studies				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	羽田 利久			教員コード	155	単 位 数	2単位
開講期間	通年		曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	実習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する				6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	観光関連の基礎知識を習得しつつ、観光的な視点で地域を見る視点を養う事を目指す。 フィールドワークを通じて、地域への誘客のための方策を考える。 期末試験の代わりとして、誘客案についての発表会を実施する。						
授業の狙い・到達目標	観光関連産業は人と人が関わりあう産業であり、理論的な裏付けだけではなく、実際に現場に出て体感することが重要である。本講義を通じて、観光的な視点から社会を見ることを体得できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学を出て外で学ぶという事は、社会との関わり方について理解をする必要がある。社会人としてのマナーなどをきちんとわきまえることを意識すること。観光学Ⅰ、Ⅱの受講を推奨する。						
授業外学習(予習・復習)	授業の前後にフィールドワークに向けて必須となる参考文献を読んでおくこと。また、授業などでの指導を元にして自身で研究内容を発展させていくこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。						
参考書・その他教材	その都度指示を行う。						
課題に対するフィードバック	その都度確認をおこない、学生が正しく理解し、学習することを目指す						
成績評価方法	期末発表(30%)、レポート(30%)、平常点(40%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	自ら主体的に学ぶ姿勢をとることを必須とする。						
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行や観光に関する全般的な業務を担当(経験)						
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をしておくこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	観光学 観光の功罪 観光による影響はどのようなものがあるか、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	観光学 観光による地域振興 観光客が増えると、地域にどのような影響があるか考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	地域資源(1) 地域資源とは何か 観光資源とはどのようなものが考えられるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	地域資源(2) 地域資源の分類と発見方法 前週の講義を元にして、地域資源の分類について検討しておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	地域資源(3) 地域資源の活用事例 前週の講義を元にして、地域資源の活用事例について検討しておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	学外授業 準備 観光資源の探し方 前週の講義を元にして、地域資源の探し方について検討しておくこと。 授業内容を踏まえたうえで、学外授業の準備を進めること。
8 回	学習内容 予習 復習	学外授業 準備 観光資源の見せ方 前週の講義を元にして、地域資源の見せ方について検討しておくこと。 授業内容を踏まえたうえで、学外授業の準備を進めること。
9 回	学習内容 予習 復習	学外授業 実施 地元を巡る 第一回 観光資源を見つける視点について、再度確認しておくこと。 学外授業で気づいた点についてまとめを行うこと。
10 回	学習内容 予習 復習	学外授業 まとめ1 事前学習で予測していたことと、実際の現場との際について考えること。 学外授業で気づいた点についてまとめを行うこと。
11 回	学習内容 予習 復習	学外授業 まとめ2 学外授業の内容についてまとめること。 学外授業で気づいた点についてまとめを行うこと。
12 回	学習内容 予習 復習	中間発表 第一回 発表に向けてスライド作成を行うこと。 発表ででた質問などについて確認をおこなうこと。
13 回	学習内容 予習 復習	中間発表 第一回の振り返り 他の参加者の発表を元に、自分の発表内容を推敲しなおすこと。 講評を元に自らの発表内容について再考すること。
14 回	学習内容 予習 復習	学外授業 準備 各自のテーマ設定 学外授業のテーマ設定について検討してくること。 授業内容を踏まえたうえで、学外授業の準備を進めること。
15 回	学習内容 予習 復習	学外授業 準備 調査ポイントの確認 学外授業の調査ポイントについて検討してくること。 授業内容を踏まえたうえで、学外授業の準備を進めること。

授業スケジュール

観光学フィールドワーク

16 回	学習内容 予習 復習	学外授業 実施 ツーリズムエキスポ見学 学外授業の調査ポイントについて再確認してくること。 学外授業で気づいた点についてまとめを行うこと。
17 回	学習内容 予習 復習	学外授業 まとめ3 学外授業の内容についてまとめること。 学外授業で気づいた点についてまとめを行うこと。
18 回	学習内容 予習 復習	学外授業 まとめ4 学外授業の内容についてまとめること。 学外授業で気づいた点についてまとめを行うこと。
19 回	学習内容 予習 復習	中間発表 第二回 発表に向けてスライド作成を行うこと。 発表ででた質問などについて確認をおこなうこと。
20 回	学習内容 予習 復習	中間発表 第二回の振り返り 他の参加者の発表を元に、自分の発表内容を推敲しなおすこと。 講評を元に自らの発表内容について再考すること。
21 回	学習内容 予習 復習	地域振興 地域ブランド戦略 観光による地域ブランド戦略について、学外授業を元に考えてくること。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
22 回	学習内容 予習 復習	地域振興 DMO DMOについて、学外授業を元に知識を備えてくること。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
23 回	学習内容 予習 復習	地域振興 情報発信 観光地の情報発信について、学外授業で気づいた点をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
24 回	学習内容 予習 復習	学外授業 実施 地元を巡る 第二回 観光資源を見つける視点について、再度確認しておくこと。 学外授業で気づいた点についてまとめを行うこと。
25 回	学習内容 予習 復習	学外授業 まとめ5 学外授業の内容についてまとめること。 学外授業で気づいた点についてまとめを行うこと。
26 回	学習内容 予習 復習	学外授業 まとめ6 学外授業の内容についてまとめること。 学外授業で気づいた点についてまとめを行うこと。
27 回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション準備とリハーサル1 発表に向けてスライド作成を行うこと。 授業中にでた質問などについて確認をおこなうこと。
28 回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション準備とリハーサル2 発表に向けてスライド作成を行うこと。 授業中にでた質問などについて確認をおこなうこと。
29 回	学習内容 予習 復習	成果報告会 発表に向けてスライド作成を行うこと。 発表中にでた質問などについて確認をおこなうこと。
30 回	学習内容 予習 復習	講義全体のまとめと振り返り 他の参加者の発表を元に、自分の発表内容を再確認すること。 授業内容全般を振り返り、観光による誘客についての理解を深めること。

科目名	日本研究(現代の社会)			科目コード	21230	
英 文 名	Japan Studies			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本講は、日本の文化と社会について概観し、主に社会学, 人類学, 民俗学等の視点から解説を試みること, 「日本」に関する総合的な理解を深めることを目的とする。					
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 日本文化の固有性について、講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②] 日本社会の複層性について、具体的な事例を用いて説明することができる。 [到達目標③] 自文化と異文化との比較の中で、日本の文化と社会を相対化することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	身近な日本の文化や社会に関心を持ち、自己の意見をまとめておくこと。日本の歴史, 社会, 文化等に関する関連科目を併せて学習することが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 各回の講義テーマに自己の関心を結びつけながら、日本文化の多様な事例と日常の社会的経験を整理しておくこと。 [事後学習] 講義で学んだ事項を振り返り、体系化して理解の深化に努めること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	・中川裕『アイヌ文化で読み解く「ゴールデンカムイ」』集英社(2019) ・和智正喜『ウルトラマンの愛した日本』宝島社新書(2013) ・船曳建夫『柳田国男』筑摩書房(2000)					
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②](50%), ・講義中の小課題・リアクション・ペーパー[到達目標③](30%), ・講義への参加状況(20%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	日本の文化や社会に関する理解を通して、自己を見つめなおし、豊かな生活と適切な社会の結びつきについて、ともに考えていくことが期待されます。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org), またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー日本文化の古層を探るー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	日本文化の古層ー神話的世界観ー 「古事記」「日本書紀」などの日本神話をあらかじめ概観しておくこと。 日本社会の形成に神話が果たした役割と歴史について振り返り、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	年中行事と信仰・伝承 日本各地に看取される伝統的な年中行事を1つ以上調べておくこと。 年中行事の意味について振り返り、その文化的体系性について理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	通過儀礼 日本各地に看取される通過儀礼の事例について1つ以上調べておくこと。 通過儀礼の構造について振り返り、人間の成長に伴う各儀礼について理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	伝統的家族観と祖先祭祀 日本における「イエ」制度や家族の類型について調べておくこと。 日本の伝統的家族観とその変化について振り返り、家族の現代的課題について理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	食文化とタブー 日本人が「食べてよいもの」と「食べていけないもの」をそれぞれ1つ以上調べておくこと。 日本の食文化について振り返り、その歴史と構造について理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	分類の文化史 時間、空間、色彩、音などの領域において日本に固有な分類体系を1つ以上調べておくこと 講義を振り返り、日本における自然事象の分類の体系について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	呪術、占術、予言 陰陽師に代表される日本文化における「呪術(witchcraft)」の事例を1つ以上調べておくこと。 日本における呪術や予言の歴史的特性について振り返りその社会的意義について理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	日本人論の古典「タテ社会の人間関係」と「甘えの構造」 講義で解説する2冊の日本人論について、事前に概観しておくこと それぞれの「日本人論」の特徴を概括し、現代の日本社会の特性について理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	小泉八雲「怪談」 小泉八雲の生涯を概観し、あらかじめ配布するテキストから1作品以上を通読しておくこと 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)のアイデンティティと日本文化の古層について理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	世界遺産と日本文化 世界遺産条約の概要を確認し、日本における世界遺産の事例を1つ以上調べておくこと。 世界遺産条約の現状と課題を振り返り国際社会における日本文化の評価について理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	日本のサブカルチャー 社会経済的に大きな影響力を持つ日本のサブカルチャーの事例を1つ以上調べておくこと。 講義を振り返り、日本経済におけるサブカルチャーの意義と課題について理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	日本文化の多様性ー北海道と沖縄ー 北海道と沖縄の文化的事象について1つ以上調べておくこと。 日本の歴史と地域性を理解を通して、日本文化の多様性について理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	世界の中の日本文化ー日本の中の世界文化ー 世界の中の日本文化と日本の中の世界文化をそれぞれ1つ以上調べておくこと 講義を振り返り、グローバル化に伴う日本文化の拡張と変容について理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー拡張する日本文化ー これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科 目 名	華道演習（文化芸術演習）				科目コード	21240	
英 文 名	Practice of Japanese Flour Arrangement				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	木原 邦子			教員コード	259	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限		火曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける				2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	いけばなの歴史と小原流の基本のかたちを指導する。500年以上の永きにわたる伝統あるいけばなの基本を修得することができる。毎時間実際に各自で花をいけて、基本の修得と美的感覚を養い、人間形成の助言としたい。						
授業の狙い・到達目標	季節の移り変わりに自然の様々な変化を感じ、感動できる感受性を育み、そうした自然との触れ合いを通じて豊かな人間形成の基礎を培うことができる。						
授業内容のレベル・関連科目	いけばなをするうえで前提となるお花の扱い方や花材の選び方を学ぶ。そして「たてるかたち」「かたむけるかたち」としたシンプルな型をいけることで、少ない花材数でも美しくいけられる技術が身に付く。なお、学ぶ知識や技術は、小原流いけばな全体の基礎となる。						
授業外学習(予習・復習)	定められた「かたち」の中で「かたちの特徴を理解し、当日の花材をどのような形にどこへ挿せばよいか基本に忠実にいける。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	小原宏貴『小原流花型カード』一般財団法人 小原流事業部 花材代が授業1回につき300円かかる(試験日の花材代も含む)						
課題に対するフィードバック	特になし						
成績評価方法	実技試験70%、授業への貢献度30%で評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	当日の花材と真摯に向き合い花と語ろう。花材により「いけるかたち」の順が変わる場合がある。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	講義中に尋ねること。						

授業スケジュール

華道演習(文化芸術演習)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、講義の概要および学習のポイントを概説する。テストの方法も説明する。 シラバスを読んでおくこと。 授業内容を振り返ること。
2 回	学習内容 予習 復習	華道の歴史、伝統文化いけばなの歴史を講義する。 参考書を読んでおくこと。 授業内容を振り返ること。
3 回	学習内容 予習 復習	小原流創始、初代から5世までの歴代家元について講義する。実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	花形全般について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	花意匠基本のいけ方について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	花意匠基本のいけ方について、講義する。「たてるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	役枝について、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	役枝について、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	花材取合せについて、講義する。「かたむけるかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	水揚げについて、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開について、講義する。「ひらくかたち」の実技指導も行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	花意匠の展開「ならぶかたち」について、講義する。花意匠のいけ方について反復練習を行う。 参考書を読んでおくこと。 当日使用した花材を使って、自宅でいけ直すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ、本演習のまとめと復習を行う。 今まで学習した内容について、総復習をしてくる。 演習を踏まえ、改めて総復習をする。
15 回	学習内容 予習 復習	授業進度の調整日。 実技試験に向けて、どの形でいけるか考えておくこと。 自分で花を買って、花意匠で学んだ3つのかたちをいけてみる。

科目名	茶道演習				科目コード	21250		
英 文 名	Practice of Tea Ceremony				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)		
担当教員	宮近 千世子			教員コード	258		単 位 数	2単位
開講期間	前期		曜日・時限	金曜日・4時限		授業形態		演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	茶道に関する基本知識を講義で学ぶとともに、茶道の実技も学ぶ演習部分も含む講義である。茶道の授業を通して豊かな人間性を養い、同時に日本文化を理解し千葉県、四街道市及び愛国学園大学への愛着を増進し国際理解を推進したい。							
授業の狙い・到達目標	茶道は日本文化の理解のために必要である。茶道の授業は、日本文化を理解して感動してもらうことが大切であり、授業は学生が興味を持てる内容にしたい。授業を通じて、日本文化が理解できるようになる。							
授業内容のレベル・関連科目	初歩の茶道を通して生徒の人間性を高め、将来の人格形成に役立つ授業にしたい。							
授業外学習(予習・復習)	毎回授業後は簡単な感想文を提出して頂く。次回の稽古日には可能であれば野辺の草花を1本でも持参することにより、日本の四季を実感して頂く工夫をしたい。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	裏千家今日庵監修「はじめての茶道」 一般社団法人 今日庵							
参考書・その他教材	その都度、配布する。 お菓子代が授業1回につき200円かかる(試験日のお菓子代もかかる) その他、実費がかかる場合がある							
課題に対するフィードバック	茶道授業は瞬間芸である。参加者の様子から学生の意欲的な態度や参加意識を判断できる。各自の名札によって理解の程を判断したい。							
成績評価方法	茶道演習に対し、平常点40%、実技の到達度合60%で評価します。							
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。							
履修上の注意事項や学習上の助言	生徒には日頃から社会の諸事情に関心を持たせる学園の指導方針に賛成である。私の元の職業(証券会社)の経験を活かし社会事情に関する茶談を挟みつつ授業を深めたいと思う。							
科目に関連した教員の実務経験	裏千家茶道准教授 裏千家東京ゼミナール本科に参加。自宅茶室(洗心亭)にて茶道教室主催。人間禅房総道場(四街道市)にて定期的に茶会を開催。毎年春に自宅にて外国人と楽しむ花見茶会を開催。八千代市郷土博物館及び八千代市文化伝承館にて茶会を開催。							
担当教員への連絡方法	メール又は電話を希望 (連絡先については、初回の講義で提示する)							

授業スケジュール

茶道演習

1 回	学習内容 予習 復習	演題(40分)・茶道って何だろう?～講演後には茶室にて抹茶を楽しむ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
2 回	学習内容 予習 復習	茶道を通して人と仲良くすることを学ぶ・自分を見つめる テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
3 回	学習内容 予習 復習	作法(心を表す動作の基本)とは?無駄や無理のない機能的な動きや構成を茶道から学ぶ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
4 回	学習内容 予習 復習	「和敬静寂」の教え・千利休から学ぶ「四規七則」のこと テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
5 回	学習内容 予習 復習	水屋心得から学ぶ・始めの準備と後始末、人生には整理整頓が大切である テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
6 回	学習内容 予習 復習	茶道の型と形・お辞儀の仕方、歩き方、座り方、抹茶や菓子の頂き方に見える個性 テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
7 回	学習内容 予習 復習	茶道と禅の歴史・四街道市人間禅房総道場にて茶禅一味の体験学習～禅堂茶会① テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
8 回	学習内容 予習 復習	応用道具の楽しみ方・扇子、茶入、茶杓、花入、蓋置など「お国自慢の道具」は歓迎である テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
9 回	学習内容 予習 復習	マナーは何故必要か?人との交流、特に国際交流にはマナーが大切 テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
10 回	学習内容 予習 復習	道具は大切に扱いましょう・この事は人を大切にする、心の原点となる テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
11 回	学習内容 予習 復習	四季の花摘み・「花寄せ」体験から日本の四季を感じる喜び～禅堂茶会② テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
12 回	学習内容 予習 復習	床の間の軸で茶禅一味を考える・稽古ごとに学ぶ伝統文化の大切さ テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
13 回	学習内容 予習 復習	茶席の登場人物、亭主の役割と客の役割・お互いの立場を思いやる心を育てる テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
14 回	学習内容 予習 復習	稽古茶会・茶会とは皆で仲良く菓子を食べ抹茶を頂きながら楽しく過ごすこと テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。
15 回	学習内容 予習 復習	生徒が主催する茶会の開催・・・「学長先生を招く感謝の茶会」 テキストの当該箇所を読んでおく。 当日の講義の内容を思い出し、日々の生活に活かす。

科目名	ポップカルチャー論Ⅰ（現代文化論）				科目コード	21260	
英 文 名	Japanese PopcultureⅠ (Contemporary Culture)				科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	さちみ りほ			教員コード	252	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限		金曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける			☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する			☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	漫画論である。日本の漫画製作のありようを学び、その影響力等への理解を深めることを目的とする。						
授業の狙い・到達目標	今や日本を代表するポップカルチャーである漫画を学ぶことによって、「おもしろい話はなぜ面白いのか」その理由と手法を理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	ポップカルチャー論Ⅱと合わせて受講することを推奨するが、ポップカルチャー論Ⅰだけでも受講可。						
授業外学習(予習・復習)	自分の好きな漫画や漫画ジャンルを選び、何故それが好きか自分の言葉で語れるようにしておくこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	さちみりほ『ローゼリア王国物語』、さちみりほ『夢やしきへようこそ』 その他短篇集等						
参考書・その他教材	さちみりほ『銀のヴェルキュリアス』 ドラマCD等						
課題に対するフィードバック	レポートや評論等はその都度、添削する						
成績評価方法	授業への取り組み(50%)、課題・レポート(50%)						
成績評価基準	到達目標の達成度を、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	たくさんの漫画をただ読むのだけではなく、人物やセリフの重要度を探りながら読むようにする。好きな漫画を熱く語れることも、つまらない漫画を批判できる能力も大切。						
科目に関連した教員の実務経験	漫画家 平成元年 小学館新人コミック大賞受賞 小学館 秋田書店 ハーパーコリンズ等で執筆中						
担当教員への連絡方法	メールでも受け取ります。(メールアドレスは初回の講義で提示する) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

ポップカルチャー論 I (現代文化論)

1 回	学習内容 予習 復習	漫画とは何か (世界における日本の漫画の影響など) 授業概要を理解しておくこと 好きな漫画を一冊読んでおくこと
2 回	学習内容 予習 復習	各自に好きな漫画の面白さを語ってもらい、なぜ面白いかをディスカッションする 好きな漫画を一冊読んでおくこと 描き手の立場になって、漫画を読んでもみる
3 回	学習内容 予習 復習	漫画の構成力、キャラクター表現、映画的手法について 課題の漫画を読んでおく 構成、効果の視点から読み返す
4 回	学習内容 予習 復習	背景の効果的な入れ方、演出について 背景に注意して読んでみる。背景の上手い漫画を探す 作者の狙いを考えながら読む
5 回	学習内容 予習 復習	効果、ライティング、逆光、カゲ、ベタ等の説明 上記に注意して読んでみる ライティングを変えた場合の効果等を考える
6 回	学習内容 予習 復習	アップ→ロング→人物のない、コマ等の動き、演出 上記に注意して読んでみる 他の漫画の構成に注目する
7 回	学習内容 予習 復習	これまでの講義で説明してきたことを振り返る マンガの効果を説明できるようにする 楽しみながら作り手の工夫を理解しつつ読む
8 回	学習内容 予習 復習	マンガの面白さについて、編集になったつもりで解説する。 何が面白いのか説明できるようにする 面白い意味と理由を理解しながら読む
9 回	学習内容 予習 復習	キャラクター作り (キャラクターとは何か、主役と脇役のバランスなど) 主役の動きに注目して読む 主役の魅力の理由を理解する
10 回	学習内容 予習 復習	脇役の必要性、役割とバランスなど 魅力的な脇役の登場する漫画読む 脇役の魅力の理由を理解する
11 回	学習内容 予習 復習	ストーリーのバランス、起承転結のページ配分について 起承転結の意味を理解しておく 読切マンガの何が起でどこが転に当たるか理解する
12 回	学習内容 予習 復習	ストーリーの成り立ち、セリフとモノローグの意味 小説、映画とマンガの違い、共通点を考えておく マンガ独特の効果を知る
13 回	学習内容 予習 復習	イントロ、見開き、ヤマ場、ラストなどの役割について それぞれ、どこに当たるか考えておく 各場面の役割を念頭に置いて読み返す
14 回	学習内容 予習 復習	これまでの総括、各自の漫画論を語る、レポート提出 好きな一冊を選び、その理由を語れるように読んでおく 他の人が勧めた本も読んでみる
15 回	学習内容 予習 復習	講義への各自の感想、レポートを発表し合い、感想を伝えあう 各自のレポートや講義について、感想を述べられるようにしておく 様々な視点から漫画を理解し、実生活に生かしてゆく

科目名	ポップカルチャー論Ⅱ（日本文化研究）			科目コード	21270	
英 文 名	Japanese Popculture Ⅱ (Japanese Culture Studies)			科目区分	【専門科目】 日本理解専攻(選択)	
担当教員	さちみ りほ		教員コード	252	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	マンガの表現方法の理解を深め、批評・分析力・実技力も高める					
授業の狙い・到達目標	原稿を実際に描く(漫画家体験)、評価する(編集体験)他、詩や脚本、小説などにも挑戦することで、理解を深め、実社会に活かせる表現力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	ポップカルチャー論Ⅰと合わせて受講することを推奨するが、ポップカルチャー論Ⅱだけでも受講可。					
授業外学習(予習・復習)	自分で考えたストーリーや漫画評論の作成・創作が苦手であれば、童話の漫画化なども許容とする。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	著作権の関係上、拙著短篇集や「夢やしきへようこそ」「ローゼリア王国物語」等を用いる。できるだけ貸し出して購入負担を減らす。					
参考書・その他教材	作家の許可を得られた場合、他の作家の作品等も使用する場合もある。					
課題に対するフィードバック	授業で読んだ漫画の続き、セリフのネーム入れ等、その都度提出してもらおう。授業中に間に合わなかった場合、翌週提出も可。					
成績評価方法	授業への取り組み(30%)、出席率(40%)、課題・レポート(30%)					
成績評価基準	到達目標の達成度を、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	漫画も小説も上手下手ではなく、読み手にわかりやすく、でも面白く伝えることが大切。その基本を教えます。一緒に頑張りましょう。どれほど熱心に参加し、授業に取り組んでいるか、丁寧さやセンス。初めは人真似でもよいので果敢に挑戦すること。					
科目に関連した教員の実務経験	漫画家 平成元年 小学館新人コミック大賞受賞 小学館 秋田書店 ハーパーコリンズ等で執筆中					
担当教員への連絡方法	メール・LINE・SIGNAL等で受け取ります。 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

ポップカルチャー論Ⅱ(日本文化研究)

1 回	学習内容 予習 復習	漫画論 現代社会における漫画の貢献度とその実践について 好きな漫画を語れるようになっておく 授業内容を反芻し、次回話せるようになっておく
2 回	学習内容 予習 復習	キャラクターの見せ方・作り方① 色んなジャンルでの効果的演出法 ノート、鉛筆、絵を描きやすい道具も用意 自分の好きな漫画のイントロ(出だし)なぜ魅力あるのか考えておく
3 回	学習内容 予習 復習	実践して1ページ漫画に挑戦 4コマギャグも絵が苦手な人は小説も可 ストーリーを考えてくる(イントロだけで可) 授業中に完成しなかった場合は自宅で完成させる
4 回	学習内容 予習 復習	1ページ目の苦労点 その先の話もふくらませ方 課題に渡したマンガを読んでおく(貸し出し予定) どこで効果を狙っているかわかるように
5 回	学習内容 予習 復習	キャラクターの見せ方・作り方② 脇役、ライバルなど登場のさせ方 好きな漫画を読んでおく(事前に課題の貸し出しも可) 魅力的なキャラが何故魅力あるのか理解して次授業で言えるように
6 回	学習内容 予習 復習	起承転結の起の部分 1ページマンガから先に進める 他のに変更も可 途中までで良いので考えておく うまく話がまとまるかも考えて 反省点があれば直す
7 回	学習内容 予習 復習	絵の効果、背景、ポップカルチャー論Ⅰと被るがこちらでは実践 簡単な絵(背景入りを描いてみる) 反省点があれば直す
8 回	学習内容 予習 復習	ストーリーの骨子 起承転結の一番地味な承の部分进行解説 16〜30P程度の漫画を想定し、承まで考える(ネーム)、文章(プロット)も可 授業内容を理解し、ページ配分を考える
9 回	学習内容 予習 復習	転・結のページ配分 短篇を読みながら実際例を理解する 自分の考えたストーリーの先を考えておく 他話に移っても可 キャラクターによる話の読み方を理解する
10 回	学習内容 予習 復習	各ジャンルでの違いを理解① ファンタジー、時代物、学園者、少年・少女漫画 いろんな漫画を読んでおく 好きなジャンルの漫画を描き始めて見る(下描き)
11 回	学習内容 予習 復習	各ジャンルでの違いを理解② 4コマ、ギャグ、シリアス、ホラー等 引き続きどんなジャンルが好きか 好きなジャンルの漫画を描き始めて見る(下描き)
12 回	学習内容 予習 復習	これまでのことを踏まえ漫画作品を最後まで制作① 漫画原作、小説、脚本も可 まずジャンルを決め、ぶれないこと 少年向け、子供向け等 自分が伝えたいこと対象は誰かを確認
13 回	学習内容 予習 復習	漫画制作② 原作、脚本 短篇なら何本でも可 自宅でも制作を進めておく 直したい点が出てきたら直しておく
14 回	学習内容 予習 復習	最終作品提出 何作でも可 ギャグ作品とシリアス作品も可 最後まで丁寧に仕上げておく 反省点があれば振り返る
15 回	学習内容 予習 復習	完成作品を返却 自分の作品や授業の感想 実践してみてわかったことなど 半年間の授業の感想を考えておく 今後、自分が読むなら、また描くなら、どこに注目するかを考える

専攻科目
(日本理解専攻)

科 目 名	心理学基礎（心理学概論Ⅰ）				科目コード	22010	
英 文 名	Introduction to Psychology				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	原島 雅之			教員コード	142	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜 日・時 限	水曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探求する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	「心」は自分にとっても身近で明らかなものであるように思える一方で、考えれば考えるほど複雑で難しいもののようにも思える。心理学という学問において、そのような「心」に対してどのようにアプローチを行ってきたのか、様々な分野の代表的な知見を紹介していく。						
授業の狙い・到達目標	この講義を通して、どのようにして心を科学的に扱うことができるのかについて学ぶとともに、自分自身や身の回りの他者、日常における様々な問題について心理学的視点から捉えることができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	心理学関連科目において入門的な位置づけの授業となる。この授業を「入口」として、その後のより専門的な学習につなげてほしい。						
授業外学習(予習・復習)	予習として毎回の授業の前に教科書の該当する章に目を通しておくこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	山田一成・谷口明子(編)『心理学の基礎』八千代出版						
参考書・その他教材	授業の際に適宜紹介あるいは配布を行う。						
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

授業スケジュール

心理学基礎(心理学概論Ⅰ)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー心理学とは何か シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	感覚の特徴、知覚の成り立ち、様々な錯視 テキストの1章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	注意のはたらき、注意と情報処理段階 事前に配布する資料を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	記憶のしくみ、記憶の再構成的性質 テキストの2章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	感情のはたらき、感情の生得性 テキストの3章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	思考ー推論と意思決定、知能とは何か テキストの4章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	条件づけと様々な学習 テキストの5章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	動機づけ(モチベーション)、目標の達成 テキストの6章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	発達のとらえ方、発達支援 テキストの7章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	パーソナリティ(性格)の諸理論と測定 テキストの8章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	社会的認知ー自分や他者の捉え方 テキストの9章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	社会的影響ー社会的動物としてのヒト、社会的促進や同調 テキストの10章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	心のケアーカウンセリング、認知行動療法 テキストの11章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	心の健康とストレス テキストの12章を読んでおくこと 学習内容を振り返り自分の考えをまとめておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー「心のはたらき」とは何か ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 人間の「心のはたらき」とはどのようなものかについて考えること

科目名	心理学概論（心理学概論Ⅱ）			科目コード	22020	
英 文 名	Outline of Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(必修)	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	心理学の基礎的分野を幅広く、毎回領域を変えながら紹介し、様々な角度から心のはたらきについて議論する。心理学がどのような方法で人間の「心」に迫ろうと試みてきたか、そしてその試みを通じて何が明らかになってきたかについて学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	心理学の様々な研究を通じて、「心理学とは何か」、「心理学が“こころ”と呼んでいるものは何か」を理解することができる。また、心理学という学問が、心というやや曖昧な概念を科学的に研究してきた歴史を学び、「科学的に思考する」姿勢を獲得することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士(日本心理学会)の取得資格を得ることができる。従って、本科目は入門的な内容ではあるが、資格に相応しいレベルは保つつもりである。					
授業外学習(予習・復習)	基本的には毎回1つのテーマを扱うため、テーマごとにまとめたノート等を作成することを推奨する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。					
参考書・その他教材	上村保子・須藤昇『心理学ガイド』 相川書房 下條信輔『サブリミナル・マインド』 中公新書					
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)					

授業スケジュール

心理学概論(心理学概論Ⅱ)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、心理学という学問の意味 シラバスを読んでおく。 シラバスをしっかりと読み直しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	心理学史を学ぶ:心理学の扱う研究領域と心理学の歴史 前回の授業で説明された「心理学とは何か」を説明できるようにしておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
3 回	学習内容 予習 復習	感覚・知覚:見ること、聞くことなどと心 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
4 回	学習内容 予習 復習	心理物理:感覚を測定する 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
5 回	学習内容 予習 復習	学習:経験によって行動(パターン、クセ、好き嫌いなど)が形成される仕組み 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
6 回	学習内容 予習 復習	認知:ひとの頭の中で行われた処理を推測する(記憶) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
7 回	学習内容 予習 復習	認知:ひとが共通して持つ思考機能とその法則性(推論、意思決定) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
8 回	学習内容 予習 復習	社会:ひとが複数いるときに生じること(攻撃・援助行動、追従行動) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
9 回	学習内容 予習 復習	感情・動機づけ:好意などが自覚なしに生じる仕組み(情動、帰属) 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
10 回	学習内容 予習 復習	行動と遺伝・環境の関係について 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
11 回	学習内容 予習 復習	人格:性格や知能などの個人差要因を考える 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
12 回	学習内容 予習 復習	発達:ひとはどのように発達するか 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
13 回	学習内容 予習 復習	心理学の新しい展開:生理・神経心理学、認知神経心理学、人工知能 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
14 回	学習内容 予習 復習	応用:臨床心理学、産業心理学、教育心理学 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
15 回	学習内容 予習 復習	心理学の抱える問題と今後、まとめと復習 これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

科目名	社会心理学Ⅰ（社会心理学Ⅰ）				科目コード	22030	
英 文 名	Social Psychology Ⅰ				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(必修)	
担当教員	原島 雅之		教員コード	142	単 位 数	2単位	
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	本教科では社会心理学の基礎について取り上げる。個としての人間がどのようにして社会性を形成するか、またどのようにして自己や社会と関わっていくのかについて、様々な研究例をもとに紹介していく。						
授業の狙い・到達目標	自己や他者の捉え方における社会的性質、他者に対する行動や集団などにまつわる様々な現象から、社会的動物としての人間のありようを理解することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。						
授業外学習(予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
参考書・その他教材	授業の際に適宜紹介あるいは配布を行う。						
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー社会心理学とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	人間の社会性ー社会的性質と対人関係 人間の社会的性質や対人関係の特徴について自らの経験などをもとに考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	社会的認知①ー印象形成と対人認知 身の回りの様々な人について自分がどのようなイメージを持っているか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	社会的認知②ー帰属と社会的推論 うまくいったときと失敗したときの出来事を思い出し、その原因について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	態度ー認知的不協和と態度変容 自分が好き(嫌い)なもの、賛成(反対)だと考えることなどについてその理由を考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	感情ー感情の要素と機能 人間の感情(怒り、悲しみ、喜びなど)がどのようなことに役立っているか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	自己①ー自己概念と自己知識 自分自身についてどのようなイメージを持っているかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	自己②ー自尊心とアイデンティティ 自分の好きなところや嫌いなところなどについてその理由と合わせて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	対人関係①ーコミュニケーションと対人魅力 どのような理由によって人同士が仲良くなるのか自分の経験などをふまえて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	対人関係②ー援助行動と攻撃行動 困っている人を助ける理由について自分の経験などをふまえて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	集団①ーグループダイナミクスと社会的ジレンマ 人が集団をつくることのメリット・デメリットについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	集団②ーリーダーシップの機能 理想の上司やリーダーにはどのような特徴や能力が求められるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	集団③ー世論とマスメディア テレビやインターネットが人々の意見にどのような影響を与えるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	文化ー集団主義と個人主義 様々な国の文化の違いについて自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー社会における心のはたらき ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 社会における心のはたらきとはどのようなものかについて考えること

科 目 名	社会心理学Ⅱ（社会心理学Ⅱ）				科目コード	22040	
英 文 名	Social Psychology Ⅱ				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	原島 雅之			教員コード	142	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜 日・時 限		火曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との 対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	近年、社会心理学においては目標達成に関する研究が大きな注目を集め、数多くの研究知見が得られている。本教科では、そのような知見をもとに、どのように目標を立て実行すべきか、また、他者のモチベーションをどのように引き出したらよいかについて考える。						
授業の狙い・ 到達目標	目標の設定や追求に関する心理学的研究について学び、自分や他者のモチベーションを高め、適した方略を用いて遂行するやり方を身につけることができる。						
授業内容の レベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。						
授業外学習 (予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
参考書・ その他教材	ハルバーソン H. G. 児島修(訳)『やっつけのけるー意志力を使わずに自分を動かす』 大和書房						
課題に対する フィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー目標達成の心理学 シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	目標の設定①ー目標設定理論、行動の同定 自分自身の今の「目標」について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	目標の設定②ー暗黙の知能観、目標プライミング 人の知能や性格は変えられるかどうかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	目標追求のタイプ①ー「獲得型」と「防御型」 配布した質問紙に回答し集計を行い自分のタイプがどちらかを把握しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	目標追求のタイプ②ー「証明型」と「習得型」 配布した質問紙に回答し集計を行い自分のタイプがどちらかを把握しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	目標達成と満足感ー基本的欲求、内発的動機づけと外発的動機づけ 自分の目標を目指す「理由」は何なのかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	目標の選択ー目標追求のタイプと適した目標設定 ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 自身に適した目標の立て方を踏まえて自分の今の目標をあらためて捉え直すこと
8 回	学習内容 予習 復習	他者への目標設定ー選択の感覚、フレーミングと目標伝染 人からどのようなことを言われたときにやる気が出た、やる気を失ったかを考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	「誘惑」への対処ー誘惑と目標葛藤、セルフコントロール 目標追求を妨げる「誘惑」に負けないようにするにはどうしたらよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	目標追求の計画ー効果的な計画、実行意図の形成 自分の現在の目標を達成するための「計画」について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	自己制御ー自己制御資源と自我枯渇 誘惑に負けてしまうときや我慢ができないときはどんなときか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	楽観主義ー現実的な楽観主義と非現実的な楽観主義 現実的な楽観主義と非現実的な楽観主義の違いについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	長期的な目標追求ー目標をあきらめるときと粘るとき どのようなときに目標追求をあきらめたほうがよいのか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	他者へのフィードバックー心理学的に正しい「ほめ方」 どのような「ほめ方」が他者のやる気を高めるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー「目標」に向けてがんばるということ ここまでの学習内容を振り返り自分なりに整理しておくこと 自分の「目標」について今後どのように取り組めばよいかと考えること

科 目 名	教育心理学（教育心理学）			科目コード	22060	
英 文 名	Educational Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻（選択）	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	学習者に関わる心理学的知識と、教育者に関わる心理学的知識を広く紹介する。学習者については、学習や記憶の理論・現象、感情や動機づけの影響などについて学ぶ。教育者については、学習者に関する理論・現象を踏まえた教育の工夫や、注意点について学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	実験的手法や日常的な現象を中心に、学習と教育に関する心理学的研究法とその意義についての考えを深めることができる。 また、「自らが学ぶ姿勢」や「人にものを教える工夫」のヒントを得ることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士（日本心理学会）の取得資格を得ることができる。従って、資格に相応しいレベルは保つつもりである。本科目との隔年開講となっている「学習心理学」を履修しておく、本講義はより理解しやすくなる。					
授業外学習（予習・復習）	配布資料と授業中にとったメモを、改めてノートにまとめることを推奨する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。					
参考書・その他教材	市川伸一 『学習と教育の心理学 増補版』 岩波書店					
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。					
成績評価方法	期末試験（70%）、レポート・授業内の課題（20%）、授業への貢献度（10%）で総合的に評価する。					
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。（sakuma@aikoku-u.org）					

授業スケジュール

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:教育心理学の紹介 シラバスを読んでおく。 シラバスをしっかりと読み直しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	学習をする仕組み① 学習条件づけ 前回の授業で説明された「学習・教育とは何か」を説明できるようにしておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
3 回	学習内容 予習 復習	学習をする仕組み② 学習条件づけとルール志向行動、社会的学習 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
4 回	学習内容 予習 復習	学習の動機:内発的・外発的動機づけ① 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
5 回	学習内容 予習 復習	学習の動機:内発的・外発的動機づけ② 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
6 回	学習内容 予習 復習	動機の欠如と介入方法 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
7 回	学習内容 予習 復習	自己学習の効果と授業との関係 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
8 回	学習内容 予習 復習	学習転移の種類と条件 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
9 回	学習内容 予習 復習	教育のアプローチ:学習指導法 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
10 回	学習内容 予習 復習	教育のアプローチ:学習環境と授業形態の種類 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
11 回	学習内容 予習 復習	教育のアプローチ:行動的アプローチ、認知的アプローチと授業の組み立て 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
12 回	学習内容 予習 復習	学習者(児童・生徒)の個人差と評価 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で与えられた課題をこなす。
13 回	学習内容 予習 復習	教育者・学習者にありがちな心理学的問題 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
14 回	学習内容 予習 復習	教育の現場への心理学の貢献と課題、展望 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

科 目 名	性格心理学（性格心理学）				科目コード	22070	
英 文 名	Personality Psychology				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻（選択）	
担当教員	原島 雅之		教員コード	142		単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	「性格」ということばは日常の様々な場面で用いられ、多くの人が関心を持っているが、性格がそもそもどういうものを説明することはなかなか難しい。本講義では心理学においてこれまで性格がどのように捉えられ、扱われてきたのか、その理論や方法論などを紹介していく。						
授業の狙い・到達目標	心理学における性格に関する考え方、測定の方法などを知ることを通して、自分や他者の性格についての理解を深めることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎（心理学概論Ⅰ）を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。						
授業外学習（予習・復習）	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
参考書・その他教材	鈴木公啓（編）『パーソナリティ心理学概論－性格理解への扉－』ナカニシヤ出版						
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験（70%）、課題提出など（30%）によって総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー性格心理学とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	性格の理論①ー特性論と類型論 自分や身の回りの人の性格の特徴やタイプについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	性格の理論②ー状況論と相互作用論 様々な場面における自分の行動の特徴やパターンについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	性格の測定①ー観察と面接、作業検査 人の性格を測る際に何を「観察」すればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	性格の測定②ー質問紙と信頼性・妥当性の問題 人の性格を測る際にどのような「質問」をすればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	性格の遺伝ー行動遺伝学と双生児研究 性格は親から遺伝するか、それを調べるにはどうすればよいか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	性格の発達①ー青年期までの発達 生まれてから大人になるまで性格はどのように発達していくか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	性格の発達②ー成人期以降の発達 大人になってから性格は変わるかどうか、またその理由について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	性格と対人関係①ー学校や友人関係 学校や友人関係は性格にどのような影響を与えるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	性格と対人関係②ー家族や親密な関係 家族や親密な関係(恋人など)は性格にどのような影響を与えるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	さまざまな個人差①ー社会的認知における個人差 他者や対人関係、社会などの捉え方にはどのような個人差があるか考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	さまざまな個人差②ー感情経験における個人差 感情(喜びや悲しみ、怒りなど)の経験における個人差について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	性格の病理ー正常と異常、障害と病理 性格の「異常」や「病気」とはどのような状態を表すのかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	性格の背景ー文化と進化 文化の違いは性格にどのような影響を与えるかについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー「性格」とは何か ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 人や自分の「性格」とはどのようなものかについて考えること

科目名	臨床心理学（臨床心理学）			科目コード	22090	
英 文 名	Clinical Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻（選択）	
担当教員	原島 雅之		教員コード	142	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	近年、「うつ」などの心の病に関する認識が広まりつつあり、社会的な問題として扱われ始めている。本教科では様々な心理的問題、またその援助に関する理論や臨床の実践について紹介していく。					
授業の狙い・到達目標	臨床心理学における理論や介入の方法について知ることを通して、精神的健康や適応といった問題について理解するとともに、対処のためのスキルを身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎（心理学概論Ⅰ）を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。					
授業外学習（予習・復習）	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。					
参考書・その他教材	丹野義彦・坂本真士（著）『自分のところからよむ臨床心理学入門』 東京大学出版会					
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。					
成績評価方法	定期試験（70％）、課題提出など（30％）によって総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー「心の病気」とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	「うつ病」とは何かー「抑うつ」の意味、DSMによる診断基準 「うつ病」になるとはどういうことか自分なりに考えをまとめておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	うつ病のメカニズム①ー医学的説明、帰属理論と自己注目スタイル うつ病になる仕組みや治療法などについて自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	うつ病のメカニズム②ー認知のゆがみ理論、その他の気分障害 前回の内容をふまえ、うつ病になりやすい人の認知的特徴について考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	対人恐怖と社交不安障害①ー「対人恐怖」の意味、DSMによる診断基準 対人恐怖や社交不安障害について自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	対人恐怖と社交不安障害②ー医学的説明と認知的モデル、その他の不安障害 社交不安障害になる仕組みや治療法などについて自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	統合失調症①ーDSMによる診断基準、妄想と幻覚 統合失調症について自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	統合失調症②ー陽性症状と陰性症状、医学的説明と自我障害 統合失調症になる仕組みや治療法などについて自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	発達障害①ー自閉症スペクトラム障害(ASD) 自閉症スペクトラム障害について自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	発達障害②ー注意欠如・多動性障害(ADHD)、学習障害(LD) 注意欠如・多動性障害と学習障害についてそれぞれ自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	様々な心の問題についてのまとめ ここまでの授業内容をふまえ、心の病気や異常について自分の考えをまとめておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	心理的援助の方法①ーカウンセリング 心の問題を解決する方法としてのカウンセリングについて自分なりに調べておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	心理的援助の方法②ークライアント中心療法 前回の内容をふまえ、効果的なカウンセリングについて考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	心理的援助の方法③ー認知行動療法 「認知のゆがみ」について復習し、それをどのように修正したらよいか自分なりに考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	心理的援助のまとめと心のスキルアップ 心理的援助の方法について振り返り、日常生活で個人が応用できる例を考えておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと

科目名	産業心理学			科目コード	22100		
英 文 名	Industrial Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)		
担当教員	原島 雅之		教員コード	142		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	産業活動に関わる様々な問題に対する心理学的な取り組みを紹介する。その中でも特に、社会的にも最近大きな注目を集めている職場におけるメンタルヘルスの問題を取り上げる。						
授業の狙い・到達目標	将来、特に仕事をしていく中で生じる自身のストレスの状態を把握し、不調が生じた場合は早期にそれに気づき、適切な対処を行うことができるようになる。また、様々な産業活動における心理学の知見を理解し、自らの社会生活に活かすことができる。						
授業内容のレベル・関連科目	心理学基礎(心理学概論Ⅰ)を履修した後の、やや専門的な応用レベルの授業となる。						
授業外学習(予習・復習)	配布資料について事前に目を通したり、各回のトピックについて自分で調べるなどして授業に臨むこと。復習としては、授業内容と自分の日常生活との関わりについて考え、課題の提出に備えること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間	
使用教科書	特に使用しない。毎回の授業の際に資料を配布する。						
参考書・その他教材	大阪商工会議所(編)『メンタルヘルス・マネジメント [®] 検定試験公式テキストⅢ種セルフケアコース』中央経済社 山口裕幸・他(著)『経営とワークライフに生かそう! 産業・組織心理学』有斐閣アルマ						
課題に対するフィードバック	提出してもらった課題等についてのフィードバックは各回の授業において適宜行う。						
成績評価方法	定期試験(70%)、課題提出など(30%)によって総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日常生活における自分や身の回りの他者の心のはたらきに関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

授業スケジュール

産業心理学

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー産業心理学とは シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	ワーク・モチベーションー仕事の意欲や動機づけ、内容と過程 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
3 回	学習内容 予習 復習	職場のメンタルヘルスー労働者のストレス、メンタルヘルスケアの意義 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
4 回	学習内容 予習 復習	ストレスの基礎知識ーストレスとは、産業ストレスと健康障害 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
5 回	学習内容 予習 復習	メンタルヘルスの基礎知識ー心の健康問題 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
6 回	学習内容 予習 復習	セルフケアの重要性ー過重労働の影響と自己保健 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
7 回	学習内容 予習 復習	ストレスへの気づき①ー注意すべきリスク要因、仕事以外でのストレス 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
8 回	学習内容 予習 復習	ストレスへの気づき②ーストレスの影響、ストレスチェック 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
9 回	学習内容 予習 復習	ストレスへの対応①ーストレスの軽減方法、ストレス要因への対処 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
10 回	学習内容 予習 復習	ストレスへの対応②ー自発的な相談と資源の活用 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
11 回	学習内容 予習 復習	組織の心理学ー組織と人の関わり、リーダーシップと人事評価 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
12 回	学習内容 予習 復習	消費者の心理学①ー消費者行動と心理学 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
13 回	学習内容 予習 復習	消費者の心理学②ー広告と心理学 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
14 回	学習内容 予習 復習	インターネットの心理学ーコンピュータ・ネットワークと心理学 配布した資料について目を通しておくこと 学習内容を振り返り自分なりに整理し要約を行うこと
15 回	学習内容 予習 復習	まとめー産業・組織と心理学の関わり ここまでの学習内容を振り返り、自分なりに整理しておくこと 今後自分が仕事をしていく上で必要だと考える心理学的知識についてまとめておくこと

科目名	認知心理学（認知心理学）			科目コード	22110	
英 文 名	Cognitive Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻（必修）	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	認知心理学とは、心の仕組み・機構を論理的に解明する学問であり、比較的新しい領域でありながら、今やほとんど全ての心理学に影響を与えている。本講義では、認知心理学の代表的なトピックとされるいくつかの題材を学ぶとともに、それらを通して、手法としての認知心理学を学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	本講義で紹介する様々な研究を通して、「情報処理機構としての人の心」を理解する。また、実験データから行動の心的過程を推測しモデル化する手法と、その意義を習得することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士（日本心理学会）の取得資格を得ることができる。従って、資格に相応しいレベルは保つつもりである。関連科目は心理学概論Ⅱ、色彩心理学、学習心理学など。					
授業外学習（予習・復習）	配布資料と授業中にとったメモを、改めてノートにまとめることを推奨する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。毎回資料を配布する。					
参考書・その他教材	御領謙・菊地正、他『最新 認知心理学への招待―心の働きとしくみを探る』サイエンス社 日本認知心理学会（編）『認知心理学ハンドブック』有斐閣					
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。					
成績評価方法	期末試験（70％）、レポート・授業内の課題（20％）、授業への貢献度（10％）で総合的に評価する。					
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。（sakuma@aikoku-u.org）					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、認知心理学の紹介 シラバスを読んでおく。 シラバスをしっかりと読み直しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	認知心理学とは何か:認知心理学の研究法と理論 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
3 回	学習内容 予習 復習	知覚認知:感覚・知覚と認知 前回の授業で説明された「認知心理学とは何か」を説明できるようにしておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
4 回	学習内容 予習 復習	知覚認知:特徴統合、複雑な構造を持つ刺激の知覚 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
5 回	学習内容 予習 復習	注意:注意の概念、種類とモデル 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
6 回	学習内容 予習 復習	注意:注意の効果と諸現象 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で紹介された現象の日常的な例を探しておく。
7 回	学習内容 予習 復習	記憶:記憶の定義と分類 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
8 回	学習内容 予習 復習	記憶:記憶に関する心理学的諸現象 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で紹介された現象の日常的な例を探しておく。
9 回	学習内容 予習 復習	記憶:日常場面での記憶・知識と記憶法略 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
10 回	学習内容 予習 復習	思考:問題解決と推論 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
11 回	学習内容 予習 復習	思考:効用理論と意思決定論 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。授業で紹介された現象の日常的な例を探しておく。
12 回	学習内容 予習 復習	言語:単語の認知に関する心理学的諸現象 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
13 回	学習内容 予習 復習	言語:文章理解、心理学と言語学 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
14 回	学習内容 予習 復習	認知心理学的モデル:認知心理学が明らかにする心の機能 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
15 回	学習内容 予習 復習	認知心理学とは何か:まとめと復習 これまでまとめたノートをよく見直しておく。 試験の準備をする。

科目名	色彩心理学（色彩心理学）			科目コード	22120	
英 文 名	Color Psychology			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻（選択）	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	色は、日常で目にする物体の最も基本的な属性の一つであり、極めて身近なものである。しかし、実際には「色とは何か」、「色が見えるとはどういうことか」は一般的には知られていない。本講義では、色の仕組み、色にまつわる心理学的な諸現象の紹介を通して、色と人間の関わりを学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	色そのものの性質や色が見える仕組みなどについて理解することができる。 色彩学、色の知覚心理学、色彩デザインの基礎知識を習得することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	本学の心理学系科目をすべて履修し、卒業研究として心理学を選択すると、認定心理士（日本心理学会）の取得資格を得ることができる。従って、資格に相応しいレベルは保つつもりである。また、色彩検定UC級と3級（および2級の一部）の資格取得に役立つ内容が扱われる。					
授業外学習（予習・復習）	授業の前と後に、教科書の該当箇所を読んでおく。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	海保博之・日比野治雄・小山慎一（編）『朝倉実践心理学講座3 デザインと色彩の心理学』朝倉書店					
参考書・その他教材	公益社団法人 色彩検定協会 『色彩検定 公式テキスト 3級編（2020年改訂版）』					
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。					
成績評価方法	期末試験（70%）、レポート・授業内の課題（20%）、授業への貢献度（10%）で総合的に評価する。					
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	講義中の私語は慎むこと。許可を得ずに突然撮影することは禁止する。 カラーの資料をオンラインで提供する予定なので活用してほしい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。（sakuma@aikoku-u.org）					

1 回	学習内容 予習 復習	色彩心理学とは: イントロダクション、色彩心理学の紹介 シラバスをしっかりと読んでおく。 色彩検定についてインターネット等で簡単に調べておく。
2 回	学習内容 予習 復習	色と人間: 色と学問(心理学・光学・人間工学)の関わり 前回のノートをよく見直しておく。 ポイントをノートにまとめ直す。
3 回	学習内容 予習 復習	色とは何か: 色の正体と色が見える仕組み① 分光分布、分光反射率、錐体過程 教科書の第3章の前半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の前半部分の該当箇所を読み直す。
4 回	学習内容 予習 復習	色とは何か: 色の正体と色が見える仕組み② 錐体拮抗課程、混色 教科書の第3章の前半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の前半部分の該当箇所を読み直す。
5 回	学習内容 予習 復習	色の表し方: 色を定量的に表す方法(表色系の成り立ち) 教科書の第3章の後半部分について、図を中心に目を通しておく。 教科書の第3章の後半部分を読み直す。
6 回	学習内容 予習 復習	色の見え方: 物理的に定義される色と、人間個人に「見えた色」の違い 色とは何か、表色系とは何かについて、説明できるようにしておく。 教科書の第5章を読み直す。色の錯視の例を日常で探してみる。
7 回	学習内容 予習 復習	ここまでのまとめ: 眼球に光が入ってから色が見えるまで これまでの授業の要点を自分なりにまとめておく。 教科書の第3章を読み、内容が概ね理解できることを確認しておく。
8 回	学習内容 予習 復習	色名と色の分類: 日常的な色の分類の成立と、色名の持つ効果 色の名前を思い浮かんだ順にできるだけ書いてみる。 自分が書き上げた色名やその順序と、授業内容の関係を考えてみる。
9 回	学習内容 予習 復習	色の心理的効果: 網膜の錐体分布から考える「見えている景色」の不思議 色が見える仕組みについて見直しておく。 教科書の第6章について、図を中心に目を通しておく。
10 回	学習内容 予習 復習	色の心理的効果: 色が他の属性に与える影響 教科書の第6章に目を通しておく。 教科書の第6章を読み直す。
11 回	学習内容 予習 復習	色とデザイン: デザインや芸術における色の配置 教科書の第9章、第12章に目を通しておく。 教科書の第9章、第12章を読み直す。
12 回	学習内容 予習 復習	色覚の多様性: 等色実験と色覚検査、錐体の種類による色覚のタイプ 色が見える仕組みについて見直しておく。 錐体特性と色覚のタイプについてまとめる。
13 回	学習内容 予習 復習	色覚の多様性: 遺伝的多様性・疾病等による多様性と色のユニバーサルデザイン 色とは何かと、色覚のタイプについて説明できるようにしておく。 身近なもので「UCのもの」または「UCにすべきもの」を探す。
14 回	学習内容 予習 復習	色とイメージ: 感情やリラクゼーションと色のかかわり、「世間でいう色彩心理学」の問題点 インターネットで「色彩心理学」を検索し、おおまかな印象をまとめる。 心理学と疑似科学をどのように区別すればよいか考える。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習: これまでの授業のポイントを振り返る これまでの要点・重要語をよく見直しておく。 試験の準備をする。

科 目 名	心理学研究法 I				科目コード	22130	
英 文 名	Psychological Research Methods I				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	心理学という学問の、実践的な研究方法を紹介する。代表的な研究手法、データの分析手法を紹介した「心理学研究法」というテキストに沿って授業を進めていく。心理学研究法 I ではテキストの1章から7章にある、データの取得方法までをとりあげる。						
授業の狙い・到達目標	人間の行動とその心的過程を研究する方法(主にデータの取り方)を習得することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	心理学で卒業研究をする予定の学生は4年生になる前までに履修することが望ましい。また、この授業で学ぶ内容は、心理学実験実習 I、II で実践することができる。 逆に、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすめできない専門的な内容である。						
授業外学習(予習・復習)	授業の前と後に、教科書の該当箇所を読んでおく。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	大山正・岩脇三良・宮埜壽夫 『心理学研究法 データ収集・分析から論文作成まで』 サイエンス社						
参考書・その他教材	特になし						
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。						
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	研究方法に関する専門的な内容を扱うため、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすめしない。時間割を埋めるために登録するなどしないように注意願いたい。 私語は厳禁であるが、発言は歓迎する。講義中でも積極的に質問してほしい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)						

授業スケジュール

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:心理学とは何か、なぜ研究法が必要か シラバスをしっかりと読んでおく。 資料等を読み直しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	心理学研究法の特徴:心理学の研究対象と歴史 教科書の第1章に目を通しておく。 教科書の第1章を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	観察法・面接法・実験法:自然観察、条件を統制した観察と面接による観察のしかた 教科書の第2章に目を通しておく。 教科書の第2章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
5 ・ 6 回	学習内容 予習 復習	質問紙法:質問紙による調査データの収集法 教科書の第3章に目を通しておく。 教科書の第3章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
7 回	学習内容 予習 復習	SD法:イメージの測定、意味空間を調べるSD法の行い方 教科書の第4章に目を通しておく。 教科書の第4章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
8 ・ 9 回	学習内容 予習 復習	反応時間測定法:反応時間の測定方法とその意義 教科書の第5章に目を通しておく。 教科書の第5章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
10 ・ 11 ・ 12 回	学習内容 予習 復習	心理検査法:質問紙法、作業検査法、投影法による個人データの測定方法 教科書の第6章に目を通しておく。 教科書の第6章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
13 ・ 14 回	学習内容 予習 復習	心理物理学的測定法:刺激(物理量)と反応(心理量)の対応を求め、感覚を測る方法 教科書の第7章に目を通しておく。 教科書の第7章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 これまでの要点と重要語をまとめておく。 試験の準備やレポート執筆をする。

科 目 名	心理学研究法Ⅱ（心理学研究法Ⅱ）				科目コード	22140	
英 文 名	Psychological Research Methods Ⅱ				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148		単 位 数	2単位
開講期間	後期		曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	心理学という学問の、実践的な研究方法を紹介する。代表的な研究手法、データの分析手法を紹介した「心理学研究法」というテキストに沿って授業を進めていく。心理学研究法Ⅱではテキストの8章から14章にある、データの分析・解析の方法および研究のまとめ方をとりあげる。						
授業の狙い・到達目標	心理学研究に用いられるデータ解析法を習得することができる。統計学の基礎を学び、「データによって科学的に示された」とは何を意味するのかを理解することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	心理学で卒業研究をする予定の学生は4年生になる前までに履修することが望ましい。また、この授業で学ぶ内容は、心理学実験実習Ⅰ、Ⅱで実践することができる。 逆に、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすめできない専門的な内容である。						
授業外学習(予習・復習)	授業の前と後に、教科書の該当箇所を読んでおく。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	大山正・岩脇三良・宮埜壽夫「心理学研究法 データ収集・分析から論文作成まで」サイエンス社						
参考書・その他教材	特になし						
課題に対するフィードバック	授業で課した小レポートについては添削の上返却し、授業で全体の講評を行う。						
成績評価方法	期末試験(70%)、レポート・授業内の課題(20%)、授業への貢献度(10%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	研究方法に関する専門的な内容を扱うため、心理学の卒業研究や実験実習に興味のない者にはおすすめしない。時間割を埋めるために登録するなどしないように注意願いたい。 私語は厳禁であるが、発言は歓迎する。講義中でも積極的に質問してほしい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	授業の前後に教員に直接声をかけると、最も早い対応が期待できる。 質問はメールでも受け付ける。(sakuma@aikoku-u.org)						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:なぜ統計法が必要か、データの散らばりと代表値 シラバスをしっかりと読んでおく。 平均値、標準偏差とはそれぞれ何か、専門的に説明できるようにしておく。
2 回	学習内容 予習 復習	データ解析の基礎:平均、分散、正規分布と標本分布 教科書の第8章に目を通しておく。 教科書の第8章を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
3 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定① 仮説検証の論理と統計的検定のしくみ 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
4 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定② 実験計画の作成、代表的な実験計画 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
5 回	学習内容 予習 復習	実験計画・検定③ 分散分析の考え方と方法 教科書の第9章に目を通しておく。 教科書の第9章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
6 回	学習内容 予習 復習	相関と回帰① 相関係数と関係判断の誤り 教科書の第10章に目を通しておく。 教科書の第10章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
7 回	学習内容 予習 復習	相関と回帰② 回帰分析の考え方 教科書の第10章に目を通しておく。 教科書の第10章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
8 回	学習内容 予習 復習	相関と回帰③ 重回帰分析と因果判断 教科書の第10章に目を通しておく。 教科書の第10章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
9 回	学習内容 予習 復習	因子分析① 多変量解析・次元分解とは 教科書の第11章に目を通しておく。 教科書の第11章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
10 回	学習内容 予習 復習	因子分析② 主成分分析、因子分析の考え方と意義 教科書の第11章に目を通しておく。 教科書の第11章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
11 回	学習内容 予習 復習	多次元尺度構成:類似性の判断データの取得方法と分析法 教科書の第12章に目を通しておく。 教科書の第12章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
12 回	学習内容 予習 復習	カテゴリーデータの数量化① カテゴリーデータの取得方法と分析法 教科書の第13章に目を通しておく。 教科書の第13章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
13 回	学習内容 予習 復習	カテゴリーデータの数量化② 数量化の考え方 教科書の第13章に目を通しておく。 教科書の第13章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
14 回	学習内容 予習 復習	研究論文の書き方:論文執筆の一般的注意、研究論文の構成・内容 教科書の第14章に目を通しておく。 教科書の第14章の該当箇所を読み直し、要点と重要語をまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと復習 これまでの要点と重要語をまとめておく。 試験の準備やレポート執筆をする。

科 目 名	心理学実験実習Ⅰ（心理学実験実習Ⅰ）			科目コード	22150	
英 文 名	Psychological ExperimentsⅠ			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻（選択）	
担当教員	原島 雅之／佐久間 直人		教員コード	142／148	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	心理学の基礎的な実験としてよく知られているものをいくつか取り上げて実施する。実験・観察・調査等の方法について、受講者は実験者および研究対象者（実験参加者、調査協力者等）として参加体験する。毎回の実験についてレポート提出が求められる。					
授業の狙い・到達目標	心理学における実験的研究の基礎を修得する。心理学の実験や調査を単に経験するというだけでなく、得られたデータを分析および考察し、レポートにまとめることを通して、心のはたらきを科学的に説明するための知識や技能を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	実験ごとに毎回のレポート提出があるなど心理学系科目のなかではやや難しめレベルとなっている。また心理学研究法Ⅰ・Ⅱは受講しておくこと、もしくは合わせての受講が望ましい。					
授業外学習（予習・復習）	各回で行う実験については事前にテキストで確認をしておくこと。実験で得られたデータの集計や分析、レポート執筆については授業内の指示に従って各自行うこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	大和田智文・鈴木公啓（編）『心理学基礎実験を学ぶーデータ収集からレポート執筆までー』北樹出版					
参考書・その他教材	日本心理学会（編）『執筆・投稿の手引き（2015年改訂版）』 都築学（著）『心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ』有斐閣アルマ					
課題に対するフィードバック	提出された各回のレポートについては添削した上、返却を行い、授業内においても講評等を行う。					
成績評価方法	実習の参加態度（20％）、実験ごとのレポート（80％）で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	実験ごとのレポート提出など負担は大きい、「認定心理士」資格取得や心理学関連の卒業研究には欠かせない授業である。実習を行う都合上、遅刻および欠席は特に厳禁とする。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	原 島の連絡先：harashima@aikoku-u.org 佐久間の連絡先：sakuma@aikoku-u.org					

授業スケジュール

心理学実験実習 I

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー実験実習を行うための概要説明・注意事項 テキストの第1章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第1章を見直すこと
2 回	学習内容 予習 復習	レポートの書き方ー心理学実験レポートの書き方の説明 テキストの第18章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第18章を見直すこと
3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミュラー・リヤー錯視①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第2章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
5 ・ 6 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミュラー・リヤー錯視②ー実験の実施 テキストの第2章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミュラー・リヤー錯視③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第2章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	実験1:ミュラー・リヤー錯視④ーレポート作成 テキストの第2章を読んでおくこと レポートを作成すること
9 回	学習内容 予習 復習	実験1のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
10 ・ 11 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第5章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
12 ・ 13 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写②ー実験の実施 テキストの第5章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第5章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	実験2:鏡映描写④ーレポート作成 テキストの第5章を読んでおくこと レポートを作成すること

16 回	学習内容 予習 復習	実験2のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
17 ・ 18 回	学習内容 予習 復習	実験3:系列位置効果①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第7章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
19 ・ 20 回	学習内容 予習 復習	実験3:系列位置効果②ー実験の実施 テキストの第7章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
21 回	学習内容 予習 復習	実験3:系列位置効果③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第7章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
22 回	学習内容 予習 復習	実験3:系列位置効果④ーレポート作成 テキストの第7章を読んでおくこと レポートを作成すること
23 回	学習内容 予習 復習	実験3のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
24 ・ 25 回	学習内容 予習 復習	実験4:潜在態度①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第16章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
26 ・ 27 回	学習内容 予習 復習	実験4:潜在態度②ー実験の実施 テキストの第16章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
28 回	学習内容 予習 復習	実験4:潜在態度③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第16章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
29 回	学習内容 予習 復習	実験4:潜在態度④ーレポート作成 テキストの第16章を読んでおくこと レポートを作成すること
30 回	学習内容 予習 復習	実験4のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと

科 目 名	心理学実験実習Ⅱ（心理学実験実習Ⅱ）			科目コード	22160	
英 文 名	Psychological Experiments Ⅱ			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻（選択）	
担当教員	原島 雅之／佐久間 直人		教員コード	142／148	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	金曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	心理学実験実習Ⅰとは異なる実験を取り上げて実施する。実験・観察・調査等の方法について、受講者は実験者および研究対象者（実験参加者、調査協力者等）として参加体験する。毎回の実験についてレポート提出が求められる。					
授業の狙い・到達目標	授業目的は心理学実験実習Ⅰと同様、基礎的な心理学実験の実習を通して、心理学的な測定方法と評価・分析方法を修得することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	実験ごとにレポート提出があるなど心理学系科目のなかではやや難しめレベルとなっている。また心理学研究法Ⅰ・Ⅱは受講しておくこと、もしくは合わせての受講が望ましい。					
授業外学習（予習・復習）	各回で行う実験については事前にテキストで確認をしておくこと。実験で得られたデータの集計や分析、レポート執筆については授業内の指示に従って各自行うこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	大和田智文・鈴木公啓（編）『心理学基礎実験を学ぶーデータ収集からレポート執筆までー』北樹出版					
参考書・その他教材	日本心理学会（編）『執筆・投稿の手引き（2015年改訂版）』 都築学（著）『心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ』有斐閣アルマ					
課題に対するフィードバック	提出された各回のレポートについては添削した上、返却を行い、授業内においても講評等を行う。					
成績評価方法	実習の参加態度（20%）、実験ごとのレポート（80%）で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	実験ごとのレポート提出など負担は大きい、「認定心理士」資格取得や心理学関連の卒業研究には欠かせない授業である。実習を行う都合上、遅刻および欠席は特に厳禁とする。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org もしくは sakuma@aikoku-u.org まで					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー実験実習を行うための概要説明・注意事項 テキストの第1章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第1章を見直すこと
2 回	学習内容 予習 復習	実験データの整理法 テキストの第18章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第18章を見直すこと
3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	実験1:ストループ①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第4章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
5 ・ 6 回	学習内容 予習 復習	実験1:ストループ効果②ー実験の実施 テキストの第4章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	実験1:ストループ効果③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第4章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	実験1:ストループ効果④ーレポート作成 テキストの第4章を読んでおくこと レポートを作成すること
9 回	学習内容 予習 復習	実験1のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
10 ・ 11 回	学習内容 予習 復習	実験2:透明性錯覚①ー実験の背景解説および方法の説明 テキストの第12章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第2章を見直すこと
12 ・ 13 回	学習内容 予習 復習	実験2:透明性錯覚②ー実験の実施 テキストの第12章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	実験2:透明性錯覚③ー結果の整理とレポート準備 テキストの第12章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	実験2:透明性錯覚④ーレポート作成 テキストの第12章を読んでおくこと レポートを作成すること

16 回	学習内容 予習 復習	実験2のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
17 ・ 18 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題①－実験の背景解説および方法の説明 テキストの第7章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
19 ・ 20 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題②－実験の実施 テキストの第7章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
21 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題③－結果の整理とレポート準備 テキストの第7章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
22 回	学習内容 予習 復習	実験3:4枚カード問題④－レポート作成 テキストの第7章を読んでおくこと レポートを作成すること
23 回	学習内容 予習 復習	実験3のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと
24 ・ 25 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制①－実験の背景解説および方法の説明 テキストの第14章を読んでおくこと 配布資料およびテキストの第7章を見直すこと
26 ・ 27 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制②－実験の実施 テキストの第14章を読んでおくこと 実験で得られたデータのチェックをしておくこと
28 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制③－結果の整理とレポート準備 テキストの第14章を読んでおくこと レポート執筆に必要な準備をしておくこと
29 回	学習内容 予習 復習	実験4:社会的促進と抑制④－レポート作成 テキストの第14章を読んでおくこと レポートを作成すること
30 回	学習内容 予習 復習	実験4のレポート講評 自分で書いたレポートを見直しておくこと 講評内容をふまえてレポートの修正を行うこと

科目名	生活科学概論Ⅰ（生活科学入門）				科目コード	22180	
英 文 名	Outline of Life ScienceⅠ (Introduction to Life Science)				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(必修)	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	食・香料と生活を中心とする生活科学入門で、内容は栄養素とそれらの機能、機能性食品、特定保健用食品、食中毒、食品添加物、遺伝子組み換え食品と安全性、残留農薬、環境ホルモン、香料について全般的に解説する。						
授業の狙い・到達目標	現代の日常生活のなかに食と生活の重要性に鑑み、健康の保持・増進をはかり、さらに疾病予防等を目標とする。食生活や香料に興味を持ち、食や香料のもたらす健康への影響を理解できるようにする。自分の生活を見直し、より健康な生活を営む力を身につけることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	日常の生活を通じて、食・香料と生活について関心を持ち、科学的な面からの理解すること。生活科学概論Ⅱ、食品機能学、食文化論を併せて学習することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深める。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。						
参考書・その他教材	池田彩子ら編『基礎栄養学』東京化学同人；上野川修一ら編『食品の科学』東京化学同人						
課題に対するフィードバック	講義中の小テストは、その場で解説する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	期末課題発表(50%)、毎回の授業への取り組みと小テスト(50%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に教員に質問する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)						

授業スケジュール

生活科学概論Ⅰ（生活科学入門）

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、進め方などについて学ぶ。食と生活、栄養概論について学ぶ。 シラバスを熟読し、理解しておくこと。必須微量元素の種類について調べること。 授業内容について振り返り、必須微量元素について理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	食と生活、ビタミンの吸収・代謝・過不足症について学ぶ。 ビタミンについて調べること。 授業内容について振り返り、ビタミンなどについて理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	機能性食品、特定保健用食品について学ぶ。 機能性食品、特定保健用食品の分類について調べること。 授業内容について振り返り、栄養機能食品について理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	食と生活、バランスのとれた食生活について学ぶ。 五大栄養素について調べること。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	健康食品、ダイエット食品について学ぶ。 サプリメントについて調べること。 授業内容について振り返り、健康食品などについて理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	食中毒について学ぶ。 食中毒の分類について調べること。 授業内容について振り返り、食中毒の予防・対策について理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	食品添加物、食品保存法について学ぶ。 どんな食品添加物があるのかについて調べること。 授業内容について振り返り、食品添加物・保存法について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	バイオテクノロジーⅠについて学ぶ。 青いバラについて調べること。 授業内容について振り返り、遺伝子組み換えについて理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	バイオテクノロジーⅡについて学ぶ。 遺伝子組み換えの方法、安全性について調べること。 授業内容について振り返り、遺伝子組み換え食品の安全性について理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	食と環境、残留農薬(沈黙の春)について学ぶ。 『沈黙の春』およびその作者について調べること。 授業内容について振り返り、残留農薬について理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	食と環境、環境ホルモン(奪われし未来)について学ぶ。 『奪われし未来』およびその作者について調べること。 授業内容について振り返り、環境ホルモンについて理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	香料(フレーバー、フレグランス)について学ぶ。 フレーバー、フレグランスについて調べること。 授業内容について振り返り、香料について理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	アロマセラピーの入門知識について学ぶ。 生体の恒常性について調べること。 授業内容について振り返り、アロマセラピーについて理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	精油の基礎知識について学ぶ。 精油の種類について調べること。 授業内容について振り返り、精油について理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、総括。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について理解を深める。

科目名	生活科学概論Ⅱ（生活科学概論）			科目コード	22190	
英 文 名	Outline of Life Science Ⅱ (Outline of Life Science)			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	衣・住と生活に加え、香料と生活、森林浴と環境、化粧品の科学など現代の生活に密接に関係する課題について解説し、実生活にどう生かすかを説明する。					
授業の狙い・到達目標	生活科学の知識を身に付け、生活全般の諸課題を解決し、地域社会に貢献する力を養成する。また、具体的課題ではアロマセラピーの知識を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	日常の生活を通じて、科学的な面から理解し、自然災害など身近な生活課題との付き合い方について自ら考えることが大切である。人間文化演習(生活科学分野)を履修予定の学生は、2年次までに単位を修得しておくことが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深める。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。					
参考書・その他教材	公益社団法人日本アロマ環境協会著『アロマセラピー検定公式テキスト 1級・2級』世界文化社；田上八朗ら監修『化粧品科学ガイド 第2版』フレグランスジャーナル社					
課題に対するフィードバック	課題に対してその場でフィードバックを行う。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	課題(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)					

授業スケジュール

生活科学概論Ⅱ（生活科学概論）

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方、香りと暮らしなどについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	天然香料と合成香料について学ぶ。 香料の種類について調べること。 授業プリントを用いて香料について振り返り、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	森林浴と環境などについて学ぶ。 フィトンチッドについて調べること。 授業プリントを用いて森林浴について振り返り、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	皮膚の構造と機能などについて学ぶ。 皮膚の構造について調べること。 授業プリントを用いて化粧品の科学について振り返り、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	紫外線が皮膚に及ぼす影響について学ぶ。 赤外線と紫外線の違いについて調べること。 授業プリントを用いて皮膚と老化について振り返り、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	スキンケア、紫外線ケア、美白ケア化粧品などについて学ぶ。 コラーゲンとヒアルロン酸の違いについて調べること。 授業プリントを用いて化粧品の役割・機能性について振り返り、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	アロマセラピーの歴史について学ぶ。 アロマセラピーの歴史について調べること。 授業プリントを用いてアロマセラピーの歴史について振り返り、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	精油の科学などについて学ぶ。 精油のメカニズムについて調べること。 授業プリントを用いて精油の効能・メカニズムについて振り返り、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	アロマセラピーの利用法などについて学ぶ。 精油の各利用法について調べること。 授業プリントを用いてアロマセラピーの楽しみ方について振り返り、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	アロマセラピーの安全性について学ぶ。 光毒性について調べること。 授業プリントを用いてアロマセラピーを楽しむための注意点について振り返り、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	衣服材料の科学、衣服の着用感などについて学ぶ。 衣服材料の分類について調べること。 授業プリントを用いて衣服の科学について振り返り、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	洗剤の科学について学ぶ。 界面活性剤について調べること。 授業プリントを用いて洗剤について振り返り、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	住宅材料の科学、住まいの環境、文化などについて学ぶ。 住宅材料の種類について調べること。 授業プリントを用いて住宅の科学について振り返り、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	住宅と災害対策について学ぶ。 防震と耐震について調べること。 授業プリントを用いて住宅の災害予防について振り返り、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、総括。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について理解を深めること。

科 目 名	食文化論（日本及びアジアの食文化）			科目コード	22200	
英 文 名	Food Cultures (Japanese and Asian Food Culture)			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	日本とアジアの食文化、特に日本の食文化を位置づけたうえ米、酒、麺、茶、コーヒーなど食べ物の視点から見た各国食文化の特徴を考察する。					
授業の狙い・到達目標	アジアにおける国民の健康づくりのためにバランスを整った食生活を理解する。アジアの地域ごとの食文化の特徴を知る。各国の食文化の形成から、日本食への影響を考えられるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	日本とアジアの各国の食文化の特徴およびその違いについて理解を深め、各国の食に関する知恵を日常生活に活かせること。人間文化演習(生活科学分野)を履修予定の学生は、この授業を学習することが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深める。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。					
参考書・その他教材	岡田哲編『食の文化を知る事典』東京堂 石毛直道著『世界の食べ物』講談社					
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	発表・レポート(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)					

授業スケジュール

食文化論(日本及びアジアの食文化)

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	日本の伝統的食文化としての和食について学ぶ。 和食の食材について調べること。 授業プリントを用いて食文化としての和食について振り返り、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	和食の特徴について学ぶ。 一汁三菜について調べること。 授業プリントを用いて和食の特徴について振り返り、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	日本人の味覚と嗜好について学ぶ。 日本人が好きな主食、おかずについて調べること。 授業プリントを用いて日本の日常食事の特徴について振り返り、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	栄養面から見た日本型食生活的特質について学ぶ。 ニュートリゲノミクスについて調べること。 授業プリントを用いて日本型食生活について振り返り、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	京の食文化について学ぶ。 日本料理の五体系について調べること。 授業プリントを用いて京の食文化について振り返り、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	日本の行事と食文化について学ぶ。 日本の年中行事・節句について調べること。 授業プリントを用いて日本行事食について振り返り、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	アジア食文化、中国、韓国、モンゴルの食材、料理および栄養について学ぶ。 中国、韓国、モンゴルの食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	アジア食文化、ベトナム、タイ、カンボジアの食材、料理および栄養について学ぶ。 ベトナム、タイ、カンボジアの食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	アジア食文化、インド、スリランカ、ネパールの食材、料理および栄養について学ぶ。 インド、スリランカ、ネパール料理の食材の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各国の料理および栄養のバランスについて振り返り、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	嗜好品の文化、アジアのアルコール飲料について学ぶ。 酒の種類について調べること。 授業プリントを用いてアジアのアルコール飲料について振り返り、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	嗜好品の文化、アジアの茶とコーヒーについて学ぶ。 自国の茶とコーヒーについて調べること。 授業プリントを用いて各国の茶およびコーヒーの特徴について振り返り、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	微生物を利用する知恵、発酵食品の不思議について学ぶ。 発酵食品の種類について調べること。 授業プリントを用いて発酵食品の機能について振り返り、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	微生物を利用する知恵、アジアの発酵食品について学ぶ。 自国の発酵食品について調べること。 授業プリントを用いてアジアの発酵食品の特徴について振り返り、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、総括。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について理解を深めること。

科 目 名	食品機能学				科目コード	22210	
英 文 名	Food and Function				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(必修)	
担当教員	市川 遥夏			教員コード	134	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜 日・時 限		水曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	食品の一次機能(栄養性)、二次機能(嗜好性)、三次機能(生体調節機能)について解説し、特に生体調節機能にかかわる食品、食品成分、その効果およびその作用機序などについて説明する。						
授業の狙い・到達目標	食品成分の働き、生体との相互作用、食品に含まれる成分による疾病予防作用を理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	食に関心を持ち、食品科学の専門的な知識を学ぶ。人間文化演習(生活科学分野)を履修予定の学生は、2年次までに単位を修得しておくことが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回講義内容を十分に復習し、ノートにまとめること。また、毎回の授業内容に対応した練習問題に取り組むこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。						
参考書・その他教材	森田英利・田辺創一 『食品機能学』 第2版 三共出版						
課題に対するフィードバック	講義中の小テストはその場で解説する。						
成績評価方法	発表・レポート(70%)、小テスト(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	自主的に学修すること。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)						

授業スケジュール

食品機能学

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方、食品の3機能について学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
2 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、食品の一次機能(水、タンパク質)について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
3 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、食品の一次機能(糖質、脂質)について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
4 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、食品の微量栄養素の機能について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
5 回	学習内容 予習 復習	振り返りテスト、解説(小テスト)、食品の二次機能(味、香り、色)について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
6 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、ミネラルの吸収と代謝改善に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
7 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、腸内環境の調節に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
8 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、骨の健康・骨粗鬆症予防に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
9 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、歯の健康・う触予防に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
10 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、抗疲労効果に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
11 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、活性酸素と抗酸化物質に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
12 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、高血圧と降圧作用に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
13 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、抗肥満および予防改善に関する成分について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
14 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、機能性食品の制度について学ぶ。 事前に配布した資料を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。
15 回	学習内容 予習 復習	振り返り小テスト、解説(小テスト)、全体のまとめ。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について振り返り、ノートにまとめること。

科 目 名	食品衛生学				科目コード	22220	
英 文 名	Food Hygiene				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	市川 遥夏			教員コード	134	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	食品の安全、食品衛生法と関連法規および食中毒・食品媒介感染症・食品添加物・食品汚染物質などについて学ぶ。それに関する多くの事例を挙げながら解説する。						
授業の狙い・到達目標	多くの食品は世界の各地から輸入され、人々に多彩多様な食生活をもたらす。健康の維持・増進、疾病の予防に関する食品、食物及び栄養の知識を身につけることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	食の安全・安心の問題に対応できる食品の安全性に関する深い知識や考え方を習得する。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、教員からの指示をよく確認し、予習に取り組む。授業後、各回講義内容を十分に復習し、毎回練習問題に取り組むこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	川添禎浩『新版 食品衛生学』化学同人						
参考書・その他教材	特になし						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。講義中の小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	発表・レポート(70%)、毎回小テスト(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	テキストは必ず用意すること。 主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)						

授業スケジュール

食品衛生学

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方、食品の安全などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要について理解しておく。 授業内容について振り返り、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	食品の安全、食品衛生法と関連法規などについて学ぶ。 教科書の第2章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
3 回	学習内容 予習 復習	細菌性食中毒について学ぶ。 教科書の第3章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
4 回	学習内容 予習 復習	食品媒介感染症について学ぶ。 教科書の第4章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第2～4回の諸課題をレポートにまとめる。
5 回	学習内容 予習 復習	動物性自然毒食中毒について学ぶ。 教科書の第5章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
6 回	学習内容 予習 復習	植物性自然毒食中毒について学ぶ。 教科書の第6章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
7 回	学習内容 予習 復習	化学性食中毒について学ぶ。 教科書の第7章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第5～7回の諸課題をレポートにまとめる。
8 回	学習内容 予習 復習	課題発表。前半のまとめ。第1回～第7回までの講義をおさらいする。 第1～7回の講義内容を復習しておくこと。 第1～7回の授業内容について振り返り、間違った問題について解きなおすこと。
9 回	学習内容 予習 復習	真菌中毒症について学ぶ。 教科書の第8章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
10 回	学習内容 予習 復習	食品の変質について学ぶ。 教科書の第9章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
11 回	学習内容 予習 復習	食品添加物について学ぶ。 教科書の第10章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第9～11回の諸課題をレポートにまとめる。
12 回	学習内容 予習 復習	食品の器具・容器包装、異物、衛生動物について学ぶ。 教科書の第11章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
13 回	学習内容 予習 復習	食品汚染物質について学ぶ。 教科書の第12章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。
14 回	学習内容 予習 復習	食品の毒性学について学ぶ。 教科書の第13章を読んでおくこと。 授業内容について振り返り、練習問題に取り組むこと。第12～14回の諸課題をレポートにまとめる。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、総括。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 全15回授業内容について振り返り、諸課題をレポートにまとめる。

科目名	社会福祉論（社会福祉論）				科目コード	22230	
英 文 名	Social Welfare				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(必修)	
担当教員	赤羽根 和恵			教員コード	152	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・5時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	社会福祉制度の概要を学ぶ。近年、急激に進む少子・高齢社会への対応として、福祉に関する各サービスの利用方法やサービスの種類等の制度改正が行われている。社会福祉への理解を深めるために、高齢者介護サービス、保育・子育て支援サービス中心にトピックも取り上げる。						
授業の狙い・到達目標	到達目標①:社会福祉の理念と意義について学び、社会福祉の対象を説明できる。 到達目標②:ライフステージと社会福祉制度の関わりを、学んだ用語を用いて説明できる。 到達目標③:生活上の課題事例について、地域包括ケアシステムを活用して解決を提示できる。						
授業内容のレベル・関連科目	日常の生活を通じて、福祉について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。 社会保障論を併せて学習することが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	事前学習:社会福祉に関するニュースに関心を持ち、専門用語(キーワード)を調べる。 事後学習:授業で学んだことを復習して、次の授業に備える。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	毎回、資料を配布する。						
参考書・その他教材	大久保秀子『新社会福祉とは何か(第3版)』中央法規 森田明美編著『よくわかる女性と福祉』ミネルヴァ書房						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。 最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	授業参加度(30%)、中間レポート(30%)、期末レポート(40%)として評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。遅刻・欠席をせずに参加をすること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:akabane@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	「社会福祉論」へのアプローチ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	現代社会の特質と社会福祉 現代社会の中でどのような福祉が行われているか調べ、理解をしておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	社会福祉と社会保障、ノーマライゼーション 日本の社会保障制度を調べ、その意義について理解しておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	日本と欧米における社会福祉の歴史、「各国の取り組み」グループワーク 社会福祉の歴史と取り組みについて調べてくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	社会福祉の法制度 社会福祉に関する法律について調べてくる。 授業内容について振り返り、これをレポートにまとめ提出する。
6 回	学習内容 予習 復習	社会福祉の行政機関と財政 社会福祉に関する財政について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	ソーシャルワークの概念と展開 ソーシャルワークとは何か調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	援助関係の意義とソーシャルワークの価値、「3つのきく」グループワーク ソーシャルワークにおける援助関係について発言できるようにしておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	貧困問題と生活保護制度、防貧と救貧、ソーシャルネットワーク 現代社会の貧困問題について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	高齢者の生活と福祉、入院と入所 高齢者の定義を調べておく。 授業内容について振り返り、これをレポートにまとめ提出する。
11 回	学習内容 予習 復習	児童家庭福祉と次世代育成の展開、子どもの権利 子どもが抱える問題について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	障がい者の自立と福祉 障がい者の抱える問題について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	地域福祉と地域包括ケアシステム 地域福祉とは何か調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	テクノロジーの活用、総合福祉の展開、「とりこぼしのない福祉」グループワーク 「とりこぼしのない福祉」とは何か考えて発言できるようにしておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り 近年、話題となっている社会福祉関連のトピックスについて調べておく。 全15回の授業を振り返り、社会福祉についての諸課題をレポートにまとめ提出する。

科 目 名	女性労働論（女性労働論）				科目コード	22240	
英 文 名	Women and Work				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻（選択）	
担当教員	赤羽根 和恵			教員コード	152	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける				2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	「男女雇用機会均等法」の施行以降、女性労働者を取り巻く環境の変化と未だ顕在する問題について理解をする。女性は出産で退職後、子育てが一段落した後に労働市場へ再参入し、非正規雇用が多くみられる。多様な働き方をする女性の問題と今後の課題を検討する。						
授業の狙い・到達目標	到達目標①：女性を取り巻く環境と問題について、学んだ用語を用いて説明ができる。 到達目標②：統計データと法制度を理解して、女性の労働環境の改善について意見を述べることができる。 到達目標③：働く上での課題解決に活用することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	日常の生活を通じて、女性労働について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。経営関連科目を併せて学習することが望ましい。						
授業外学習（予習・復習）	事前学習：女性に関する施策、雇用に関するニュースに関心を持ち、専門用語（キーワード）を調べる。 事後学習：授業で学んだことを復習して、次の授業に備える。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	毎回、資料を配布する。						
参考書・その他教材	東京都産業労働局編『働く女性と労働法〔最新版〕』 加藤容子・小倉祥子・三宅美樹著『わたしのキャリア・デザイナー―社会・組織・個人―』ナカニシヤ出版						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	授業参加度（30％）、中間レポート（30％）、期末レポート（40％）として評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	統計データを用いた資料を読み文章にまとめる。 グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。遅刻・欠席をせずに参加をすること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける（mail to:akabane@aikoku-u.org） 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

女性労働論

1 回	学習内容 予習 復習	「女性労働論」へのアプローチ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	性別役割分業から男女共同参画へ 性別役割分業とは何か調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	雇用統計(労働力人口、労働力率、就業形態、従業上の地位) 労働人口と労働力率についてわかるようにしておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	雇用統計(産業、職種、管理職、賃金、女性の職業生涯) 女性の管理職率を調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	労働基準法、労働契約法、労働組合法、男女雇用機会均等法 仕事に関する法律について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	男女共同参画基本法、女性活躍推進法 男女共同参画の意義を調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	育児・介護休業法、パートタイム労働法、労働者派遣法 働く女性に関係のある法律を調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	「女性の活躍について」グループディスカッション・発表 これまでの授業を振り返り、女性が活躍するために必要な事を考えてくる。 女性の活躍に必要なことをまとめレポートを提出する。
9 回	学習内容 予習 復習	雇用保険制度、年金保険制度 社会保険について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	ライフイベントと社会保障のシュミレーション 自分の将来について考え、どのようなライフイベントがあるか書き出してくる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	ワーク・ライフ・バランスの事例、国際比較 ワーク・ライフ・バランスについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	ダイバーシティの事例、国際比較 ダイバーシティとは何か調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	多様な産業・職種を考える 将来就きたい職業について具体的に考えてくる。 将来就きたい職業について発表できるようにまとめる。
14 回	学習内容 予習 復習	将来の職業への抱負(発表) 発表の準備とスピーチの練習をしておく。 授業内容について振り返り、再度スピーチの原稿を加筆・修正をして提出をする。
15 回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り 授業を振り返り、質問を考えてくる。 全15回の授業を振り返り、女性の雇用問題についての諸課題をとりまとめる。

科目名	介護・児童福祉論（介護福祉論or児童福祉論）			科目コード	22250	
英 文 名	Care and Child Welfare (Care and Welfare or Child Welfare)			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻（選択）	
担当教員	赤羽根 和恵		教員コード	152	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本講義では、前半に介護が必要な高齢者や障がいのある人が、その人らしい人生が送れるように社会資源を活用しながら自立支援を行うことについて理解を深める。そして、後半では子どもの権利と子育て家庭への社会的支援について学ぶ。今日の子どもを巡る社会問題について考える。これら福祉の対象者について、社会のさまざまな制度、地域との連携も含め多角的に考える。					
授業の狙い・到達目標	到達目標①:介護を必要とする人や子どもが、なぜ支援が必要か多様な視点で考えることができる。 到達目標②:対象者の生活の質(QOL)を高める援助の事例について、説明ができる。 到達目標③:福祉の今日的課題について、意見を述べることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	日常の生活を通じて、福祉について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。「社会保障論」を併せて学習することが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	事前学習:住んでいる自治体のホームページ、市報などを読み、介護福祉と児童福祉の情報を得る。ニュースに関心を持ち、専門用語(キーワード)を調べる。 事後学習:授業で学んだことを復習して、次の授業に備える。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	毎回、資料を配布する。					
参考書・その他教材	NHKテキスト『社会福祉セミナー』NHK出版 他					
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	授業参加度(30%)、養成講座受講・発表・レポート(30%)、期末レポート(40%)として評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。遅刻・欠席をせずに参加をすること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:akabane@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

介護・児童福祉論(介護福祉論or児童福祉論)

1 回	学習内容 予習 復習	「介護・児童福祉論」へのアプローチ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	人間の多様性・複雑性、利用者の生活、ノーマライゼーション 「社会福祉論」で学んだことを見返し、ノーマライゼーションについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	障がい者の生活理解、障がい者自立支援制度におけるサービスの概要 障がいを持つ人が抱える問題と障がい者の自立支援について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	高齢者の生活理解、高齢者の健康とその維持、疾患(生活習慣病、認知症など) 高齢者の暮らしについてどのような問題があるか調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	地域福祉への理解 住んでいる自治体のホームページを見て、高齢者福祉への取組みについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	ICFと介護保険制度、介護サービス 介護保険について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	在宅療養と居宅サービスの特性 居宅サービスの特性について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	人生会議 人生の最期の迎え方について考えておく。 ワークシートを完成させて、自分の考えをまとめレポートと共に提出をすること。
9 回	学習内容 予習 復習	児童福祉の理念と子どもの権利 子どもの権利について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	子ども・子育て家庭の現状と児童福祉の法制概要 児童福祉に関する法律と制度について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	子どもを取り巻く今日の問題①家族の多様化・階層化 ニュースになった子どもをめぐる問題について調べる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	子どもを取り巻く今日の問題②子どもの虐待・子どもの貧困 ニュースになった子どもをめぐる問題について調べる。 授業内容について振り返り、理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	地域における取組、子ども家庭福祉サービス 住んでいる自治体のホームページを見て、子どもに関連する取組みについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	多様なニーズに応える職種とその連携、地域との結びつき 社会福祉関連の職種について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り 社会的支援が必要な人への配慮、今後の関りについて考えてくること。 全15回の授業を振り返り、関心のある問題についての諸課題をとりまとめてレポートを提出すること。

科 目 名	生活経済学（生活経済学）				科目コード	22260	
英 文 名	Life Economics				科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻（選択）	
担当教員	赤羽根 和恵			教員コード	152	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜 日・時 限		火曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する			◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	授業の目的は、政府、企業、消費者の役割について理解を深め、経済主体としての家計の担う役割を理解をする。家計に関する各調査データを見て実態を把握する。消費者問題について様々な側面から考える力を養う事である。近年、積極的な取り組みが見られるエシカル消費も取り上げる。						
授業の狙い・到達目標	到達目標①：家計管理とライフイベントにかかる費用を知り、ライフプランを立てることができる。 到達目標②：契約について理解をし、クーリングオフの説明ができる。 到達目標③：悪徳商法と消費者問題の事例について、回避と解決方法、相談先を示すことができる。						
授業内容のレベル・関連科目	生活に直結する金融・経済について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。						
授業外学習（予習・復習）	事前学習：金融・経済に関するニュースに関心を持ち、専門用語（キーワード）を調べる。 事後学習：授業で学んだことを、生活と関係づけて考える。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	毎回、資料を配布する。						
参考書・その他教材	くらしの豆知識〔最新版〕国民生活センター 総務省統計局「家計調査」、「全国消費実態調査」 泉美智子・坂本綾子『お金の超基本』朝日新聞出版社など						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、良い点や注意点などについて、若干のコメントを記入して返却をする。 最終時に振り返りの時間を設け、全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	授業参加度（30％）、中間レポート（30％）、期末レポート（40％）として評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	グループワークを実施するため、事前学習をして自分の意見を述べるようにする。遅刻・欠席をせずに参加をすること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける（mail to:akabane@aikoku-u.org） 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

生活経済学

1 回	学習内容 予習 復習	「生活経済学」へのアプローチ シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておく。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	経済主体としての家計・生活 経済主体について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	家計の運営 1週間の収入と支出を書いて持参する。 授業内容について振り返り、理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	給与明細の見かた 1週間の収入と支出を書いて持参する。 授業内容について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	家計・生活の変容(高度成長期) 1週間の収入と支出を書いて持参する。 授業内容について振り返り、理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	総務省統計局「家計調査」、「全国消費実態調査」などから見る家計 1週間の収入と支出を書いて持参する。 授業内容について振り返り、理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	家計・生活の実態 4週間分の記録を集計して持参する。 1か月分の家計の収支の記録について考えをまとめてレポートを提出する。
8 回	学習内容 予習 復習	ローンの計算方法、グループワーク ローンのしくみについて調べておく。 宿題のローン計算問題を行って次回提出すること。
9 回	学習内容 予習 復習	契約 契約について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	クレジット 支払方法について調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	クーリングオフ クーリングオフについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	消費者トラブル①若者・女性 若者と女性に多い消費者トラブルについて調べておく。 授業内容について振り返り、理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	消費者トラブル②高齢者 高齢者に多い消費者トラブルについて調べておく。 消費者トラブルについて学んだことをレポートにまとめ提出する。
14 回	学習内容 予習 復習	エシカル消費 エシカル消費について調べておく。 エシカル消費について学んだことをレポートにまとめ提出する。
15 回	学習内容 予習 復習	授業の振り返り これまでのレジュメを見直しておく。 全15回の授業を振り返り、関心のあるテーマについてレポートにまとめ提出する。

専攻科目
(心理・生活専攻)

科目名	障がい者コミュニケーション(比較文化論Ⅰ)			科目コード	22270	
英 文 名	Communication for people with disabilities			科目区分	【専門科目】 心理・生活専攻(選択)	
担当教員	小川 雅夫		教員コード	257	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義・演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探求する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	先天性、後天性も含め誰しもが関係しうる「障害」に対し、その状況に陥った人とどのようにコミュニケーションを行っていくべきかを、主として聴覚障害者のコミュニケーション手段の理解を通して探る。					
授業の狙い・到達目標	・日本語獲得を前提とした様々なコミュニケーション手段があることを知る。 ・母語(生まれてすぐに身につけた言語)としての手話等のコミュニケーションツールを理解する。 ・個々の言語獲得が様々な障害種、人種を越えた文化の理解に繋がっていることを知る。 ・手話、点字、白杖等を実際に使うことを通し、日常生活における障害者への理解を深めることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	手話、点字等のコミュニケーション手段を知ることで「障害」についての考えを深める。言語学と関連のある内容を含む。また演習として手話を使った会話などを行い、手話表現の合理性、便利性、さらにはその限界を知る。関連科目としては日本語学概論ⅠⅡ、比較文化論Ⅱがあげられる。					
授業外学習(予習・復習)	授業内に課題を提示し、授業後半に課題をこなすことで復習、確認とする。また合わせて次回に取り上げる内容で、調べておくべき事柄を伝える。課題については次回の初めに解答と確認を行う。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	各回の内容について当日に印刷物として配布する。					
参考書・その他教材	視覚・聴覚障害者の教育支援 小川雅夫・松崎美保子・井口次郎共著(淑徳大学) 聴覚障害者の心理 中野善達・吉野公喜共著(田研出版)					
課題に対するフィードバック	授業内に課題を提示し、授業後半に課題をこなすことで復習、確認とする。次回の初めに前回の課題を取り上げ、解答と確認を行う。最終授業で全体のまとめを行う。					
成績評価方法	定期試験(40%)、課題(30%)、授業中の発言・意見・発表内容(30%)から総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	障害者への理解に関心を深めるとともに、主体的なコミュニケーション活動を通じて、障害者の社会参加に寄与する。					
科目に関連した教員の実務経験	県立聾学校教員として勤務していたほか、県総合教育センターで聴覚障害者と対応する業務に携わる。大学非常勤講師で聴覚障害者の心理および教育論を担当。 言語聴覚士として聴覚障害判定業務を担当。					
担当教員への連絡方法	個人メールで対応する。(アドレスは初回の授業で周知する)					

授業スケジュール

障がい者コミュニケーション(比較文化論Ⅰ)

1 回	学習内容 予習 復習	知らない言葉による説明でも「状況」が理解できることに、「母語」の獲得が関連することを理解する。 字幕のない外国映画や音声のないアニメーションを見て理解できるかを体験する。 状況理解に言語がか関わっていることを確認する。
2 回	学習内容 予習 復習	様々なコミュニケーション手段を紹介する。併せて簡単な使い方を知る。 手話や点字の特徴、使い方を学習しておく。 指文字を練習する。簡単な「手話」で会話ができるようにする。
3 回	学習内容 予習 復習	聴覚障害教育の歴史とコミュニケーション手段について知る。 過去、あるいは戦時、貧困状況で障害者が社会でどのような状況に陥っていたかを考える。 障害者の社会における厳しい時代があったこと、現在もあることを理解する。
4 回	学習内容 予習 復習	聾者の手話言語と聴者の会話言語の根本的な違いを知る。 様々なサイン言語、暗号、隠語について調べておく。 日本語と日本手話の違いを確認する。
5 回	学習内容 予習 復習	会話言語(一次言語)と書記言語(二次言語)の違い、書記言語獲得の必要性について考える。 聞いて理解することと書かれているものを理解することの違いを考える。 多くの学問が文化・歴史教育であること、記述は書記言語で記されていることを理解する。
6 回	学習内容 予習 復習	二次言語獲得の時期について自分の経験を振り返って考える。 本を読んで夢中になったのはいつ頃だったのかを各自思い出し、そのときの状況を考える。 一次言語理解から二次言語理解に至る状況を理解する。
7 回	学習内容 予習 復習	手話も言語であるが、状況をすべて伝えることができる万能ではなことを理解する。 手話の歴史を学習しておく。 日本手話と日本語手話の違いを理解する。
8 回	学習内容 予習 復習	日本語言語が状況依存(コンテキスト)の高い言語であることを知る。 状況を説明するために、直接的に言う以外に、別の表現を使って説明する状況を考える。 手話が直接的な表現をする言語であることを理解する。
9 回	学習内容 予習 復習	同じ聴覚障害でも、聞こえ方が個々により大きく異なることを知る。 聞こえの程度がどのようなものを調べておく。 障害の程度の違いが、本人の獲得する言語および発声に大きく関係があることを理解する。
10 回	学習内容 予習 復習	聴覚障害者の言語環境および聞こえの程度が、話すことへどのような影響を与えるか考える。 難聴者には軽度、中度、高度の程度の差があることを調べておく。 オーディオグラムの見かたについて確認する。
11 回	学習内容 予習 復習	人工内耳を選択する状況、人工内耳の現状を理解する。 人工内耳の仕組みについて調べておく。 人工内耳の手術が、本人の第一言語として音声言語を選ぶことにつながることを理解する。
12 回	学習内容 予習 復習	点字の仕組みについてについて知り、実際に点字を打って点字への理解を深める 身の回りにある点字を見つける 身の回りに記載されている点字を読み、どのように記載されているかを知る
13 回	学習内容 予習 復習	白杖の意味、使い方を実際に道路上を歩いて知る 白杖が法律でどのような扱いとされているのかを調べる 点字ブロックを日常の中で意識してみる
14 回	学習内容 予習 復習	点字ブロックがいかに理解されていないか、ビデオや写真を通して知る 通学する中、点字ブロックを阻害している状況を調べる 率先して点字ブロックの意味、意義について家族や知人に広める
15 回	学習内容 予習 復習	障害の有無にかかわらずインクルーシブ社会で生活していくための心構えを考える。 手話、点字、白杖の生活で使うことが必要とする人を想像し、自分として何をすべきかを考える。 障害者とともに生活するより良い日本社会の創造に寄与する

科目名	法律学概論（現代の法律Ⅱ）				科目コード	23010	
英 文 名	Outline of Law (Contemporary Law Ⅱ)				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	太田和 良幸			教員コード	154	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限		木曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日常生活で遭遇する可能性のある各種の法的事案について、どのように対処したら良いのか具体的事例に沿って学習することにより、法に親しみ、法の理解を促進する。						
授業の狙い・到達目標	法律や条例についての理解を深め、日常生活で遭遇する事案やマスコミなどで報道される種々の事案について、法の観点から興味を持ち、考えられるようになることを目指す。 日常生活に関連する具体的な事例を通して、法に関する基礎的な知識を獲得するとともに、社会問題の解決方法について法的に考察する力を身に付けることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	高等学校の社会科などの知識が必要であり、これらが基礎となる。 本授業の履修に当たっては、事前に「日本国憲法」(「現代の法律Ⅰ」)を履修することが望まれる。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。						
参考書・その他教材	池田真朗・犬伏由子・野川忍他『法の世界へ 第7版』有斐閣アルマ e-Gov法令検索（web上で提供される日本の法令の検索・閲覧システム）						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日常生活の中で法について関心を持ち、自分の意見をまとめておくことが大事である。						
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には、★印を付して下線を引いてある。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to:ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

法律学概論(現代の法律Ⅱ)

1 回	学習内容 予習 復習	【イントロダクション】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2 回	学習内容 予習 復習	社会規範と法の関係並びに法制度の概要について学ぶ。 社会規範の中の法の役割について調べ、理解を得ること 授業内容(法制度の概要)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
3 回	学習内容 予習 復習	多くの人が経験する「婚姻」についてその意味、法律的效果を学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(婚姻の成立と効力)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
4 回	学習内容 予習 復習	「成年」について、その意味、法律的效果を学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(青年と未成年)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
5 回	学習内容 予習 復習	住まいを借りた時に生じる諸問題について法律的観点から学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(住まいと賃貸契約)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
6 回	学習内容 予習 復習	インターネット使用時に遭遇する可能性のある詐欺事案について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(インターネット上の詐欺)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
7 回	学習内容 予習 復習	インターネット上で陥りやすい権利侵害の事案について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(インターネット上の権利侵害)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	情報化社会にあって「情報」の取扱に関して注意すべき点について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(情報公開と個人情報保護)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	★知的財産権がインターネット上でどのように保護されているかについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(インターネットと知的財産権)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	消費者契約上でどのように消費者の利益が保護されているかについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(消費者契約と消費者保護)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
11 回	学習内容 予習 復習	友人間での感情的対立が引き起こすトラブルの法律的效果について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(友人間でのトラブル)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
12 回	学習内容 予習 復習	★各種の迷惑行為と各都道府県が制定する条例との関係について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(迷惑行為と条例)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
13 回	学習内容 予習 復習	自動車運転に関する法制と事故時の責任等について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(自動車運転と責任)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	アルバイトで経験する労働環境と労働法との関係について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業内容(アルバイトと労働法)について振り返り、これをレポートにまとめ提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	【まとめ】法制度における今日的課題について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 全15回の授業を振り返り、法制度の今日的諸課題をとりまとめること

科目名	社会学概論				科目コード	23020	
英 文 名	Outline of Sociology				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	晨 晃		教員コード	209		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との 対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	我々は社会という客観的な環境の中で生きている。この社会を研究する学問である社会学につき、その基本概念、諸理論、研究分野、また学問の歴史を学ぶ。						
授業の狙い・ 到達目標	本講義では、社会学の基礎知識を身に付け、特に人間の相互行為との関係を理解していくことを狙いとして進めたい。社会とは何か、人々の社会行為とは何かについて学び、社会人の自覚性を身に付けられるようになる。						
授業内容の レベル・関連科目	社会学は人と社会の関係に関する学問である。学習を通して社会生活により適応できるような人間になることが重要である。関連科目は特になし。社会学関連では唯一の科目なので、興味のある学生の積極的な受講を希望する。						
授業外学習 (予習・復習)	授業の前に教科書を読み、授業後、授業の内容について質問や感想文をまとめて提出する。次回の授業で解答や意見交換を行う。					授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	富永健一 『社会学講義一人と社会の学』 中央公論社						
参考書・ その他教材	毎日のニュースに注目すること						
課題に対する フィードバック	教科書の一章ごとに課題を考えさせ、レポートとして提出されたものに解答・解説をする。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	期末レポート(40%)、課題(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to: hayashi@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

社会学概論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——授業の目的と内容、授業の進め方などについて説明する。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること
2 回	学習内容 予習 復習	第一章社会の学としての社会学 第一節社会学とは何かについて学ぶ。 社会という概念について調べ、理解すること(教科書の第一章第一節を読む) 社会学の定義について振り返り、これをレポートとして提出すること
3 回	学習内容 予習 復習	第一章第二節社会学の研究対象について学ぶ。 ミクロ社会、マクロ社会の関係を調べ、理解すること(第一章第二節を読む) 社会と文化、社会と環境の関係について振り返り、レポートを提出すること
4 回	学習内容 予習 復習	第一章第三節社会学の研究諸部門について学ぶ。 研究対象と研究方法について調べ、理解すること(第一章第三節を読む) 社会学の研究所部門について振り返り、レポートを提出すること
5 回	学習内容 予習 復習	第二章理論社会学 第一節ミクロ社会について学ぶ。 人間の行為について調べ、理解すること(教科書の第二章第一節を読む) 社会学におけるミクロレベルの研究について振り返り、レポートを提出すること
6 回	学習内容 予習 復習	第二章第二節マクロ社会学(1)社会システム構造論について学ぶ。 社会システムの諸類型について調べ、理解すること(第二章第二節を読む) 社会構造論の研究について振り返り、レポートを提出すること
7 回	学習内容 予習 復習	第二章第三節マクロ社会学(2)社会システム変動論について学ぶ。 社会構造と社会変動の関係について調べ、理解すること(第二章第三節を読む) 社会変動の内容——近代化について振り返り、レポートを提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	第三章領域社会学と経験社会学 第一節領域社会学について学ぶ。 内包的、外延的領域社会学について調べ、理解すること(第三章第一節を読む) 自分の領域社会学を選べ、レポートを提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	第三章第二節経験社会学(1)社会調査について学ぶ。 社会学の経験的特性について調べ、理解すること(第三章第二節を読む) 自分の社会調査テーマを選べ、レポートを提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	第三章第三節経験社会学(2)計量社会学について学ぶ。 調査データの意味、変数などについて調べ、理解すること(第三章第三節を読む) 計量社会学の意義について振り返り、レポートを提出すること
11 回	学習内容 予習 復習	第四章社会学史の主要な流れ 第一節前史と社会学第一世代について学ぶ。 西洋と日本の社会学者の第一世代について調べ、理解すること(教科書の第四章第一節を読む) 社会学の発生について振り返り、レポートを提出すること
12 回	学習内容 予習 復習	第四章第二節社会学第二世代について学ぶ。 第二世代の社会学者たちについて調べ、理解すること(第四章第二節を読む) 社会学第二世代の理論について振り返り、レポートを提出すること
13 回	学習内容 予習 復習	第四章第三節現代社会学の諸潮流について学ぶ。 現代社会学の諸理論について調べ、理解すること(第四章第三節を読む) 現代社会学の諸理論について振り返り、レポートを提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	まとめ1——ミクロ社会学の理論とマクロ社会学の理論について復習する。 現実問題と理論の関係について調べ、理解すること ニュースに関して、社会学の説明をレポートとして提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ2——社会学史の流れについて復習する。 時代と社会学の関係について調べ、理解すること 全15回の授業を振り返り、社会学の研究についての諸課題をとりまとめること

専攻科目
(地域共生専攻)

科 目 名	経済学概論（現代経済入門）				科目コード	23030	
英 文 名	Outline of Economics (Intoroduction to Contemporary Economy)				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	中村 塑			教員コード	138	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	ミクロ経済学は一人ひとりの消費者や一つひとつの企業といったミクロな経済主体から、マクロな市場やそこでの政策効果を分析する学問である。本授業は概論であるため、ミクロ経済学の大枠について講義する。						
授業の狙い・到達目標	ミクロ経済学の基礎を学習し、経済的なものの見方を獲得することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては入門レベルである。 関連科目:社会科学と人間						
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	坂井豊貴(2017)『ミクロ経済学入門の入門』岩波書店						
参考書・その他教材	授業の回によってはレジュメ等を配布することがある。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	定期試験(70%)、レポート(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	経済に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

経済学概論(現代経済入門)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	無差別曲線について 教科書第1章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	予算線と最適化について 教科書第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	需要曲線について 教科書第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	供給曲線について 教科書第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	市場均衡について 教科書第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	前半で学習したことの確認 第1回から第6回までの授業で学んだことについて、教科書・ノート等を見直すこと 教員の指示に従って、レポートを作成すること
8 回	学習内容 予習 復習	外部性について 教科書第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	農業における外部性について レジュメ等をよく読んで、農業における外部性について概要を理解すること 授業内容を振り返ること
10 回	学習内容 予習 復習	独占と寡占 教科書第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	リスクと保険 教科書第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	公共財 教科書第9章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	再分配 教科書第10章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	後半で学習したことの確認 第8回から第13回までの授業で学んだことについて、教科書・ノート等を見直すこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

専攻科目
(地域共生専攻)

科目名	環境学概論(環境行政と福祉行政Ⅰ)			科目コード	23040	
英 文 名	Introduction of Environmental Studies			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	「環境問題」とは、私たちを取り巻くさまざまな事象が複雑に絡みあう問題群であり、環境学とは、これらの問題群の本質を学際的に解明し、その解決を目的とした学問領域の1つである。本講では、環境学を学ぶ上で必要な基礎的概念や思考、対象事例の解説を中心に行う予定である。					
授業の狙い・到達目標	[到達目標①]環境問題の現象・発生原因や、その影響等について説明することができる。 [到達目標②]資源が有限であることを理解し、地球環境の変化について説明することができる。 [到達目標③]グローバル化する国際社会の一員であるという自覚を持ち、気候変動等の国際的課題と政策に関する社会的な動向等について俯瞰的にとらえることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	基礎的知識の習得とともに、身近な環境問題から海外事例まで幅広い視野と柔軟な思考が求められる。また、多様な環境問題が社会や経済に及ぼす影響や、環境影響評価なども解説する予定である。 [関連科目]「環境政策学」「環境社会学」「生活環境学」					
授業外学習(予習・復習)	[事前学習]シラバスの内容に沿って、自身の関心や疑問を学習ノートに記録し、自己の考えを醸成することが望ましい。学習ノートは箇条書きでも概念図でも、自身に合った自由な形式でよい。 [事後学習]事前にノートにまとめた事項と、講義を受けた後の考えを比較するなどして振り返り、理解の深化に努めること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中に適宜プリントを配布する。					
参考書・その他教材	・環境省『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』(PDF) ・北川秀樹・増田啓子著『新版はじめての環境学』法律文化社(2018) ・京都大学で環境学を考える研究者たち『環境学-21世紀の教養-』朝倉書店(2014)					
課題に対するフィードバック	筆記試験、小レポート、リアクションペーパーにはコメントを付して返却する。					
成績評価方法	・到達目標①②③に関する筆記試験(70%)、 ・到達目標②③に関する小レポート・リアクションペーパー(20%)、 ・講義の参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いに基づいた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	毎回の講義において、自身なりの課題設定、具体的な課題解決を意識すること。環境問題にかかわる課題は社会や経済にも影響を及ぼすため、複眼的かつ微視的な視野を持ちながら学習をすることが期待される。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー環境問題の同時代性ー シラバスを読み、自己の関心事や疑問点、身近で起きている問題との関連などをイメージしておく。 配布物やガイダンスの内容を復習すること。環境問題について自身なりの課題設定を行うこと。
2 回	学習内容 予習 復習	環境問題と持続可能な開発 環境問題と持続可能な開発との関係について予め調べておくこと。 配布物、板書やスライド等を復習し、環境問題と持続可能な開発について理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	日本の環境問題の歴史 公害問題と対策 公害問題が、日本の環境、地域住民、社会にどのような影響を及ぼしたのかを調べておく。 配布物、板書やスライド等を復習し、新たな発見やさらに調べてみたい事項について振り返る。
4 回	学習内容 予習 復習	世界の環境問題の歴史「共通だが差異ある責任」、環境移民 世界で起きている環境問題を概観しておく。矛盾や対立の視点があることにも目を向けておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
5 回	学習内容 予習 復習	身近な環境問題① 消費行動と環境問題 プラスチックごみ、ファストファッション、食品ロス 私たちの消費行動がいかなる環境影響を及ぼしているかについて調べておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
6 回	学習内容 予習 復習	身近な環境問題② 環境問題をめぐる市民の意識と行動 環境問題をめぐる市民の意識(環境意識・世論調査等)と実際の行動等について事例を調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
7 回	学習内容 予習 復習	環境問題と政策 地域の環境政策から地球規模の環境政策へ 日本の環境問題への政策がどのように変遷していったかについて調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
8 回	学習内容 予習 復習	社会と環境問題 環境問題の影響・被害の社会的構造、環境教育、被害者救済 環境問題を社会的側面から捉えるとはどういうことかについて事前学習を行う。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
9 回	学習内容 予習 復習	経済と環境問題 企業の環境配慮 働き方改革 企業の環境対応やその効果、働き方改革による環境への影響について調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
10 回	学習内容 予習 復習	ジェンダー平等と環境問題 自然災害・環境問題と防災 環境問題がジェンダー平等を損なう恐れのある事例について調べる。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
11 回	学習内容 予習 復習	地域・コミュニティの取り組み事例 廃棄物問題、ブランド米 まちづくりの実践において、環境への配慮が認められる事例を収集しておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
12 回	学習内容 予習 復習	環境政策 政府、自治体の役割 ガバナンス 環境問題に対処するための立案・課題、法整備などについて事前学習を行う。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
13 回	学習内容 予習 復習	環境影響評価手法 エコロジカルフットプリント 環境問題を数値化する試みにどのようなものがあるのか、その歴史も含めて事前学習を行う。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
14 回	学習内容 予習 復習	SDGsと環境問題、脱炭素社会へ向けて 再生可能エネルギー 再生可能エネルギーにおける社会の取り組みや、多様な意見や見解があることを調べておくこと。 配布物、板書やスライド等を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認する。
15 回	学習内容 予習 復習	環境・経済・社会の諸課題の統合的解決とは SDGsやパリ協定と、環境・経済・社会の諸課題を統合的に解決することの関係性を概観する。 講義内で解説した諸課題についての具体的取組について復習したうえで講義の総括を行う。

科目名	公共政策学(現代政治入門)			科目コード	23050	
英 文 名	Study of Public Policy and Social Governance			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	公共政策とは、社会で解決すべきと認識された諸問題に対して、具体的な方向性と手続きを浮揚させながら、その解決に向けて取り組むものである。。本講では、公共政策・公共政策学の歴史と理論を概観するとともに、具体的な公共政策について事例解説を試みるものである。					
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 公共政策のその歴史と成立の背景について自らの言葉で説明することができる。 [到達目標②] 公共政策の構造と特徴について講義で解説した用語により説明することができる。 [到達目標③] 身近な公共的課題を探り、その背景と解決に向けて科学的に思考できる。					
授業内容のレベル・関連科目	私たちの社会生活に存在する公共政策について関心を払うとともに、その問題群が「社会で解決すべき」と認識された背景や事象などについて探究する姿勢が期待される。家族・ジェンダー、環境、教育、就労、貧困、医療福祉、地域経済などの関連領域と併せて学ぶことが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	[事前学習]新聞やニュースなどを活用して自身の社会生活における将来の公共政策の課題の発見・発掘に努める。 [事後学習]各テーマで学んだことを振り返り、自己の生活における具体的な政策課題と重ね合わせながら、その解決策を構想する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	・秋吉貴雄他『公共政策学の基礎(第3版)』有斐閣(2020) ・秋吉貴雄『入門 公共政策学』中央公論新社(2021) ・笠原英彦他『公共政策の歴史と理論』ミネルヴァ書房(2013)					
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	公共政策が解決に取り組む政策課題の多くは複雑で、立場や考え方の違いにより適切に問題と認識されなかったり(主観性)、他の問題と相反する関係となることがあります(相反性)。これらの課題を客観的に見つめていく姿勢が学びのスタートラインにあることを理解しておこう。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー公共政策とは何かー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認し、社会生活における諸課題について調べる。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	公共政策の誕生と基本構造 政策科学の歴史を概観し、公共政策の誕生とその基本構造について調べておく。 公共政策の歴史とその成立背景を振り返り、その基本構造について理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	公共政策学の成立 科学としての公共政策学の成立背景やその分析的枠組み(理論、方法、事例等)について調べる。 政策科学から公共政策学への移行と背景を振り返り、科学としての公共政策学の理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	公共政策における2つの知識体系 公共政策に活用される知識と公共政策を分析する知識の違いについて調べる。 「inの知識」と「outの知識」をそれぞれ振り返り、公共政策の知識体系について理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	「問題」の発見とフレーミング、構造分析 公共政策の対象となる問題が発見される過程と、これらの問題群の分析方法等について調べる。 社会における問題発見の背景と事例を振り返り、問題設定のプロセスについて理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	公共政策の手段と設計、社会調査 公共政策を設計するための社会調査の技法や法整備を含めた問題解決手段について調べる。 具体的な社会調査や設計事例を振り返り、公共政策の手段と設計に関する理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	公共政策における合理的意思決定とアクター理論 公共政策の意思決定の過程とそれらに関わるアクター間の連携と調整について調べる。 公共政策における合理的意思決定とアクター理論について振り返り、体系的な理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	利益調整と規範的判断 公共政策を設計・決定する過程で生じることのある利益調整と規範的判断について調べる。 公共政策の意思決定過程で生じる利益調整と規範的判断について振り返り、知識を整理する。
9 回	学習内容 予習 復習	公共政策の実施と知識の多元性 公共政策の実施の導線デザインや「現場地(実践知)」を含む知識の多元性について調べる。 公共政策の実施と知識の多元性について調べたことや講義内容を復習し、理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	公共政策の評価と改善 今後の改善のための公共政策評価の種類と体系について調べる。 公共政策の評価手法と改善過程、それに伴う情報の透明化、政策への理解等の要点を捉える。
11 回	学習内容 予習 復習	事例研究①「男女共同参画」 日本の「男女共同参画社会基本法」と「女性活躍推進法」について事前に通読しておくこと。 男女平等、女性活躍、多様な性の尊重について振り返り、その実現と課題に関して理解を深める。
12 回	学習内容 予習 復習	事例研究②「文化芸術振興」 あらかじめ配布する日本の文化芸術振興に関する資料(文化庁文書)を通読しておくこと。 事例解説を振り返り、日本の文化芸術振興に関する計画・法令や施策に関して理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	事例研究③「環境保護」 自然環境の保全や野生動植物・天然記念物の保護等の事例について事前に調べておくこと。 事例解説を振り返り、自然環境を保護保全するための公共政策について理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	事例研究④「教育振興とSociety 5.0」 日本の「教育振興基本計画」と「生涯学習振興法」について事前に通読しておくこと。 事例解説を振り返り、日本の教育振興に資する法令や施策に関して理解を深める。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー公共政策の時代ー これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを発展させていくこと。

科 目 名	福祉政策学（生活福祉論）				科目コード	23060		
英 文 名	Welfare Policy Studies (Life Welfare)				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	太田和 良幸			教員コード	154		単 位 数	2単位
開講期間	前期		曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態		講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける			○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	健康・医療、子ども・子育て、福祉・介護、年金、労働者保護などの福祉行政領域における行政の役割とその実際について、具体的事例に即して学ぶ。							
授業の狙い・到達目標	福祉政策(行政)の各領域ごとに、それぞれの特徴について理解を深めるとともに、当該領域での課題を明らかにする。 福祉の観点から社会制度を理解するとともに、生涯にわたり必要に応じ自ら行動できるようになる。							
授業内容のレベル・関連科目	必要とする先修科目はないが、高等学校の社会科などの知識が必要であり、これらが基礎となる。 関連する科目としては、「社会福祉論」、「児童福祉論」などがある。							
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。							
参考書・その他教材	講義内で適宜紹介する。							
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。							
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。							
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。							
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。							
科目に関連した教員の実務経験	国家公務員(内閣府、文部科学省、外務省に勤務) 特に国家公務員としての実務経験に基づく授業内容となる授業スケジュール回(学習内容欄)には、★印を付して下線を引いてある。							
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to:ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること							

授業スケジュール

福祉政策学(生活福祉論)

1 回	学習内容 予習 復習	【イントロダクション】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておくこと 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行うこと
2 回	学習内容 予習 復習	【福祉行政とは】 福祉行政とはどのような行政なのかについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
3 回	学習内容 予習 復習	【医療保険制度】 病気になった時に必要な医療保険制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
4 回	学習内容 予習 復習	【障害者福祉制度】 障害者を支援する制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
5 回	学習内容 予習 復習	【高齢者福祉・介護制度】 高齢者の福祉・介護制度、生き甲斐作りなどについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
6 回	学習内容 予習 復習	【生活保護制度】 生活に困っている人々への支援制度などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
7 回	学習内容 予習 復習	【貧困対策制度】 貧困対策、子どもの貧困対策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	【外国人に対する福祉施策】 外国人との共生施策、就労施策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	【健康管理施策】 受動喫煙対策など健康で衛生的な生活を確保するための施策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	【年金制度】 国民年金制度、厚生年金制度など年金制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
11 回	学習内容 予習 復習	★【子ども・子育て支援制度】 保育所の整備、児童手当など子ども・子育て支援の制度について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
12 回	学習内容 予習 復習	★【嫌がらせ対策】 いじめ、虐待、ハラスメント、ストーカーなどの対策について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
13 回	学習内容 予習 復習	★【子どもの健全育成施策】 自殺・引きこもり対策、有害環境対策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	【労働者保護制度】 非正規労働対策、最低賃金対策、雇用機会均等施策などについて学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	【まとめ】 福祉行政の今日的課題について学ぶ。 前回の授業終了時に与えられた課題について学習してくること 全15回の授業を振り返り、福祉行政の今日的諸課題についてとりまとめること

科目名	環境政策学(環境行政と福祉行政Ⅱ)			科目コード	23070	
英 文 名	Environmental Policy Studies			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	環境政策とは、環境問題を解決するための手段(methodology)である。本講は、環境政策の歴史や基礎的概念、理念・目的について学び、特に、国内外における環境問題の事例考察と、その解決のみならず、これから求められる環境政策についても考究することを目的としている。					
授業の狙い・到達目標	[到達目標①]環境政策の目標、代表的な政策、政策主体について説明することができる。 [到達目標②]環境問題と社会の関係性について、多層的な理解に基づき説明することができる。 [到達目標③]環境問題の広汎なステークホルダーの責任と役割について説明することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	身近な環境問題の原因や背景とともに、その解決、予防に関心を持つことが期待される。環境問題の歴史とその同時代性を学び、環境政策の具体的な手続きと原則を理解する。「環境学概論」と併せて学習することで、環境政策の課題と可能性について展望することが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	[事前学習]シラバスを読み、該当項目について予習するとともに、日頃からニュース・新聞等における環境問題に関する記事・情報について収集しておくことが望ましいこと。 [事後学習]振り返りシートを作成し、関心のある問題や事項について各自さらなる理解の深化に努めること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中にプリントを適宜配布する。					
参考書・その他教材	・竹本和彦編『環境政策論講義』東京大学出版会(2020) ・勝田悟『環境政策の変遷』中央経済社(2019) ・西澤栄一郎・喜多川進編著『環境政策史』ミネルヴァ書房(2017)					
課題に対するフィードバック	課題レポート、小レポート、提出された振り返りシートにはコメントを付して返却する。					
成績評価方法	・到達目標①②③に関する課題レポート(60%), ・到達目標②③に関する小テスト・振り返りシート(30%), ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	環境政策の事例を、目的、手法、主体について体系的に理解すること。特に、環境政策がどのようなファクト(fact)に基づいて立案、実践、評価されているのか、日頃の探究が求められる。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションーなぜ環境政策が必要なのかー シラバスを精読し、講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、受講に当たっての目的と展望を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	環境政策とは何か 環境政策の目的と原則 環境政策とは何か、わが国ではどのように実施されてきたかについて調べ、概観しておくこと。 環境政策の目的と原則について振り返り、政策の背景にある環境問題について理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	環境政策の歴史と代表的手法 環境政策の歴史・変遷を時系列で概観し、その代表的手法について調べておくこと。 環境政策の発達とその背景、及び環境政策の代表的な手法について説明できるようにすること。
4 回	学習内容 予習 復習	環境政策に関する制度と施策 環境基本法 環境基本計画 環境政策に関する制度や具体的な施策と、その主体(国、地方自治体など)を調べておくこと。 環境政策に関する制度や施策を体系的に説明できるようにすること。
5 回	学習内容 予習 復習	我が国の環境政策と国際的な動向の関わり 我が国の環境政策と、国外の環境政策との関わりについて調べておくこと。 地球規模での問題に拡大した国内外の環境問題と環境政策との関わりについて復習しておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	温室効果ガス・気候変動と環境政策 京都議定書、パリ協定 温室効果ガスの排出状況や気候変動、これらに対する国内外の取り組みについて概観しておく。 京都議定書が我が国の環境政策に与えた影響やパリ協定との違いについて説明することができる。
7 回	学習内容 予習 復習	不確実性とポリシーミックス 環境問題の不確実性から、複数の政策手段の組み合わせによる課題解決の活用について調べる。 複数の政策手段による相乗効果について復習しておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	海外・国内の事例 アラスカの原油流出事故 経済への影響 先住民に与える影響 アラスカにおける原油流出事故や、先住民にどのような影響を与えたかについて調べておくこと。 アラスカのみならず、環境被害が当該地域や先住民に経済的・文化的に与えた影響を復習する。
9 回	学習内容 予習 復習	廃棄物・循環型社会と環境政策 プラスチックごみ、食品ロス、エシカル消費など 廃棄物に関する環境政策について、身近な事例や海外事例などを調べておくこと。 廃棄物に関する今日的諸課題について振り返り、身近な視点だけでなく大局的な視点も持つこと。
10 回	学習内容 予習 復習	生物多様性と環境政策 里地里山、エコツーリズム 身近にある里地里山や、エコツーリズムと生物多様性との関わりについて調べておく。 講義内で解説した事例を復習し、生物多様性の保全に向けた取り組みについて理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	まちづくりと環境政策 都市の環境問題、低炭素社会、まちづくり 都市型の環境問題にはどのようなものがあるか、低炭素社会とは何かについて調べておくこと。 講義内で配布したプリントの事例を復習しつつ、改めて多様な事例を収集することが望ましい。
12 回	学習内容 予習 復習	自然災害と環境政策 エネルギー政策 国内外のエネルギー政策の現状、自然災害と再生可能エネルギーについても調べておくこと。 エネルギー政策に関する多様な議論を把握し、その変容や、現状及び課題について復習する。
13 回	学習内容 予習 復習	ジェンダーと環境政策 気候変動によるジェンダー不平等という観点からの環境政策 気候変動による災害リスクがもたらすジェンダー問題・ジェンダー不平等について調べておく。 ジェンダー・エンパワーメントを阻害しない環境政策についての問題意識を持ち、復習すること。
14 回	学習内容 予習 復習	SDGsの達成に向けた環境政策 環境影響評価 SDGsに関連する環境対策やその評価手法、SDGsの実現可能性や議論にも目を向けること。 SDGsそのものや環境対策に関する多様な議論を踏まえ、自身なりの問題意識を持つこと。
15 回	学習内容 予習 復習	漂流する環境政策の未来 これまでの講義を振り返り、今後の環境政策の在り方について問題意識を持ち、課題設定を行う。 全体を振り返り、地域的かつ大局的な視点から、環境政策の意義や諸課題を説明できること。

科目名	環境社会学				科目コード	23080	
英 文 名	Environmental Sociology				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	中村 塑		教員コード	138		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	本授業は、近年大きく取り上げられ、また多くの人が関心を持っているプラスチックごみに注目する。なぜ大量のプラスチックごみが発生するのか、誰が排出者なのか、海に流れ込んだプラスチックごみはどうなるのか、プラスチックごみを減らすにはどうすればよいのか、について講義する。						
授業の狙い・到達目標	プラスチックごみを通して現代社会の特徴を理解し、これからの社会のあり方を考えることができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目:社会経済史						
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	中嶋亮太(2019)『海洋プラスチック汚染』岩波書店						
参考書・その他教材	枝廣淳子(2019)『プラスチック汚染とは何か』岩波書店 授業の回によってはレジュメ等を配布することがある。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	環境に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

環境社会学

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	わたしたちの生活とプラスチック 教科書の第1章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	大量生産と大量廃棄 教科書の第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	リサイクルの実態 教科書の第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	海洋ゴミの排出国 教科書の第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	プラスチックごみの大きさ 教科書の第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	プラスチックごみの発生要因 教科書の第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	プラスチックごみの行き先 教科書の第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	行方不明のプラスチック 教科書の第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	海洋生態系と人への影響Ⅰ(プラスチックを食べるものたち) 教科書の第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	海洋生態系と人への影響Ⅱ(人と社会への影響) 教科書の第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	海にプラスチックを漏れ出させない方法Ⅰ(プラスチックを海から除去できるか) 教科書の第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	海にプラスチックを漏れ出させない方法Ⅱ(リデザイン) 教科書の第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	海にプラスチックを漏れ出させない方法Ⅲ(バイオプラスチック) 教科書の第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

専攻科目
(地域共生専攻)

科 目 名	生活環境学（生活環境学概論）				科目コード	23090	
英 文 名	Living Environment Studies (Outline of Living Environmental Science)				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	生涯にわたって健康で豊かな生活を営むことは人類共通の願いであり、人々の健康にとってより良い環境の維持と公衆衛生の向上のために、食環境を中心とした生活を取り巻く環境と食の安全性についての基礎を学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	食と環境の関係や食の安全を考える上で基本となる科学的な考えを理解できるようになる。食生活、水生活さらに廃棄物などにおける身近な生活環境について関心を持ち、理解することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	現存する生活環境課題における仕組みについて理解し、生活環境への改善および工夫の仕方について自ら考え、実践することが大切である。生活科学入門が本講義の基礎となる。						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組むこと。授業後、各回の講義内容を十分に復習し、専門用語や内容について自主的に調べ、理解を深めること。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	教科書を使用せず、資料を配布。						
参考書・その他教材	及川紀久雄『新環境と生命』三共出版；大塚譲ら『社会・環境と健康』東京化学同人						
課題に対するフィードバック	講義中の小テストは、その場で解説する。						
成績評価方法	発表・レポート(70%)、小テスト(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。不明な点は講義終了後に担当教員に質問する。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)						

授業スケジュール

生活環境学(生活環境学概論)

1 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方、食と環境の関係などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	日本における環境問題などについて学ぶ。 環境基本法について調べること。 授業プリントを用いて日本における環境問題について振り返り、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	人間と環境・食料などについて学ぶ。 エルニーニョ/ラニーニャ現象について調べること。 授業プリントを用いて食料不足原因および食料自給率について振り返り、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	食品中の汚染物質対策について学ぶ。 「ALARAの原則」について調べること。 授業プリントを用いて食品中の汚染物質対策について振り返り、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	食中毒対策について学ぶ。 食中毒の危険について調べること。 授業プリントを用いて食中毒対策および予防について振り返り、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	食品に残留する農薬の対策について学ぶ。 「一日摂取許容量」、「ポジティブリスト制度」について調べること。 授業プリントを用いて食品残留農薬の対策について振り返り、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	食品添加物の安全性について学ぶ。 マーケットバスケット方式と生産・流通・使用量調査方式について調べること。 授業プリントを用いて食品添加物の機能および安全性について振り返り、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	遺伝子組換え食品の安全性について学ぶ。 日本で認められている遺伝子組み換え作物について調べること。 授業プリントを用いて遺伝子組換え食品の安全性について振り返り、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	水環境、浄水処理などについて学ぶ。 原水の特徴について調べること。 授業プリントを用いて各浄水処理法について振り返り、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	生活排水対策などについて学ぶ。 活性汚泥の機能について調べること。 授業プリントを用いて下水処理および排水処理について振り返り、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	大気汚染と健康について学ぶ。 大気汚染物質の種類について調べること。 授業プリントを用いて大気汚染の仕組みおよびその対策について振り返り、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	室内環境と健康について学ぶ。 シックハウス症候群について調べること。 授業プリントを用いて室内環境と健康との関係について振り返り、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	廃棄物の対策について学ぶ。 マニフェスト制度について調べること。 授業プリントを用いて廃棄物の種類と処理法について振り返り、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	3R活動などについて学ぶ。 3Rの具体的な活動について調べること。 授業プリントを用いて「循環型社会」について振り返り、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	課題発表、総括。 今までの授業内容について見直し、復習をしてくること。 授業内容について理解を深めること。

科目名	農業経済学			科目コード	23100	
英 文 名	Agricultural Economics			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	中村 塑		教員コード	138	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	現代における農業・農村・食料の問題について講義する。わたしたちが生きる「グローバル社会」において、毎日の食事は日本の農業だけではなく、世界の食料事情や農産物貿易とも深い関わりを持っている。わたしたちが置かれている社会的環境を、食と農から学んでいく。					
授業の狙い・到達目標	農業・農村・食料についてバランスのとれた知識を身につけ、自分なりの意見や問題の解決策を持てるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目：経済学概論					
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	生源寺眞一(2018)『新版 農業がわかると、社会のしくみが見えてくる』家の光協会					
参考書・その他教材	明治大学農学部食料環境政策学科編(2011)『食料環境政策学を学ぶ』日本経済評論社 授業の回によってはレジュメ等を配布することがある。					
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。					
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	農業・農村・食料に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7					

授業スケジュール

農業経済学

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	人類の基礎的な食料 教科書の1限目(第1章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	所得水準の向上と穀物 教科書の1限目(第1章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	世界の栄養不足人口 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	途上国農業の特徴 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	先進国の農業保護政策 教科書の2限目(第2章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	食料自給率低下の原因 教科書の3限目(第3章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	食料安全保障 教科書の3限目(第3章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	集約型農業の特徴 教科書の4限目(第4章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	土地利用型農業の課題 教科書の4限目(第4章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	農業の多面的機能 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	農村コミュニティの共同力 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	豊かな食生活 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	農業・農村との接点 教科書の5限目(第5章)を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

専攻科目
(地域共生専攻)

科 目 名	文化人類学（文化人類学入門）				科目コード	23110	
英 文 名	Cultural Anthropology (Introduction to Cultural Anthropology)				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	山崎 寿美子			教員コード	147	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限		木曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	慣習や価値観が異なる文化について事例を挙げて検討しながら、自分たちの「あたりまえ」を捉え直していく。身近な営みである食をテーマに、その文化的なありかた、食と技術、現代の食事情等について考える。四街道地域でフィールドワークも行う。						
授業の狙い・到達目標	食などの身近なテーマから、文化人類学の基本的な考え方を学び、異文化への関心を深める。普段あまり意識しない自文化について、客観的に捉え直すことができるようになる。内容を覚えるのではなく、履修生それぞれが自分なりに意見をもてるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	関連する論文等を読解できる日本語力および英語力を必要とする。ある事象について自分なりの意見を書いたり述べたりできる。(関連科目)社会調査法、地域ブランド論、循環型社会論						
授業外学習(予習・復習)	常識や固定観念にとらわれず、自文化や異文化について、自分の意見をもっておくよう努めること。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	松村圭一郎『うしろめたさの人類学』ミシマ社、2017年。						
課題に対するフィードバック	各回に出した課題に対しては、翌週の授業でコメントをする。						
成績評価方法	レポートなどの課題(50%)、フィールドワークを含む授業への積極的な参加(50%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、前期に「社会調査法」および「地域ブランド論」を受講していること。また、後期に「循環型社会論」も合わせて受講することが望ましい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

文化人類学(文化人類学入門)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	異文化とカルチャーショックについて考える。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	人類学のとフィールドワークについて学ぶ。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	四街道市内のフィールドワーク①街歩き 四街道市の地図を読み込んでおくこと。 街歩きで気が付いたことをまとめて、提出すること。
5 回	学習内容 予習 復習	『うしろめたさの人類学』(松村圭一郎著)を読み、人類学的な考え方を学ぶ。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、課題に取り組み提出する。
6 回	学習内容 予習 復習	贈与と経済的交換について学ぶ。 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
7 回	学習内容 予習 復習	食の人類学①「食べられるもの」と「食べ物」の違い 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	食の人類学②食物タブー 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
9 回	学習内容 予習 復習	食の人類学③食べ物の保存に関する在来知 事前に配布した資料に目を通して、大まかな内容を理解しておくこと。 授業を受けて資料を読み返し、内容の理解を深める。
10 回	学習内容 予習 復習	映画「いのちの食べ方」を鑑賞する。 事前に配布する資料に目を通しておくこと。 映画を見て、食の現代的な問題について意見を書き、提出すること。
11 回	学習内容 予習 復習	食の現代的な問題についてのディスカッション 映画の内容を振り返り、議論の要点をまとめること。 他の受講生の意見を聞いて、自分の意見をまとめレポートを提出すること。
12 回	学習内容 予習 復習	現代社会における食文化の変容 事前に配布する資料を参考にして、出身地の食文化について考えてくること。 授業であげられた事例を参考にして、出身地の食文化の変容についてまとめること。
13 回	学習内容 予習 復習	四街道市内のフィールドワーク②食に関する調査 事前に配布した資料に目を通して、準備をすること。 フィールドワークで得られた気づきをまとめること。
14 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークを振り返る フィールドワークのメモをまとめて、要点を整理しておくこと。 授業でのディスカッションを受けて、レポートを提出すること。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめること。

専攻科目
(地域共生専攻)

科目名	地方自治論			科目コード	23120	
英 文 名	Study of Local Government			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	かつて英国のジェームズ・ブライズは「地方自治は民主主義の学校である」と述べた。その後、社会の進展とともに、地方自治はその姿を大きく変貌させてきた。本講では、地方自治の歴史や事例の解説を通して、自治体の主体として私たちが担うべき役割と責任について考察する。					
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 地方自治の歴史について講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②] 公共サービスや総合計画など自治体の業務について説明することができる。 [到達目標③] 地域住民が分担すべき領域とその責任・課題等について説明することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	地方自治では、その地域で暮らす住民すべてが「主人公」である。日常生活で感じる疑問や気づきを大切にして、私たちを取り巻く制度やシステムに関心を持つことが期待される。公共政策、法制度、まちづくり、生涯学習、観光、福祉などの関連領域を併せて学習することが望まれる。					
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 自身が居住する自治体について理解を深め、地方自治に関する自己の社会経験等を記録していくことが望ましい。 [事後学習] 講義で解説したテーマを具体的な自治体の活動や計画・施策に接続させること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	・大森彌・大杉覚『これからの地方自治の教科書(改訂版)』第一法規出版(2021) ・北村亘他『地方自治論 -2つの自律性のはざまで-』有斐閣(2020) ・福島康仁編『地方自治論(第2版)』弘文堂(2018)					
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	地方自治とは、自治体の制度やシステムだけでなく、住民自身による意思決定の過程とその問題群を包含しています。地方自治の当事者としての自覚をもって主体的に学ぶことが期待されます。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー地方自治とは何かー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認し、自身の居住する自治体について調べる。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	日本における地方自治の歴史 明治期以降の日本の地方自治制度の歴史と社会変化に伴う現代的課題の誕生について調べる。 講義を振り返り、自身の居住する自治体の歴史と成り立ちについて理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	「国」と地方自治 戦後憲法で保障された日本の地方自治の特徴を学び、国家と地方自治の関係性を調べる。 講義を振り返り、国家と地方自治の関係の歴史とその課題について理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	自治体のしくみ 身近な自治体の執行機関の種類や役割、財政と税制度の課題等について調べる。 講義内容を自身の居住する自治体の機構と活動に接続させながら、さらなる理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	地方自治の計画 身近な自治体の多様な計画と施策について学び、先進的な政策事例について調べる。 講義内容を自身の居住する自治体の計画と実施に接続させながら、さらなる理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	地方議会と選挙制度 地方自治における二代表制、首長のリーダーシップ、議会の役割、選挙制度等について調べる。 地方議会と選挙制度に関して、地方自治における役割、被選挙権等の選挙制度等を説明できる。
7 回	学習内容 予習 復習	コミュニティの自治と住民参加 地方自治法に定められた住民直接請求権や住民参加の事例について事前に調べておく。 まちづくりに地域住民が積極的に参加できるようになった歴史的背景について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	拡張する公共サービスと「自助・共助・公助」の課題 拡張する公共サービスや地方の政策課題を誰がどのように支えるべきか自らの考えをまとめておく。 公共サービスが円滑に機能するための「自助・共助・公助」の連携について説明できる。
9 回	学習内容 予習 復習	「新しい公共」と地方自治の協働 「新しい公共」にはどのような種類と活動があるのか事前に調べておくこと。 「新しい公共」と地方自治の協働の事例を振り返り、「自助・共助・公助」の観点からも復習する。
10 回	学習内容 予習 復習	事例研究①「平成の大合併」 「平成の大合併」の背景と特徴とともに、合併を選択しなかった自治体の住民自治について調べる。 地方自治における合併の意味や効果の概略、合併を選択しなかった自治体の事例を説明できる。
11 回	学習内容 予習 復習	事例研究② 身近な役場の組織と業務 自身が居住する自治体(区市町村等)の役所・役場の機構とその業務・役割について調べる。 役所・役場の機構と業務・役割について、これからの住民ニーズとの調和という観点からも振り返る。
12 回	学習内容 予習 復習	事例研究③ さまざまな公共サービス 上下水道、ごみ、道路、年金・介護、警察と消防など自治体が担う公共サービスについて調べる。 公共サービスとその財源について振り返り、公共サービスをまちづくりの基盤として捉えて理解する。
13 回	学習内容 予習 復習	事例研究④ 総合計画と総合戦略 自身が居住する自治体(区市町村等)で策定されている総合計画等について調べておく。 自治体の総合計画と総合戦略の変遷や現在の内容について振り返り、理解を深める。
14 回	学習内容 予習 復習	事例研究⑤ 防災と安心安全のまちづくり 私たちがこれまで経験してきた災害と自治体が果たしてきた役割について調べておく。 災害時における自治体の役割、防災計画の策定、情報提供等の役割について振り返る。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー「地方」から学ぶー これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを発展させていくこと。

科目名	地域資源論			科目コード	23130	
英 文 名	Study of Local Resources and Management			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	人口減少社会の時代において「地域資源」は多様でその役割も大きくなりつつある。本講は、さまざまな領域における地域資源の事例を解説しながら、地域資源の管理と活用について理解を深めるものである。					
授業の狙い・到達目標	[到達目標①] 地域資源の管理と活用に関して講義で解説した用語により説明することができる。 [到達目標②] 地域社会に潜在する資源化可能な事象を発掘し説明することができる。 [到達目標③] 地域活性化に資する地域資源の活用を構想できる。					
授業内容のレベル・関連科目	本講の目的は、地域資源に関して、従来の目的や利用と異なる新しい意味や活用を発見することであり、可能な限り、講義の内容とテーマを、まちづくり、共生社会、生涯学習、キャリアデザイン等の学びへ結びつけていくことが期待される。					
授業外学習(予習・復習)	[事前学習] 身近な地域資源を発掘し各回の講義テーマと積極的に結びつけて学習の準備に努めること。 [事後学習] 学習した内容を関連科目の学びや自身の社会生活へ活用していくことに努めること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中にプリントを適宜配布する。					
参考書・その他教材	・ジョン・フィールド『社会関係資本』明石書店(2021) ・古賀弥生『芸術文化とちいきづくり -アートで人とまちをしあわせに-』九州大学出版会(2020) ・藻谷浩介『里山資本主義 -日本経済は安心の原理で動く-』角川書店(2013)					
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	地域資源とは、経済的に価値のあるものばかりではなく、例えば、文化・芸術がその地域住民の絆(きずな)や誇りを醸成することもあり、柔軟な思考と自由なアイデアづくりが期待されます。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー地域資源とは何かー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	地域資源の多様性とマネジメントの論理 現在の地域資源の種類と特徴について調べ、これらを活用事例について調べる。 身近な地域資源を発見し、その資源がどのように活用されているのか調べてみよう。
3 回	学習内容 予習 復習	関係人口・交流人口と観光資源 関係人口と交流人口の定義を概観し、観光に活用される地域資源について調べる。 定住人口から関係人口と交流人口へ論点の変遷を振り返り、まちづくりの理解を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	エネルギー資源と経済開発ー石油・ガス, レアアース, 再生可能エネルギーー 地域に特有なエネルギー資源を調べ、経済開発とその課題について確認しておく。 私たちの社会を支えるエネルギー資源について振り返り、その活用の問題について理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	自然資源の保全, 希少種の保護, ジオパーク, エコツーリズム 保全保護の対象である自然資源と人間社会との関係性について調べておくこと。 講義を振り返り、新たな発見やさらに調べてみたい事項について確認して理解を深める。
6 回	学習内容 予習 復習	「田園風景」の社会史 人々が集まる「景観(landscape)」や「居場所(niche)」についてその活用と課題について調べる。 文化財保護法の改正により文化財が拡張したことを振り返り、新しい地域資源について考える。
7 回	学習内容 予習 復習	地域資源としての埋蔵文化財 遺跡の発掘や考古学資料などの埋蔵文化財が地域活性化の資源となる事例について調べておく。 講義を振り返り、考古学上の発見が社会的に大きな影響を与えた事例について理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	建築物, 建造物群, 街なみ, ランドマーク 地域(まち)を表象する建物や建造物群とその活用と課題について調べる。 文化財保護法の改正により文化財が拡張したことを振り返り、新しい地域資源について考える。
9 回	学習内容 予習 復習	無形の地域資源ー祭礼・信仰・技術・パフォーマンスー 無形の地域資源について調べ、伝承・保護と活用の両立を達成する施策について考える。 講義を振り返り、無形の資源を伝承し、地域資源として蓄積するための方策について構想してみる。
10 回	学習内容 予習 復習	地域資源としての食・食文化 地域に特有な食文化や観光資源として活用されているレシピ・食材等について調べておくこと。 講義を振り返り、食をキーワードとしたまちづくりと資源化のプロセスについて理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	みやげもの(Souvenir)の類型と意味 みやげものに関する「Gordonの5類型」を確認しておくこと(資料は事前配布します) 講義を振り返り、みやげものとして資源化されるモノや活動を自分なりにまとめてみる。
12 回	学習内容 予習 復習	博物館・美術館とアート・マネジメント 博物館・美術館を基軸としたまちづくりの事例を調べておくこと。 講義を振り返り、博物館・美術館が地域活性化に資する資源として活用可能であることを確認する。
13 回	学習内容 予習 復習	廃校利用と目的外利用の意義 少子化の影響で増加する学校の廃校事例を調べ、その再利用方法について調べる。 講義を振り返り、施設を目的外で利用する時代の背景と意義について、自身の考えをまとめておく。
14 回	学習内容 予習 復習	多様化する地域資源ー医療, 福祉, 子育て, 女性活躍, 防災ー 医療, 福祉, 子育て, 女性活躍, 防災等をまちづくりに活用している事例を調べる。 地域資源の多様性と柔軟性を振り返り、身近な地域社会に潜在している地域資源を発掘する。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー社会関係資本と地域資源ー これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科目名	地域ブランド論			科目コード	23140	
英文名	Regional Innovation			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	人口減少や少子高齢化が進む現代社会において、地域の活性化に向けて、その地域特有の歴史、文化、特産品、景観など有形無形の資源について考え、四街道市の日替わりシェフの店「さくらそう」(代表:毛見文枝さん)さんをはじめ、地域の方々と交流しながら、その価値を理解していく。					
授業の狙い・到達目標	地域ブランドは、特産品・名産品づくりだけでなく、訪れる・購入する・交流する・住むことを促すような、歴史、文化、景観、人々のコミュニティなどを含めた総合的な体系であることを理解できるようになる。その際、地域資源の活性化に関わる活動に取り組んでいच्छる地域の方々との交流を重視し、「体感する」ことを主眼におき、実践につなげることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	ディスカッションや地域の方との交流には、日本語によるコミュニケーション能力が必要となる。(関連科目)社会調査法、文化人類学、循環型社会論					
授業外学習(予習・復習)	日頃から、地域社会・地域文化に興味を持ち、さまざまな問題に対し、自分の考えを持てるように努めること。また、テーマごとにディスカッションしたりレポートが書けるよう、配布資料やフィールドワークのメモなどを復習すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	指定しない。					
参考書・その他教材	授業ごとに資料を配布するとともに、テーマに合わせて適宜参考文献を指示する。					
課題に対するフィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。					
成績評価方法	レポート(50%)、フィールドワークやプレゼンテーションへの積極的な参加(50%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する					
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、「社会調査法」も合わせて受講すること。また、後期に「文化人類学」および「循環型社会論」も受講することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

地域ブランド論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる①四街道市の歴史 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
3 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる②四街道市の産業 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
4 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる③四街道市の特産品・名産品 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
5 回	学習内容 予習 復習	地域について調べる④四街道市の人と人をつなぐコミュニティ 事前に配布する資料に目を通し、大まかな内容を把握しておくこと。 資料を読み返し、内容をまとめておく。
6 回	学習内容 予習 復習	四街道市の産業に関するフィールドワーク 調査するフィールドについて調べておくこと。 調査中にメモをしたことを中心に特徴をまとめる。
7 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの結果と考察①四街道市の産業について ディスカッションをできるように自分の意見をまとめておく。 ディスカッションの内容をまとめておく。
8 回	学習内容 予習 復習	グループワーク① グループワークをするために、ディスカッションの内容を振り返っておく。 アイデアを整理する。
9 回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション①四街道市の産業をテーマに地域活性化のアイデアを提案する グループごとにプレゼンテーションの準備をする。 提示された課題への回答を考えておく。
10 回	学習内容 予習 復習	四街道市の特産品・名産品に関するフィールドワーク 調査するフィールドについて調べておくこと。 調査中にメモをしたことを中心に特徴をまとめる。
11 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの結果と考察②四街道市の特産品・名産品について ディスカッションをできるように自分の意見をまとめておく。 ディスカッションの内容をまとめておく。
12 回	学習内容 予習 復習	グループワーク② グループワークをするために、ディスカッションの内容を振り返っておく。 アイデアを整理する。
13 回	学習内容 予習 復習	プレゼンテーション②四街道市の特産品・名産品をテーマに地域活性化のアイデアを提案する グループごとにプレゼンテーションの準備をする。 提示された課題への回答を考えておく。
14 回	学習内容 予習 復習	地域活性化のアイデアの実践ー日替わりシェフの店「さくらそう」さんにて 第9回・第13回のプレゼンテーションで提示されたアイデアを振り返っておく。 地域との関わりのなかでの気づきをまとめておく。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめー四街道市について得られた知識やアイデアをディスカッションする これまでのプレゼンテーションの課題をまとめる。 授業中のディスカッションについてまとめてレポートを書く。

科目名	まちづくり論			科目コード	23150	
英 文 名	Community and Development Study			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単位数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	まちづくりは、人々のつながりや活動が生み出す「暮らしの風景」をともにデザインしていくことである。本講は、具体的な事例の解説と実践的な講義を通して、まちづくりの意義と可能性について学ぶものである。					
授業の狙い・到達目標	[到達目標①]まちづくりの実践事例を講義で解説した用語を用いて説明することができる。 [到達目標②]まちづくりの課題と可能性について、自らの言葉で説明することができる。 [到達目標③]他者と協働して新しい活動や絆(きずな)づくりを構想できる。					
授業内容のレベル・関連科目	まちづくりは、さまざまな学問分野や活動領域の総体であることから、文化、芸術、歴史、地域社会、経済経営、キャリアデザインなどの関連科目を併せて学習とともに、大学外での学びや経験を大切にすることが望まれる。					
授業外学習(予習・復習)	[事前学習]まちづくりの実践例について調べ、まちづくりの基点となる事情や関係の探究に努めること。 [事後学習]講義内容を実際の社会生活に結びつけて振り返り、他者との協働を実現するために必要なことを自分なりに考えていくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし。事前もしくは講義中にプリントを適宜配布する。					
参考書・その他教材	・山崎義人他『はじめてのまちづくり学』学生出版社(2021) ・大内田鶴子『世界に学ぶ地域自治 -コミュニティ再生のしくみと実践-』学生出版社(2021) ・松本茂章『文化で地域をデザインする』学芸出版社(2020)					
課題に対するフィードバック	小課題・リアクションペーパーはコメントをつけて返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート[到達目標①②③](50%) ・小課題・リアクション・ペーパー[到達目標②③](40%) ・講義への参加状況(10%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	まちづくりに大切なことは「過程」と「経験」です。人々が笑顔になれるまちづくりとは、どのようなものを意味するのか、既存の考えや常識にとらわれることなく、自由な発想と思考を期待しています。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー育てあうまちづくりー シラバスを精読し講義の概要と方法について確認しておくこと。 講義の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	協働のまちづくりー社会関係資本ー 社会関係資本とはどのようなことを意味しているのか、事前に調べておくこと。 社会関係資本の概念が生まれた経緯や協働のまちづくりについて振り返り理解を深める。
3 回	学習内容 予習 復習	生涯学習社会の到来とまちづくり 日本における生涯学習の歴史と現在推進されている施策について調べておくこと。 生涯学習の歴史を振り返り、現在のまちづくりとの連携や展望について整理する。
4 回	学習内容 予習 復習	まちづくりを担う専門職ー社会教育主事・社会教育士ー 社会教育の専門職である社会教育主事・社会教育士の責務と仕事について調べる。 まちづくりにおける社会教育主事・社会教育士の役割と実践事例について振り返り、理解を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	SDGsとまちづくり SDGsを事前に調べ、これらの取り組みをまちづくりに応用する方策と工夫について調べる。 講義を振り返り、SDGsの理念を反映したまちづくり事例を主体的に調べてみる。
6 回	学習内容 予習 復習	産業とまちづくり 地域に特有の産業や生産物を活用したまちづくりの事例を調べておくこと。 地域の特性を生かした産業や生産物が、まちづくりに与える影響・効果について振り返る。
7 回	学習内容 予習 復習	サブカルチャーの「聖地」 サブカルチャーの「聖地」にはどのようなものがあるか、事前に調べておくこと。 聖地となっている土地、場所、建物などの事例を掘り下げ、まちづくりの事例として理解を深める。
8 回	学習内容 予習 復習	「消滅可能性都市」をめぐる議論の課題と展望 消滅可能性都市について調べ、事前に自らの考えをまとめておくことが望ましい。 講義を振り返り、消滅可能性都市に関する理解を深め、将来の議論のための解決策を構想する。
9 回	学習内容 予習 復習	安心のまちづくり(1) 防災 地域の防災計画を概観し、人々が安心と安全を感じるまちの要件について調べる。 各地の防災計画について振り返り、多様なニーズに対応した防災計画について構想する。
10 回	学習内容 予習 復習	安心のまちづくり(2) 男女平等、多様な性の尊重 事前配布資料を通読し、男女平等や多様な性の尊重がまちづくりに資することを確認する。 講義を振り返り、男女平等や多様な性の尊重がまちづくりの推進の一助となることを理解する。
11 回	学習内容 予習 復習	「地域総がかりで子どもを育てる」地域学校協働活動とコミュニティ・スクール(CS) 文部科学省が推進する地域学校協働活動とCSについて、事前に確認しておくこと。 地域学校協働活動やCSが推進されている理由とその実践事例について説明できるようにする。
12 回	学習内容 予習 復習	まちづくりと広報、情報化の課題 情報を発信する手段・方法にはどのようなものがあるか事前に調べておくこと。 講義を振り返り、魅力ある広報や情報発信の効果・有用性などについて理解を深める。
13 回	学習内容 予習 復習	自治基本条例(まちづくり基本条例)と行政計画 事前に配布する自治基本条例の中から、関心のある事項を1つ以上選んで通読しておくこと。 講義を振り返り、自治体基本条例や各行政計画について、概略を説明できるようにする。
14 回	学習内容 予習 復習	まちづくりの「失敗学」 まちづくりが成功しなかった事例を調べ、その理由や背景について自身の考えをまとめておく。 講義を振り返り、まちづくりが成功しなかった事例を通して、改善点と新たな提案について考える。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ーパートナーシップと「場所の力」 これまでの講義を振り返り、可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心や社会生活上の課題に接続させ今後の学びを発展させていくこと。

科目名	循環型社会論				科目コード	23160		
英 文 名	Circulatory Society				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	山崎 寿美子			教員コード	147		単 位 数	2単位
開講期間	後期		曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態		講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける			☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探究する			☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	資源の枯渇、環境汚染、気候変動などの問題が生じている今日、これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会を見直して、新たな資源の消費を抑え、廃棄物を資源として再利用するといった循環型の社会のあり方が模索されている。本授業では、こうしたテーマについて講義するとともに、四街道市の活動団体などに調査も実施する。							
授業の狙い・到達目標	環境に対して意識を持ち、生活環境問題・地球環境問題に関する学びを通して、何がどのように問題かを考える力を養っていく。環境配慮型製品の普及や、資源や廃棄物の利用法などについて学び、持続可能な社会への施策を考えられるようになる。							
授業内容のレベル・関連科目	新聞などが読める日本語力・読解力や、聞き取り調査などに必要なコミュニケーション能力を必要とする。(関連科目)地域ブランド論、文化人類学、社会調査法							
授業外学習(予習・復習)	授業前に配布するレジュメや資料を読んてくること。授業後は、レジュメを文章にまとめた上で、課題に取り組むこと。また、調査に際して事前に情報を調べたり、調査後にデータを整理するなどの、積極的な姿勢が不可欠である。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	特になし							
参考書・その他教材	養父 志乃夫『里地里山文化論(上)循環型社会の基層と形成』農山漁村文化協会、2009年。養父 志乃夫『里地里山文化論(下)循環型社会の暮らしと生態系』農山漁村文化協会、2009年。山口未花子2014『ヘラジカの贈り物ー北方狩猟民カスカと動物の自然誌』春風社。							
課題に対するフィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。							
成績評価方法	レポートなどの課題(50%)、フィールドワークを含む授業への積極的な参加(50%)							
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する							
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、前期に「社会調査法」および「地域ブランド論」を受講していること。また、後期に、「文化人類学」も合わせて受講することが望ましい。							
科目に関連した教員の実務経験	特になし							
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。							

授業スケジュール

循環型社会論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	循環型の考え方ー大量生産・大量消費・大量廃棄型からの移行 事前に配布する資料を読んでおくこと。 講義の要点をまとめて理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	環境白書を読み解く 事前に指定する箇所を目を通しておくこと。 課題を出すので、環境白書の該当箇所を読み解いて提出すること。
4 回	学習内容 予習 復習	江戸の暮らしに学ぶ循環型社会①資料を読む 事前に配布する資料を読んでおくこと。 講義の要点をまとめて、ディスカッションに備えること。
5 回	学習内容 予習 復習	江戸の暮らしに学ぶ循環型社会②ディスカッション 資料を見直し、講義の内容に関して、意見をまとめ、ディスカッションの準備をすること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
6 回	学習内容 予習 復習	世界の事例に学ぶ循環型社会①資料を読む 事前に配布する資料を読んでおくこと。 各自で出身地や他国の事例を調べておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	世界の事例に学ぶ循環型社会②事例報告 報告できるように、出身地や他国の事例についてまとめて準備すること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
8 回	学習内容 予習 復習	循環型製品の普及①身近な道具・物から循環型製品について考える 事前に配布する資料を読んでおくこと。 各自で出身地や他国の事例を調べておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	循環型製品の普及②事例報告 報告できるように、出身地や他国の事例についてまとめて準備すること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
10 回	学習内容 予習 復習	プラスチックと環境問題①資料を読む 事前に配布する資料を読んでおくこと。 各自で出身地や他国の事例を調べておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	プラスチックと環境問題①事例報告 報告できるように、出身地や他国の事例についてまとめて準備すること。 他の受講者の意見を受けて、レポートにまとめて提出すること。
12 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習①循環型社会へ向けた取り組みを行なう団体などへの聞き取り調査 これまでの授業をふまえて、質問項目を考えてくること。 聞き取りで得られたデータをまとめておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習②結果の報告 データを整理して、報告できるよう準備をすること。 他の受講生の報告を受けて、何がポイントであったか、要点をまとめておくこと。
14 回	学習内容 予習 復習	四街道市での実習③ディスカッション 整理した要点に基づいて、自分の意見が述べられるよう準備すること。 授業でのディスカッションを受けて、レポートを提出すること。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめを行なう。 配布資料を読み返し、全ての回の授業内容を振り返っておくこと。 全体を振り返り、授業の論点をまとめておく。

科目名	協同組合論				科目コード	23170	
英 文 名	Studies of Cooperative Associations				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	中村 塑			教員コード	138	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	協同組合は資本主義社会のなかで生まれた自助組織である。なぜ協同組合は必要とされたのか、どのような歴史を経て現在に至っているのか、協同組合は今後どのような可能性を持っているのか、について講義する。						
授業の狙い・到達目標	協同組合の理念や歴史について理解する。 協同組合が解決できる社会の課題について、自分なりの意見を持てるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目:農業経済学						
授業外学習(予習・復習)	レジュメに沿って授業を進める。したがって予習として事前に目を通し、復習として授業後に再度見直すこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	賀川豊彦(2012)『協同組合の理論と実践』(復刻版)日本生活協同組合連合会出版部 日本農業新聞編(2017)『協同組合の源流と未来』岩波書店 講義レジュメを配布する。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	社会問題に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

協同組合論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	協同組合とはなにか 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	協同組合の組織 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	協同組合と社会 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	大原幽学と先祖株組合 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	二宮尊徳と報徳社 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	近代化の進展と産業組合 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	農地改革とその効果 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	農業協同組合の成立 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	さまざまな協同組合Ⅰ(大学) 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	さまざまな協同組合Ⅱ(消費者) 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	さまざまな協同組合Ⅲ(漁業者) 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	世界の協同組合 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	21世紀の協同組合 講義レジュメを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

科 目 名	移民政策論（現代の政治）			科目コード	23180	
英 文 名	Immigration Policies (Contemporary Politics)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	グローバル化とヒトの国際移動をキーワードに、移民政策について考える。前半は、グローバル化によって変わる政治経済と移民政策における各課題について学ぶ。後半は世界各地のエスニック集団の事例について紹介する。					
授業の狙い・到達目標	本科目のねらいは、現代社会の政治を理解する手がかりとして、グローバル化の概念をヒトの国際移動の観点から理解することである。 到達目標)現代の移民政策についての基本的な論点をおさえ、日本の地域社会における望ましい共生のあり方や問題点を述べられるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。					
授業外学習(予習・復習)	日頃からニュースや新聞などに目を通し、グローバル化現象や、外国人コミュニティに関して関連知識を得ること。授業内課題の準備として、講義の内容はよく復習し、不明な用語は調べておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	講義で使用したものについては、適宜紹介する。					
課題に対するフィードバック	提出課題については、各自の答案を評価し、次週以降に返却する。また、適宜、補足説明やコメントを付記する。					
成績評価方法	平常点(30%) 授業内課題(40%) 定期試験(30%)					
成績評価基準	平常点は、①授業への参加意欲 ②発言等による授業への貢献 ③周囲との共同・協調の各項目を評価する。授業内課題と定期試験は、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	より発展的な内容を学びたい場合は、参考図書等を案内する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

授業スケジュール

移民政策論(現代の政治)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 移民政策論の視点 シラバスを読み、授業内容について確認しておく。 授業内容と進め方について、確認しておく。
2 回	学習内容 予習 復習	国家、国民、民族 国家や国民、民族といった用語を調べ、理解しておく。 講義で説明された用語の概念を復習し、説明できるように復習をする。
3 回	学習内容 予習 復習	グローバル化の進展 その1 ヒト・モノ・カネの国際移動 グローバル経済や国際政治に関するニュース・新聞記事を読んでおく。 講義の内容をふまえて予習の内容を深める。
4 回	学習内容 予習 復習	グローバル化の進展 その2 移住と移民 グローバル経済や国際政治に関するニュース・新聞記事を読んでおく。 講義の内容をふまえて予習の内容を深める。
5 回	学習内容 予習 復習	グローバル化の進展 その3 日本における移民と経済的・社会的影響 グローバル経済や国際政治に関するニュース・新聞記事を読んでおく。 講義の内容をふまえて予習の内容を深め、グローバル経済と移民の関係について考える。
6 回	学習内容 予習 復習	移民政策① 出入国管理・シチズンシップ 移民政策に関するニュース・新聞記事を探し、事例を確認しておく。 講義をふりかえり、適切な移民政策のあり方について考える。
7 回	学習内容 予習 復習	移民政策② 労働・ジェンダー・技能 移民政策に関するニュース・新聞記事を探し、事例を確認しておく。 講義をふりかえり、適切な移民政策のあり方について考える。
8 回	学習内容 予習 復習	移民政策③ 多文化共生・教育・福祉 移民政策に関するニュース・新聞記事を探し、事例を確認しておく。 講義をふりかえり、適切な移民政策のあり方について考える。
9 回	学習内容 予習 復習	世界のチャイナタウンと日本の華人社会 チャイナタウンがどのような国や地域でみられるかを調べておく。 前回の内容と合わせて復習をする。中国系移民がどのように現地に適応しているか考える。
10 回	学習内容 予習 復習	北米のエスニック社会 アメリカとカナダの移民政策について、概略を調べておく。 北米の中国系移民とその他とを比較し、北米のエスニック社会の理解を深める。
11 回	学習内容 予習 復習	ヨーロッパのエスニック社会 EUや周辺諸国で生じている移民問題について調べておく。 EUの移民問題と北米の移民問題との違いを考える。
12 回	学習内容 予習 復習	海外の日系人社会 日本から海外への移住の歴史について調べておく。 日本人の海外移住の歴史を、近年のアジアの国々の動向と比較しながら復習する。
13 回	学習内容 予習 復習	日本のコリアン社会 日本のコリアン社会の歴史について、概要を調べておく。 日本文化と日本のコリアン社会の相互の影響について、サブカルチャーなどを切り口に考える。
14 回	学習内容 予習 復習	日本のインドネシア人社会 日本のインドネシア社会の歴史について、概要を調べておく。 日本のエスニック集団の新たな動向として、他にどのような事例があるかを調べる。
15 回	学習内容 予習 復習	講義のふりかえり 各回の資料を読み返し、授業内容を振り返っておく。 予習の内容と講義の内容を確認し、理解を深める。

科 目 名	多文化共生社会論（多文化共生論）			科目コード	23190	
英 文 名	Inclusive Society of Various Cultures (Multicultural Relations)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	羽田 利久		教員コード	155	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	2019年は3000万人を超える外国人が日本を訪れていた。彼らが日本を訪れる理由は様々だが、その中でも特に訪日外国人観光客の動向について学ぶことにより、多文化共生についての理解を深める。					
授業の狙い・到達目標	訪日外国人観光客を中心に学ぶことにより、外国人と日本人との視点の違いや、国ごとに嗜好が異なることを理解できることを目的とする。さらに、相互理解のために考えられる手段等について、受講者なりの意見を持つことができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	「観光は平和へのパスポート」という言葉があるが、これを実感できるような授業にしたいと考えている。観光学Ⅰ、Ⅱで観光学全般について学ぶため、併せての受講を推奨する。					
授業外学習(予習・復習)	授業計画を確認して、参考になりそうな時事問題について事前に確認をしておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習をおこなうこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。					
参考書・その他教材	JNTO訪日旅行データハンドブック2020(オンラインで入手可能)					
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストや小レポートなどを課し、そのフィードバックは随時おこなう。その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。					
成績評価方法	期末試験(50%)、授業への貢献度(30%)、小レポート等(20%)により、総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。 復習を重点的におこない、授業内容の理解を深めること。 授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。					
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当(経験) (第8回～第14回は実務経験を踏まえた講義である)					
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org					

授業スケジュール

多文化共生社会論(多文化共生論)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をして臨むこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	多文化共生の手段としての観光 多文化共生とはどのようなことか、自分なりの意見をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	異文化を理解する・生活 文化の違いについて考えることを、自分なりの言葉でまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	地球環境の問題について 環境問題について文化の違いにより何か差があるかを考えてくること。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	地域格差の問題について 地域格差の問題について、自分なりの意見をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	異文化を理解する・異国の人をもてなす 外国人をもてなす際、自分ならどうするかを考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	外国人観光客増加のための観光政策 自分の国が外国人観光客を受け入れるためにどのようなことをおこなっているか確認すること。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	外国人を迎えるための施策(1) 総論 街で気が付いた外国人観光客受け入れのための施策をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	外国人を迎えるための施策(2) 宿泊産業 自分が外国で宿泊する際にあったらいいと思う事をまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	外国人を迎えるための施策(3) 運輸産業 自分が海外旅行をした場合、移動の際にどのようなことで困りそうか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	外国人を迎えるための施策(4) 観光施設 自分が海外旅行をした場合、観光をする際にどのようなことで困りそうか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	訪日外国人が期待するもの(1) 食事 自分が海外旅行をしたら、どのような情報から食べたいものを見つけるか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	訪日外国人が期待するもの(2) 買い物 自分が海外旅行をしたら、どのような情報から買いたいものを見つけるか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	訪日外国人が期待するもの(3) 観光 自分が海外旅行をしたら、どのような情報から見たいものを見つけるか考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、多文化共生についての理解を深めること。

科目名	地域文化と共生（地域研究Ⅰ）			科目コード	23200	
英 文 名	Inclusive Society and Local Cultures (Area Studies Ⅰ)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	晨 晃		教員コード	209	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との 対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	グローバル化に伴う多文化共生現象について日本の社会環境の中で学ぶ。講義では学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学問を深める。					
授業の狙い・ 到達目標	日本社会の現実から、多文化共生の基本的な考え方を学び、多文化共生と自分自身の生活経験との関連性を認識する。日本社会の中でますます進んでいる多文化共生現象について理解を深め、日本社会に関心を持ち、自分なりの考え方を形成できるようになる。					
授業内容の レベル・関連科目	最新情報に基づいて多文化共生に関する現状と知識を得る。その中で社会学の視点からあらゆる要因を分析する力を身につける。					
授業外学習 (予習・復習)	授業の前にインターネットを利用して情報を収集し、研究発表を読み、授業後、授業の内容について質問や感想文をまとめて提出する。次回の授業で解答や意見交換を行う。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・ その他教材	日本政府のウェブサイト(総務省)など https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/chiho/02gyosei05_03000060.html 毎日のニュースを注目すること					
課題に対する フィードバック	授業に関する質問や感想文を毎回提出させ、次の授業で解答や意見交換を行う。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。					
成績評価方法	期末レポート(40%)、課題(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to: hayashi@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

地域文化と共生(地域研究Ⅰ)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション——授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること
2 回	学習内容 予習 復習	「多文化共生」概念の整理 多文化共生という基礎概念について調べ、理解すること 多文化共生現象研究の開始、発展について振り返り、レポートを提出すること
3 回	学習内容 予習 復習	島国としての日本と多文化共生 日本社会の特徴について調べ、理解すること 日本と多文化共生の関連性について振り返り、レポートを提出すること
4 回	学習内容 予習 復習	多文化共生の条件について学ぶ。 文化における言語、習慣、宗教の役割について調べ、理解すること 以上の諸要素の意義について振り返り、レポートを提出すること
5 回	学習内容 予習 復習	多文化共生によって発生する問題について学ぶ。 文化における言語、習慣、宗教の差異について調べ、理解すること 異文化コミュニケーションの問題点について振り返り、レポートを提出すること
6 回	学習内容 予習 復習	日本社会における技能実習生の現状について学ぶ。 技能実習生に関する情報や現状について調べ、理解すること 働く外国人と多文化共生の関係について振り返り、レポートを提出すること
7 回	学習内容 予習 復習	日本の外国人留学生について学ぶ。 留学生に関する情報や現状について調べ、理解すること 留学生と多文化共生の関係について振り返り、レポートを提出すること
8 回	学習内容 予習 復習	多文化共生に関する日本政府の政策・方針について学ぶ。 日本政府の政策や対策について調べ、理解すること 日本政府の政策について振り返り、レポートを提出すること
9 回	学習内容 予習 復習	日本各地の自治体と多文化共生について学ぶ。 自治体の多文化共生策について調べ、理解すること 自分の住む地域の現状について振り返り、レポートを提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(1) 欧米人と日本社会 欧米人の日本社会における共生について調べ、理解すること 具体的な事例について調べて、レポートを提出すること
11 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(2) アジア人と日本社会 韓国人、中国人、ベトナム人のケースについて調べ、理解すること 具体的な事例について調べて、レポートを提出すること
12 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディー(3) その他の民族と日本社会 その他の民族の日本社会における共生について調べ、理解すること 具体的な事例について調べ、レポートを提出すること
13 回	学習内容 予習 復習	多文化共生の将来について学ぶ 多文化共生の可能性について調べ、理解すること なぜ多文化共生が必要であるかについて振り返り、レポートを提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	ディスカッション あなたの体験談 他人の気持ち、立場をいかに理解するかについて考えること 授業を受ける前と受けた後、自分の変化について振り返り、レポートを提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ——多文化共生の意義について学ぶ 人類の将来と多文化共生の関係について調べ、理解すること 今までの授業内容を振り返り、多文化共生の諸課題をとりまとめること

科 目 名	社会調査法（比較文化論Ⅱ）				科目コード	23210	
英 文 名	Social Reserch Methods (Comparative CultueⅡ)				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との 対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探究する		☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	地域や文化についての深い理解には、文献購読の他、聞き取りや参与観察に基づく現地調査が欠かせない。本授業では、文化人類学的な調査について講義した後、グループごとにテーマを設定し、「よつかいどう和棉ばたけ」(代表:田中英子さん)さん等のご協力を得ながら、実践的に調査を行なう。						
授業の狙い・ 到達目標	卒業研究で調査を行うことを前提に、受講生が自ら研究の問いを立て、調査計画を考えられるようになることを目指す。調査の意義・方法に関する基礎的な知識を習得するとともに、インフォーマントとの関わりのなかで調査をするとはどういうことかを実践的に学ぶことができる。						
授業内容の レベル・関連科目	授業内でのディスカッションや地域の方々との交流には、日本語によるコミュニケーション能力が必要となる。（関連科目）地域ブランド論、文化人類学、循環型社会論						
授業外学習 (予習・復習)	実践的な授業のため、事前に調査のテーマに関する情報を調べたり、調査後にはデータを整理したりするなど、積極的な取り組みが不可欠である。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	指定しない。						
参考書・ その他教材	松村圭一郎『はみだしの人類学 ともに生きる方法 NHK出版 学びのきほん』NHK出版、2020年。梶丸岳・丹羽朋子・椎野若菜(編)『フィールドノート古今東西』、古今書院、2016年。						
課題に対する フィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。						
成績評価方法	レポート(50%)、フィールドワークやプレゼンテーションへの積極的な参加(50%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。本科目を履修するには、「地域ブランド論」も合わせて受講すること。また、後期に「文化人類学」および「循環型社会論」も受講することが望ましい。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

社会調査法(比較文化論Ⅱ)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション—授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	問いを立てる①研究や調査の前提となる問いと仮説について考える 事前に配布する資料を読むこと。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
3 回	学習内容 予習 復習	問いを立てる②新聞記事から 新聞を読み、社会問題に関する記事を選んで持ってくること。 自身で研究の問いが立てられるよう、授業内容を復習すること。
4 回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ①講義 事前に配布する資料を読むこと。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
5 回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ②四街道市で活動する団体へのインタビュー 事前に情報を調べ、インタビュー項目を作成してくること。 インタビューの内容をまとめておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	インタビュー調査について学ぶ③ディスカッション インタビューの内容について、ディスカッションできるよう整理しておくこと。 他の受講生の発表を受けて、仮説を再検討すること。
7 回	学習内容 予習 復習	参与観察について学ぶ。 事前に配布する資料を読むこと。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	ライフストーリー調査について学ぶ 事前に配布する資料を読むこと。 授業をふまえて資料を読み返し、要点をまとめておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践①グループごとに調査計画をつくる 四街道市で活動する団体や専門家などについて調べ、調査のテーマを考えてくること。 アドバイスを受けて、調査計画を再検討すること。
10 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践②調査計画を推敲する グループごとに調査計画を練り直し、発表できるよう準備すること。 他のグループの発表を受けて、良い点、改善点をまとめ、自分たちの計画に活かすこと。
11 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践③調査の実施 調査協力者にアポを取り、調査の準備を整えること。 調査で得られたデータを整理して、途中経過を報告すること。
12 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践④調査の実施(続き) 前回の調査での反省点・改善点や気づきをグループで話し合っておくこと。 調査で得られたデータを整理して、報告できるようまとめること。
13 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践⑤調査データの報告(グループ1)とディスカッション グループで話し合いを進め、調査のデータを報告する準備を整えること。 報告したグループは、内容をレポートにまとめて提出すること。
14 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実践⑥調査データの報告(グループ2)とディスカッション グループで話し合いを進め、調査のデータを報告する準備を整えること。 報告したグループは、内容をレポートにまとめて提出すること。
15 回	学習内容 予習 復習	総合討論 互いのグループの報告について、良い点・改善点などをまとめてくること。 ディスカッションで提示された課題について、各自が自分の意見をまとめて提出すること。

科 目 名	社会経済史（現代の経済）				科目コード	23220	
英 文 名	Socio-Economic History (Contemporary Economy)				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	中村 塑		教員コード	138		単 位 数	2単位
開講期間	後期		曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	今から500年以上前の大航海時代から現代に至るまでのグローバル・ヒストリー、中でもヨーロッパとアジアの関係に注目する。ヒト・モノ・カネ・情報は地球の上でどのような動きをしてきたのか、また日本は世界とどのような関係を持ってきたのかについて講義する。						
授業の狙い・到達目標	貧困や飢餓、環境の悪化といった国や地域を超えたグローバルな問題が形成されてきた歴史的過程について理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目：農業史						
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	杉山伸也(2014)『グローバル経済史入門』岩波書店						
参考書・その他教材	平賀緑(2021)『食べものから学ぶ世界史』岩波書店 授業の回によってはレジュメ等を配布する。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	歴史に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

社会経済史(現代の経済)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	アジア域内交易と大航海時代 教科書の第1章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	近世東アジアの国際環境①中国 教科書の第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	近世東アジアの国際環境②日本 教科書の第2章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	インドの植民地下とイギリス 教科書の第3章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	イギリス産業革命 教科書の第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	「パクス・ブリタニカ」の時代 教科書の第4章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	アジアの近代化①(中国・タイ) 教科書の第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	アジアの近代化②(日本) 教科書の第5章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	アジア経済のモノカルチャー化と再編 教科書の第6章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	両大戦間期の世界経済 教科書の第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	両大戦間期の日本経済 教科書の第7章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	戦後世界経済の再建と動揺 教科書の第8章を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	グローバル経済の現在 教科書のエピローグを読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	定期試験に向けて これまでの授業で学んだことを振り返ること 教員の指示に従って、定期試験対策をすること

専攻科目
(地域共生専攻)

科 目 名	農業史			科目コード	23230	
英 文 名	Agricultural History			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	中村 塑		教員コード	138	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜 日・時 限	火曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	当たり前のことであるが、人間は食料なくしては生きていくことができない。したがって人間は、人間に食料を供給する第1次産業、特に農業とともに長い歴史を歩んできた。しかしながら、人間が作った社会の仕組みは各時代によって異なるため、社会の影響を受けやすいという性格を持つ農業は、それぞれの時代ならではの姿もあらわしてきた。農業について、時代を越えてつながっている点は何であるのか、各時代の中でのみみられた点は何であるのか、つまり歴史の連続している面と断絶している面の双方を意識しながら授業を進めていく。					
授業の狙い・到達目標	日本における農業の歩みを学び、現代日本農業が有する諸問題の歴史的背景について理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては基本レベルである。 関連科目：社会経済史					
授業外学習(予習・復習)	教科書に沿って授業を進める。したがって予習として指定箇所を事前に読み、復習として授業後に再度読むこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	木村茂光編(2010)『日本農業史』 吉川弘文館					
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。					
成績評価方法	定期試験(70%)、リアクションペーパー(30%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	歴史に関するニュースや新聞記事に関心を持つこと。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7					

授業スケジュール

農業史

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	原始の農業 参考書の「Ⅱ 原始」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
3 回	学習内容 予習 復習	古代の農業 参考書の「Ⅲ 古代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
4 回	学習内容 予習 復習	中世(鎌倉・南北朝期)の農業 参考書の「Ⅳ 中世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
5 回	学習内容 予習 復習	中世(室町・戦国期)の農業 参考書の「Ⅳ 中世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
6 回	学習内容 予習 復習	近世の農業(新田開発の進展) 参考書の「Ⅴ 近世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
7 回	学習内容 予習 復習	近世の農業(集約農業の追求) 参考書の「Ⅴ 近世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
8 回	学習内容 予習 復習	近世の農業(農書の誕生) 参考書の「Ⅴ 近世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	近世の農業(商業的農業の隆盛) 参考書の「Ⅴ 近世」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
10 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(地租改正と明治農法) 参考書の「Ⅵ 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(小作争議の勃発) 参考書の「Ⅵ 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(戦争と戦時農業統制の開始) 参考書の「Ⅵ 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(農地改革) 参考書の「Ⅵ 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(高度経済成長と農業) 参考書の「Ⅵ 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	近現代の農業(国際化時代の農業) 参考書の「Ⅵ 近代」を読み、授業で学ぶことを事前に整理しておくこと 授業内容を振り返り、学んだことや新たに得られた知見を確認すること

専攻科目
(地域共生専攻)

科目名	生涯学習論			科目コード	23240		
英 文 名	Studies on Lifelong Learning			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)		
担当教員	太田和 良幸		教員コード	154		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	生涯学習の意義、生涯学習の方法と内容、関係施設と職員の役割などについて学ぶ。また、新たな学習方法や地域社会、高齢化社会における生涯学習の役割など生涯学習の今日的な課題について考察し、理解を深める。						
授業の狙い・到達目標	人が生涯にわたって学習し続けることの意義と重要性、並びにその方法などについて理解を深めるとともに、住民の生涯学習活動と地域づくりの関連を理解し、地域における生涯学習環境の在り方を考えることをねらいとする。 各自のライフスタイルに適したそれぞれの学び方を学修し、社会生活を豊かに過ごすために主体的に学んでいく力を獲得することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	社会教育士などになるための基礎的レベルであり、学習活動・文化活動やグループワークによる協同学習に関心と意欲があることが望まれる。 関連科目：まちづくり論、福祉政策学						
授業外学習(予習・復習)	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組み、レポートにまとめ、授業に持参すること また、毎回授業内容について振り返り(復習し)、これをレポートにまとめ、次回の授業時に提出すること				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教科書は使用しない。教員作成のレジュメなどを配布する。						
参考書・その他教材	「生涯学習のイノベーション」 笹井宏益・中村香著 玉川大学出版部						
課題に対するフィードバック	提出されたレポートは、採点して返却する。 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。						
成績評価方法	定期試験(40%)、レポート(30%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業は、学生の主体的学習(学生間の議論・発表)を重視し、協働で学習を深める。 主体的に学習に取り組むこと。 日頃から社会の諸事情に関心を持つことが求められる。						
科目に関連した教員の実務経験	文部省生涯学習局勤務、文化庁勤務、国立博物館勤務、社会教育主事講習講師 授業は全て上記の職務経験に基づき実施される。						
担当教員への連絡方法	質問はE-Mailでも受け付ける。(mail to:ohtawa@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

1 回	学習内容 予習 復習	【イントロダクション】 授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読して、本授業の概要、授業方法などを理解しておく。 授業の概要、授業方法などについて振り返りを行う。
2 回	学習内容 予習 復習	「学び」とはどのようなものなのか、「学び」の意義について理解する。 これまで学校以外で自分が学んできたこと、これから学びたいことを整理する。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
3 回	学習内容 予習 復習	ライフスタイルと「学び」（「学び」の生涯設計）について学ぶ。 社会人になった時、高齢期など今後予想されるライフスタイルと学びについて考える。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
4 回	学習内容 予習 復習	「学び」を支える施設の役割と機能について学ぶ。 主として学びのために造られている施設にはどのようなものがあるか調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
5 回	学習内容 予習 復習	地域学習センター（公民館）について学ぶ。 身近にある公的学習センター（公民館など）を調べ、その機能と役割について整理する。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
6 回	学習内容 予習 復習	図書館について学ぶ。 学びにおける書籍の役割、現代の図書館の役割について調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
7 回	学習内容 予習 復習	博物館について学ぶ。 博物館とはどのような施設か、その利用方法について調べてくる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
8 回	学習内容 予習 復習	公的セクター（都道府県・市町村）が実施している学習プログラムについて学ぶ。 都道府県や市町村が実施している学習プログラムの事例を調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
9 回	学習内容 予習 復習	民間事業者の提供する学習プログラムについて学ぶ。 カルチャーセンター、私塾、スポーツクラブ等の学習プログラムの特徴について調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
10 回	学習内容 予習 復習	体験型学習の意義について学ぶ。 自然体験や勤労体験ができる場所、プログラムを調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
11 回	学習内容 予習 復習	ICTを活用した新しい学習方法について学ぶ。 通常の授業とは異なる、ICTを活用した新しい学習方法、プログラムについて調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
12 回	学習内容 予習 復習	ボランティア活動、NPO、「新しい公共」、社会的資本について学ぶ。 住民が自主的に行っているボランティア活動等と学習との関係について事例を調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
13 回	学習内容 予習 復習	地域文化活動、まちづくり、地域共生と「学び」について学ぶ。 地域における文化活動・学習活動が地域づくり、まちづくりに役立っている事例を調べる。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
14 回	学習内容 予習 復習	【まとめ1】 学びの多様性と学習方法について再確認する。 今後の自己の学習課題、学習方法を探し出し、整理する。 授業について振り返りを行い、レポートにまとめて提出する。
15 回	学習内容 予習 復習	【まとめ2】 生涯学習の今日的諸課題について学ぶ。 学びについての今日的課題（評価、成果の活用、費用など）について調べる。 全15回の授業を振り返り、生涯学習の今日的諸課題についてとりまとめる。

科目名	地域共生演習Ⅰ（地域研究Ⅱ）			科目コード	23250	
英 文 名	Studies of Inclusive SocietyⅠ (Area StudiesⅡ)			科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	この授業では、GIS(地理情報システム Geographic Information System)を取り扱う。GISソフトウェアの基本操作となる地図の表示や計測機能と、地理空間情報の分析方法について学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	本科目のねらいは、GISの基本的な概念を理解し、日常生活の様々な場面でGISを活用できるよう、その基礎を養うことである。 到達目標)GISソフト「MANDARA」の基本操作を習得し、主題図の作成ができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	必要となる前提知識は設定しない。 地域共生演習Ⅱを合わせて履修することを推奨する。					
授業外学習(予習・復習)	習った内容は繰り返し確認し、授業内容と同様のソフトウェア操作は独力でできるように練習しておくこと。また、その際は、別のデータを用意してソフトウェアに入力してみるなどして、操作だけでなくその出力結果も意識しながら復習をすること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	授業内で適宜案内する。					
課題に対するフィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。					
成績評価方法	平常点(40%) 演習成果(60%)					
成績評価基準	平常点は、授業への参加意欲、発言等による授業への貢献、周囲との共同・協調の各項目を評価する。演習成果は、各回の提出課題や発表を、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づいて評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	受講人数や進度により、演習内容を変更する場合がある。 PCの基本操作(アカウントへのログイン、ファイルの保存、メールの送信等)や、オフィスソフト(Word、Excel、PowerPoint等)の操作については、授業内では案内しないので注意されたい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。					

授業スケジュール

地域共生演習Ⅰ（地域研究Ⅱ）

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション シラバスを読み、授業内容について理解する。 授業の目的や内容、進め方について確認する。
2 回	学習内容 予習 復習	GISとは 近年、GISがどのように用いられているか、調べておく。 授業で紹介した内容と予習時に調べた内容を合わせて、GISの重要性について再確認をしておく。
3 回	学習内容 予習 復習	様々なGISソフト GISの基本的な概念について復習をしておく。 演習で操作した様々なツールについて、各々の特徴や利点を再確認しておく。
4 回	学習内容 予習 復習	MANDARAのダウンロードと基本操作 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
5 回	学習内容 予習 復習	付属地図ファイルを使用した白地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
6 回	学習内容 予習 復習	都道府県別・市区町村別の統計地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
7 回	学習内容 予習 復習	国土数値情報を用いた地図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
8 回	学習内容 予習 復習	ジオコーディングによる分布図の作成 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
9 回	学習内容 予習 復習	メッシュデータの地図化 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
10 回	学習内容 予習 復習	国勢調査の小地域データを地図化する 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
11 回	学習内容 予習 復習	立地分析① 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
12 回	学習内容 予習 復習	立地分析② 前回の内容のうち、とくにPCの基本的操作について不明点のないよう予習をする。 ソフトウェアの基本操作について繰り返し復習をし、次回以降も円滑に操作を実行できるようにする。
13 回	学習内容 予習 復習	地域データの収集&プレゼンテーションファイルの作成 どのような主題図を作成したいか、あらかじめ想定し、データを準備しておく。 出力した地図について、指摘された箇所を修正する。
14 回	学習内容 予習 復習	各班のプレゼンテーション① これまでの授業内容を復習し、GISの操作方法や主題図の作成方法について再確認する。 提出した課題について、授業の該当箇所を復習し、自己の答案を振り返る。
15 回	学習内容 予習 復習	各班のプレゼンテーション② これまでの授業内容を復習し、GISの操作方法や主題図の作成方法について再確認する。 提出した課題について、授業の該当箇所を復習し、自己の答案を振り返る。

科 目 名	地域共生演習Ⅱ（地域研究Ⅲ）				科目コード	23260	
英 文 名	Studies of Inclusive Society Ⅱ (Area Studies Ⅲ)				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(選択)	
担当教員	栗林 慶			教員コード	158	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜 日・時 限		火曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	この授業では、地図に関する基礎知識を案内する。演習では、実際に様々な地図を作成することで地図に対する理解を深めていく。授業の後半では、地域を地図により解説する発表を、班別もしくは個人で行う。						
授業の狙い・到達目標	本科目のねらいは、地域を正しく理解するためのツールとして、または空間的思考を養うための一助として、地図リテラシーを身につけることである。 到達目標)地図を用いて様々な空間スケールのデータを表現できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	地域共生演習Ⅰを履修していることが望ましいが、相談に応じる。						
授業外学習(予習・復習)	大学内外での学習時や、本や動画、または街中などの、日常の様々な場面で見かける地図について、授業の内容を思い出しながら、地図表現や地図の善し悪しについて分析をし、メモを作成すること。 なお、授業時間外にワークを行った場合、所要時間等を検討し、予習・復習は適宜調整をする。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	授業内で適宜案内する。						
課題に対するフィードバック	各回の演習やプレゼンテーションについては、随時フィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(40%) 演習成果(60%)						
成績評価基準	平常点は、授業への参加意欲、発言等による授業への貢献、周囲との共同・協調の各項目を評価する。演習成果は、各回の提出課題や発表を、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づいて評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	受講人数や進度、天候等により、演習内容を変更する場合がある。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

地域共生演習Ⅱ（地域研究Ⅲ）

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション シラバスを読み、授業内容について理解する。 授業の目的や内容、進め方について確認する。
2 回	学習内容 予習 復習	地図とはなにか よい地図、悪い地図の条件はなにか、考えておく。 授業の内容をふまえ、身近な地図に関するメモの作成を開始する。
3 回	学習内容 予習 復習	地図の歴史、定性的地図と定量的地図 演習で取り扱った地図表現についてよく復習しておく。 作成した身近な地図のメモを演習内容と照らし合わせ、地図を評価してみる。
4 回	学習内容 予習 復習	地図における点データ地図、線データ地図、面データ地図 演習で取り扱った地図表現についてよく復習しておく。 作成した身近な地図のメモを演習内容と照らし合わせ、地図を評価してみる。
5 回	学習内容 予習 復習	地図におけるデータ転換、地図の彩色、地図記号 演習で取り扱った地図表現についてよく復習しておく。 作成した身近な地図のメモを演習内容と照らし合わせ、地図を評価してみる。
6 回	学習内容 予習 復習	測量とは① 測量について、インターネット等を使用して簡単な知識を得ておく。 測量に関する理論について、よく復習しておく。
7 回	学習内容 予習 復習	測量とは② 測量に必要となる、中学・高校レベルの計算方法を予習しておく。 測量に関する理論について、よく復習しておく。
8 回	学習内容 予習 復習	測量とは③ 測量に必要となる、中学・高校レベルの計算方法を予習しておく。 測量に関する理論について、よく復習しておく。
9 回	学習内容 予習 復習	様々な地図① 地形図を読む 任意の場所の地形図を用意し、地図アプリ等で表示されるデータとの違いを確認しておく。 授業の内容とともに、第2回から第5回の内容を重点的に復習し、最後半の発表に備える。
10 回	学習内容 予習 復習	様々な地図② 生活の中の地図 身近な広告等から、生活の中でどのように地図が用いられているか確認しておく。 授業の内容とともに、第2回から第5回の内容を重点的に復習し、最後半の発表に備える。
11 回	学習内容 予習 復習	様々な地図③ 空間認知と地図 1日～数日程度、自分の移動した記録を手書きの地図として、メモにとっておく。 授業の内容とともに、第2回から第5回の内容を重点的に復習し、最後半の発表に備える。
12 回	学習内容 予習 復習	様々な地図④ デジタルマップとGIS 普段使用している地図アプリについて、その開発の歴史を調べておく。 授業の内容とともに、第2回から第5回の内容を重点的に復習し、最後半の発表に備える。
13 回	学習内容 予習 復習	地域データの収集&プレゼンテーションファイルの作成 どのような主題図を作成したいか、あらかじめ想定し、データを準備しておく。 出力した地図について、指摘された箇所を修正する。
14 回	学習内容 予習 復習	各班のプレゼンテーション① これまでの授業内容を復習し、主題図の作成方法について再確認する。 提出した課題について、授業の該当箇所を復習し、自己の発表を振り返る。
15 回	学習内容 予習 復習	各班のプレゼンテーション② これまでの授業内容を復習し、主題図の作成方法について再確認する。 提出した課題について、授業の該当箇所を復習し、自己の発表を振り返る。

科 目 名	地域共生フィールドワーク実習				科目コード	23270	
英 文 名	Fieldwork of Inclusive Society				科目区分	【専門科目】 地域共生専攻(必修)	
担当教員	中村 塑／山崎 寿美子		教員コード	138／147		単 位 数	2単位
開講期間	通年		曜日・時限	月曜日・1時限		授業形態	実習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	教員の指導のもとでフィールドワークのテーマを決め、実際に地域に出かけて調査を行う。最後に調査結果を報告書にまとめ、プレゼンテーションをする。対象地域は千葉県内で、特に北総地域を予定している。						
授業の狙い・到達目標	実習を通して、調査方法、データの分析方法、報告書の作成方法、プレゼンテーションの方法などを身につけることができる。また実習での経験を地域共生に関する学びや次年度の卒業研究に役立てる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生の学修としては応用レベルである。 関連科目：地域共生専攻のすべての科目						
授業外学習(予習・復習)	授業スケジュール記載の予習と復習に取り組むこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	特になし						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	実習態度(60%)、報告書等の作成(20%)、プレゼンテーション(20%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	実習の性格上、地域の方々と関わる機会が多いため、積極性と協調性は欠かせない。また時間を守り、欠席する際は必ず事前に担当教員に連絡をすること。授業スケジュールは実習地側の事情を最優先させるため、変更することもある。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org(中村)、yamazaki@aikoku-u.org(山崎)						

授業スケジュール

地域共生フィールドワーク実習

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	テーマの選定① テーマについて、自らの考えを整理しておくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
3 回	学習内容 予習 復習	テーマの選定② テーマについて、自らの考えを整理しておくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
4 回	学習内容 予習 復習	実習地の概要①(歴史) 教員の指示に従い、内容を把握すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
5 回	学習内容 予習 復習	実習地の概要②(自然) 教員の指示に従い、内容を把握すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
6 回	学習内容 予習 復習	実習地の概要③(第一次産業) 教員の指示に従い、内容を把握すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
7 回	学習内容 予習 復習	実習地の概要④(第二次産業) 教員の指示に従い、内容を把握すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
8 回	学習内容 予習 復習	実習地の概要⑤(第三次産業) 教員の指示に従い、内容を把握すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
9 回	学習内容 予習 復習	実習地の概要⑥(その他特徴) 教員の指示に従い、内容を把握すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
10 回	学習内容 予習 復習	前期調査① 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
11 回	学習内容 予習 復習	前期調査② 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
12 回	学習内容 予習 復習	前期調査③ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
13 回	学習内容 予習 復習	前期調査④ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	前期調査⑤ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
15 回	学習内容 予習 復習	中間報告 前期の調査を振り返ること 課題点を整理し、後期の調査を意識すること

授業スケジュール

地域共生フィールドワーク実習

16 回	学習内容 予習 復習	後期調査に向けて 後期調査の全体像を把握すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
17 回	学習内容 予習 復習	後期調査① 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
18 回	学習内容 予習 復習	後期調査② 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
19 回	学習内容 予習 復習	後期調査③ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
20 回	学習内容 予習 復習	後期調査④ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
21 回	学習内容 予習 復習	後期調査⑤ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
22 回	学習内容 予習 復習	後期調査⑥ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
23 回	学習内容 予習 復習	後期調査⑦ 調査項目を確認しておくこと 得られたデータを確認すること
24 回	学習内容 予習 復習	報告書の作成① 得られたデータをもとに報告書を作成すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
25 回	学習内容 予習 復習	報告書の作成② 得られたデータをもとに報告書を作成すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
26 回	学習内容 予習 復習	報告書の作成③ 得られたデータをもとに報告書を作成すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
27 回	学習内容 予習 復習	報告会に向けて① 報告書をもとに報告資料を作成すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
28 回	学習内容 予習 復習	報告会に向けて② 報告書をもとに報告資料を作成すること 授業中に教員が話したことを振り返ること
29 回	学習内容 予習 復習	報告会 報告資料を確認すること 報告会を振り返ること
30 回	学習内容 予習 復習	発表を受けてのフィードバック 授業全体を見直しておくこと この実習を通して得られた知見を整理すること

科 目 名	情報科学概論（情報科学概論）				科目コード	24010	
英 文 名	Outline of Information Sciences				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137		単 位 数	2単位
開講期間	後期		曜日・時限	木曜日・5時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	情報科学概論は、情報科学の基礎やコンピュータやインターネットの仕組み及び原理を学習する。特に、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアについて、その詳細を学習する。						
授業の狙い・到達目標	情報科学概論は、情報科学の基礎を学び、情報系専門科目の情報システム論、セキュリティ概論、プログラミング基礎等の基礎となる内容を学習する。コンピュータの内部処理やインターネットの仕組みや原理を学習する。併せて情報セキュリティや情報関連の法律についても学ぶ。情報系専門科目を履修するうえで必要な知識を習得できる。						
授業内容のレベル・関連科目	授業内容は情報資格試験のITパスポート試験合格レベルの内容である。身の回りや社会の基盤となっている情報システムに関心をもつことが重要である。情報システム論やセキュリティ概論を併せて学習することが望ましい。関連科目は、コンピュータ科目全般である。						
授業外学習（予習・復習）	毎回、授業計画にある学習項目や教員から指示された予習項目について教科書で予習することが必要である。学習した技術用語は専用ノートを用意し記録し、いつでも復習できるようにする。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	安藤明之『最新情報処理概論 改訂版』実教出版						
参考書・その他教材	IT用語辞典（インターネット版）						
課題に対するフィードバック	課題毎に点検、フィードバックを行う。						
成績評価方法	レポート(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規定に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業中に専門用語や情報関連の技術用語が多数使用されるので、ネット上のIT用語辞典等で予習復習を行い、ノートに記録すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、情報科学概論の概要、社会と情報システムの役割 シラバスを読み、授業の概要について概ね理解しておくこと、 授業の目的、授業の進め方等を振り返り、到達目標を理解し次週からの授業に備える
2 回	学習内容 予習 復習	情報科学の基礎、情報量や通信速度の単位。基礎技術用語等について学ぶ 自分の携帯電話の記憶容量を調べておく、教員から提示された予習項目をテキストで調べること 授業で使われた技術用語を専用ノートを用意し、整理記録し復習すること
3 回	学習内容 予習 復習	情報科学の基礎、情報量や通信速度の単位。情報の要素等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、情報の種類や形式についても予習すること 画素、ピクセル、4K、8Kなど情報量の計算方法について復習し、ギガ、テラ、ペタなど単位を復習
4 回	学習内容 予習 復習	情報科学の基礎、アナログ信号とデジタル信号、A/D変換、デジタル化の利点等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、なぜデジタル化の利点について予習する 文字、音声、画像、動画のデジタル化の方式について復習すること。情報圧縮方法を復習する
5 回	学習内容 予習 復習	コンピュータの歴史、ノイマン方式について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、併せてノイマン方式について予習すること コンピュータはどのように進歩したのかバベジの解析機関からスマホまで技術の変遷を復習する
6 回	学習内容 予習 復習	コンピュータの5大機能、コンピュータやメモリーの仕組みや役割について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、併せて命令の取り出し実行までの流れを予習 コンピュータの仕組みやプログラムの実行・処理を復習する。
7 回	学習内容 予習 復習	コンピュータの内部処理、ソフトウェア体系、基本ソフト(OS)の役割等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、ソフトウェアの体系について予習する 基本ソフト(OS)の役割について復習し、ハードとソフトの構成やコンピュータの性能の違いを復習
8 回	学習内容 予習 復習	命令と処理システム、プログラム言語、アセンブラ等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、言語プロセッサの種類について予習する 高水準言語、低水準言語、アセンブラ、機械語及びインタープリタやコンパイラについて復習
9 回	学習内容 予習 復習	コンピュータと情報システム、集中処理と並列処理、情報システムと安全等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、デュアルシステム、デュプレックスシステムを予習 ネットワークの進展と分散処理の進化について、併せてクラウドコンピューティングの利点を復習する
10 回	学習内容 予習 復習	情報ネットワークの仕組み、インターネットの基本プロトコル、パケット通信、IPアドレス等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、蓄積交換方式、回線交換方式について予習 パケット通信方式について復習し、利点、欠点について復習する
11 回	学習内容 予習 復習	インターネットの仕組み、DNS・IPアドレス・ポート番号等の役割 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、併せてIPアドレスやDNSの役割を予習すること グローバルアドレス、プライベートアドレスの仕組み、NATについて復習すること
12 回	学習内容 予習 復習	WANとLAN、ルータの役割、経路情報の仕組み等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、LANを構成する機器について予習すること LAN間通信のしくみ、MACアドレス、ARP等のしくみについて復習すること
13 回	学習内容 予習 復習	情報セキュリティ、情報資産、マルウェアの特徴、セキュリティポリシー等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、情報セキュリティの3要素について予習すること 情報セキュリティとリスク管理、リスク軽減の各種方策について復習すること
14 回	学習内容 予習 復習	情報ネットワークの安全対策、暗号化、複合化、ファイヤーウォール等について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、マルウェアの種類や暗号化について予習する 暗号化、複合化、共通鍵方式、SSL方式等について復習すること
15 回	学習内容 予習 復習	個人情報や著作権、情報関連の法律について学ぶ 教員から提示された予習項目を教科書で予習し、情報関連の法律をインターネットで検索し予習 個人情報や著作権、情報関連の法律について総合的に復習すること

科目名	ビジネス情報学（ビジネス情報学）			科目コード	24020	
英 文 名	Information Systems in Business			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（必修）	
担当教員	栴澤 恭子		教員コード	160	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	ビジネス情報を解析する手段として、機械学習の1つである画像分類やテキストマイニングを用いる。クロス集計からどのようなビジネス判断を行うかを考える。					
授業の狙い・到達目標	昨今よく聞かれるようになったビッグデータとは何かを理解し、データのビジネスにおける意義を考えられるようになること。 情報を可視化することで、情報の意図が読み取り、ビジネス判断ができるようになること。					
授業内容のレベル・関連科目	前提知識や必須ではないが、PC操作は問題なく行える必要がある。					
授業外学習（予習・復習）	復習を重視する。 不明な点や疑問点があれば次講義までに解決しておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が資料を配布する予定。					
参考書・その他教材	講義内で必要となった場合に指示する。					
課題に対するフィードバック	課題に対しては最終講義にフィードバックを行う。					
成績評価方法	演習課題（70％）、講義内課題（30％）					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	PCの操作に慣れておくこと。演習を行うため、Googleアカウントの操作は必須。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kabasawa@aikoku-u.org)またはオフィスアワー（初回講義時にアナウンスする）。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方、PC操作についての確認など) シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	情報の必要性(データと情報、データの種類、データの取扱い) 世の中にあるデータにはどんなものがあるのか考えておくこと なぜ情報が必要なのか理解すること
3 回	学習内容 予習 復習	データの種類・オープンデータ・集合知 データにはどのようなものが存在するのかについて調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	ビッグデータとは(ビッグデータの活用例) 社会でどのようなビッグデータが活用されているのか考えておくこと 自分でも社会における事例を探してみる
5 回	学習内容 予習 復習	社会におけるデータサイエンスの活用 データサイエンスが活用されていると事例を調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	機械学習って何？(機械学習でどんなことができるのか) 機械学習についてどんなことができるのかについて考えておくこと 機械学習について自分なりに考察しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	機械学習演習(画像分類) PC操作について確認しておくこと PC操作に不安がある場合は次回講義までに操作を復習しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	データマイニングとテキストマイニング PC操作について確認しておくこと ツール操作を復習しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	クロス集計によるビジネス戦略① エクセル操作を確認しておくこと 演習方法や解析で不明な点は次の演習までに解決しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	クロス集計によるビジネス戦略② 9回の講義を理解しておくこと 演習方法や解析で不明な点は次の演習までに解決しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	テキストマイニングによるビジネス分析① 8回の講義でやったことを確認しておくこと 演習方法や解析で不明な点は次の演習までに解決しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	テキストマイニングによるビジネス分析② 11回の講義でやったことを確認しておくこと 演習方法や解析で不明な点は次の演習までに解決しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	クロス集計によるビジネス戦略【課題1】 操作について9回、10回の講義を復習しておくこと できなかったポイントについて明確にしておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	テキストマイニングによるビジネス分析【課題2】 操作について11回、12回の講義を復習しておくこと できなかったポイントについて明確にしておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	13回、14回で提出された課題についてのフィードバック これまでの演習で学んだことを理解しておくこと 演習などを通じ、分析することの意義を理解すること

科目名	プログラミング基礎（プログラミング基礎）			科目コード	24030	
英 文 名	Basic Programming			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☒	3.論理的・批判的なものの見方を養う		☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探究する		☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本講義では普及度や実用性の高いプログラミング言語を用いて、プログラミングの基本的な構文と動作に関する演習を行う。					
授業の狙い・到達目標	課題に対してプログラミングで可能な解決策を模索し、論理的思考力が向上する。 個人が低コストでアプリを開発できることを認識し、公開、奉仕、職業につながる可能性を探る。 プログラミングやアルゴリズムの基礎知識と技能を習得し、実際にプログラムの作成と実行ができる。					
授業内容のレベル・関連科目	プログラミングの基礎、C#言語の基礎／「情報科学概論」「情報資格演習」「情報システム論」					
授業外学習（予習・復習）	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	WINGSプロジェクト 高江賢「基礎からしっかり学ぶC#の教科書 第3版 C#10対応 構文とサンプルコードでC#が学べる入門書 改訂新版」日経BP					
参考書・その他教材	プログラミング書籍全般、C#言語関連書籍					
課題に対するフィードバック	各段階毎に成果物を点検、フィードバックを行う。					
成績評価方法	成果物（70%）、授業への貢献度（30%）で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	本授業での指定教科書の値段は、本学内指定教科書の平均水準より高いと思われるため、履修にあたっては相応の覚悟をもって臨むこと。プログラミング技術に関心があり、その能力を向上させたい者は、各プログラミング言語の専門書や関連書を読むことを推奨する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	プログラミング概論 シラバスを熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 プログラミング概論に関する指定課題を解くこと。
2 回	学習内容 予習 復習	プログラムの作成と実行 プログラムの作成と実行の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 プログラムの作成と実行に関する指定課題を解くこと。
3 回	学習内容 予習 復習	変数 変数の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 変数に関する指定課題を解くこと。
4 回	学習内容 予習 復習	演算と型、数値計算 演算と型、数値計算の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 演算と型、数値計算に関する指定課題を解くこと。
5 回	学習内容 予習 復習	プログラムの流れの分岐 プログラムの流れの分岐の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 プログラムの流れの分岐に関する指定課題を解くこと。
6 回	学習内容 予習 復習	プログラムの流れの繰り返し プログラムの流れの繰り返しの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 プログラムの流れの繰り返しに関する指定課題を解くこと。
7 回	学習内容 予習 復習	配列 配列の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 配列に関する指定課題を解くこと。
8 回	学習内容 予習 復習	関数 関数の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 関数に関する指定課題を解くこと。
9 回	学習内容 予習 復習	基本型 基本型の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 基本型に関する指定課題を解くこと。
10 回	学習内容 予習 復習	ソートとサーチ ソートとサーチの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 ソートとサーチに関する指定課題を解くこと。
11 回	学習内容 予習 復習	再帰 再帰の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 再帰に関する指定課題を解くこと。
12 回	学習内容 予習 復習	データ構造 データ構造の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 データ構造に関する指定課題を解くこと。
13 回	学習内容 予習 復習	木、グラフ 木、グラフの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 木、グラフに関する指定課題を解くこと。
14 回	学習内容 予習 復習	文字と文字列 文字と文字列の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 文字と文字列に関する指定課題を解くこと。
15 回	学習内容 予習 復習	ファイル処理 ファイル処理の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 ファイル処理に関する指定課題を解くこと。

科 目 名	プログラミング応用（情報システム論）			科目コード	24040	
英 文 名	Advanced Programming Information System			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	栴澤 恭子		教員コード	160	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	レスポンシブルなWEBページを作成する。 JavaScript/jQueryを使って簡単なゲームを作成する。					
授業の狙い・到達目標	自身の手で作成することにより、プログラム言語をより身近に感じ、理解を深めることができる。 簡単なゲームを作成することができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	HTML/CSSの知識が前提となるため、プログラミング基礎、WEBデザイン演習を履修することが望ましい。					
授業外学習（予習・復習）	特に復習を重視する。PCの扱いに慣れておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	資料を配布する予定。					
参考書・その他教材	HTMLやCSSの入門本を読んでおくことを推奨する。					
課題に対するフィードバック	演習に対するフィードバックを講義内で行う。					
成績評価方法	演習課題（40%）、講義内演習（30%）、講義への取り組み（30%）					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	作成したプログラムを保存するためにUSBメモリを持参すること。 演習を行うため、Googleアカウントの操作は必須。 演習の進捗によっては内容を変更する場合がある。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kabasawa@aikoku-u.org)またはオフィスアワー（初回講義時にアナウンスする）。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方、PC操作の確認等) シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	HTML,CSSの復習 WEBページ基本 HTML,CSSの各言語についての基本タグを調べておくこと。 簡単なWEBページを作れるようになること。
3 回	学習内容 予習 復習	レスポンシブルデザインレイアウト/デベロッパーツールの説明 WEBページの構造を思い出しておくこと。 レスポンシブルデザインの確認を行っておくこと。
4 回	学習内容 予習 復習	レスポンシブルデザインレイアウトのカスタマイズ WEBページの構造を思い出しておくこと。 レスポンシブルデザインの確認を行っておくこと。
5 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム1(作成) HTML,CSSを問題なく扱えるようにしておくこと。 JavaScriptの基本概念を覚えること。
6 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム1 (作成) HTML,CSSを問題なく扱えるようにしておくこと。 JavaScriptの基本概念を覚えること。
7 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム1 (カスタマイズ) JavaScriptの動きを把握しておくこと。 変更したことによってどのようにページが変わるのかを理解すること。
8 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム2 (作成) HTML,CSSを問題なく扱えるようにしておくこと。 JavaScriptの基本概念を覚えること。
9 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム2 (作成) HTML,CSSを問題なく扱えるようにしておくこと。 JavaScriptの基本概念を覚えること。
10 回	学習内容 予習 復習	JavaScript ゲーム2 (カスタマイズ) JavaScriptの動きを把握しておくこと。 変更したことによってどのようにページが変わるのかを理解すること。
11 回	学習内容 予習 復習	JavaScript/jQuery ゲーム3 (作成) HTML,CSSを問題なく扱えるようにしておくこと。 JavaScript/jQueryの基本概念を覚えること。
12 回	学習内容 予習 復習	JavaScript/jQuery ゲーム3 (作成) HTML,CSSを問題なく扱えるようにしておくこと。 JavaScript/jQueryの基本概念を覚えること。
13 回	学習内容 予習 復習	JavaScript/jQuery ゲーム3 (作成) HTML,CSSを問題なく扱えるようにしておくこと。 JavaScript/jQueryの基本概念を覚えること。
14 回	学習内容 予習 復習	JavaScript/jQuery ゲーム3 (カスタマイズ) JavaScriptの動きを把握しておくこと。 変更したことによってどのようにページが変わるのかを理解すること。
15 回	学習内容 予習 復習	JavaScript/jQuery ゲーム3 (アプリへの応用) これまでの講義で不明な点を確認しておくこと。 アルゴリズムを理解すること。

科 目 名	情報資格演習（情報資格対策演習）			科目コード	24050	
英 文 名	Practice for Information Qualification			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(必修)	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針と の対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	ITパスポートとは社会人・学生が備えておくべき情報技術に関する基礎的な知識を証明する国家資格であり、同試験に合格できる水準の到達を目指す。					
授業の狙い・ 到達目標	ITパスポート試験に合格できる水準に到達できる。同時に、更に上位の情報処理技術者試験(基本情報技術者試験など)に合格できるように必要な基礎事項を習得できる。					
授業内容の レベル・関連科目	ITSS(ITスキル標準)のレベル1、国際情報ビジネスコース及びビジネス専攻の経営、会計、情報全分野の科目が関連する					
授業外学習 (予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	富士通エフ・オー・エム株式会社「ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集（よくわかるマスター）」FOM出版 ※最新版を入手すること					
参考書・ その他教材	経営、会計、情報全分野の基本書全般					
課題に対する フィードバック	分野別スコアの記録によって、得意分野と苦手分野のフィードバックを行う。					
成績評価方法	問題演習(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	使用教科書は試験対策書である性格上、毎年異なる版が出版されるため、過年度の中古書は避けること。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org					

授業スケジュール

情報資格演習(情報資格対策演習)

1 回	学習内容 予習 復習	資格試験の概要、傾向と対策 — ITパスポート試験の概要、傾向と対策、学習方法ノウハウ 教科書の「試験の概要」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 ITパスポート試験を受ける計画(学習計画、受験時期等)を立てること。
2 回	学習内容 予習 復習	ストラテジ系(1) 企業と法務 教科書の第1章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
3 回	学習内容 予習 復習	ストラテジ系(2) 経営戦略 教科書の第2章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
4 回	学習内容 予習 復習	ストラテジ系(3) システム戦略 教科書の第3章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
5 回	学習内容 予習 復習	ストラテジ系総合演習 教科書の第1章から第3章までの復習を行い、同分野での未理解事項を残さないこと。 過去問題プログラムのストラテジ系において、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	マネジメント系(1) 開発技術 教科書の第4章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
7 回	学習内容 予習 復習	マネジメント系(2) プロジェクトマネジメント 教科書の第5章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
8 回	学習内容 予習 復習	マネジメント系(3) サービスマネジメント 教科書の第6章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
9 回	学習内容 予習 復習	マネジメント系総合演習 教科書の第4章から第6章までの復習を行い、同分野での未理解事項を残さないこと。 過去問題プログラムのマネジメント系において、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
10 回	学習内容 予習 復習	テクノロジ系(1) 基礎理論 教科書の第7章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
11 回	学習内容 予習 復習	テクノロジ系(2) コンピュータシステム 教科書の第8章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
12 回	学習内容 予習 復習	テクノロジ系(3) 技術要素 教科書の第9章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
13 回	学習内容 予習 復習	テクノロジ系(4) 表計算 教科書の第10章を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の該当章末「予想問題」を解いて、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
14 回	学習内容 予習 復習	テクノロジ系総合演習 教科書の第7章から第10章までの復習を行い、同分野での未理解事項を残さないこと。 過去問題プログラムのテクノロジ系において、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。
15 回	学習内容 予習 復習	全体総合演習 教科書の第1章から第10章までの復習を行い、未理解事項を残さないこと。 過去問題プログラム(全体)において、正答率が80%以上となるまで繰り返すこと。

科目名	WEBデザイン演習（WEBデザイン演習）			科目コード	24060	
英 文 名	Practice of Website Design			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける	☒	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う	☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探究する	☐	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	Webサイト(ホームページ)、電子商取引サイトおよびブログなどの基盤技術であるHTMLやCSSを習得し、それらの技術を用いてWebページを作成する演習である。					
授業の狙い・到達目標	HTMLを用いて基本的なWebページ(ホームページ)を作成できる。 基本的なWebデザインを、Webページ(ホームページ)に反映できる。 コンテンツの構成要素となる各種ファイル形式と特徴を理解できる。					
授業内容のレベル・関連科目	Webデザインの基礎／「情報科学概論」					
授業外学習(予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	実教出版編修部「30時間でマスター インターネットⅢ HTMLでつくるWebページ」実教出版					
参考書・その他教材	授業内で適宜紹介する。					
課題に対するフィードバック	各段階毎に成果物を点検、フィードバックを行う。					
成績評価方法	成果物(設計書等)(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	本授業は受講人数に上限を設け、受講制限を行う場合がある。本演習の各回は、それ以前の習得内容を前提としている。携帯電話の使用厳禁。遅刻厳禁。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	インターネットとWebページ — インターネットとWebページのしくみ シラバスを熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 普段どれだけインターネットやWebページを利用しているかをまとめること。
2 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (1) — HTMLの基礎、ファイル形式、拡張子 HTMLの基礎等の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分が日常的に使うファイルのファイル形式について調査し、まとめること。
3 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (2) — 作成ソフトの利用方法、テキストエディタ テキストエディタの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 テキストエディタ(メモ帳)の基本的な使い方を習得すること。
4 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (3) — 基本的なHTMLタグ 基本的なHTMLタグの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 基本的なHTMLタグに関する指定の応用課題を解くこと。
5 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (4) — ハイパーリンク ハイパーリンクの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 ハイパーリンクに関する指定の応用課題を解くこと。
6 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (5) — イメージの表示、イメージファイル形式 イメージファイルの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 イメージの表示に関する指定の応用課題を解くこと。
7 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (6) — リスト リストの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 リストに関する指定の応用課題を解くこと。
8 回	学習内容 予習 復習	Webページ作成技術 (7) — テーブル(表) テーブルの指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 テーブルに関する指定の応用課題を解くこと。
9 回	学習内容 予習 復習	Webデザイン (1) — スタイルシート、CSSの基礎 CSSの基礎の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 指定数以上のWebサイトを閲覧し、どのようにCSSが使われているかを調査すること。
10 回	学習内容 予習 復習	Webデザイン (2) — 色の基礎、配色 色の基礎、配色の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 指定数以上のWebサイトを閲覧し、色の基礎、配色の観点から評価すること。
11 回	学習内容 予習 復習	Webデザイン (3) — デザインの基礎 デザインの基礎の指定資料を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 指定数以上のWebサイトを閲覧し、デザインの基礎の観点から評価すること。
12 回	学習内容 予習 復習	Webサイト設計演習 (1) — 設計—サイトマップとページレイアウト どのようなWebサイトを作成したいかの基本構想を練ってこること。 サイトマップとページレイアウトを作成すること。
13 回	学習内容 予習 復習	Webサイト設計演習 (2) — 制作 サイトマップとページレイアウトを作成すること。 サイトマップとページレイアウトを作成すること。
14 回	学習内容 予習 復習	Webサイト設計演習 (3) — 修正 サイトマップとページレイアウトを作成すること。 フィードバックへの対応
15 回	学習内容 予習 復習	Webサイト設計演習 (4) — 評価 サイトマップとページレイアウトを作成すること。 フィードバックへの対応

科 目 名	セキュリティ概論（情報管理・セキュリティ概論）				科目コード	24070		
英 文 名	Outline of Information Security (Outline of Information Management and Security)				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)		
担当教員	日坂 彰			教員コード	137		単 位 数	2単位
開講期間	後期		曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態		講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける			☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う			☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探究する			☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	情報システムやインターネットの利便性が高まる一方で、様々なセキュリティリスクが伴う現実に対し、情報セキュリティの基本的知識と対策の必要性を講ずる。							
授業の狙い・到達目標	ICTデバイス、情報システムやインターネット利用時の情報セキュリティ対策を実施できる。 知的財産権など無形資産に対する理解を深め、「知価社会」に順応できる。 情報管理の基礎を理解し、メディアリテラシーが向上する。							
授業内容のレベル・関連科目	情報セキュリティの基礎／「情報科学概論」「情報資格演習」							
授業外学習(予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	情報処理推進機構(IPA)編著「情報セキュリティ読本 六訂版」実教出版							
参考書・その他教材	授業内で適宜紹介する。							
課題に対するフィードバック	課題毎に点検、フィードバックを行う。							
成績評価方法	定期試験(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。							
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。							
履修上の注意事項や学習上の助言	携帯電話の使用厳禁。遅刻厳禁。							
科目に関連した教員の実務経験	特になし							
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org							

授業スケジュール

セキュリティ概論(情報管理・セキュリティ概論)

1 回	学習内容 予習 復習	情報セキュリティ — 情報セキュリティの基本概念、情報資産とリスク 教科書第2章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分や所属する組織の情報資産とリスクは何かをまとめること。
2 回	学習内容 予習 復習	情報倫理 — インターネット利用(Web、電子メール、ブログ、SNS)のマナーとモラル 教科書第2章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 インターネット利用時のマナーとモラルに照らし合わせて自分の行動を点検すること。
3 回	学習内容 予習 復習	セキュリティリスク(1) — 最新動向 教科書第1章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 セキュリティリスクの最新動向に照らし合わせて自分の行動を点検すること。
4 回	学習内容 予習 復習	セキュリティリスク(2) — 内部のリスク要因、外部のリスク要因 教科書第2章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 内部のリスク要因、外部のリスク要因に照らし合わせて自分の行動を点検すること。
5 回	学習内容 予習 復習	セキュリティリスク(3) — マルウェア 教科書第3章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 マルウェア対策に照らし合わせて自分の行動を点検すること。
6 回	学習内容 予習 復習	セキュリティリスク(4) — 不正攻撃 教科書第3章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 不正攻撃対策に照らし合わせて自分の行動を点検すること。
7 回	学習内容 予習 復習	セキュリティ対策(1) — 個人的共通対策(1) 教科書第3章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分及び周囲(管理権限を持つ範囲)のICT環境について個人的共通対策を実践すること。
8 回	学習内容 予習 復習	セキュリティ対策(2) — 個人的共通対策(2) 教科書第3章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分及び周囲(管理権限を持つ範囲)のICT環境について個人的共通対策を実践すること。
9 回	学習内容 予習 復習	セキュリティ技術(1) — ファイアウォール 教科書第5章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分の周囲でファイアウォール技術が使われている所を考察すること。
10 回	学習内容 予習 復習	セキュリティ技術(2) — 暗号 教科書第5章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分の周囲で暗号技術が使われている所を考察すること。
11 回	学習内容 予習 復習	セキュリティ技術(3) — 認証 教科書第5章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分の周囲で認証技術が使われている所を考察すること。
12 回	学習内容 予習 復習	情報セキュリティポリシーとISMS 教科書第4章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 「情報セキュリティポリシーとISMS」について振り返り、まとめること。
13 回	学習内容 予習 復習	国際標準・国内標準と関連法規 — ISO/IEC 27000シリーズとJIS、ISO/IEC 15408とJIS 教科書第6章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 「国際標準・国内標準と関連法規」について振り返り、まとめること。
14 回	学習内容 予習 復習	知的財産権 — 著作権(法)、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、不正競争防止法 教科書第6章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 「知的財産権」について振り返り、まとめること。
15 回	学習内容 予習 復習	個人情報とプライバシー — 個人情報保護法、プライバシー、マイナンバー 教科書第6章の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 自分の個人情報管理やマイナンバー管理について点検すること。

科 目 名	情報数学（情報数学）				科目コード	24080		
英 文 名	Information Mathematics				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）		
担当教員	日坂 彰			教員コード	137		単 位 数	2単位
開講期間	前期		曜日・時限	木曜日・5時限		授業形態		講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	情報科学の基礎である数学を学ぶ。この講義は、(1)日常生活との密接な関係、(2) ICT (情報通信技術)に関連する職業に必要な知識、(3)情報処理系資格試験への合格の3点を強く意識した内容とする。							
授業の狙い・到達目標	情報科学の基礎である数学を習得し、実際に計算ができる。それにより、日常生活およびICT(情報通信技術)に関連する職業への活用ができる。また、各種情報処理技術者試験に合格するための基盤を得ることができる。							
授業内容のレベル・関連科目	情報数学の基礎／「情報科学概論」「情報資格演習」							
授業外学習（予習・復習）	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	石原光・小堆光喜(共著)、野々山隆幸(監修)「入門 情報処理数学」実教出版							
参考書・その他教材	授業内で適宜紹介する。							
課題に対するフィードバック	課題毎に点検、フィードバックを行う。							
成績評価方法	定期試験(70%)、授業への貢献度(30%)で総合的に評価する。							
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。							
履修上の注意事項や学習上の助言	携帯電話の使用厳禁。遅刻厳禁。							
科目に関連した教員の実務経験	特になし							
担当教員への連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org							

1 回	学習内容 予習 復習	離散数学と情報量の基礎 シラバスを熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 配布資料の問題を解くこと。
2 回	学習内容 予習 復習	記数法と基数変換 教科書の「1.1記数法」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「1.1記数法」から指定する問題を解くこと。
3 回	学習内容 予習 復習	式と計算 教科書の「1.2式と計算」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「1.2式と計算」から指定する問題を解くこと。
4 回	学習内容 予習 復習	集合 教科書の「2.1集合」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「2.1集合」から指定する問題を解くこと。
5 回	学習内容 予習 復習	論理 教科書の「2.2論理」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「2.2論理」から指定する問題を解くこと。
6 回	学習内容 予習 復習	関数(1) 教科書の「3関数」の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「3関数」から指定する問題を解くこと。
7 回	学習内容 予習 復習	関数(2) 教科書の「3関数」の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「3関数」から指定する問題を解くこと。
8 回	学習内容 予習 復習	ベクトル 教科書の「4.1ベクトル」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「4.1ベクトル」から指定する問題を解くこと。
9 回	学習内容 予習 復習	行列 教科書の「4.3行列」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「4.3行列」から指定する問題を解くこと。
10 回	学習内容 予習 復習	数列 教科書の「5数列」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「5数列」から指定する問題を解くこと。
11 回	学習内容 予習 復習	微分法 教科書の「6.1微分法」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「6.1微分法」から指定する問題を解くこと。
12 回	学習内容 予習 復習	積分法 教科書の「6.2積分法」を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「6.2積分法」から指定する問題を解くこと。
13 回	学習内容 予習 復習	確率と統計(1) 教科書の「7確率と統計」の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「7確率と統計」から指定する問題を解くこと。
14 回	学習内容 予習 復習	確率と統計(2) 教科書の「7確率と統計」の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「7確率と統計」から指定する問題を解くこと。
15 回	学習内容 予習 復習	確率と統計(3) 教科書の「7確率と統計」の指定範囲を熟読し、理解を図り、不明点は質問としてまとめておくこと。 教科書の「7確率と統計」から指定する問題を解くこと。

科 目 名	データベース演習（データベース演習）			科目コード	24090	
英 文 名	Practice of Database Processing			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	栳澤 恭子		教員コード	160	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・1時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	データベースの概要を理解する。 リレーショナルデータベースの構造を理解する。					
授業の狙い・到達目標	テーブル、リレーションシップ、クエリ、フォーム、レポートの理解と作成を通して、データベースソフトであるAccessを利用できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	Excelの知識を前提としているため、表計算演習を履修していることが必須。					
授業外学習（予習・復習）	PCの操作に慣れておくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	必要な資料は配布する予定。					
参考書・その他教材	Accessの入門書を読んでおくことを推奨する。					
課題に対するフィードバック	最終講義にフィードバックを行う。					
成績評価方法	総合演習（70%）、講義内の演習への取り組み（30%）					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	基本的なPC操作はできるものとしたうえで講義をすすめる。 演習を行うため、Googleアカウントの操作は必須。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kabasawa@aikoku-u.org)またはオフィスアワー（初回講義時にアナウンスする）。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、PC操作の確認(ファイルの保存、Accessの操作など) データベースとはどのようなものかを考えておくこと PCの操作を確認しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	データベースの作成と設計 PCの操作を確認しておくこと データベースオブジェクトについて理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	テーブルの作成 Accessの画面構成を理解しておくこと テーブルの概要を理解し問題なく作成できるようにしておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	リレーションシップの設定 前回作成したものを確認しておくこと リレーションシップの概要を理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	クエリの作成(1) クエリでどんなことができるかを考えておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	クエリの作成(2) 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	フォームの作成(1) 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	フォームの作成(2) 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	クエリの作成(3) 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	クエリの作成(4) 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	レポートの作成(1) 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	レポートの作成(2) 前回作成したものを確認しておくこと 作成でできなかったことを進めておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	総合演習(1) いままでの操作での疑問点は解消させておくこと 演習でできなかったことを進めておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	総合演習(2) いままでの操作での疑問点は解消させておくこと 演習でできなかったことを進めておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	演習のフィードバック、これまでの講義の復習 演習でできなかったことを進めておくこと Access全般の操作をできるようにすること

科目名	基礎統計学（基礎統計学）			科目コード	24110	
英 文 名	Basic Statistics			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	溝田 俊之		教員コード	156	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探究する		☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	学術分野だけでなく、ビジネスの現場においても統計学の重要性が増している。古典的な推測統計学の基礎を学ぶとともに、手法を使えるようにExcelを用いて記述統計学から初歩的な推測統計学を学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	1) データの整理・要約方法を身につける。 2) データの要約やグラフからデータの傾向について考察できる。 3) 基礎的な推測統計学が理解できる。					
授業内容のレベル・関連科目	Excelの基礎を身につけていることを前提とする。そのため表計算演習は履修しておくことが望ましい。					
授業外学習（予習・復習）	授業終了後、資料を再読すること。 統計学では数学を使用するが、ほとんどの場合高校までの数学で解くことが可能である。そのため、高校の数学をその都度復習すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特に指定しない。					
参考書・その他教材	栗原伸一著「入門 統計学(第2版)」、オーム社 福井正康著「基礎からの統計学」, https://www.heisei-u.ac.jp/ba/fukui/text.html					
課題に対するフィードバック	小テストや提出ファイルの状況に基づいてフィードバックを行う。					
成績評価方法	授業内容を毎回ファイルとして保存し、そのファイルの作成程度及び筆記試験、授業への参加度を総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどれくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	統計の情報はインターネットで得ることが可能である。このような情報を予習、復習に活用すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to:mizota@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

1 回	学習内容 予習 復習	統計学の概要と考え方 母集団と標本 シラバスを読んでおくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	情報の可視化 グラフの作り方 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
3 回	学習内容 予習 復習	2変量の関係 相関係数 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
4 回	学習内容 予習 復習	標本集団の特性の捉え方 平均値、中央値、最頻値 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
5 回	学習内容 予習 復習	標本集団の特性の捉え方 ばらつきの捉え方(最大値、最小値) 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	標本集団の特性の捉え方 ばらつきの捉え方(分散、標準偏差、変化係数) 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	度数分布とヒストグラム 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	度数分布から確率分布へ 確率密度関数 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	正規分布の特徴 標準偏差と割合 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
10 回	学習内容 予習 復習	平均値の区間推定 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	平均値の区間推定② 割合の区間推定 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
12 回	学習内容 予習 復習	検定とは何か 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	z検定 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
14 回	学習内容 予習 復習	t分布とt検定 前回の内容を復習し、今回対象となることについてネットなどで調べておくこと。 資料を再読し、本日学習したことを確認し、できるようにしておくこと。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめと総合評価演習 14回の配布資料全体に目を通すこと。 全15回の授業を振り返り、統計学についての理解度を確認すること。

科 目 名	コンピュータ会計演習				科目コード	24120	
英 文 名	Practice of Computer Accounting				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	栳澤 恭子			教員コード	160	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・1時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	それぞれの勘定科目を理解し、仕訳を入力できるようにする。 財務諸表や精算表に勘定科目ごとの入力ができるようにする。						
授業の狙い・到達目標	コンピュータを使って帳簿記入を行えるようになるために、演習を通じて勘定科目や仕訳について理解できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	簿記を理解していることを前提に演習を行うため、簿記論および簿記演習を履修済みであることが必須。						
授業外学習(予習・復習)	PCの操作に慣れておくこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教員が資料を配布する予定。						
参考書・その他教材	講義内で必要となった場合に指示する。						
課題に対するフィードバック	講義演習については、講義内に解説する。						
成績評価方法	演習課題(80%)、講義への取り組み(20%)						
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	電卓を持参すること。 演習を行うため、Googleアカウントの操作は必須。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kabasawa@aikoku-u.org)またはオフィスアワー(初回講義時にアナウンスする)。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

コンピュータ会計演習

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方、PC操作の確認、簿記の復習) シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	エクセル帳簿での演習① 勘定科目にはどんなものがあるのか確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	エクセル帳簿での演習② 仕訳の方法を確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	コンピュータ会計ソフトの操作 2回、3回で扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	演習(仕入れ・消費税・買掛金) ソフトの操作について確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	演習(売掛金・運賃) 前回講義で扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	演習(クレジット払い・仮受消費税) 前回講義で扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	演習(返品・前払金・前受金) 前回講義で扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	演習(差入保証金・当座預金) 前回講義で扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	演習(約束手形) 前回講義で扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	演習(貸付金・借入金) 前回講義で扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	演習(未払金・未収入金) 前回講義で扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	演習(仮払金) 前回講義で扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	演習(立替払・預り金) 前回講義で扱った仕訳や勘定科目について理解しているか確認しておくこと 講義内での問題演習を復習しておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	総合演習【演習課題】 これまでの講義で扱った勘定科目について理解しておくこと 演習を復習しておくこと

科目名	ビジネスモデル論（eビジネス概論）				科目コード	24130	
英 文 名	Business Model Studies (Outline of e-business)				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（必修）	
担当教員	羽田 利久		教員コード	155		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	ビジネスモデルとは、企業の活動や、企業が利益を生み出す仕組みのことを言う。インターネットを利用したビジネスとビジネスモデルについて学習し、Webビジネス全般についての理解を目指す。						
授業の狙い・到達目標	様々な企業の事例について学ぶことにより、企業活動そのものについて学生が興味を持ち、卒業後の社会における活動に影響を及ぼすことを期待する。そして、本講義の受講により、インターネットを利用したビジネスとビジネスモデルについて学習し、Webビジネス全般の基礎知識についての理解を深めることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	Webビジネス全般についての入門的な講義である。						
授業外学習（予習・復習）	授業計画を確認して、参考になりそうな事項について事前に確認しておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習すること。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用せず、その都度資料を配布する。						
参考書・その他教材	西川英彦、澁谷覚(2019)『1からのデジタル・マーケティング』、碩学舎 井上達彦(2021)『マンガでやさしくわかるビジネスモデル』、日本能率協会マネジメントセンター						
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストや小レポートなどを課し、そのフィードバックは随時おこなう。 その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。						
成績評価方法	期末試験(50%)、授業への貢献度(30%)、小レポート等(20%)により、総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。 復習を重点的におこない、授業内容の理解を深めること。 授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。						
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として新規事業開発業務を担当（経験）						
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org						

授業スケジュール

ビジネスモデル論(eビジネス概論)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、授業の進め方 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をしておくこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	デジタル社会のマーケティング 「Amazon」のサービスについて調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	デジタル社会の消費者行動 「食べログ」について調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	デジタル社会のビジネスモデル 「メルカリ」について調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	デジタル・マーケティングの基本概念 「無印良品」について調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	製品戦略の基本 「アップル」について調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	製品戦略の拡張 「レゴ」について調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	価格戦略の基本 「ANA」について調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	価格戦略の拡張 「エアビーアンドビー」について調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	チャネル戦略の基本 「ユニクロ」について調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	チャネル戦略の拡張 「ウーバー」について調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	プロモーションの基本 「ローソン」のSNSについて調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	プロモーションの拡張 「トリップアドバイザー」について調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	デジタル社会のリサーチ 「Google」について調べてくること 授業内容について、配布した資料を元にまとめをおこない、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ これまでの授業で配布した資料を振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、Webビジネスについての理解を深めること。

科 目 名	ビジネスモデル演習（ビジネス実務総合演習）			科目コード	24140	
英 文 名	Practice of Business Models (Practice of Business Affairs)			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	羽田 利久		教員コード	155	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	☐	1.大学生としての幅広い教養を身につける		☐	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	☐	3.論理的・批判的なものの見方を養う		☐	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	☐	5.学習の過程で発見した課題を探究する		☒	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	四街道に観光目的の人を呼ぶためにはどうすればよいか、マーケティングの観点から考察を行う。授業を通じて企画案の作成をおこなうことによりマーケティングについての理解を深める。					
授業の狙い・到達目標	旅行業を事例として、消費者行動の基本や商品の企画、販売などマーケティングについて理解することを目指す。マーケティングの基礎的な知識を身につけ、その観点から思考をすることができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	マーケティングについての入門的な講義である。観光を事例の対象としているが、その範囲は観光に限らない。ビジネスモデル論の履修を推奨する。					
授業外学習（予習・復習）	授業計画を確認して、参考になりそうな事項について事前に確認しておくことが予習に繋がる。授業時に配布する資料や自身で作成したノートを元に、しっかりと復習すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	教科書は使用せず、その都度レジュメを配布する。					
参考書・その他教材	森下晶美編著(2016)『新版観光マーケティング入門』同友館 小林天心(2011)『旅行企画のつくりかた』虹有社					
課題に対するフィードバック	授業ごとに小テストを課し、そのフィードバックは随時おこなう。 その他疑問点があれば次回以降の授業で回答する。					
成績評価方法	期末試験(60%)、授業への貢献度(30%)、提出課題(10%)により、総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。 復習を重点的におこない、授業内容の理解を深めること。 授業計画は社会情勢や学生の理解度等を勘案して、変更する可能性がある。					
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当（経験） （第2回～第12回は実務経験を踏まえた講義である）					
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org					

授業スケジュール

ビジネスモデル演習(ビジネス実務総合演習)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本講義の目的と内容、授業の進め方について 授業計画を熟読して、授業の概要について理解をして臨むこと。 授業の目的、内容について再度確認をし、理解を深めること。
2 回	学習内容 予習 復習	マーケティング・ミックス ツアーについて4Pの観点から考える 自分が行きたい旅行の価格はいくら位で、どこから買うか、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
3 回	学習内容 予習 復習	ニーズとウォンツ その地に行きたいと思わせる理由 旅行に行きたいと思うきっかけは何か、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
4 回	学習内容 予習 復習	ターゲティング 観光地に来ていただけるのはどのような人か 千葉県に観光に来たいと思う人はどのような人が考えられるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
5 回	学習内容 予習 復習	意思決定 どうしたら人は四街道に来ようと思うのか 自分が観光地を決める理由について、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
6 回	学習内容 予習 復習	競争戦略(1) 四街道に高額所得者を呼ぶには 高額所得者を呼ぶための方法について考えておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
7 回	学習内容 予習 復習	競争戦略(2) 四街道に年間3000万人の観光客を呼ぶには とにかく沢山の人を集めるための手段はどのようなものが考えられるかまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
8 回	学習内容 予習 復習	SWOT分析 千葉ではなく四街道に来てもらうためには 四街道市はどのような場所か、調べておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
9 回	学習内容 予習 復習	プロモーション 四街道のイメージを伝える方法を考える 何かを人に伝える手段はどのようなものがあるか、まとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
10 回	学習内容 予習 復習	集客手段 インターネットで集客する方法を考える 自分が見てつい押してしまったインターネット広告についてまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	ブランド 四街道のブランドはどのようなものか ブランドと聞いて思いつくものは何で、それはどのようなものか、考えをまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	お客様との関係性について 何度か行ってしまうお店はどうしてなのか、その理由を考えまとめておくこと。 授業内容について、配布したレジュメを元にまとめをおこない、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	ツアー企画を考えよう(グループ討議) これまでの授業の内容を元に、四街道市を巡るツアーについて考えておくこと。 討議内容について振り返り、発表内容をまとめること。
14 回	学習内容 予習 復習	ツアー企画を考えよう(発表) 発表のための準備をしておくこと。 発表した内容について振り返り、他の人の発表を聞いて感じたことと併せてまとめておくこと。
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業のまとめ これまでの授業で配布したレジュメを振り返り、不明点や疑問点を明確にしておくこと。 授業内容全般を振り返り、受講内容についての理解を深めること。

科目名	女性起業論			科目コード	24150	
英文名	Entrepreneurship for Women			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(必修)	
担当教員	久保田 裕子		教員コード	256	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	個人が起業しやすい環境の中、女性ならではのアイデアを活かしたビジネスも多く生まれている。本講義では、ビジネスモデルと起業の知識を得ると共に、女性の起業の可能性について考えていく。					
授業の狙い・到達目標	起業における創造的活動を理解し、自らもアイデアに満ちたビジネスプランを作成し、発表することを目標とする。①起業に求められることを理解し、文章化することができる。②ビジネスのアイデアを考え、ビジネスプランを発表できる。					
授業内容のレベル・関連科目	言葉の意味など丁寧に解説していく。自分の将来について考え、情報収集をしながら、自らの世界を広げていけるように、発言力も高めていく。「ソーシャルビジネス概論」や「女性労働論」が関連科目であり、受講することが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	授業の最後に、まとめと、次回講義の予習スライドを提示する。これに基づいて、予習・復習をすること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	授業内で提示する。					
課題に対するフィードバック	毎回の授業時に確認をする。					
成績評価方法	①レポート(80%)、②平常点(20%)により評価する。					
成績評価基準	本講義の到達目標である①起業についての理解、②ビジネスプラン作成などについて、本学の成績評価基準に基づき、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	現在起業をする予定がなくても、社会に出た時に役立つ知識と実践力を養い、自分の意見を発信できるように身につけていく。					
科目に関連した教員の実務経験	個人事業主・株式会社経営・NPO法人代表理事として、人材育成・教育啓発・カウンセリング事業など続けている経験を、講義の中に随時盛り込んでいく。					
担当教員への連絡方法	久保田裕子(くぼたひろこ)kubotah@aikoku-u.org に、 タイトル・学籍番号・氏名を忘れずに記入すること。					

授業スケジュール

女性起業論

1 回	学習内容 予習 復習	<イントロダクション>授業の進め方、現時点での目標と到達点の確認 シラバスをあらかじめ読んでおくこと 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
2 回	学習内容 予習 復習	女性の社会進出の歴史と現状 ビジネス環境と見通し 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
3 回	学習内容 予習 復習	パラダイムシフトとステレオタイプ 女性起業家の課題と展望 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
4 回	学習内容 予習 復習	女性起業家に求められる資質 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
5 回	学習内容 予習 復習	魅力的な女性企業家 自己実現のために必要なこと 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
6 回	学習内容 予習 復習	女性のライフステージとライフプラン 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
7 回	学習内容 予習 復習	セルフブランディングのための自己分析 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
8 回	学習内容 予習 復習	個人事業主へのプロセス 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
9 回	学習内容 予習 復習	マーケットの求めるビジネスアイデアを考える 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
10 回	学習内容 予習 復習	自己実現のためのビジネスアイデアを考える 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
11 回	学習内容 予習 復習	ビジネスプランを考える 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
12 回	学習内容 予習 復習	ビジネスプランを作成する 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
13 回	学習内容 予習 復習	心をつかむプレゼンテーション 「私の起業計画ノート」発表 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
14 回	学習内容 予習 復習	改良版「私の起業計画ノート」プレゼンテーション 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)
15 回	学習内容 予習 復習	まとめとふりかえり 前回の授業時提示の予習用スライドを参考に準備する 授業内容の振り返り(関連情報収集しレポートをまとめる)

科 目 名	ソーシャルビジネス概論（ソーシャルビジネス概論）				科目コード	24160		
英 文 名	Outline of Social Business				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）		
担当教員	栴澤 恭子			教員コード	160		単 位 数	2単位
開講期間	後期		曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	ソーシャルビジネスの成り立ちや仕組みを理解する。 ソーシャルビジネスの今後について考える。							
授業の狙い・到達目標	ソーシャルビジネスやビジの意義や狙い、またビジネスとして成り立つための要件などを理解できるようになる。 SDGsとソーシャルビジネスとのかかわりについて理解できるようになる。 ソーシャルビジネスを担うために自分たちが何をすべきか自分の言葉で発表できるようになる。							
授業内容のレベル・関連科目	ソーシャルビジネスにはベンチャー的な要素も含まれるので、ベンチャービジネス論の履修が望ましい。							
授業外学習（予習・復習）	予習・復習については教員からの指示に従い行うこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員が資料を配布する予定。							
参考書・その他教材	講義内で必要となった場合に指示する。							
課題に対するフィードバック	最終講義で発表についてのフィードバックを行う。							
成績評価方法	発表（40％）、課題レポート（30％）、授業への貢献度（30％）							
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。							
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃からソーシャルビジネスや社会的問題提起に関するニュースを意識しておくこと。							
科目に関連した教員の実務経験	特になし							
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kabasawa@aikoku-u.org)またはオフィスアワー（初回講義時にアナウンスする）。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。							

授業スケジュール

ソーシャルビジネス概論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方、参考図書の紹介など) シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	ソーシャルビジネスって何? ソーシャルビジネスの概要を知る ソーシャルビジネスという用語について調べておくこと ソーシャルビジネス全体の概要をつかんでおくこと
3 回	学習内容 予習 復習	ソーシャルビジネスって何? ソーシャルビジネスの今後を知る ソーシャルビジネスの展望について考えておくこと ソーシャルビジネス全体の概要をつかんでおくこと
4 回	学習内容 予習 復習	ソーシャルビジネスの取り組み例(1) 事例に指定する企業について調べておくこと 取り組み事例を理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	ソーシャルビジネスの取り組み例(2) 事例に指定する企業について調べておくこと 取り組み事例を理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	ソーシャルビジネスの取り組み例(3) 事例に指定する企業について調べておくこと 取り組み事例を理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	ソーシャルビジネスの取り組み例(4) 事例に指定する企業について調べておくこと 取り組み事例を理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	これまでの授業の振り返り これまでの講義の疑問点をまとめておくこと これまでの講義の論点を整理しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	SDGsって何? SDGsの概要を知る SDGsという用語について調べておくこと SDGsについて概要を理解すること
10 回	学習内容 予習 復習	国内や海外のSDGsの取り組み例を学ぶ SDGsに取り組んでいる企業や団体などについて調べておくこと 各取り組み事例について理解すること
11 回	学習内容 予習 復習	SDGsとソーシャルビジネス SDGsとソーシャルビジネスの関りについて調べておくこと SDGsとソーシャルビジネスの関りについて理解すること
12 回	学習内容 予習 復習	自分だったらどんなソーシャルビジネスを展開したいかを考える 自身が行いたいソーシャルビジネスについて考えておく 自身が行いたいソーシャルビジネスについて発表の準備をする
13 回	学習内容 予習 復習	自分だったらどんなソーシャルビジネスを展開したいかを考える 自身が行いたいソーシャルビジネスについて考えておく 自身が行いたいソーシャルビジネスについて発表の準備をする
14 回	学習内容 予習 復習	発表 講義で学んだことを踏まえて自分なりの考えをまとめておく 自身および他者の発表したことをまとめておく
15 回	学習内容 予習 復習	発表のフィードバック 講義で学んだことを踏まえて自分なりの考えをまとめておく 他者の意見と自身の意見の同意点や相違点を自分なりにまとめておく

科 目 名	ベンチャービジネス論（インターネットマーケティング）				科目コード	24170		
英 文 名	Start-up Strategy Internet Marketing				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）		
担当教員	栳澤 恭子			教員コード	160		単 位 数	2単位
開講期間	前期		曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態		講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	起業や資金調達の基本的な仕組みを理解する。 ケーススタディから事業開発に必要なヒト、モノ、カネなどの経営資源をどう扱うのかを学ぶ。							
授業の狙い・到達目標	過去に成功したスタートアップ企業が現在どのような形に進化したのか、成功したスタートアップ企業とそうでない企業との違いについて理解することができる。 自分たちがスタートアップ企業として成功するために必要なことを理解し、自分たちの言葉で発表できるようになる。							
授業内容のレベル・関連科目	企業のマネジメントを学んだ上での発展的な内容となるため、経営管理論の履修することが望ましい。							
授業外学習（予習・復習）	予習・復習については教員からの指示に従い行うこと。 グループワークにおいて積極的に発言をすること。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員が資料を配布する予定。							
参考書・その他教材	講義内で必要となった場合に指示する。							
課題に対するフィードバック	最終講義でグループワークのフィードバックを行う。							
成績評価方法	課題レポート(30%)、グループワーク発表(50%)、講義への貢献度(20%)							
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。							
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃からベンチャー企業に関するニュースを意識しておくこと。 もし自分が起業したらどのように経営をするのかという考えを持つておくこと。							
科目に関連した教員の実務経験	特になし							
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kabasawa@aikoku-u.org)またはオフィスアワー（初回講義時にアナウンスする）。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。							

授業スケジュール

ベンチャービジネス論(インターネットマーケティング)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方、参考図書の紹介、グループワークの説明など) シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	ベンチャー企業とは？ ベンチャー企業の概要について 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	アイディアとビジネスモデル-ケーススタディー ケーススタディで指定した企業を調べておく 講義内容にでてきた用語や内容を理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	アイディアとビジネスモデル 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	新規事業の戦略-ケーススタディー ケーススタディで指定した企業を調べておく 講義内容にでてきた用語や内容を理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	新規事業の戦略 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	組織とリーダーシップ-ケーススタディー ケーススタディで指定した企業を調べておく 講義内容にでてきた用語や内容を理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	組織とリーダーシップ 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	資金調達-ケーススタディー ケーススタディで指定した企業を調べておく 講義内容にでてきた用語や内容を理解しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	資金調達 指示した文献などに目を通しておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	マネジメントシステム-ケーススタディー ケーススタディで指定した企業を調べておく 講義内容にでてきた用語や内容を理解しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	これまでの講義の総括とベンチャービジネスの展望 これまでの講義内容の全体を理解しておく グループ調査課題に対して個人でできる限り調査をしておく
13 回	学習内容 予習 復習	グループワーク(課題:ランキング上位のベンチャーを調べ、どうビジネスを成功させたか) 講義で学んだことを踏まえて自分なりの考えをまとめておく グループワークを進める
14 回	学習内容 予習 復習	グループワーク発表 グループワークを進める 発表後に考えたことを自分なりにまとめておく
15 回	学習内容 予習 復習	グループワーク発表のフィードバック 講義で学んだことを踏まえて自分なりの考えをまとめておく 他者の意見と自身の意見の同意点や相違点を自分なりにまとめておく

科目名	簿記論（簿記Ⅰ or 簿記Ⅱ）			科目コード	24180	
英 文 名	Bookkeeping (Bookkeeping I or II)			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(必修)	
担当教員	呉 鷹		教員コード	157	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	簿記を学習することは、企業の経済活動を理解し、これを整理、計算して有用な情報としてまとめることができる。本講義では、会計学概論よりも、演習問題を数多く解く講義になる。「知識として知っている」段階から、実践的に「使いこなせる」段階へ引き上げるための講義となる。					
授業の狙い・到達目標	会計学概論が簿記の入門編であるのに対し、本講義および簿記演習は実践編である。日本商工会議所簿記検定3級に合格できるようなスキルアップだけでなく、簿記上の取引に関する本質的な理解ができるようになり、3級以上の自主学習に必要とされる理解力を持てるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	日本商工会議所簿記検定3級以上の合格を実践的なターゲットとする。 関連科目:会計学概論、 簿記演習(簿記演習ⅠまたはⅡ)					
授業外学習(予習・復習)	予習:授業の計画を事前に確認して、積極的に予習に取り組む。 復習:教科書、演習問題を復習し、基礎知識を身につけるように振り返る。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	蛭川幹夫著『日商簿記ゼミ3級 教本 改訂版』実教出版(2019) 蛭川幹夫著『日商簿記ゼミ3級 問題演習』実教出版(2019)					
参考書・その他教材	担当教員が作成する配布資料、電卓					
課題に対するフィードバック	提出された課題を確認してから、翌週の授業時に解答・解説を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、演習問題理解度(20%)、平常点(10%)					
成績評価基準	演習問題の理解度、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	学習効果を高めるために、簿記演習とあわせて履修することを推奨する。簿記Ⅰを履修済みの学生は簿記Ⅱとして履修可。簿記Ⅱを履修済みの学生は簿記Ⅰとして履修可。簿記Ⅰ、Ⅱいずれも履修済みの学生は履修不可。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)でも対応可。件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。					

授業スケジュール

簿記論(簿記Ⅰ or 簿記Ⅱ)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の概要、達成目標など)、簿記の学習にあたり シラバスを事前に確認して、教科書の序章を予習する。 講義内容を復習し、演習問題を完成する。
2 回	学習内容 予習 復習	簿記の基礎、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
3 回	学習内容 予習 復習	貸借対照表と損益計算書(1)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
4 回	学習内容 予習 復習	貸借対照表と損益計算書(2)、演習問題と解説(履修生による解説、講評) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
5 回	学習内容 予習 復習	損益法、損益計算書等式、演習問題と解説(履修生による解説、講評) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
6 回	学習内容 予習 復習	企業の取引と勘定、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
7 回	学習内容 予習 復習	仕訳帳の記入法と総勘定元帳への転記(1) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	仕訳帳の記入法と総勘定元帳への転記(2) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	試算表(合計試算表、残高試算表、合計残高試算表)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	期中取引の仕訳(1)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
11 回	学習内容 予習 復習	期中取引の仕訳(2)、演習問題と解説(履修生による解説、講評) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
12 回	学習内容 予習 復習	補助簿の記帳(現金出納帳など)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
13 回	学習内容 予習 復習	演習問題形式による講義の復習と解説 第2～12回の講義内容、演習問題を復習する。 第2～12回の講義内容、演習問題を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	貸借対照表と損益計算書の作成、演習問題と解説 第3～5回の講義内容を復習し、配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、第3～5回の講義内容を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
15 回	学習内容 予習 復習	総括(簿記一巡の要点をまとめる) 第1～14回の講義内容、演習問題を復習する。 第1～14回の講義内容、演習問題を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。

科目名	簿記演習（簿記演習Ⅰ or 簿記演習Ⅱ）			科目コード	24190	
英 文 名	Practical Training of Bookkeeping (Practical Training of BookkeepingⅠ orⅡ)			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	呉 鷹		教員コード	157	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	会計学概論よりも、演習問題を数多く解く講義になる。「知識として知っている」段階から、実践的に「使いこなせる」段階へ引き上げるための演習となる。					
授業の狙い・到達目標	会計学概論が簿記の入門編であるのに対し、本講義と簿記論は実践編である。簿記論より、本講義は応用力と実践性をさらに重視している。本講義を通して、日本商工会議所簿記検定3級に合格できるようなスキルアップだけでなく、簿記上の取引に関する本質的な理解を深めるようになり、3級以上の自主学習に必要とされる考える力を持てるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	実践的な演習を中心とする。 関連科目：会計学概論、簿記論					
授業外学習（予習・復習）	予習・復習・講義を繰り返し、簿記の基礎知識を身につける。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	蛭川幹夫著『日商簿記ゼミ3級 教本 改訂版』実教出版（2019） 蛭川幹夫著『日商簿記ゼミ3級 問題演習』実教出版（2019）					
参考書・その他教材	担当教員が作成する配布資料、電卓					
課題に対するフィードバック	提出された課題を確認してから、翌週の授業時に返却して解答・解説を行う。					
成績評価方法	期末試験（70%）、課題提出（20%）、平常点（10%）					
成績評価基準	演習問題の理解度、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	簿記論を履修してから本講義を履修することを推奨する。簿記演習Ⅰを履修済みの学生は簿記演習Ⅱとして履修可。簿記演習Ⅱを履修済みの学生は簿記演習Ⅰとして履修可。簿記演習Ⅰ、Ⅱいずれも履修済みの学生は履修不可。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)でも対応可。件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。					

授業スケジュール

簿記演習(簿記演習Ⅰ or 簿記演習Ⅱ)

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の概要、達成目標など)、基礎力テストと解説 シラバスを事前に確認して、教科書(教本)の第2章を復習する。 配布資料と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
2 回	学習内容 予習 復習	簿記上の取引・勘定・仕訳、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
3 回	学習内容 予習 復習	転記、合計・残高、勘定の締め切り、各種の帳簿、試算表の作成、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
4 回	学習内容 予習 復習	商品売買(1)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
5 回	学習内容 予習 復習	商品売買(2)、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
6 回	学習内容 予習 復習	現金の受払い、現金過不足の処理、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
7 回	学習内容 予習 復習	当座預金、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	小口現金、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	第1～8回講義の復習、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 第1～8回の講義内容演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	手形(1)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
11 回	学習内容 予習 復習	手形(2)、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
12 回	学習内容 予習 復習	その他の期中取引(1)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
13 回	学習内容 予習 復習	その他の期中取引(2)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	試算表の作成(1)、演習問題と解説 配布資料と教科書の指定ページを予習する。 第1～14回の講義内容、授業中の演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
15 回	学習内容 予習 復習	試算表の作成(2)、演習問題と解説、総括 第1～14回の講義内容、演習問題と解説を復習する。 第1～15回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題(検定問題)を完成する。

科目名	会計学概論（会計学概論）			科目コード	24200	
英 文 名	Outline of Accounting			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	呉 鷹		教員コード	157	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	水曜日・4時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	企業会計は、会社の効率的な運営にとって不可欠の手続きである。実践的な知識として習得するため、本講義では演習問題を数多くこなしていく。					
授業の狙い・到達目標	本講義を通して、会計制度の基礎知識への実践的な理解ができるようになる。会計制度の役割・仕組みを的確に理解することを通して、企業活動に対して会計学の視点から分析する力を持てるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	ビジネス(企業経営)に関心を持ち、会計学関連の知識を専門的に理解するための基礎を養う。関連科目：簿記論、簿記演習(簿記演習ⅠまたはⅡ)、財務管理論、原価計算論					
授業外学習(予習・復習)	予習:授業の計画を事前に確認して、積極的に予習に取り組む。 復習:教科書などを確認しながら、基礎知識を身につけるように振り返る。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	千代田邦夫(著)『会計学入門(第6版)』中央経済社(2020)					
参考書・その他教材	担当教員が作成する配布資料、電卓					
課題に対するフィードバック	提出された課題を確認してから、翌週の授業時に返却して解答・解説を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、課題提出(20%)、平常点(10%)					
成績評価基準	普段の課題提出状況、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。 (講義中に行う演習問題には、とりわけその姿勢が不可欠である)					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)あるいは対面で対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー(新年度に掲示)に対応する。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の概要、進め方、達成目標などを確認する。) 事前にシラバスを確認する。 配布資料を復習し、講義の目的、スケジュール、達成目標などを明確にする。
2 回	学習内容 予習 復習	会計、企業とは 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習する。
3 回	学習内容 予習 復習	複式簿記の原理、演習問題と解説 配布資料、教科書指定ページを予習する。 講義内容と授業中の演習問題と解説を復習し、演習問題を完成する。
4 回	学習内容 予習 復習	会計制度の論理と体系(1) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の解説(板書)を復習する。
5 回	学習内容 予習 復習	会計制度の論理と体系(2) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の解説(板書)を復習する。
6 回	学習内容 予習 復習	損益計算書のパラダイム、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。
7 回	学習内容 予習 復習	貸借対照表の見方、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	第2回～第7回の復習、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	キャッシュ・フロー計算書の読み方、演習問題と解説 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	企業会計の基準(企業会計の理論的な仕組み) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)、教科書の指定ページを復習する。
11 回	学習内容 予習 復習	資産の会計(1) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。
12 回	学習内容 予習 復習	資産の会計(2) 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。
13 回	学習内容 予習 復習	経営パフォーマンスの測定と表示、演習問題と解説 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、教科書の指定ページと授業中の演習問題を復習し、追加の演習問題を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	演習問題(履修生による解説、講評を含む) 第1～13回の配布資料、教科書の指定ページ、演習問題と解説を復習する。 演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
15 回	学習内容 予習 復習	総括(第1～14回の要点整理)、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 第1～14回の配布資料、教科書の指定ページ、演習問題と解説を復習する。 第1～14回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。

科目名	財務管理論（財務管理論）			科目コード	24210	
英 文 名	Financial Management			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	呉 鷹		教員コード	157	単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	本講義では財務諸表の見方と分析方法を講義する。企業の財務的意思決定を理解するために、事業活動への投資、資金調達、利益の配分等に関する基礎知識と分析のスキルを習得する。					
授業の狙い・到達目標	財務管理の基礎知識を習得することが狙いである。具体的には、財務諸表に関する各指標の意義と計算の仕組みを学び、企業の経営分析と管理会計の基本に対する的確に理解する能力を持てるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	本講義では、会計学概論の関連知識をベースとしながら、財務諸表の見方と分析方法をより具体的に解説する。 関連科目：会計学概論、簿記論、簿記演習（簿記演習ⅠまたはⅡ）、原価計算論					
授業外学習（予習・復習）	予習：授業の計画を事前に確認して、積極的に予習に取り組む。 復習：教科書などを確認しながら、基礎知識を身につけるように振り返る。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	平野秀輔著『財務管理の基礎知識 第3版』白桃書房(2019)					
参考書・その他教材	担当教員が作成する配布資料					
課題に対するフィードバック	提出された課題を確認してから、翌週の授業時に返却して解答・解説を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、課題提出(20%)、平常点(10%)					
成績評価基準	課題への理解度、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	主体的に学習に取り組むこと。学習効果を高めるため、原価計算論など、他の会計学関連科目と合わせて履修することを推奨する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)でも対応可。件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の概要、学習の進め方、達成目標など) シラバスを事前に確認して、教科書の序章を予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の序章を復習する。
2 回	学習内容 予習 復習	財務諸表の考え方 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
3 回	学習内容 予習 復習	経営分析の基礎 配布資料、教科書の指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
4 回	学習内容 予習 復習	収益性の分析、演習問題と解説(履修生による解説を含む) 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
5 回	学習内容 予習 復習	付加価値の分析、演習問題と解説 配布資料、教科書指定ページを予習する。 講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
6 回	学習内容 予習 復習	財務安定性の分析、演習問題と解説(履修生による解説を含む) 配布資料、教科書指定ページを予習する。 講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
7 回	学習内容 予習 復習	第2～6回講義の復習、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 第2～6回の講義内容、演習問題と解説を復習する。 第2～7回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	損益分岐点の分析 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	キャッシュ・フローの分析(1) 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	キャッシュ・フローの分析(2) 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
11 回	学習内容 予習 復習	会計管理の基礎概念 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習する。
12 回	学習内容 予習 復習	経営計画と予算 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
13 回	学習内容 予習 復習	意思決定会計 配布資料、教科書指定ページを予習する。 配布資料、授業中の解説(板書)と教科書の指定ページを復習し、演習問題を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	第8～13回講義の復習、演習問題と解説、企業価値の算定方法 第8～13回の講義内容、演習問題と解説を復習し、配布資料を予習する。 第8～14回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
15 回	学習内容 予習 復習	総括:第2～14回講義の復習、演習問題の解説(履修生による解説、講評を含む) 第2～14回の講義内容、演習問題と解説を復習する。 第2～14回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。

科目名	原価計算論			科目コード	24220	
英 文 名	Cost Accounting			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻(選択)	
担当教員	呉 鷹		教員コード	157	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	原価計算は、現代の経済社会を適切に運営するために不可欠なシステムである。本講義では、原価計算モデルの基本的特徴、原価計算制度の基本構造等の専門知識と応用力を習得することができる。					
授業の狙い・到達目標	原価計算制度の意義と基本構造を理解し、業界別の原価計算の基本的特徴に基づいた各種試算ができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	会計学概論、財務管理論と比べて、本講義では、原価の計算に関する専門知識に特化した内容を中心とする。 関連科目：会計学概論、財務管理論					
授業外学習(予習・復習)	予習：授業の計画を事前に確認して、積極的に予習に取り組む。 復習：教科書、配布資料などを確認しながら、基礎知識を身につけるように振り返る。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	担当教員が下記の参考書に基づいて配布資料を作成して配布する。					
参考書・その他教材	廣本敏郎・挽文子著『原価計算論』(第3版)中央経済社(2020)					
課題に対するフィードバック	提出された課題を確認してから、翌週の授業時に返却して解答・解説を行う。					
成績評価方法	期末試験(70%)、課題提出(20%)、平常点(10%)					
成績評価基準	課題への理解度、期末試験の結果などを踏まえて、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	財務管理論の知識がないと、履修は厳しい。学習効果を高めるため、 <u>前期で財務管理論を履修しておくことを強く求める</u> 。他の会計学関連科目とあわせて履修することを推奨する。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)でも対応可。件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の概要、達成目標など)、原価計算の意義 シラバスを事前に確認する。 配布資料を復習する。
2 回	学習内容 予習 復習	原価計算モデルの基本的特徴 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習する。
3 回	学習内容 予習 復習	製造業の原価計算、事例分析 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、指定の事例を調べて次回の授業で発表する。
4 回	学習内容 予習 復習	サービス業の原価計算、事例分析 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、指定の事例を調べて次回の授業で発表する。
5 回	学習内容 予習 復習	現場経営と原価計算、事例分析 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、指定の事例を調べて次回の授業で発表する。
6 回	学習内容 予習 復習	原価計算制度の意義と基本構造 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習する。
7 回	学習内容 予習 復習	取得原価の計算、演習問題と解説 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、演習問題を完成する。
8 回	学習内容 予習 復習	費目別計算、演習問題と解説 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、演習問題を完成する。
9 回	学習内容 予習 復習	部門別計算、演習問題と解説 配布資料を予習する。 配布資料と授業中の解説(板書)を復習し、演習問題を完成する。
10 回	学習内容 予習 復習	第1～9回講義の復習、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 第1～9回の講義内容を復習する。 第1～9回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
11 回	学習内容 予習 復習	標準原価計算、演習問題と解説 配布資料を予習する。 配布資料授業中の解説(板書)、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
12 回	学習内容 予習 復習	直接原価計算、演習問題と解説 配布資料を予習する。 配布資料授業中の解説(板書)、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
13 回	学習内容 予習 復習	利益計画とCVP分析 配布資料を予習する。 配布資料授業中の解説(板書)を復習し、演習問題を完成する。
14 回	学習内容 予習 復習	第10～13回講義の復習、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 第10～13回の講義内容、演習問題と解説を復習する。 第10～14回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。
15 回	学習内容 予習 復習	総括(原価計算に対する総合的な理解)、演習問題と解説(履修生による解説、講評を含む) 第1～14回の講義内容、演習問題と解説を復習する。 第1～14回の講義内容、演習問題と解説を復習し、追加の演習問題を完成する。

科目名	経営学概論（経営学概論）			科目コード	24230	
英文名	Outline of Business Administration			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	溝田 俊之		教員コード	156	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・1時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	経営学をはじめて学ぶ学生を対象としている。経営学に関心を持つこと、そして、その基礎となる知識を習得することを目的とし、主に組織論、戦略論に焦点を当て学習する。					
授業の狙い・到達目標	講義の主要テーマは、まず①組織論（ミクロ、マクロ）、②経営戦略論を学び、その後、③企業成長のための戦略と組織、④国際化のための戦略と組織、⑤イノベーション経営の戦略と組織を実際のケースに触れながら学ぶことで、経営学の基礎概念を体系的に理解できるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	経営学の入門的知識を習得する。本講義を履修した後、経営組織論、経営戦略論、経営戦略論、マーケティング論などを履修することにより、経営学をより深く学ぶことができる。					
授業外学習（予習・復習）	毎日、日本経済新聞等の経済面を読み、社会や経済の動きを見る習慣をつける。 教科書と該当部分をあらかじめ読んでおく。 授業後はその日のうちに授業内容を振り返る。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	榊原清則著、『経営学入門』（上）（下）、日経文庫					
参考書・その他教材	特定非営利活動法人経営能力開発センター編、『経営学検定試験公式テキスト』、中央経済社					
課題に対するフィードバック	小テストやレポートの結果などを通じてフィードバックする。					
成績評価方法	定期試験(60%)、小テスト・レポート(20%)、平常点(20%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどれくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	教室では携帯電話、スマートフォンの使用厳禁。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to:mizota@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

経営学概論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション。講義の概要と進め方を説明する。また、教員の実務経験との関連について触れる。 シラバスを読んでおくこと。 本日の授業内容を振り返る
2 回	学習内容 予習 復習	経営学とは何か。経営学の対象やどのようなことに焦点を当てて分析するのかについて概説する。 教科書を読んでくる（初回に指示する） 本日の授業内容を振り返る
3 回	学習内容 予習 復習	組織論の変遷とミクロの組織論について概説する。 教科書を読んでくる（第2回に指示する） 本日の授業内容を振り返る
4 回	学習内容 予習 復習	第3回に引き続きミクロ組織論について概説する。 教科書を読んでくる（第3回に指示する） 本日の授業内容を振り返る
5 回	学習内容 予習 復習	マクロ組織論1 組織構造の特徴や複雑性などについて概説する。 教科書を読んでくる（第4回に指示する） 本日の授業内容を振り返る
6 回	学習内容 予習 復習	マクロ組織論2 組織構造の機能分析とデザインについて概説する。 教科書を読んでくる（第5回に指示する） 本日の授業内容を振り返る
7 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ 第2～6回の内容を振り返る 第2～6回の内容を復習してくる 本日の授業内容を振り返る
8 回	学習内容 予習 復習	経営戦略論1 戦略論の基礎、資源戦略について概説する。 教科書を読んでくる（第7回に指示する） 本日の授業内容を振り返る
9 回	学習内容 予習 復習	経営戦略論2 競争戦略論、ドメイン戦略論について概説する。 教科書を読んでくる（第8回に指示する） 本日の授業内容を振り返る
10 回	学習内容 予習 復習	企業成長のための戦略と組織について事例を見ながら概説する。 教科書を読んでくる（第9回に指示する） 本日の授業内容を振り返る
11 回	学習内容 予習 復習	国際化のための戦略と組織について事例を見ながら概説する。 教科書を読んでくる（第10回に指示する） 本日の授業内容を振り返る
12 回	学習内容 予習 復習	イノベーション経営の戦略と組織について事例を見ながら概説する。 教科書を読んでくる（第11回に指示する） 本日の授業内容を振り返る
13 回	学習内容 予習 復習	日本企業の経営課題 日本企業が直面する経営課題について総括的に論じる。 教科書を読んでくる（第12回に指示する） 本日の授業内容を振り返る
14 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ 第8～13回まで内容を振り返る。 第8～13回の内容を復習してくる。 本日の授業内容を振り返る
15 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ 本講義のまとめと復習を行う。 第7回、14回を中心に復習しておく 全15回の授業内容を振り返る

科目名	マーケティング論（マーケティング論）			科目コード	24240	
英 文 名	Marketing Theory			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（必修）	
担当教員	溝田 俊之		教員コード	156	単 位 数	2単位
開講期間	後期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	マーケティングに関する基礎的な知識を学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	マーケティングの考え方を、マーケティングの基本的な考え方4P(Product、Place、Promotion、Price)の内容に即して学び、また、4Pの組み合わせであるマーケティングミックスについて理解することでマーケティングの基礎的な知識を習得することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	マーケティング論の入門から基礎までを学ぶ。経営学概論の知識と合わせることで、企業活動をより深く、具体的に知ることができる。					
授業外学習（予習・復習）	事前にテキストを読んでくること。毎日、日本経済新聞等の経済面を読み、社会や経済の動きを見る習慣をつける。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計60時間
使用教科書	野口智雄著、『ビジュアル マーケティングの基本』、日経文庫					
参考書・その他教材	恩蔵直人著、『マーケティング(第2版)』、日経文庫					
課題に対するフィードバック	小テスト等の結果を通じてフィードバックする。					
成績評価方法	定期試験(60%)、小テスト・レポート(20%)、平常点(20%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどれくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	教室では携帯電話、スマートフォンの使用厳禁。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to:mizota@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

マーケティング論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション。講義の概要と進め方を説明する。 シラバスを読んでおくこと。 本日の授業内容を振り返る
2 回	学習内容 予習 復習	マーケティングとはなにか。4P、4C、マーケティングコンセプトなど、マーケティングの考え方に触れる。 テキストを読んでくること 本日の授業内容を振り返る
3 回	学習内容 予習 復習	市場の捉え方。セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングなど市場のつかみ方を概説する。 テキストを読んでくること 本日の授業内容を振り返る
4 回	学習内容 予習 復習	市場の分析。市場データ分析、消費者行動分析など社会調査による分析について概説する。 第3回に指示する。 本日の授業内容を振り返る
5 回	学習内容 予習 復習	製品政策1。製品の考え方、開発プロセス、ライフサイクルなどの製品政策を概説する。 テキストを読んでくること 本日の授業内容を振り返る
6 回	学習内容 予習 復習	製品政策2。ブランドエクイティ、ブランド戦略などマーケティングにとってのブランドについて考える。 テキストを読んでくること 本日の授業内容を振り返る
7 回	学習内容 予習 復習	販売促進政策。顧客へのコミュニケーションの実施方法を手段、戦略などを通して考える。 テキストを読んでくること 本日の授業内容を振り返る
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ 第2～7回の内容を振り返る 第2～7回の内容を復習してくる 本日の授業内容を振り返る
9 回	学習内容 予習 復習	流通経路政策1。チャネルの構築、チャネル政策などについて概説する。 テキストを読んでくること 本日の授業内容を振り返る
10 回	学習内容 予習 復習	流通経路政策2。第9回の続き。 テキストを読んでくること 本日の授業内容を振り返る
11 回	学習内容 予習 復習	価格政策1。価格設定の目的と方法について概説する。 テキストを読んでくること 本日の授業内容を振り返る
12 回	学習内容 予習 復習	価格政策2。割引による価格設定、需要の価格弾力性などについて概説する。 テキストを読んでくること 本日の授業内容を振り返る
13 回	学習内容 予習 復習	非製造業のマーケティング。サービスマーケティングなどについて概説する。 テキストを読んでくること 本日の授業内容を振り返る
14 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。第9～13回の内容を振り返る。 第9～13回の内容を教科書、レジュメで見直しておく。 本日の授業内容を振り返る
15 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ 本講義のまとめと復習を行う。 第8回、14回を中心に復習しておく 全15回の授業内容を振り返る

科目名	経営組織論（経営組織論）			科目コード	24250	
英文名	Business Organization			科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	溝田 俊之		教員コード	156	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	講義
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
		5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	企業や官公庁などは組織で動き、体系化されている。この授業では組織がどのように構成され、個人がどのような役割を負っているか、望ましい組織の在り方は何かなどについて学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	働く個人の欲求やモチベーション、モチベーションを喚起させる仕組み、集団とは何か、リーダーシップと管理職の役割などについて学び、経営組織の基本的知識を習得することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	経営学概論を事前に受講していることを前提とする。 経営学概論で学習した基礎的な組織論をより深く、詳論として学ぶ。					
授業外学習（予習・復習）	テキストを読んでくること。 講義で学習したことが、自分の身の回りの現象をどう説明できるか、また、それについて、どのような新しい見方をもたらしたかについて常に意識すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	金井壽宏著、『経営組織』、日経文庫					
参考書・その他教材	特定非営利活動法人経営能力開発センター編、『経営学検定試験公式テキスト』、中央経済社					
課題に対するフィードバック	小テスト等の結果を通じてフィードバックする。					
成績評価方法	定期試験(60%)、小テスト・レポート(20%)、平常点(20%)					
成績評価基準	学習の到達目標にどれくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	教室では携帯電話、スマートフォンの使用厳禁。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to:mizota@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

授業スケジュール

経営組織論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション。講義の概要と進め方を説明する。 シラバスを読んでおくこと。 本日の授業内容を振り返る
2 回	学習内容 予習 復習	組織とは何か。いろいろな組織の捉え方について概説する。 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
3 回	学習内容 予習 復習	組織の中の個人。各組織観における人間観、マズローの欲求5段階説などについて概説する。 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
4 回	学習内容 予習 復習	組織の中の個人2。モチベーションとそれを喚起する仕組みについて概説する。 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
5 回	学習内容 予習 復習	個人と組織。個人と組織の関わり合い、組織の中での個人のキャリアなどについて概説する。 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
6 回	学習内容 予習 復習	集団とは何か。集団の定義、集団のダークサイドなどについて概説する。 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
7 回	学習内容 予習 復習	リーダーシップ。伝統的リーダーシップ論、企業における管理職の役割などについて概説する。 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ 第2～7回の内容を振り返る 第2～7回の内容を復習してくる 本日の授業内容を振り返る
9 回	学習内容 予習 復習	伝統的組織論。テイラーの科学的管理法、官僚制組織論、近代組織論について概説する。 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
10 回	学習内容 予習 復習	経営組織の形態と設計。ラインとスタッフ、機能部門制組織、事業部制組織などについて概説する。 第9回に指示する。 本日の授業内容を振り返る
11 回	学習内容 予習 復習	経営組織の形態と設計2。組織設計の原理、組織構造の次元などについて概説する。 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
12 回	学習内容 予習 復習	経営組織の動態化や組織変革について論じる。 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
13 回	学習内容 予習 復習	組織文化、組織の方向付けと個人。組織文化の捉え方、働く意味を与える組織とは何かを論じる。 教科書を読んでくること 本日の授業内容を振り返る
14 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。第9～13回の内容を振り返る。 第9～13回の内容を教科書、レジュメで見直しておく。 本日の授業内容を振り返る
15 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ 本講義のまとめと復習を行う。 第8回、14回を中心に復習しておく 全15回の授業内容を振り返る

科目名	経営管理論（経営管理論）				科目コード	24260	
英 文 名	Business Management				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	栴澤 恭子		教員コード	160		単 位 数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	水曜日・1時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	人々に影響を与える組織活動と組織を管理運営する手法について正しい方法を学ぶ。 企業における様々なマネジメントについて学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	経営管理論の基本的な用語や内容を理解し、企業が行う経営管理手法を把握することで、様々な企業形態において、どのような社会問題が存在しているのかを考えられるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	前提知識は必須ではないが、併せてベンチャービジネス論を履修することが望ましい。						
授業外学習（予習・復習）	予習・復習については教員からの指示に従い行うこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間	
使用教科書	教員が資料を配布する予定。						
参考書・その他教材	講義内で必要となった場合に指示する。						
課題に対するフィードバック	特になし						
成績評価方法	定期試験（50％）、小テスト（30％）、授業への貢献度（20％）						
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	講義のはじめに前回講義の復習をする。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問（kabasawa@aikoku-u.org）またはオフィスアワー（初回講義時にアナウンスする）。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方など)、経営管理とは何か? 全体像をつかむ シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	企業形態 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	管理論の歴史 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	組織マネジメント 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	モチベーション論 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	リーダーシップ論 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	組織構造のマネジメント 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	組織文化のマネジメント 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	経営組織と社会変化 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	企業戦略マネジメント 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	競争戦略マネジメント 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	イノベーションマネジメント 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	人材管理 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	生産管理 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	財務管理 前講義で指示した事柄について調べておくこと 配布した資料を読み、理解しておくこと

科目名	経営戦略論（経営戦略論）				科目コード	24270	
英文名	Business Strategy				科目区分	【専門科目】 ビジネス専攻（選択）	
担当教員	溝田 俊之			教員コード	156	単位数	2単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	講義	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う				4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	企業が競争的市場において生き残るための戦略を、経営戦略についての様々な概念や理論を理解し、企業が実際に取っている経営戦略を学ぶ。						
授業の狙い・到達目標	資源戦略、競争戦略、ドメイン戦略の概要を学び、「成長市場を探す」「自社の強みを生かす」「戦略を考える」など企業が実際に直面する場面ごとに、実現可能でよりよい戦略をどう描くのかについて学ぶことで、経営戦略の理論を習得することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	経営学概論を事前に受講していることを前提とする。 経営学概論で学習した基礎的な戦略論を、より深く詳論として学ぶ。						
授業外学習（予習・復習）	毎回、授業計画や教員からの指示をよく確認して予習に取り組むこと。 毎回授業内容について振り返り（復習し）、これをレポートにまとめ、次の授業時に提出すること。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	榊原清則著、『経営学入門』（上）、日経文庫						
参考書・その他教材	菅野寛、『全社戦略がわかる』、日経文庫						
課題に対するフィードバック	小テスト等の結果を通じてフィードバックする。						
成績評価方法	定期試験(60%)、小テスト・レポート(20%)、平常点(20%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどれくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	教室では携帯電話、スマートフォンの使用厳禁。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to:mizota@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること						

授業スケジュール

経営戦略論

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション。授業の概要説明を行う。また、教員の実務経験と関連について触れる。 シラバスを読んでおくこと。 本日の授業内容を振り返る
2 回	学習内容 予習 復習	経営戦略とは何か。戦略と目標、目的、標的、戦術との関係など戦略論の基礎を概説する。 教科書の該当箇所を読んでくる。 本日の授業内容を振り返る
3 回	学習内容 予習 復習	資源戦略。経験曲線と価格戦略、PPMなど資源配分の考え方について概説する。 教科書の該当箇所を読んでくる。 本日の授業内容を振り返る
4 回	学習内容 予習 復習	競争戦略。ポーターの5フォースモデル、ゲームの理論の適用など競争戦略の考え方について概説。 教科書の該当箇所を読んでくる。 本日の授業内容を振り返る
5 回	学習内容 予習 復習	ドメイン戦略。企業がどのような範囲や領域で活動していくか、その考え方について概説する。 教科書の該当箇所を読んでくる。 本日の授業内容を振り返る
6 回	学習内容 予習 復習	成長市場。事業機会を探索するための成長市場の探し方をケーススタディで学ぶ。 配付資料を読んでくる。 本日の授業内容を振り返る
7 回	学習内容 予習 復習	競争を考慮する。ポーターの5フォースモデルなどを使いながら競争構造の分析を学ぶ。 配付資料を読んでくる。 本日の授業内容を振り返る
8 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ 第2～7回の内容を振り返る 第2～7回の内容を復習してくる 本日の授業内容を振り返る
9 回	学習内容 予習 復習	安定成長。ケーススタディによりPPM、製品ライフサイクルの考え方と安定成長の戦略を考える。 配付資料を読んでくる。 本日の授業内容を振り返る
10 回	学習内容 予習 復習	自社の強みを生かす。ケーススタディにより多角化やシナジーについて考える。 配付資料を読んでくる。 本日の授業内容を振り返る
11 回	学習内容 予習 復習	学習の場を設ける。ケーススタディにより選択と集中、多角化などの戦略について考える。 配付資料を読んでくる。 本日の授業内容を振り返る
12 回	学習内容 予習 復習	競争戦略との連動。ネットワーク外部性や価値相関図などから企業の戦略的行動について考える。 配付資料を読んでくる。 本日の授業内容を振り返る
13 回	学習内容 予習 復習	戦略を構想する。SWOT分析で戦略を構想する。ガースナーとエイカーズの違いは何か。 配付資料を読んでくる。 本日の授業内容を振り返る
14 回	学習内容 予習 復習	後半のまとめ。第9～13回の内容を振り返る。 第9～13回の内容を教科書、レジュメで見直しておく。 本日の授業内容を振り返る
15 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ 本講義のまとめと復習を行う。 第8回、14回を中心に復習しておく 全15回の授業内容を振り返る

科 目 名	人間文化演習〔日本理解専攻〕			科目コード	31011	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Japan Studies)			科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	伏見 親子		教員コード	121	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	卒業研究に至るゼミである。前期は所属専攻の科目及び知見の中から、学生の興味の方向に沿って基礎知識を得られる参考文献を選び、抜粋し、輪読する形で読み込んでいく。紙媒体、電子媒体を問わないが、指定個所の予習及び準備は必須とする。後期からは学生のテーマに沿うように資料の範囲を絞り、テーマを支えるトピックを見つけ出せるよう指導する。					
授業の狙い・到達目標	学生が、専攻科目の中から興味をもって取り組めるトピックを自ら選び、疑問を発展させ、整理し、発表や論文の形に落とし込んでいき、必要に応じて見直し・修正できる論文作成の基礎力をつけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	日本文化概論、日本と西洋文化、日本と国際社会、日本とアジア、など日本理解専攻の中の国際関係にかかわる専門科目					
授業外学習(予習・復習)	指定参考資料を、辞書を引いてとにかく読み込むこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	授業で指定するが、英文の教材を用いることもある。プリント併用。学生による要望も歓迎する。					
参考書・その他教材	テーマに沿った教材を、その都度提示する。					
課題に対するフィードバック	発表のレジュメを提出させて、コメントをつけて返却する。					
成績評価方法	発表毎のレジュメ60%、授業への積極的な関与、特に担当箇所の準備、を貢献度として40%、で評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	発表担当時にやむを得ず欠席する場合は、事前に他の学生に代わってもらうよう、連絡手配すること。突然の欠席などのキャンセルは、理由にかかわらず、成績評価の減点対象とする。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問は、原則的にfushimi@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること					

1 回	学習内容 予習 復習	国際理解のためのチェックポイントについて 1. 国の概要 事前に配付した資料を読み込み、音読できるようにしておくこと 板書部分を配付資料の該当部分と照らして理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	国際理解のためのチェックポイントについて 2. 文化的特徴 事前に配付した資料を読み込み、音読できるようにしておくこと 板書部分を配付資料の該当部分と照らして理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	国際理解のためのチェックポイントについて 3. プロトコル 事前に配付した資料を読み込み、音読できるようにしておくこと 板書部分を配付資料の該当部分と照らして理解しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	国際理解のためのチェックポイントについて 4. マナー 事前に配付した資料を読み込み、音読できるようにしておくこと 板書部分を配付資料の該当部分と照らして理解しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	国際理解のためのチェックポイントについて（進度の調整） これまでに配付した資料をよく読んでおくこと これまでに配付した資料をよく読んで、概要をまとめておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	国際理解のためのチェックポイントについて（進度の調整） これまでに配付した資料をよく読んでおくこと これまでに配付した資料をよく読んで、概要をまとめておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	基礎的な参考資料(指示したもの)を読む。担当部分を決める。各自毎回10ページほど。 担当部分について音読できるよう予習の後、レジメを作っておく。予習も評価の対象である。 事前に出された資料、配付された発表のレジメをよく読みこんでおくこと
8 回	学習内容 予習 復習	
9 回	学習内容 予習 復習	
10 回	学習内容 予習 復習	
11 回	学習内容 予習 復習	
12 回	学習内容 予習 復習	
13 回	学習内容 予習 復習	
14 回	学習内容 予習 復習	これまでの発表の総括とコメント 自分が担当した発表のレジメについて、コメントに従い、訂正してまとめること 定期試験の対象である発表のレジメをまとめ、レポートとして仕上げて提出すること
15 回	学習内容 予習 復習	これまでの発表の総括とコメント 自分が担当した発表のレジメについて、コメントに従い、訂正してまとめること 定期試験の対象である発表のレジメをまとめ、レポートとして仕上げて提出すること

16 回	学習内容 予習 復習	授業概要の説明 学生の希望を聞き、半期の授業内容を検討する。 前期で配付された資料をよく読んで、授業に臨むこと 授業概要の説明を受け、何を研究対象としたいかを考えておくこと
17 回	学習内容 予習 復習	何を研究対象とするかを、参考文献、過去の卒業論文を提示しつつ、学生の希望に沿って選択する。 配付された資料をよく読んで、授業に臨むこと ノートした板書を見直し、内容をよく理解しておくこと
18 回	学習内容 予習 復習	↓
19 回	学習内容 予習 復習	
20 回	学習内容 予習 復習	
21 回	学習内容 予習 復習	
22 回	学習内容 予習 復習	
23 回	学習内容 予習 復習	
24 回	学習内容 予習 復習	途中で、授業のレビューを行う。学生の希望を聞き、今後の文献やリサーチの方向を決める。 これまでの講読と説明で、理解できなかったこと、疑問点を書き出しておくこと リサーチの方向が決まったら、次回からは自分の発表と心得て、準備すること
25 回	学習内容 予習 復習	関連文献の講読を行う。学生には、積極的な発表の機会を与える。 担当学生は、発表の準備をすること それ以外の学生も文献に目を通しておくこと 発表に関する疑問点が残っていないか、改めて確認すること
26 回	学習内容 予習 復習	↓
27 回	学習内容 予習 復習	
28 回	学習内容 予習 復習	
29 回	学習内容 予習 復習	
30 回	学習内容 予習 復習	卒業論文に向けた研究題目の検討 学生同士で研究対象を調整する。 これまでの授業内容から、卒業論文の研究題目をいくつか選んでおくこと 卒業論文の研究計画に着手すること

科 目 名	人間文化演習〔日本理解専攻〕			科目コード	31011	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Japan Studies)			科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	卒業論文で研究を深めるテーマ選びを目標に、毎回、演習を行う。 当初は、「調べる、発表する」こと自体を課題とし、そのなかで根拠の引用・紹介なども学んで行く。最終的には、自らテーマを選び、研究の基礎となる発表を行ってもらう。					
授業の狙い・到達目標	卒業論文の作成は、本学での教育の集大成である。その目標に向けて2年間演習を積み重ねるが、1年目の人間文化演習では、その基礎固めを行う。卒業論文で取り組むテーマを発見することが最大の課題で、そのための基礎を培うことができる。					
授業内容のレベル・関連科目	授業のレベルは、「大学生活の集大成」である。関連科目は特に明示しないが、これまでに本学履修したすべての科目が、「課題の発見・探究」に役だったはずである。					
授業外学習(予習・復習)	毎回、課題をこなしてくること。 報告・発表のなかで、教員に言われた課題を習得すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	特になし。講義のなかで指示する課題をこなすための参考書・資料を自ら発見することが、ゼミ学習の基本である。					
課題に対するフィードバック	人間研究演習では、卒業論文の作成に向けて、その基礎固めを行っていく。 毎回の授業は、そのフォローアップである。					
成績評価方法	平常点100%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか) 期末試験は行わないので、30回の課題を毎回全力投球すること。					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、教員が演習中に指示した課題をしっかりとこなすこと。 <u>演習形式のため、学生の学習状況にあわせた進度の調整を行う場合がある。</u>					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、本演習のスケジュールまた卒業論文作成までのスケジュールを説明する。 シラバスをよく読み、本演習のスケジュールを把握しておくこと。 講義を踏まえて、シラバスを改めて読み返し、本演習のスケジュールを頭に叩き込む。
2 ・ 3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	調べて発表すること【基礎編1】 まずは身近なテーマで報告することに慣れる。固いテーマは選ばずに、まずは易しいテーマから始めたい。 教員が前回講義時に指定した課題で調べものをし、プレゼンにまとめる。 (指定日までに、課題をメールで送ること) 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、予習時に作成したプレゼンを修正する。
5 ・ 6 ・ 7 回	学習内容 予習 復習	調べて発表すること【基礎編2】 基礎編1(第2～4回)で調査・報告したテーマにつき、2回目を取り組んでみる。 演習内でアドバイスを受けた修正により、どのように報告が変わるか、実感する。 教員が前回講義時に指定した課題で調べものをし、プレゼンにまとめる。 (指定日までに、課題をメールで送ること) 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、予習時に作成したプレゼンを修正する。
8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 回	学習内容 予習 復習	調べて発表すること【中級編1】 基礎編1・2を踏まえ、少し抽象的・高度なテーマに取り組んでみる。 中級編までは、課題は教員が指定する。 教員が前回講義時に指定した課題で調べものをし、プレゼンにまとめる。 (指定日までに、課題をメールで送ること) 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、予習時に作成したプレゼンを修正する。
12 ・ 13 ・ 14 ・ 15 回	学習内容 予習 復習	調べて発表すること【中級編2】 中級編1(第8～11回)で調査・報告したテーマにつき、2回目を取り組んでみる。 演習内でアドバイスを受けた修正により、どのように報告が変わるか、実感する。 教員が前回講義時に指定した課題で調べものをし、プレゼンにまとめる。 (指定日までに、課題をメールで送ること) 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、予習時に作成したプレゼンを修正する。

16 ・ 17 ・ 18 ・ 19 ・ 20 ・ 21 ・ 22 回	学習内容 調べて発表すること【上級編1】 上級編からは、テーマ選びも含めて自分で考える。 前半15回の演習でおぼろげに、自分の興味・関心の範囲は出てきたはずなので、それを踏まえて、テーマを絞り込むための演習に移行する。 予習 教員が前回講義時に指定した課題で調べものをし、プレゼンにまとめる。 (指定日までに、課題をメールで送ること) 復習 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、予習時に作成したプレゼンを修正する。
23 ・ 24 ・ 25 ・ 26 ・ 27 ・ 28 ・ 29 回	学習内容 調べて発表すること【上級編2】 上級編1(第16～22回)で調査・報告したテーマにつき、2回目を取り組んでみる。 演習内でアドバイスを受けた修正により、どのように報告が変わるか、実感する。 予習 教員が前回講義時に指定した課題で調べものをし、プレゼンにまとめる。 (指定日までに、課題をメールで送ること) 復習 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、予習時に作成したプレゼンを修正する。
30 回	学習内容 卒業論文を見通し、現時点で考えているテーマにつき、検討会を行う。 予習 1年間の演習での発表を踏まえ、卒業論文で扱いたいテーマにつき、絞り込みを行う。 復習 検討会を踏まえ、4年次(執筆)に向けた見通しを確認する。

科 目 名	人間文化演習〔日本理解専攻〕			科目コード	31011	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Japan Studies)			科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	羽田 利久		教員コード	155	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	前期は論文執筆にあたり、基本的なルールや先行研究の調べ方、構成の考え方などの基礎的な知識習得を行う。後期は論文執筆のための具体的な作業のために、研究テーマについての基礎知識や先行研究の調査を行う。					
授業の狙い・到達目標	日本理解分野での論文執筆の力を身につけることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	観光学Ⅰ・Ⅱ、地域文化と観光、観光学フィールドワーク、ビジネスモデル論、ビジネスモデル演習、多文化共生社会論					
授業外学習(予習・復習)	予復習に関する課題を毎回提出するので、それに従うこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計120時間
使用教科書	教科書は使用せず、適宜指示を行う。					
参考書・その他教材	テーマに合わせて随時参考文献を指示する。					
課題に対するフィードバック	前期は各教員の最後の講義でまとめを行う。					
成績評価方法	授業への貢献度(50%)、提出課題(50%)により、総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどの位到達したかを、本学の学業成績判定に関する規定の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	日頃から授業に関連したニュース等を意識して、知識の取得に努めること。 復習を重点的におこない、授業内容の理解を深めること。					
科目に関連した教員の実務経験	旅行会社社員として旅行の企画や広告宣伝など旅行に関する全般的な業務を担当					
担当教員への連絡方法	授業前後での質問、ならびにメールでも受け付ける。メールアドレス hada@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション シラバスをよく読み、自らの課題について検討すること 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
2 回	学習内容 予習 復習	論文執筆のルールについて 配布資料を元に予習を行うこと 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
3 回	学習内容 予習 復習	研究テーマ設定について・1 自分の関心のある課題を整理し、大まかなテーマについて検討しておくこと 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
4 回	学習内容 予習 復習	研究テーマ設定について・2 自分の関心のある課題を整理し、大まかなテーマについて検討しておくこと 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
5 回	学習内容 予習 復習	先行研究の探し方について 自分の研究テーマについて、関連する研究を調べておくこと 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
6 回	学習内容 予習 復習	研究テーマの先行研究調査・1 研究テーマの先行研究について調べておくこと 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
7 回	学習内容 予習 復習	研究テーマの先行研究調査・2 研究テーマの先行研究について調べておくこと 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
8 回	学習内容 予習 復習	研究テーマの先行研究調査・3 研究テーマの先行研究について調べておくこと 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
9 回	学習内容 予習 復習	先行研究についての中間報告 調査した先行研究について、自分なりにまとめておくこと 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
10 回	学習内容 予習 復習	研究テーマについての検討・1 先行研究を元に、自分の研究テーマについて再度検討を行う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
11 回	学習内容 予習 復習	研究テーマについての検討・2 先行研究を元に、自分の研究テーマについて再度検討を行う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
12 回	学習内容 予習 復習	研究テーマについての検討・3 先行研究を元に、自分の研究テーマについて再度検討を行う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
13 回	学習内容 予習 復習	論文の構成についての検討・1 執筆にあたり、論文の構成について検討を行うこと 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
14 回	学習内容 予習 復習	論文の構成についての検討・2 執筆にあたり、論文の構成について検討を行うこと 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
15 回	学習内容 予習 復習	前期まとめの発表 前期に調査した内容についてまとめること 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う

16 回	学習内容 予習 復習	専門分野に関する基礎知識の習得 指導教員から休暇前に指示があるのでそれに従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
17 回	学習内容 予習 復習	専門分野に関する基礎知識の習得 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
18 回	学習内容 予習 復習	専門分野に関する基礎知識の習得 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
19 回	学習内容 予習 復習	専門分野に関する基礎知識の習得 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
20 回	学習内容 予習 復習	専門分野に関する基礎知識の習得 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
21 回	学習内容 予習 復習	専門分野に関する論文精読 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
22 回	学習内容 予習 復習	専門分野に関する論文精読 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
23 回	学習内容 予習 復習	専門分野に関する論文精読 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
24 回	学習内容 予習 復習	専門分野に関する論文精読 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
25 回	学習内容 予習 復習	専門分野に関する論文精読 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
26 回	学習内容 予習 復習	専門分野に関する論文精読 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
27 回	学習内容 予習 復習	論文作成に必要な専門知識の習得 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
28 回	学習内容 予習 復習	論文作成に必要な専門知識の習得 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
29 回	学習内容 予習 復習	論文作成に必要な専門知識の習得 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う
30 回	学習内容 予習 復習	論文執筆に必要な専門知識の習得 指導教員からの指示に従う 指導教員から論文執筆に関する課題が出されるのでそれに従う

科 目 名	人間文化演習〔日本理解専攻〕			科目コード	31011	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Japan Studies)			科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	前半は言語学・日本語学やそれに関連する分野の文献を読み、内容を理解し要点を押さえてまとめる作業をする。後半は前半で扱ったテーマを中心に、学生自身が研究テーマとして扱いたいものを選び、関連する先行研究を収集し読み進める。言語学の研究方法についても学ぶ。					
授業の狙い・到達目標	言語学、日本語学に関する論文を理解し、卒業論文を作成するに足る知識を身に付ける。また、文献から自身で問題点を見つけ、研究に繋げるための思考力、洞察力を養う。総じて卒業論文を作成する準備が整えることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	基礎的な日本語文法の知識が必要。 関連科目：日本語学概論Ⅰ・Ⅱ					
授業外学習(予習・復習)	予習：扱う文献をよく読み込んでくる。 復習：教員の与えた課題を行う。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	特になし。教員が文献資料を配布する。					
参考書・その他教材	定延利之編『私たちの日本語』朝倉書店 定延利之編『私たちの日本語研究』朝倉書店 岡崎友子他編『ココが面白い！日本語学』ココ出版					
課題に対するフィードバック	毎回の課題(論文要点のまとめ)の修正点を確認し、重要な点は授業で共有する。					
成績評価方法	授業への参加態度30%、毎週の課題30%、最終レポート40%					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業以外の日常生活においても、そこで使用されている言葉や表現に関心を持ち、疑問に思ったことなどはメモに書き留めておく。(そうした日頃の小さな疑問から研究テーマが見つかることが多い)					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org					

授業スケジュール

人間文化演習〔日本理解専攻〕

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 日本語学の内容の確認と授業で各分野で扱うテーマの決定 日本語学概論Ⅰ・Ⅱで学んだことを確認する 教員からの課題を行う
2 回	学習内容 予習 復習	日本語文法に関する論文(1)論文の精読と内容理解 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 論文で分からなかったところや疑問点等をまとめる
3 回	学習内容 予習 復習	日本語文法に関する論文(1)学生の作成したレジュメをもとに問題点を探る 要点をまとめたレジュメを作成する レジュメを修正し、完成させる
4 回	学習内容 予習 復習	日本語文法に関する論文(2)論文の精読と内容理解 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 論文で分からなかったところや疑問点等をまとめる
5 回	学習内容 予習 復習	日本語文法に関する論文(2)学生の作成したレジュメをもとに問題点を探る 要点をまとめたレジュメを作成する レジュメを修正し、完成させる
6 回	学習内容 予習 復習	日本語の談話に関する論文(1)論文の精読と内容理解 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 論文で分からなかったところや疑問点等をまとめる
7 回	学習内容 予習 復習	日本語の談話に関する論文(1)学生の作成したレジュメをもとに問題点を探る 要点をまとめたレジュメを作成する レジュメを修正し、完成させる
8 回	学習内容 予習 復習	日本語の談話に関する論文(2)論文の精読と内容理解 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 論文で分からなかったところや疑問点等をまとめる
9 回	学習内容 予習 復習	日本語の談話に関する論文(2)学生の作成したレジュメをもとに問題点を探る 要点をまとめたレジュメを作成する レジュメを修正し、完成させる
10 回	学習内容 予習 復習	社会言語学に関する論文(1)論文の精読と内容理解 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 論文で分からなかったところや疑問点等をまとめる
11 回	学習内容 予習 復習	社会言語学に関する論文(1)学生の作成したレジュメをもとに問題点を探る 要点をまとめたレジュメを作成する レジュメを修正し、完成させる
12 回	学習内容 予習 復習	社会言語学に関する論文(2)論文の精読と内容理解 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 論文で分からなかったところや疑問点等をまとめる
13 回	学習内容 予習 復習	社会言語学に関する論文(2)学生の作成したレジュメをもとに問題点を探る 要点をまとめたレジュメを作成する レジュメを修正し、完成させる
14 回	学習内容 予習 復習	日本語コーパスに関する資料(1) 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 教員からの課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	日本語コーパスに関する資料(2) 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 教員からの課題を行う

授業スケジュール

人間文化演習〔日本理解専攻〕

16 回	学習内容 予習 復習	前半に扱った論文を振り返り、関心のあるテーマを考える(ディスカッション) 休暇中に自身が研究したいテーマの候補をいくつか挙げておく 教員からの課題を行う
17 回	学習内容 予習 復習	学生の関心に沿った論文の精読と要点理解(1) 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 精読した論文の要点をまとめる(文書にする)
18 回	学習内容 予習 復習	学生の関心に沿った論文の精読と要点理解(2) 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 精読した論文の要点をまとめる(文書にする)
19 回	学習内容 予習 復習	学生の関心に沿った論文の精読と要点理解(3) 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 精読した論文の要点をまとめる(文書にする)
20 回	学習内容 予習 復習	学生の関心に沿った論文の精読と要点理解(4) 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 精読した論文の要点をまとめる(文書にする)
21 回	学習内容 予習 復習	学生の関心に沿った論文の精読と要点理解(5) 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 精読した論文の要点をまとめる(文書にする)
22 回	学習内容 予習 復習	学生の関心に沿った論文の精読と要点理解(6) 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 精読した論文の要点をまとめる(文書にする)
23 回	学習内容 予習 復習	学生の関心に沿った論文の精読と要点理解(7) 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 精読した論文の要点をまとめる(文書にする)
24 回	学習内容 予習 復習	学生の関心に沿った論文の精読と要点理解(8) 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 精読した論文の要点をまとめる(文書にする)
25 回	学習内容 予習 復習	言語研究の方法(1) 資料講読 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 教員からの課題を行う
26 回	学習内容 予習 復習	言語研究の方法(2) 資料講読 事前に配布された論文を読み、大体の内容を把握しておく 教員からの課題を行う
27 回	学習内容 予習 復習	言語研究の方法(3) 実践練習 教員からの課題を行う 教員からの課題を行う
28 回	学習内容 予習 復習	言語研究の方法(3) 実践練習 これまで扱った論文で関心のあるもの、理解が難しかったものをまとめておく 教員からの課題を行う
29 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめと振り返り(1) これまで扱った論文で関心のあるもの、理解が難しかったものをまとめておく 関心のあるテーマについて文書にまとめる
30 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめと振り返り(2) 教員からの卒業論文テーマに関する課題を行う 卒業論文作成に向けて必要な論文を確認する

科 目 名	人間文化演習〔日本理解専攻〕				科目コード	31011	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Japan Studies)				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単 位 数	2単位	
開講期間	通年		曜日・時限	月曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける			○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	授業の前半では、異文化理解、バイリンガル教育、日本語教育の研究を紹介し、それをもとに、自分の興味関心のある研究テーマを考える。授業の後半では、卒業論文に必要な論文の読み方や書き方、研究方法などをレクチャーする。						
授業の狙い・到達目標	前期では、それぞれの研究分野のことを知り、卒業論文を書くための基礎的な知識を身につけることができる。後期では、自分の興味関心のある研究テーマを定め、関連研究の文献を読み、調べ、まとめることができる。最終的に卒業論文を書く準備ができようになり、また、研究計画を立てられることができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	関連科目：「異文化理解」、「バイリンガル教育論」、「日本語学概論Ⅰ、Ⅱ」						
授業外学習(予習・復習)	予習として、今まで受けた関連科目の講義内容のプリントや教科書にもう一度目を通しておく。復習として、ゼミでやった内容をまとめ、指定した課題を行う。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	戸田山和久『最新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス						
参考書・その他教材	必要に応じて教員が補足資料を渡す。						
課題に対するフィードバック	随時フィードバックを行う						
成績評価方法	授業への貢献度40%、課題・発表60%で総合評価する						
成績評価基準	学習の到達目標にどのぐらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	毎回授業に出席し、積極的にゼミや議論に参加すること						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to : shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

人間文化演習〔日本理解専攻〕

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー今後の授業の内容や進め方について説明する シラバスを熟読し、ゼミ概要についておおむね理解しておくこと ゼミで説明されたことを振り返る
2 回	学習内容 予習 復習	研究分野紹介(異文化理解①) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の論文を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
3 回	学習内容 予習 復習	研究分野紹介(異文化理解②) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の論文を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
4 回	学習内容 予習 復習	研究分野紹介(異文化理解③) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の論文を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
5 回	学習内容 予習 復習	研究分野紹介(バイリンガル教育①) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の論文を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
6 回	学習内容 予習 復習	研究分野紹介(バイリンガル教育②) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の論文を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
7 回	学習内容 予習 復習	研究分野紹介(バイリンガル教育③) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の論文を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
8 回	学習内容 予習 復習	研究分野紹介(日本語教育①) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の論文を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
9 回	学習内容 予習 復習	研究分野紹介(日本語教育②) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の論文を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
10 回	学習内容 予習 復習	研究分野紹介(日本語教育③) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の論文を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
11 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的スキル(論文とは・問いと主張と論証) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の章を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
12 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的スキル(論文の段取り・型にはまった文章) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の章を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
13 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的スキル(型にはまった文章・アウトライン) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の章を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
14 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的スキル(論証とは・パラグラフ・ライティング) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の章を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
15 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的スキル(わかりやすい文章を書くためには・最後の仕上げ) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の章を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること

16 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的スキル(振り返り) 教師の指示に従い、ゼミで扱う部分の章を読んでおくこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
17 回	学習内容 予習 復習	自分の興味関心のある研究分野は何かを考え、まとめる 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
18 回	学習内容 予習 復習	自分の興味関心のある研究分野は何かを考え、まとめる 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
19 回	学習内容 予習 復習	自分の興味関心のある分野の先行研究を調べ、まとめる 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
20 回	学習内容 予習 復習	自分の興味関心のある分野の先行研究を調べ、まとめる 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
21 回	学習内容 予習 復習	自分の興味関心のある分野の先行研究を調べ、まとめる 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
22 回	学習内容 予習 復習	自分の興味関心のある分野の先行研究を調べ、まとめる 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
23 回	学習内容 予習 復習	発表の仕方を学ぶ 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
24 回	学習内容 予習 復習	中間報告を行う 中間報告をまとめること ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
25 回	学習内容 予習 復習	中間報告を基に、自分の興味関心のある分野の先行研究を振り返り、自分のテーマに結びつける 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
26 回	学習内容 予習 復習	中間報告を基に、自分の興味関心のある分野の先行研究を振り返り、自分のテーマに結びつける 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
27 回	学習内容 予習 復習	中間報告を基に、自分の興味関心のある分野の先行研究を振り返り、自分のテーマに結びつける 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
28 回	学習内容 予習 復習	卒論に向けて、研究計画を立てる 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
29 回	学習内容 予習 復習	卒論に向けて、研究計画を立てる 教師の指示に従い、課題を行うこと ゼミで扱った内容を自分なりにまとめ、理解を深めること
30 回	学習内容 予習 復習	まとめ・振り返り これまでの学習内容を振り返ること 卒論に向けて、準備計画をすること

科目名	人間文化演習〔心理・生活専攻〕			科目コード	31012	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Life and Psychology)			科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	前期は、生活科学の最近の進歩を概観し、専門的な事項について考究し、卒業研究への準備を行う。そのために、論文執筆のための基本について演習形式で勉強する。後期は、専門的な内容を中心としたゼミで、いっそう具体的なテーマについて研鑽に励むこととする。					
授業の狙い・到達目標	目標を達成することにより、課題について調査し、評価する力を養うとともに、研究計画を立案する力やプレゼンテーション能力を身に付けることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	問題発見能力や問題解決能力、及びプレゼンテーション・ディスカッション能力を身につける。生活科学概論Ⅰ・Ⅱ、食文化論を併せて2年次までに単位を修得しておくことが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	各回ゼミの内容に応じ、予習として文献を探し、内容について十分に検討を行う。ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、理解を深めたのちにプレゼンテーションを作成する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	随時紹介する。					
参考書・その他教材	随時紹介する。					
課題に対するフィードバック	随時フィードバックを行う。					
成績評価方法	演習への取り組み・貢献度50%、課題に取り組む意欲およびプレゼンテーション50%を総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	積極的にゼミに参加し、わからないことがあれば直ちに質問すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)					

1 回	学習内容 予習 復習	演習の内容、進め方を説明する。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
2 ・ 3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	研究分野(食品・栄養学に関する研究)を紹介する。 教員からの指示をよく確認して予習に取り組むこと。 ゼミ内容を自主的にまとめ、理解を深めること。
5 ・ 6 ・ 7 回	学習内容 予習 復習	研究分野(アロマセラピーに関する研究)を紹介する。 教員からの指示をよく確認して予習に取り組むこと。 ゼミ内容を自主的にまとめ、理解を深めること。
8 ・ 9 ・ 10 回	学習内容 予習 復習	研究分野(化粧品に関する研究)を紹介する。 教員からの指示をよく確認して予習に取り組むこと。 ゼミ内容を自主的にまとめ、理解を深めること。
11 回	学習内容 予習 復習	研究の手法(文献調査、購読の仕方)を説明する。 教員からの指示をよく確認して予習に取り組むこと。 ゼミ内容を自主的にまとめ、理解を深めること。
12 回	学習内容 予習 復習	研究の手法(データ収集、分析、整理の方法)を説明する。 教員からの指示をよく確認して予習に取り組むこと。 ゼミ内容を自主的にまとめ、理解を深めること。
13 回	学習内容 予習 復習	研究の手法(論文、レポートの書き方)を説明する。 教員からの指示をよく確認して予習に取り組むこと。 ゼミ内容を自主的にまとめ、理解を深めること。
14 回	学習内容 予習 復習	研究の手法(課題発表の仕方)を説明する。 教員からの指示をよく確認して予習に取り組むこと。 ゼミ内容を自主的にまとめ、理解を深めること。
15 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ、発表を行う。 今までの授業内容について見直し、発表を準備すること。 ゼミ内容を自主的にまとめ、理解を深めること。

16 回	学習内容 予習 復習	授業の目的と内容、授業の進め方などについて学ぶ。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること。
17 ・ 18 回	学習内容 予習 復習	各自の興味ある課題について調査を行い、テーマを選ぶ。 興味のあるテーマに関する文献を調査すること。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、理解を深めること。
19 ・ 20 ・ 21 ・ 22 回	学習内容 予習 復習	文献を購読する。研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解を行う。 選んだテーマに関する文献を調査し、一読すること。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、理解を深めること。
23 回	学習内容 予習 復習	中間報告を行う。 中間報告の準備をすること。 フィードバックで指導された内容を整理し、改善を行うこと。
24 ・ 25 ・ 26 ・ 27 回	学習内容 予習 復習	文献を購読する。中間報告に基づき研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解を行う。 選んだテーマに関する文献を調査し、一読すること。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、理解を深めること。
28 ・ 29 回	学習内容 予習 復習	卒論の対策、課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。 研究計画を立てること。立てた研究計画を見直すこと。 ゼミ後、フィードバックで指導された内容を整理し、改善を行うこと。
30 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ。発表を行う。 今までの授業内容について見直し、発表を準備すること。 ゼミ後、フィードバックで指導された内容を整理し、改善を行うこと。

科 目 名	人間文化演習〔心理・生活専攻〕				科目コード	31012	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Life and Psychology)				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	赤羽根 和恵			教員コード	152	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	前期:社会福祉、生活経済、キャリア開発の中から、学生の関心の高いテーマについて、卒業論文を執筆するための基礎的な知識を身につけることを目的とする。 後期:卒業論文のテーマを絞りつつ、関連する知識を修得する。						
授業の狙い・到達目標	到達目標①:社会福祉、生活経済、キャリア開発といった分野において、文献読解とレポート作成、プレゼンテーションができる。 到達目標②:課題設定、情報収集、分析、解決方法の提示ができる。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生として期待されるレポート作成、論文作成能力を養う演習である。						
授業外学習(予習・復習)	授業の終了時に、次回に向けての課題を提示する。予習、復習を必ず行い演習に臨むこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	桑田てるみ編、「学生のレポート・論文作成トレーニング」改訂版、実教出版						
参考書・その他教材	必要に応じて資料の配布を行い、テーマに合わせて参考文献を指示する。						
課題に対するフィードバック	レポート等提出物の返却、プレゼンテーションの講評等による。						
成績評価方法	授業参加度(20%)、PBL(30%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(20%)として評価をする。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習を行うこと。特に教員が演習中に指示した課題をきちんとこなして次回に臨むこと。USBメモリを持参すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:akabane@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

人間文化演習〔心理・生活専攻〕

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、授業の進め方、スケジュールの明示。 シラバスを読んでおくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、自分の手帳にスケジュールを書き込む。
2 回	学習内容 予習 復習	レポート、論文の書き方①レポート・論文のルール、構成要素、形式を学ぶ。 教科書を読んでくること。 本日の授業内容を振り返る。
3 回	学習内容 予習 復習	レポート、論文の書き方②レポート・論文のルール、構成要素、形式を学ぶ。 「社会福祉」に関する宿題に取り組み持参する。教科書を読んでくること。 本日の授業内容を振り返る。
4 回	学習内容 予習 復習	レポート作成演習①与えられたテーマについてレポートを作成する。 教科書を読んでくること。 レポートに対する指摘事項を修正する。
5 回	学習内容 予習 復習	レポート作成演習②与えられたテーマについてレポートを作成する。 「生活経済」に関する宿題に取り組み持参する。教科書を読んでくること。 レポートに対する指摘事項を修正する。
6 回	学習内容 予習 復習	レポート作成演習③与えられたテーマについてレポートを作成する。 教科書を読んでくること。 レポートに対する指摘事項を修正する。
7 回	学習内容 予習 復習	レポート作成演習④与えられたテーマについてレポートを作成する。 「キャリア開発」に関する宿題に取り組み持参する。教科書を読んでくること。 レポートに対する指摘事項を修正する。
8 回	学習内容 予習 復習	レポート作成演習⑤与えられたテーマについてレポートを作成する。 教科書を読んでくること。 レポートに対する指摘事項を修正する。
9 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディ①PBLの基本構成 配付資料を読んでくること。 配付資料を読んで授業内容を振り返る。
10 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディ②問題解決演習の進め方 配付資料を読んでくること。 配付資料を読んで授業内容を振り返る。
11 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディ③チームによる解決手法 配付資料を読んでくること。 配付資料を読んで授業内容を振り返る。
12 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディ④役割分担とコミュニケーション 配付資料を読んでくること。 配付資料を読んで授業内容を振り返る。
13 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディ⑤学習計画とスケジュールリング 配付資料を読んでくること。 配付資料を読んで授業内容を振り返る。
14 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディ⑥情報収集と分析 配付資料を読んでくること。 配付資料を読んで授業内容を振り返る。
15 回	学習内容 予習 復習	前期のまとめ。 前期を振り返って疑問や不明点を確認しておく。 授業内容を振り返り、必要に応じて記録をしておく。

16 回	学習内容 予習 復習	テーマAによる演習・ディスカッション① 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
17 回	学習内容 予習 復習	テーマAによる演習・ディスカッション② 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
18 回	学習内容 予習 復習	テーマAによる演習・レポートの作成 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
19 回	学習内容 予習 復習	テーマAによる演習・パワーポイントを用いた発表 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
20 回	学習内容 予習 復習	テーマBによる演習・ディスカッション① 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
21 回	学習内容 予習 復習	テーマBによる演習・ディスカッション② 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
22 回	学習内容 予習 復習	テーマBによる演習・レポートの作成 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
23 回	学習内容 予習 復習	テーマBによる演習・パワーポイントを用いた発表 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
24 回	学習内容 予習 復習	テーマCによる演習・ディスカッション① 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
25 回	学習内容 予習 復習	テーマCによる演習・ディスカッション② 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
26 回	学習内容 予習 復習	テーマCによる演習・レポート作成 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
27 回	学習内容 予習 復習	テーマCによる演習・パワーポイントを用いた発表 解決に必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
28 回	学習内容 予習 復習	ケーススタディの振り返り。 テーマの課題とその解決方法を共有しておくこと。 指摘事項を検討して修正する。
29 回	学習内容 予習 復習	卒業論文のテーマを考える① 必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して修正する。
30 回	学習内容 予習 復習	卒業論文のテーマを考える② 必要な方法・情報の収集を行って臨むこと。 指摘事項を検討して、卒業論文の構想をまとめる。

科 目 名	人間文化演習〔心理・生活専攻〕			科目コード	31012	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Life and Psychology)			科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	原島 雅之		教員コード	142	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜 日・時 限	水曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針と の対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	心理学研究における研究方法・研究結果についていくつか紹介する。それをもとに各自の興味関心のある研究テーマについて議論する。また、卒業研究の準備として、論文の読み方や書き方についての練習を行う。					
授業の狙い・ 到達目標	心理学の研究について、課題の発見や研究方法、結果のまとめ方などを理解するとともに、文献の読み方や論文の書き方を修得することができる。					
授業内容の レベル・関連科目	これまでの心理学関連の講義科目とは異なり、ゼミ形式の授業として発表や積極的な議論の参加を求める。心理学実験実習や心理学研究法、また自身の関心のある心理学分野の各科目について履修済みもしくは合わせての履修が望ましい。					
授業外学習 (予習・復習)	関心のある日常の心理的現象について自分なりにまとめておくこと。 また、毎回の授業内容については自分なりに振り返り、要約をするとともに、課題の提出に備えること。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	木下是雄『理科系の作文技術』中公新書					
参考書・ その他教材	授業の際に適宜紹介あるいは配布を行う。					
課題に対する フィードバック	提出された課題やレポートについては授業の際に適宜フィードバックを行う。					
成績評価方法	授業態度(20%)、課題およびレポート(80%)で総合的に評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の 注意事項や 学習上の助言	原則として毎回出席し、積極的に議論に参加すること。					
科目に関連した 教員の実務経験	特になし					
担当教員への 連絡方法	harashima@aikoku-u.org					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー演習の内容や進め方について シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること
2 回	学習内容 予習 復習	心理学研究への導入ー心理学研究の範囲や特徴 これまでに受けた心理学の授業内容について自分なりに振り返りをしておくこと 配布資料などをもとに授業内容について自分なりに整理すること
3 回	学習内容 予習 復習	心理学研究の紹介①ー知覚心理学の研究テーマ・方法・結果について紹介する これまでに受けた心理学の授業内容について自分なりに振り返りをしておくこと 配布資料などをもとに授業内容について自分なりに整理すること
4 回	学習内容 予習 復習	心理学研究の紹介②ー認知心理学の研究テーマ・方法・結果について紹介する これまでに受けた心理学の授業内容について自分なりに振り返りをしておくこと 配布資料などをもとに授業内容について自分なりに整理すること
5 回	学習内容 予習 復習	心理学研究の紹介③ー社会心理学の研究テーマ・方法・結果について紹介する これまでに受けた心理学の授業内容について自分なりに振り返りをしておくこと 配布資料などをもとに授業内容について自分なりに整理すること
6 回	学習内容 予習 復習	心理学研究の紹介④ー性格心理学の研究テーマ・方法・結果について紹介する これまでに受けた心理学の授業内容について自分なりに振り返りをしておくこと 配布資料などをもとに授業内容について自分なりに整理すること
7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 回	学習内容 予習 復習	研究テーマディスカッションー心理学的研究のテーマについて自由に議論する 自分が関心のある心理学的研究のテーマについて考えておくこと 授業で行った議論をもとにあらためて研究テーマについて考えをまとめておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的技能①ー文献検索の意義、具体的方法 自分の興味のあるテーマやトピックについてまとめておくこと 自分の興味のあるテーマやトピックに関する文献を検索すること
12 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的技能②ー文献の読み方(専門書、論文、報告書) 自分の興味のあるテーマやトピックについてまとめておくこと 自分の興味のあるテーマやトピックに関する文献を読むこと
13 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的技能③ー読書メモの作成法 自分の興味のあるテーマやトピックについてまとめておくこと これまでに読んだ文献について読書メモを作成すること
14 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的技能④ーレジュメの作成法 自分の興味のあるテーマやトピックについてまとめておくこと これまでに読んだ文献についてレジュメを作成すること
15 回	学習内容 予習 復習	研究技能訓練のための課題ー出題内容と取り組み方法の説明と実施 自分の興味のあるテーマやトピックについてまとめておくこと 指示された課題について取り組み提出すること

16 回	学習内容 予習 復習	テキストの輪読①－文書作成の準備 テキストの該当部分に目を通しておくこと テキストの該当部分をあらためて読み直し、整理しておくこと
17 回	学習内容 予習 復習	テキストの輪読②－文章の組み立て、パラグラフ テキストの該当部分に目を通しておくこと テキストの該当部分をあらためて読み直し、整理しておくこと
18 回	学習内容 予習 復習	テキストの輪読③－明確な文章、「事実」と「意見」の違い テキストの該当部分に目を通しておくこと テキストの該当部分をあらためて読み直し、整理しておくこと
19 回	学習内容 予習 復習	テキストの輪読④－わかりやすく簡潔な表現 テキストの該当部分に目を通しておくこと テキストの該当部分をあらためて読み直し、整理しておくこと
20 回	学習内容 予習 復習	テキストの輪読⑤－わかりやすい発表の仕方 テキストの該当部分に目を通しておくこと テキストの該当部分をあらためて読み直し、整理しておくこと
21 ・ 22 ・ 23 回	学習内容 予習 復習	論理的思考の訓練－課題形式で思考力の訓練を行う 配布資料に目を通して発表の準備をしておくこと 自分や他の人の発表内容をふまえて、次の課題に備えること
24 ・ 25 回	学習内容 予習 復習	説明の練習－日常的な心理現象を論理的に説明する練習を行う 日常的な心理現象について集めておくこと 授業で扱ったもの以外の心理現象について論理的な説明を考えること
26 ・ 27 ・ 28 ・ 29 回	学習内容 予習 復習	心理学文献の輪読－卒業研究に関連するテーマの文献を読み、レジュメにまとめ、発表する 関心のあるトピックに関連した心理学的研究を扱った論文を見つけておくこと 自分の発表に備えてレジュメを作成すること
30 回	学習内容 予習 復習	まとめ－卒業研究への導入 これまでの学習内容を自分なりに整理しておくこと 卒業研究のテーマについて考えておくこと

科目名	人間文化演習〔心理・生活専攻〕			科目コード	31012	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Life and Psychology)			科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	4年次に心理学分野での卒業研究を行う学生を対象として、研究と論文執筆の手法についての基礎知識に関する演習形式授業を行う。また、卒業研究のテーマを決めるためのディスカッションを定期的に行う。					
授業の狙い・到達目標	卒業研究に必要な技術や材料を把握することができる。特に、研究論文の型および執筆方法を習得することができる。					
授業内容のレベル・関連科目	心理学系の科目(特に心理学入門、心理学概論)を履修しておくことが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	授業内で参考書や論文の読み合わせも行うため、担当箇所の発表資料の作成および復習をすること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計120時間
使用教科書	木下是雄『理科系の作文技術』中公新書					
参考書・その他教材	大山正・岩脇三良・宮埜壽夫『心理学研究法 データ収集・分析から論文作成まで』サイエンス社					
課題に対するフィードバック	演習形式であるため、当然、進捗状況・成果すべてに対して授業内で評価・指導をしていく。					
成績評価方法	卒論発表会30%、平常点70%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか)					
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	話を聞いていればよいという授業ではなく、自身の卒業研究のための準備であることを自覚すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	初回に、教員と学生が必ずお互いに連絡を取り合える方法を確保する。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー演習の内容や進め方について シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、理解を深めること
2 回	学習内容 予習 復習	心理学研究への導入ー心理学研究の範囲や特徴 これまでに受けた心理学の授業内容について自分なりに振り返りをしておくこと 配布資料などをもとに授業内容について自分なりに整理すること
3 回	学習内容 予習 復習	心理学研究の紹介①ー知覚心理学の研究テーマ・方法・結果について紹介する これまでに受けた心理学の授業内容について自分なりに振り返りをしておくこと 配布資料などをもとに授業内容について自分なりに整理すること
4 回	学習内容 予習 復習	心理学研究の紹介②ー認知心理学の研究テーマ・方法・結果について紹介する これまでに受けた心理学の授業内容について自分なりに振り返りをしておくこと 配布資料などをもとに授業内容について自分なりに整理すること
5 回	学習内容 予習 復習	心理学研究の紹介③ー社会心理学の研究テーマ・方法・結果について紹介する これまでに受けた心理学の授業内容について自分なりに振り返りをしておくこと 配布資料などをもとに授業内容について自分なりに整理すること
6 回	学習内容 予習 復習	心理学研究の紹介④ー性格心理学の研究テーマ・方法・結果について紹介する これまでに受けた心理学の授業内容について自分なりに振り返りをしておくこと 配布資料などをもとに授業内容について自分なりに整理すること
7 回	学習内容 予習 復習	研究テーマディスカッションー心理学的研究のテーマについて自由に議論する 自分が関心のある心理学的研究のテーマについて考えておくこと 授業で行った議論をもとにあらためて研究テーマについて考えをまとめておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	
9 回	学習内容 予習 復習	
10 回	学習内容 予習 復習	
11 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的技能①ー文献検索の意義、具体的方法 自分の興味のあるテーマやトピックについてまとめておくこと 自分の興味のあるテーマやトピックに関する文献を検索すること
12 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的技能②ー文献の読み方(専門書、論文、報告書) 自分の興味のあるテーマやトピックについてまとめておくこと 自分の興味のあるテーマやトピックに関する文献を読むこと
13 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的技能③ー読書メモの作成法 自分の興味のあるテーマやトピックについてまとめておくこと これまでに読んだ文献について読書メモを作成すること
14 回	学習内容 予習 復習	研究の基本的技能④ーレジュメの作成法 自分の興味のあるテーマやトピックについてまとめておくこと これまでに読んだ文献についてレジュメを作成すること
15 回	学習内容 予習 復習	研究技能訓練のための課題ー出題内容と取り組み方法の説明と実施 自分の興味のあるテーマやトピックについてまとめておくこと 指示された課題について取り組み提出すること

16 回	学習内容 予習 復習	テキストの輪読①－文書作成の準備 テキストの該当部分に目を通しておくこと テキストの該当部分をあらためて読み直し、整理しておくこと
17 回	学習内容 予習 復習	テキストの輪読②－文章の組み立て、パラグラフ テキストの該当部分に目を通しておくこと テキストの該当部分をあらためて読み直し、整理しておくこと
18 回	学習内容 予習 復習	テキストの輪読③－明確な文章、「事実」と「意見」の違い テキストの該当部分に目を通しておくこと テキストの該当部分をあらためて読み直し、整理しておくこと
19 回	学習内容 予習 復習	テキストの輪読④－わかりやすく簡潔な表現 テキストの該当部分に目を通しておくこと テキストの該当部分をあらためて読み直し、整理しておくこと
20 回	学習内容 予習 復習	テキストの輪読⑤－わかりやすい発表の仕方 テキストの該当部分に目を通しておくこと テキストの該当部分をあらためて読み直し、整理しておくこと
21 回	学習内容 予習 復習	論理的思考の訓練－課題形式で思考力の訓練を行う 配布資料に目を通して発表の準備をしておくこと 自分や他の人の発表内容をふまえて、次の課題に備えること
22 回	学習内容 予習 復習	
23 回	学習内容 予習 復習	
24 回	学習内容 予習 復習	説明の練習－日常的な心理現象を論理的に説明する練習を行う 日常的な心理現象について集めておくこと 授業で扱ったもの以外の心理現象について論理的な説明を考えること
25 回	学習内容 予習 復習	
26 回	学習内容 予習 復習	心理学文献の輪読－卒業研究に関連するテーマの文献を読み、レジュメにまとめ、発表する 関心のあるトピックに関連した心理学的研究を扱った論文を見つけておくこと 自分の発表に備えてレジュメを作成すること
27 回	学習内容 予習 復習	
28 回	学習内容 予習 復習	
29 回	学習内容 予習 復習	
30 回	学習内容 予習 復習	まとめ－卒業研究への導入 これまでの学習内容を自分なりに整理しておくこと 卒業研究のテーマについて考えておくこと

科 目 名	人間文化演習〔地域共生専攻〕			科目コード	31013	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Regional Studies)			科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	地域社会における多様な「共生」の課題と論理を体系的且つ実証的に理解することを目的とする。履修生は、自己の関心テーマに基づいて、資料収集や整理の技法を学び、共生の思考を獲得することを目途とする。					
授業の狙い・到達目標	〔到達目標①〕「共生」に関する諸問題を解説した概念と理論を用いて説明することができる。 〔到達目標②〕「共生」に関する資料や情報を収集整理し、自らの言葉で説明することができる。 〔到達目標③〕日常にある差別と包摂の課題を抽出し、その解決に向けた取り組みを提案できる。					
授業内容のレベル・関連科目	論文作成のための資料収集、整理・体系化の技術、及び分析的思考を涵養することが求められるため、関連する講義等を積極的に履修することが望ましい。					
授業外学習(予習・復習)	〔事前学習〕日頃から民族、信仰、性別、年齢、障がい等に基づくさまざまな課題事例を収集しておくこと。〔事後学習〕学習内容を自己の問題意識や生活上の課題に接続させて理解を深めること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	特になし					
参考書・その他教材	各テーマに基づき演習中に関係資料を明示するとともに、参考文献の一覧を配布する。					
課題に対するフィードバック	提出課題はすべてコメントを記して返却し、適宜、関連資料を付して解説する。					
成績評価方法	・課題レポート〔到達目標①〕(50%)、 ・講義中の小課題・リアクション・ペーパー〔到達目標②③〕(20%)、・講義への参加状況(30%)					
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	日常生活におけるさまざまな共生に関する事象や課題に関心をもち、次年度の卒業論文を展望しながら主体的に学習することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション ―演習の目的と進め方, 共生のしくみと考え方― シラバスを精読し演習の概要と方法について確認しておくこと。 演習の目的や内容について確認し, 以降の講義の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	関心領域の開拓① 学術論文 さまざまな資料・情報・知見にアクセスして, 研究の視野と関心領域を広げる。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
3 回	学習内容 予習 復習	関心領域の開拓② 記事・時事問題 さまざまな資料・情報・知見にアクセスして, 研究の視野と関心領域を広げる。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
4 回	学習内容 予習 復習	関心領域の開拓③ 社会生活・身近な事象 さまざまな資料・情報・知見にアクセスして, 研究の視野と関心領域を広げる。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
5 回	学習内容 予習 復習	資料収集の技術① 図書館リファレンスの活用法 図書館リファレンス, オンライン情報検索, 非言語情報の固定化など資料収集の技術を習得する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
6 回	学習内容 予習 復習	資料収集の技術② 博物館・美術館の研究支援サービス 図書館リファレンス, オンライン情報検索, 非言語情報の固定化など資料収集の技術を習得する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
7 回	学習内容 予習 復習	資料収集の技術③ 社会調査法・フィールドワーク 図書館リファレンス, オンライン情報検索, 非言語情報の固定化など資料収集の技術を習得する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
8 回	学習内容 予習 復習	資料の読み方① 報告書・学術論文の読み方 資料の深層にある情報を抽出して事象の本質を浮揚させ言語化する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
9 回	学習内容 予習 復習	資料の読み方② 一次資料(raw data)の読み方 資料の深層にある情報を抽出して事象の本質を浮揚させ言語化する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
10 回	学習内容 予習 復習	資料の読み方③ アーカイブの読み方 資料の深層にある情報を抽出して事象の本質を浮揚させ言語化する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
11 回	学習内容 予習 復習	資料の分析と体系化① 資料分析の種類 収集された資料を分析して, 研究資料として活用可能な状態にするための手続きを考える。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
12 回	学習内容 予習 復習	資料の分析と体系化② 体系化の事例 収集された資料を分析して, 研究資料として活用可能な状態にするための手続きを考える。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
13 回	学習内容 予習 復習	資料の分析と体系化③ 個別事例の分析と体系化 収集された資料を分析して, 研究資料として活用可能な状態にするための手続きを考える。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
14 回	学習内容 予習 復習	資料の分析と体系化④ 分析と体系化の実践 収集された資料を分析して, 研究資料として活用可能な状態にするための手続きを考える。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り, 演習の内容と目的を精査する。
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括 ―共生の思想を再考する― 前期の演習を振り返り, 可能な限り近接する講義や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心に接続させ, 今後の学びを発展させていく。

16 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー 共生への理解を深めるー シラバスを精読し演習の概要と方法について確認しておくこと。 演習の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
17 回	学習内容 予習 復習	論理的思考と表現技法① 論理的思考とは何か 論文作成のための論理的思考を涵養し、自らの言葉で表現するための学習を心がける。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
18 回	学習内容 予習 復習	論理的思考と表現技法② 論理的思考の事例 論文作成のための論理的思考を涵養し、自らの言葉で表現するための学習を心がける。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
19 回	学習内容 予習 復習	論理的思考と表現技法③ 言葉による表現 論文作成のための論理的思考を涵養し、自らの言葉で表現するための学習を心がける。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
20 回	学習内容 予習 復習	論理的思考と表現技法④ 文字表現の基礎 論文作成のための論理的思考を涵養し、自らの言葉で表現するための学習を心がける。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
21 回	学習内容 予習 復習	論理的思考と表現技法⑤ 論文構成の応用 論文作成のための論理的思考を涵養し、自らの言葉で表現するための学習を心がける。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
22 回	学習内容 予習 復習	思考表現の実践① ディスカッション、取り組み課題の説明 論文作成に向けて設定課題に関する理解を深め、収集資料について考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
23 回	学習内容 予習 復習	思考表現の実践② 分析枠の選択 論文作成に向けて設定課題に関する理解を深め、収集資料について考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
24 回	学習内容 予習 復習	思考表現の実践③ フィールドワーク 論文作成に向けて設定課題に関する理解を深め、収集資料について考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
25 回	学習内容 予習 復習	思考表現の実践④ 論文・レポートの作成(1) 論文作成に向けて設定課題に関する理解を深め、収集資料について考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
26 回	学習内容 予習 復習	思考表現の実践⑤ 論文・レポートの作成(2) 論文作成に向けて設定課題に関する理解を深め、収集資料について考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
27 回	学習内容 予習 復習	思考表現の実践⑥ プレゼンテーションの実践(1) 論文作成に向けて設定課題に関する理解を深め、収集資料について考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
28 回	学習内容 予習 復習	思考表現の実践⑦ プレゼンテーションの実践(2) 論文作成に向けて設定課題に関する理解を深め、収集資料について考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
29 回	学習内容 予習 復習	思考表現の実践⑧ 振り返りとディスカッション 論文作成に向けて設定課題に関する理解を深め、収集資料について考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、演習の内容と目的を精査する。
30 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー 表現と表象の位相ー これまでの演習を振り返り、可能な限り近接する課題や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科 目 名	人間文化演習〔地域共生専攻〕				科目コード	31013	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Regional Studies)				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	中村 塑		教員コード	138		単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	前期は農業・経済・歴史の各分野について、基礎的な見方、文献・データの読み方、調査の方法、レポートの書き方、課題の発表の仕方などを学ぶ。後期は、各自が次年度の卒業論文執筆を意識し、関心を持つテーマについて教員や他の学生と討論しながら理解を深める。						
授業の狙い・到達目標	農業・経済・歴史の分野で論文を書く力を身に付けることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	関連科目：農業経済学、社会経済史、農業史						
授業外学習(予習・復習)	授業スケジュール記載の予習と復習に取り組むこと。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	授業中に紹介する。						
課題に対するフィードバック	授業の中でコメントをする。						
成績評価方法	授業態度(60%)、課題等の作成(40%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	積極的に授業に参加し、わからないことがあれば質問すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールアドレス:nakamura@aikoku-u.org 研究室:2号館2階研究室7						

授業スケジュール

人間文化演習〔地域共生専攻〕

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(授業の概要や目標などを確認する) シラバスをよく読んでおくこと 授業中に教員が話したことを振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	農業について① 配布資料を読んでおくこと 配布資料を見直し、教員が話したことを振り返ること
3 回	学習内容 予習 復習	農業について② 配布資料を読んでおくこと 配布資料を見直し、教員が話したことを振り返ること
4 回	学習内容 予習 復習	農業について③ 配布資料を読んでおくこと 配布資料を見直し、教員が話したことを振り返ること
5 回	学習内容 予習 復習	経済について① 配布資料を読んでおくこと 配布資料を見直し、教員が話したことを振り返ること
6 回	学習内容 予習 復習	経済について② 配布資料を読んでおくこと 配布資料を見直し、教員が話したことを振り返ること
7 回	学習内容 予習 復習	経済について③ 配布資料を読んでおくこと 配布資料を見直し、教員が話したことを振り返ること
8 回	学習内容 予習 復習	6次産業に関するフィールドワーク① 調査対象について、事前に調べておくこと 得られたデータを確認すること
9 回	学習内容 予習 復習	6次産業に関するフィールドワーク② レポートを作成すること 報告を振り返ること
10 回	学習内容 予習 復習	歴史について① 配布資料を読んでおくこと 配布資料を見直し、教員が話したことを振り返ること
11 回	学習内容 予習 復習	歴史について② 配布資料を読んでおくこと 配布資料を見直し、教員が話したことを振り返ること
12 回	学習内容 予習 復習	歴史について③ 配布資料を読んでおくこと 配布資料を見直し、教員が話したことを振り返ること
13 回	学習内容 予習 復習	農業史に関するフィールドワーク① 調査対象について、事前に調べておくこと 得られたデータを確認すること
14 回	学習内容 予習 復習	農業史に関するフィールドワーク② レポートを作成すること 報告を振り返ること
15 回	学習内容 予習 復習	前期のまとめ 前期の授業を振り返ること 課題点を整理し、後期の授業に備えること

16 回	学習内容 予習 復習	文献購読① 指定された箇所を読み、担当者はレジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
17 回	学習内容 予習 復習	文献購読② 指定された箇所を読み、担当者はレジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
18 回	学習内容 予習 復習	文献購読③ 指定された箇所を読み、担当者はレジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
19 回	学習内容 予習 復習	文献購読④ 指定された箇所を読み、担当者はレジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
20 回	学習内容 予習 復習	文献購読⑤ 指定された箇所を読み、担当者はレジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
21 回	学習内容 予習 復習	文献購読⑥ 指定された箇所を読み、担当者はレジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
22 回	学習内容 予習 復習	文献購読⑦ 指定された箇所を読み、担当者はレジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
23 回	学習内容 予習 復習	文献購読⑧ 指定された箇所を読み、担当者はレジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
24 回	学習内容 予習 復習	文献購読⑨ 指定された箇所を読み、担当者はレジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
25 回	学習内容 予習 復習	文献購読⑩ 指定された箇所を読み、担当者はレジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
26 回	学習内容 予習 復習	卒業論文作成に向けて① 卒論のテーマについて、レジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
27 回	学習内容 予習 復習	卒業論文作成に向けて② 調査地や調査項目について、レジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
28 回	学習内容 予習 復習	卒業論文作成に向けて③ 使用する資料やデータなどについて、レジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
29 回	学習内容 予習 復習	卒業論文作成に向けて④ 参考文献について、レジュメを作成すること 討論を振り返り、課題点を整理すること
30 回	学習内容 予習 復習	全体のまとめ 1年間の授業を振り返ること 課題点を整理し、次年度の卒業論文作成に備えること

科 目 名	人間文化演習〔地域共生専攻〕				科目コード	31013	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Regional Studies)				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147	単 位 数	2単位	
開講期間	通年		曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	卒業研究に取り組む前段階として、社会の事柄に興味をもてるよう、新聞記事などから情報を集めて意見を組み立てたり、人類学の書物や民族誌を輪読して、社会の見方や問いの立て方を学ぶ。そのうえで受講者が自分たちの研究関心に沿ってフィールドワークを実施し、卒業研究の問いを立てる。						
授業の狙い・到達目標	卒業研究においてフィールドワークをしながら論文を作成していくこととなるが、本演習では、卒業研究につながるように、受講生が幅広い視野から社会のさまざまな事象・問題に興味を持つこと、その過程で研究の問いを立てることができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	新聞などが読める日本語力・読解力や、聞き取り調査などに必要なコミュニケーション能力を必要とする。(関連科目)地域ブランド論、文化人類学、社会調査法、循環型社会論						
授業外学習(予習・復習)	実践的な授業のため、事前に調査のテーマに関する情報を調べたり、調査後にはデータを整理したりするなど、積極的な取り組みが不可欠である。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	指定しない。						
参考書・その他教材	松村圭一郎『小さき者たちの』ミシマ社、2023年。鳥山純子『「私らしさ」の民族誌——現代エジプトの女性、格差、欲望』春風社、2022年。						
課題に対するフィードバック	各回に出した課題については、翌週の授業でコメントをする。						
成績評価方法	レポート(50%)、フィールドワークやプレゼンテーションへの積極的な参加(50%)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する						
履修上の注意事項や学習上の助言	フィールドワークを実施することが複数回ある。文化人類学、社会調査法、地域ブランド論、循環型社会論を受講しておくことが望ましい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー授業の目的、内容、進め方について説明する。 シラバスを読み、授業の内容についておおまかに理解しておくこと。 授業の趣旨を理解し、今後の取り組みについてイメージをもっておくこと。
2 回	学習内容 予習 復習	新聞記事から社会について学ぶ①図書館で新聞記事を選ぶ 自分の生活圏でも新聞記事を探してみる 選んだ新聞記事の内容を精査する
3 回	学習内容 予習 復習	新聞記事から社会について学ぶ②何が問題になっているのか 自身で研究の問いが立てられるよう、授業内容を復習すること。 問題の中心を理解し、意見をまとめて発表の準備をする。
4 回	学習内容 予習 復習	新聞記事から社会について学ぶ③意見をまとめて発表する 発表できるよう意見をまとめてくること。 他の受講生の発表を聞いて、質問・コメントを考えてくること。
5 回	学習内容 予習 復習	新聞記事から社会について学ぶ④フィードバック 前回の発表内容を振り返っておくこと。 他の受講生や教員からの質問・コメントを受けて再度自分の立てた問いを見直すこと。
6 回	学習内容 予習 復習	人類学の視点で社会を見る①『小さき者たちの』を読む（水俣Ⅰ） 事前に指定したテキストの箇所を読んでくること 授業の内容を復習しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	人類学の視点で社会を見る②『小さき者たちの』を読む（水俣Ⅱ） 事前に指定したテキストの箇所を読んでくること 授業の内容を復習しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	人類学の視点で社会を見る③『小さき者たちの』を読む（水俣Ⅲ） 事前に指定したテキストの箇所を読んでくること 授業の内容を復習しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	人類学の視点で社会を見る④『小さき者たちの』を読んでディスカッション これまで読んだ内容について振り返り、自分の意見をまとめてくること 他の受講生や教員の意見を踏まえて、自分の意見をまとめてレポートを提出すること
10 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークをして何をどう書くか①『「私らしさ」の民族誌』を読む（第1章、第2章から一部抜粋） 事前に指定したテキストの箇所を読んでくること 授業の内容を復習しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークをして何をどう書くか②『「私らしさ」の民族誌』を読む（第3章、第4章から一部抜粋） 事前に指定したテキストの箇所を読んでくること 授業の内容を復習しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークをして何をどう書くか③『「私らしさ」の民族誌』を読む（第5章、第6章から一部抜粋） 事前に指定したテキストの箇所を読んでくること 授業の内容を復習しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークをして何をどう書くか④『「私らしさ」の民族誌』を読んでディスカッション これまで読んだ内容について振り返り、自分の意見をまとめてくること 他の受講生や教員の意見を踏まえて、自分の意見をまとめてレポートを提出すること
14 回	学習内容 予習 復習	民族誌から学ぶフィールドワークと卒業論文の作成 民族誌における問いの立て方、記述の仕方を復習しておくこと これまでに読んだ本の内容と教員の説明をふまえて、卒業研究のイメージをもつこと
15 回	学習内容 予習 復習	前期のまとめ これまでに学んだ内容を復習しておくこと 後期にフィールドワークをするので、自分の興味関心のあるテーマを考えておくこと

16 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの準備①—関心のあるテーマについて話す 社会の出来事のなかから関心のあるテーマを書きだしてくること 他の受講生や教員の意見を聞いて、テーマを再検討すること
17 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの準備②—下調べ 絞り込んだテーマについて情報を得られるよう準備してくる 他の受講生や教員の意見を聞いて、情報収集を進める
18 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実施(グループ)①テーマに沿って調査を開始する 調査先にアポを取っておくこと 見聞きした情報をメモにまとめておくこと
19 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実施(グループ)②途中経過について報告する 見聞きした情報と自分の問いを突き合わせて、何が足りないか、何が面白いかを考える 他の受講生や教員の意見を聞いて、何が足りないかを検討してフィールドワークに活かす
20 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実施(グループ)③内容を発表する 見聞きした情報と自分の問いを見直し、ストーリーを考える 他の受講生や教員の意見を聞いて、発表内容を再考する
21 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実施(グループ)④フィードバック 発表内容を振り返り、良かった点・課題についてまとめておくこと フィールドワークの良かった点・課題も含め、レポートを提出すること
22 回	学習内容 予習 復習	これまでの振り返りをおこなう 前期に読んだ本の内容とそこから学んだ事柄について復習しておくこと 個人でのフィールドワークに活かせるよう心構えをすること
23 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実施(個人)①テーマに沿って調査を開始する 調査先にアポを取っておくこと 見聞きした情報をメモにまとめておくこと
24 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実施(個人)②途中経過について報告する 見聞きした情報と自分の問いを突き合わせて、何が足りないか、何が面白いかを考える 他の受講生や教員の意見を聞いて、何が足りないかを検討してフィールドワークに活かす
25 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実施(個人)③内容を発表する 見聞きした情報と自分の問いを見直し、ストーリーを考える 他の受講生や教員の意見を聞いて、発表内容を再考する
26 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実施(個人)④フィードバック 発表内容を振り返り、良かった点・課題についてまとめておくこと フィールドワークの良かった点・課題も含め、レポートを提出すること
27 回	学習内容 予習 復習	これまでの振り返りをおこなう グループでのフィールドワークと個人でのフィールドワークについて比較して課題を考えておくこと 他の受講生や教員の意見を聞いて、自分の関心事について考えをまとめておくこと
28 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の問いを立てる① これまでのフィールドワークをふまえて、研究の問いを具体的に考えてくること 授業で得られた意見を聞いて、問いをさらに具体的に掘り下げること
29 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の問いを立てる② 前回立てた問いをさらに具体的に説明できるようにしてくること フィールドワークの現実から、もう一度、自分の立てた問いを見直してみること
30 回	学習内容 予習 復習	後期のまとめ それぞれの問いをもちよって、来年度、どんな情報を調べたらよいか考えてくること 他の受講生や教員の意見を聞いて、卒業論文作成のイメージを掴んでおくこと

科 目 名	人間文化演習〔地域共生専攻〕				科目コード	31013	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Regional Studies)				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158	単 位 数	2単位	
開講期間	通年		曜日・時限	水曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	卒業研究に向けた準備として、論文の基本的なルールや研究方法について学ぶ。授業は、テキストの輪読と、教員による補足説明によって進行する。また、並行して各々の学術的興味に応じた文献講読を行う。なお、文献講読については、進捗により適宜、実施時間や実施回を調整する。						
授業の狙い・到達目標	本科目のねらいは、学術論文の執筆方法や研究方法についての基本技能を身につけ、卒業論文に対する明確なイメージを持つことによって、研究を計画的に完成させるための足がかりをつくることである。 到達目標)論文執筆時に必要となる学術的ルールの基礎知識を理解し、卒業論文の構想において適切な論文構成や研究方法を設定できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	必要となる前提知識や履修科目は設定しない。						
授業外学習(予習・復習)	教員の助言・指導に従って授業外学習をすること。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	佐渡島紗織・吉野亜矢子 2021. 『これから研究を書くひとのためのガイドブック [第2版]ーライティングの挑戦15週間』 ひつじ書房。						
参考書・その他教材	各自の進行に応じて案内する。						
課題に対するフィードバック	随時、口頭やメールなどにより、修正点などのフィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(40%) 演習成果(60%)						
成績評価基準	平常点は、授業への参加意欲、発言等による授業への貢献、周囲との共同・協調の各項目を評価する。演習成果は、各回の提出課題や発表を、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づいて評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	履修者に次のようなことがあった場合には、指導は継続できない。 ①度重なる無断欠席・遅刻 ②教員からの連絡に対して、長期にわたって応答しない場合 ③研究活動に全く意欲がみられない場合 ④ディスカッション等に対して完全に不参加が続く場合						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

人間文化演習〔地域共生専攻〕

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 卒業研究に使用する機材とソフト、教員との連絡方法、研究の進め方の確認 研究に必要なソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション、PDFの閲覧)を確認しておく。 不足するパソコンスキルやソフトウェアを確認し、対処が難しければ教員に相談をする。
2 回	学習内容 予習 復習	①テキスト輪読(第2部 第1章～第3章) ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
3 回	学習内容 予習 復習	①テキスト輪読(第2部 第1章～第3章) ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
4 回	学習内容 予習 復習	①テキスト輪読(第2部 第1章～第3章) ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
5 回	学習内容 予習 復習	①テキスト輪読(第2部 第4章～第11章) ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
6 回	学習内容 予習 復習	①テキスト輪読(第2部 第4章～第11章) ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
7 回	学習内容 予習 復習	①テキスト輪読(第2部 第4章～第11章) ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
8 回	学習内容 予習 復習	①テキスト輪読(第2部 第4章～第11章) ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
9 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第2部 第12章～第20章 ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
10 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第2部 第12章～第20章 ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
11 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第2部 第12章～第20章 ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
12 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第2部 第12章～第20章 ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
13 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第2部 第12章～第20章 ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
14 回	学習内容 予習 復習	①テキスト輪読(第2部 第21章～第23章) ②文献講読(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
15 回	学習内容 予習 復習	前期のまとめ 前期の学習内容を復習し、どのような研究計画が実行可能か考えること。 夏期休業中の研究計画を具体的に想定すること。

16 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 後期の授業の進め方と、卒業論文に関するスケジュールの確認 前期の学修内容を踏まえ、卒業論文で何を研究対象としたいかを考えておくこと。 指摘された内容を検討し、以降も継続して研究のテーマ探しをすること。
17 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第1章～第7章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
18 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第1章～第7章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
19 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第1章～第7章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
20 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第1章～第7章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
21 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第1章～第7章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
22 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第1章～第7章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
23 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第8章～第15章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
24 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第8章～第15章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
25 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第8章～第15章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
26 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第8章～第15章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
27 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第8章～第15章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
28 回	学習内容 予習 復習	①テキスト 第1部 第8章～第15章 ②文献講読 or 卒論資料収集と発表(輪番で担当) テキストの該当部分を予習しておくこと。文献講読の担当にあたる学生は、発表の準備をすること。 テキストの内容や文献講読に対するディスカッションや補足説明についてよく復習をしておくこと。
29 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の計画発表① 発表資料を作成し、授業内容について見直ししながら発表準備をすること。 ディスカッションで指摘された箇所を検討・修正し、卒業論文の研究計画に着手すること。
30 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の計画発表② 発表資料を作成し、授業内容について見直ししながら発表準備をすること。 ディスカッションで指摘された箇所を検討・修正し、卒業論文の研究計画に着手すること。

科目名	人間文化演習〔ビジネス専攻〕			科目コード	31014	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Business Studies)			科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	溝田 俊之		教員コード	156	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	この演習では、ビジネス経営分野において問題発見、解決方法の探索や学習、解決方策の提示、レポート作成を通じて、課題設定能力、情報収集・分析能力、解決法策定能力を養い、併せてプレゼンテーション能力を涵養する。					
授業の狙い・到達目標	問題解決学習の方法で演習を行うことにより、問題解決のために必要な、問題を構造的に捉える能力、必要な情報を調査する能力などを養い、卒業論文を作成する能力を身につける					
授業内容のレベル・関連科目	大学生として期待される報告書、論文作成能力を養う演習である。					
授業外学習(予習・復習)	課題に関連する情報を事前に収集する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	桑田てるみ編、『学生のレポート・論文作成トレーニング』、実教出版					
参考書・その他教材	特になし					
課題に対するフィードバック	レポート返却、プレゼンテーション時の指摘等を通じてフィードバックする。					
成績評価方法	レポート作成への取組、PBLへの取組、内容、プレゼンテーションを総合して評価する。					
成績評価基準	学習の到達目標にどれくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	基本的にスマートフォンの使用は禁ずるが、必要な情報検索のための使用は可とする。					
科目に関連した教員の実務経験	千葉県職員として農業改良普及事業を担当し、問題解決学習による青少年育成に携わった。実業人養成のための「青少年育成」では本講義で取り入れるPBLと近い手法であるプロジェクト学習法を古くから採用している。					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to:mizota@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 問題解決演習PBLについて。 シラバスを読んでおくこと。 配付したレジュメを読み、振り返る。
2 ・ 3 回	学習内容 予習 復習	レポート、論文の書き方。レポート・論文のルール、構成要素、形式を学ぶ。 教科書を読んでくること。 本日の授業内容を振り返る。
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 回	学習内容 予習 復習	レポート作成演習。与えられたテーマについてレポートを作成する。 教科書を読み、前回までの内容を振り返っておく。 レポートに対する指摘事項等に対応し修正する。
9 回	学習内容 予習 復習	PBLの基本構成について事例を見ながら学習する。 教科書を読み、前回までの内容を振り返っておく。 配付したレジュメを読み、振り返る。
10 回	学習内容 予習 復習	問題解決演習の進め方について事例を見ながら学習する。 前回配付のレジュメを読み、学習内容を確認する。 配付したレジュメを読み、振り返る。
11 回	学習内容 予習 復習	チームによる解決手法について事例を見ながら学習する。 前回配付のレジュメを読み、学習内容を確認する。 配付したレジュメを読み、振り返る。
12 回	学習内容 予習 復習	役割分担とコミュニケーションについて事例を見ながら学習する。 前回配付のレジュメを読み、学習内容を確認する。 配付したレジュメを読み、振り返る。
13 回	学習内容 予習 復習	学習計画とスケジュールリングについて事例を見ながら学習する。 前回配付のレジュメを読み、学習内容を確認する。 配付したレジュメを読み、振り返る。
14 回	学習内容 予習 復習	情報収集と分析について事例を見ながら学習する。 前回配付のレジュメを読み、学習内容を確認する。 配付したレジュメを読み、振り返る。
15 回	学習内容 予習 復習	前半のまとめ。 第2回～14回の内容を見返しておく。 授業内容を振り返る。

16 ・ 17 ・ 18 ・ 19 ・ 20 ・ 21 回	学習内容 予習 復習	試行テーマAによる演習 テーマに関連する文献を購読し、レポートを作成する。 解決に必要な情報、分析手法等の検索をしておく。 指摘事項等に対応し、修正方法を検討しておく。
22 回	学習内容 予習 復習	発表と評価。 テーマの課題とその解決方法をメンバーで共有しておく。 指摘事項等に対応し、最終的な修正を行う
23 ・ 24 ・ 25 ・ 26 ・ 27 ・ 28 回	学習内容 予習 復習	試行テーマBによる演習 テーマに関連する文献を購読し、レポートを作成する。 解決に必要な情報、分析手法等の検索をしておく。 指摘事項等に対応し、修正方法を検討しておく。
29 回	学習内容 予習 復習	発表と評価。 テーマの課題とその解決方法をメンバーで共有しておく。 指摘事項等に対応し、最終的な修正を行う
30 回	学習内容 予習 復習	総合発表 提出したレポート、課題解決のために収集した情報、分析方法等を振り返っておく。 全体を見返し、卒業論文の構想を固めておく。

科 目 名	人間文化演習〔ビジネス専攻〕			科目コード	31014	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Business Studies)			科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	呉 鷹		教員コード	157	単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	月曜日・4時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	人間文化演習では、経済社会の諸現象、諸問題を理解するための基礎知識を習得し、課題の作成により、研究背景・研究課題・先行研究の整理並びに文献・情報の収集と分析等に基づいた学術的文章作成のスキルを高める。					
授業の狙い・到達目標	経済社会の諸現象、諸問題を論理的に分析する基礎知識を学ぶ。統計データに基づいた分析のスキルを習得し、論理的な文章を作成することができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	論理的な文章の作成に必要とされる基礎知識とスキルを習得する。関連科目：卒業研究演習に限らない。					
授業外学習(予習・復習)	配布資料と教科書の予習・復習、事前・事後調べが必要である。演習での指導内容を踏まえ、小論文を作成する。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計120時間
使用教科書	桑田てるみ編『学生のレポート・論文作成トレーニング』(改訂版)実教出版(2015)					
参考書・その他教材	龍谷大学農学部食料農業システム学科編『知っておきたい食・農・環境』昭和堂(2016)、『農業と経済』昭和堂(2020年以降の特集)、『食料・農業・農村白書』農林水産省など					
課題に対するフィードバック	課題に対して、次回の演習で解説と講評を行う。					
成績評価方法	小論文作成30%、発表30%、輪読に対する理解度20%、平常点20%					
成績評価基準	演習課題の完成度をはじめとする自主的に取り組んでいた成果を踏まえ、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	計画通りに主体的に取り組む。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)あるいは対面で対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー(新年度に掲示)に対応する。					

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、関心を持つ社会現象、社会問題への探究 シラバスを事前に確認し、関心を持っている社会現象や社会問題を5分間で説明してみる。 テーマに対するコメントを確認し、より深く調べるために、どのようなスキルが必要かを考える。
2 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文を書くための基本を知る 教科書の指定ページを予習する。 教科書の指定ページ、授業中の解説を復習し、演習課題を完成し、次回の演習で発表する。
3 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文を書くための基礎能力の養成(1) 発想力、読解力 教科書の指定ページ、配布資料を予習する。 演習内容と解説を復習し、演習課題を完成して次回の演習で発表する。
4 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文を書くための基礎能力の養成(2) 要約力 教科書の指定ページ、配布資料を予習する。 演習内容と解説を復習し、演習課題を完成して次回の演習で発表する。
5 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文を書くための基礎能力の養成(3) 新聞から学ぶ要約の仕組み 教科書の指定ページ、新聞記事の内容を予習する。 教科書の指定ページ、演習中の解説を復習し、演習課題を完成して次回の演習で発表する。
6 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文を書くための基礎能力の養成(4) 批判的思考力 教科書の指定ページを予習する。 教科書の指定ページ、演習中の解説を復習し、演習課題を完成して次回の演習で発表する。
7 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文を書くための基礎能力の養成(5) 表現力集中トレーニング 教科書の指定ページ、配布資料を予習する。 演習内容と解説を復習し、演習課題を完成して次回の演習で発表する。
8 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文を書くための基礎能力の養成(6) 表現力集中トレーニング 教科書の指定ページ、配布資料を予習する。 演習内容と解説を復習し、演習課題を完成して次回の演習で発表する。
9 回	学習内容 予習 復習	レポート・論文を書くための基礎能力の養成(7) レポート・論文の表現 教科書の指定ページ、配布資料を予習する。 演習内容と解説を復習し、演習課題を完成して次回の演習で発表する。
10 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ 課題発見力の養成(1) 輪読と発表 問題意識 教科書の指定ページ、輪読用の配布資料を予習する。 輪読用の配布資料と解説を復習し、問題意識を考えて次回の演習で発表する。
11 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ 課題発見力の養成(2) 輪読と発表 論点を考える 教科書の指定ページ、輪読用の配布資料を予習する。 輪読用の配布資料と解説を復習し、論点を考えて次回の演習で発表する。
12 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ 課題発見力の養成(3) 輪読と発表 論点を絞る 教科書の指定ページ、輪読用の配布資料を予習する。 輪読用の配布資料と解説を復習し、論点を絞って次回の演習で発表する。
13 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ 情報探索力の養成(1) 輪読と発表 情報を探す 教科書の指定ページ、輪読用の配布資料を予習する。 輪読用の配布資料と解説を復習し、関連する情報を収集して次回の演習で発表する。
14 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ 情報探索力の養成(2) 輪読と発表 文献を探す 教科書の指定ページ、輪読用の配布資料を予習する。 輪読用の配布資料と解説を復習し、関連する文献を整理して次回の演習で発表する。
15 回	学習内容 予習 復習	前期の総括 テーマ型小論文の作成 第2～14回の内容を復習し、関心を持っているテーマを探し、5分間で説明できるようにする。 第2～14回の内容を復習し、夏休み期間中にテーマ型小論文を完成する。

16 回	学習内容 予習 復習	後期の学習目標、前期の課題発表 シラバスを事前に確認し、前期の課題であるテーマ型小論文の質を高める。 テーマ型小論文に対する講評と自分の新しい考えを踏まえ、小論文を修正して再提出する。
17 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ 情報整理力の養成(1) 文献の整理と保存 教科書の指定ページ、配布資料を予習する。 演習内容と解説を復習し、文献を整理して保存する。
18 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ 情報整理力の養成(2) 文献の取捨選択 教科書の指定ページ、配布資料を予習する。 演習内容と解説を復習し、関心を持っているテーマに関する文献の取捨選択を行う。
19 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ データ分析力の養成(1) 統計データの読み方(FAO等) 輪読用の配布資料を予習し、統計データを調べる。 演習内容と解説を復習し、統計データに基づいて図表を作成して文章で説明する。
20 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ データ分析力の養成(2) 統計データの読み方(FAO等) 輪読用の配布資料を予習し、統計データを調べる。 演習内容と解説を復習し、統計データに基づいて図表を作成して文章で説明する。
21 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ データ分析力の養成(3) 統計データの読み方(農林水産省等) 輪読用の配布資料を予習し、統計データを調べる。 演習内容と解説を復習し、統計データに基づいて図表を作成して文章で説明する。
22 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ データ分析力の養成(4) 統計データの読み方(農林水産省等) 輪読用の配布資料を予習し、統計データを調べる。 演習内容と解説を復習し、統計データに基づいて図表を作成して文章で説明する。
23 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ データ分析力の養成(5) 統計データの読み方(経済産業省等) 輪読用の配布資料を予習し、統計データを調べる。 演習内容と解説を復習し、統計データに基づいて図表を作成して文章で説明する。
24 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ データ分析力の養成(6) 統計データの読み方(経済産業省等) 輪読用の配布資料を予習し、統計データを調べる。 演習内容と解説を復習し、統計データに基づいて図表を作成して文章で説明する。
25 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ データ分析力の養成(7) 財務諸表の読み方(上場企業の損益計算書等) 輪読用の配布資料を予習し、上場企業の損益計算書を調べる。 演習内容と解説を復習し、上場企業の複数年度の損益計算書を踏まえて解説を行う。
26 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ データ分析力の養成(8) 財務諸表の読み方(上場企業の損益計算書等) 輪読用の配布資料を予習し、上場企業の損益計算書を調べる。 演習内容と解説を復習し、上場企業の複数年度の損益計算書を踏まえて解説を行う。
27 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ 課題考察力の養成 考察を深める 教科書の指定ページと輪読用の配布資料を予習する。 演習内容と解説を踏まえ、第26回までに取り組んできた課題を一つ選択し、考察を深める。
28 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ 論文構成力の養成 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 演習内容と解説を踏まえ、卒論のテーマを考えて論文の骨子を考えてみる(箇条書き)。
29 回	学習内容 予習 復習	スキルアップ 文章構成力の養成 教科書の指定ページと配布資料を予習する。 演習内容と解説を踏まえ、卒論の章立てを考える。
30 回	学習内容 予習 復習	総括(論文作成の要領をまとめる)、卒業研究演習に向けた準備 第2～29回の演習内容等を復習し、卒論のテーマを真剣に考える。 第2～29回の演習内容等を復習し、問題意識を明確にし、文献とデータの整理を行う。

科目名	人間文化演習〔ビジネス専攻〕				科目コード	31014	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Business Studies)				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	栴澤 恭子			教員コード	160	単 位 数	2単位
開講期間	通年		曜日・時限	金曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける				2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する	
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する	
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する			○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う	
授業概要	論文を作成する上でのマナーや書き方を理解する。 ビジネスや情報に関連する社会問題について広く理解する。						
授業の狙い・到達目標	理論的な物の考え方を身につけ、プレゼンテーションの能力を身につけることができる。 文章作成能力が身につけることができる。 他者への意見を自分の言葉で述べられるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	ビジネス専攻に関係する知識を得ていることが前提となる。 これまで履修した科目がすべてが関連する。						
授業外学習(予習・復習)	何事も受け身にならず、自ら調べ疑問を解決できるように心がけること。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	教員が資料を配布する予定。						
参考書・その他教材	講義内で必要となった場合に指示する。						
課題に対するフィードバック	講義内に行う。						
成績評価方法	課題レポート(70%)、講義への取り組み(30%)						
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	課題提出の期日は必ず守ること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kabasawa@aikoku-u.org)またはオフィスアワー(初回講義時にアナウンスする)。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(講義の進め方など) シラバスを読んでおくこと 講義の目的を理解しておくこと
2 回	学習内容 予習 復習	身のまわりにある社会問題についてのディスカッション 自分がどのようなことに興味があるのか考えておくこと 他者の意見を参考に自分の考えをまとめること
3 回	学習内容 予習 復習	身のまわりにある社会問題についてのディスカッション 自分がどのようなことに興味があるのか考えておくこと 他者の意見を参考に自分の考えをまとめること
4 回	学習内容 予習 復習	身のまわりにある社会問題についてのディスカッション 自分がどのようなことに興味があるのか考えておくこと 他者の意見を参考に自分の考えをまとめること
5 回	学習内容 予習 復習	論文とは？(概要の説明、昨年度の例を参考に) 配布のプリントを読んでおくこと 講義の内容を理解しておくこと
6 回	学習内容 予習 復習	論文とは？(引用文献について) 配布のプリントを読んでおくこと 講義の内容を理解しておくこと
7 回	学習内容 予習 復習	論文とは？(引用文献の整理方法) 配布のプリントを読んでおくこと 講義の内容を理解しておくこと
8 回	学習内容 予習 復習	論文とは？(論文の表現や盗用について) 配布のプリントを読んでおくこと 講義の内容を理解しておくこと
9 回	学習内容 予習 復習	論文とは？(論文の表現や盗用について) 配布のプリントを読んでおくこと 講義の内容を理解しておくこと
10 回	学習内容 予習 復習	論文の書き方(起承転結について) 配布のプリントを読んでおくこと 講義の内容を理解しておくこと
11 回	学習内容 予習 復習	論文の書き方(実践:wordの使い方) PCの操作について復習しておくこと 講義の内容を理解しておくこと
12 回	学習内容 予習 復習	発表スライドの作り方(実践:powerpointの使い方) PCの操作について復習しておくこと 講義の内容を理解しておくこと
13 回	学習内容 予習 復習	発表準備(テーマはこちらで指定) 発表の準備をすすめておくこと 発表の準備をすすめておくこと
14 回	学習内容 予習 復習	発表準備 発表の準備をすすめておくこと 発表の準備をすすめておくこと
15 回	学習内容 予習 復習	発表 発表の準備をすすめておくこと 他者の発表から学べたことをまとめておくこと

授業スケジュール

人間文化演習〔ビジネス専攻〕

16 回	学習内容 予習 復習	テーマを自分で考えて論文が作成できるかを検討する 各自でテーマを考えておく 講義の内容を理解しておくこと
17 回	学習内容 予習 復習	テーマに沿ったマインドマップを考える 情報を整理しておくこと 講義の内容を理解しておくこと
18 回	学習内容 予習 復習	発表したいテーマを決定する テーマについてリサーチしておくこと 講義の内容を理解しておくこと
19 回	学習内容 予習 復習	論文を書っていく テーマについてリサーチしておくこと 文章を書っていく
20 回	学習内容 予習 復習	論文を書っていく(適宜フィードバック) 文章を書っていく 文章を書っていく
21 回	学習内容 予習 復習	論文を書っていく(適宜フィードバック) 文章を書っていく 文章を書っていく
22 回	学習内容 予習 復習	論文をもとにスライドを作成していく powerpointを復習しておくこと スライドの作成
23 回	学習内容 予習 復習	論文をもとにスライドを作成していく スライドの作成 スライドの作成
24 回	学習内容 予習 復習	論文をもとにスライドを作成していく スライドの作成 スライドの作成
25 回	学習内容 予習 復習	発表 スライドの作成 発表でできなかったことを修正する
26 回	学習内容 予習 復習	発表のフィードバック 発表でできなかったことを修正する 発表でできなかったことを修正する
27 回	学習内容 予習 復習	発表のフィードバック 発表でできなかったことを修正する 発表でできなかったことを修正する
28 回	学習内容 予習 復習	再発表 発表でできなかったことを修正する 発表でできなかったことを修正する
29 回	学習内容 予習 復習	再発表のフィードバック 発表でできなかったことを修正する 発表でできなかったことを修正する
30 回	学習内容 予習 復習	これまでの総括 これまでの講義を振り返っておくこと 次年度に向けて自分に必要なことを考えておく

科 目 名	人間文化演習〔ビジネス専攻〕				科目コード	31014	
英 文 名	Graduation Research Seminar I (Major of Business Studies)				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137		単 位 数	2単位
開講期間	通年		曜日・時限	金曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	課題設定能力、情報収集・分析能力と解決案としての企画立案能力を養うことを目的にしている。毎回テーマを提示し、教師と学生が問答を通して、学生の考える力を引き出すことをねらいとしている。						
授業の狙い・到達目標	問題解決の流れや手法を理解させ、問題の構造や本質を見極めることができる能力を涵養する。問題の社会的背景や要点間の連関を俯瞰的視点で考える能力が習得できる。						
授業内容のレベル・関連科目	共通科目全般及びビジネス専攻科目に加えて、本学開講科目のあらゆる科目との関連可能性あり						
授業外学習(予習・復習)	授業の最後に、まとめの復習スライドと次回講義の予習スライドを配布する。これにもとづいて、予習、復習すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計120時間	
使用教科書	桑田てるみ、「学生のレポート・論文作成トレーニング」改訂版、実教出版						
参考書・その他教材	石井 一成、「ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方」、ナツメ社						
課題に対するフィードバック	課題演習や不定期に「理解度の確認テスト」などをおこない、次の週に解答を示す。						
成績評価方法	①レポート(80%)、②平常点(20%)により評価する。						
成績評価基準	授業において、課題設定、情報収集・分析、解決案に積極的に取り組んでいるかどうか、また本学の学業成績判定に関する規程の基準に準拠する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	創発的な交流と品格ある場を皆で形成し、少人数のチーム編成で問題・課題を抽出するために能動的かつ積極的な姿勢で臨んでいただきたい。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	日坂彰(につさかあきら) anissaka@aikoku-u.org 送信に際しては件名、学籍番号、氏名を忘れずに記入すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	<イントロダクション>授業の進め方、目標の確認 シラバスをあらかじめ読んでおくこと 授業の進め方などについて振り返ること
2 回	学習内容 予習 復習	<問題解決演習(1)> 問題解決演習PBLについて 演習の進め方の資料を読んでおくこと 演習課題について考える
3 回	学習内容 予習 復習	<問題解決演習(1)> PBLの基本構成について 演習課題について考える 演習を振り返ること
4 回	学習内容 予習 復習	<事例紹介>問題解決演習の進め方 演習課題について考える 演習内容についてまとめを作成すること
5 回	学習内容 予習 復習	<事例紹介>チームによる解決手法 予習スライドを読んでくること 授業を振り返ること
6 回	学習内容 予習 復習	<事例紹介>役割分担とコミュニケーション 予習スライドを読んでくること 授業を振り返ること
7 回	学習内容 予習 復習	<事例紹介>学習計画とスケジュールリング 予習スライドを読んでくること 授業を振り返ること
8 回	学習内容 予習 復習	<事例紹介>情報収集分析演習 予習スライドを読んでくること 授業を振り返ること
9 回	学習内容 予習 復習	<問題解決演習(2)> テーマAによる演習・ディスカッション 演習の進め方の資料を読んでおくこと 演習を振り返ること
10 回	学習内容 予習 復習	<問題解決演習(2)> テーマAによる演習・ディスカッション 演習内容について考える 演習を振り返ること
11 回	学習内容 予習 復習	<問題解決演習(2)> テーマAによる演習・ディスカッション 演習課題について考える 演習のまとめを作成すること
12 回	学習内容 予習 復習	<問題解決演習(2)> レポート作成 予習スライドを読んでくること 演習を振り返る
13 回	学習内容 予習 復習	<問題解決演習(2)> レポート作成 予習スライドを読んでくること 演習を振り返る
14 回	学習内容 予習 復習	<発表と評価> 発表を準備する 演習を振り返る
15 回	学習内容 予習 復習	<発表と評価> 発表を準備する 演習を振り返る

授業スケジュール

人間文化演習〔情報科学分野〕

16 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマBによる演習 予習スライドを読んでもくること 演習を振り返ること
17 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマBによる演習・ディカッション 予習スライドを読んでもくること 演習を振り返ること
18 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマBによる演習・ディスカッション 予習スライドを読んでもくること 演習内容のまとめを作成すること
19 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマBのレポート作成 予習スライドを読んでもくること 演習を振り返ること
20 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマBのパワーポイント作成 予習スライドを読んでもくること 演習を振り返ること
21 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマBのパワーポイント作成 予習スライドを読んでもくること 演習内容のまとめを作成すること
22 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマCによる演習 予習スライドを読んでもくること 演習を振り返ること
23 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマCによる演習・ディカッション 予習スライドを読んでもくること 演習を振り返ること
24 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマCによる演習・ディスカッション 予習スライドを読んでもくること 演習を振り返ること
25 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマCのレポート作成 予習スライドを読んでもくること 演習を振り返ること
26 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマCのレポート作成 予習スライドを読んでもくること 演習を振り返ること
27 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマCのパワーポイント作成 予習スライドを読んでもくること 演習を振り返ること
28 回	学習内容 予習 復習	＜問題解決演習(2)＞ テーマCのパワーポイント作成 予習スライドを読んでもくること 発表の準備をする
29 回	学習内容 予習 復習	＜発表と評価＞ 発表の準備をする 発表を振り返ること
30 回	学習内容 予習 復習	＜発表と評価＞ 総合発表 発表の準備をする 授業の全体を振り返ること

科目名	卒業研究演習〔人間文化分野〕				科目コード	31021	
英 文 名	Graduation Research Seminar II [Psychology]				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	原島 雅之		教員コード	142		単 位 数	2単位
開講期間	通年		曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	心理学分野での卒業研究を行う学生を対象として個別に指導を行う。研究は、文献研究だけでなく、実証データに基づくものも含まれ、そのための方法や技術的な指導も随時行っていく。						
授業の狙い・到達目標	これまでの学修の仕上げとして、卒業研究および卒業論文を実施、作成・発表できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	卒業研究は大学における学修の集大成としての位置づけとなる。心理学実験実習や心理学研究法、また自身の関心のある心理学分野の各科目についてはなるべく履修済みであること、あるいは少なくとも合わせての履修を行うことが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	必要に応じて文献などを自分で調べ、また収集したデータなどは十分に整理しておくなど、議論に参加できるよう準備をしてから臨むこと。授業中に議論した内容については自分なりにまとめ、適宜卒業論文に反映させること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間	
使用教科書	特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。						
参考書・その他教材	杉本敏夫(著)『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』サイエンス社 都築学(著)『心理学論文の書き方ーおいしい論文のレシピ』有斐閣アルマ						
課題に対するフィードバック	提出された課題やレポートについては授業の際に適宜フィードバックを行う。						
成績評価方法	卒論発表会30%、平常点70%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	原則として毎回出席し、積極的に議論に参加すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	harashima@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー心理学の卒業論文を書くために シラバスを読み、授業の概要等について確認しておくこと 授業の目的や内容について自分なりに整理し、その後の学習の心構えを作っておくこと
2 ・ 3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	テーマの選定ー各自の興味関心に基づいて研究テーマの選定を行う。 関心のある日常的な心理学的現象や研究テーマについて発表の準備をしておくこと 自分や他の人の発表をふまえて、自身の研究テーマについて考えをまとめること
5 ・ 6 ・ 7 回	学習内容 予習 復習	先行研究の調査ー選定したテーマに関連する文献の調査を行う。 自身の研究テーマに関連した論文を読み、内容について報告する準備をしておくこと 自分や他の人の発表をふまえて、引き続き文献の調査を行うこと
8 ・ 9 回	学習内容 予習 復習	問題設定ー具体的な問題を設定し、研究目的を明らかにする。 自身の研究における問題や仮説、研究目的について発表の準備をしておくこと 自分や他の人の発表をふまえて、問題や仮説、目的について整理しておくこと
10 ・ 11 回	学習内容 予習 復習	実験計画の選定ー実験や調査などの研究方法を確定する。 自身の研究における実験計画を立て、発表する準備をしておくこと 立てた実験計画に基づいて、実験や調査の準備をしておくこと
12 ・ 13 ・ 14 ・ 15 回	学習内容 予習 復習	データ収集ー実験や調査などを行い、データを収集する。 実験や調査の準備状況や実施状況について報告を行えるようにしておくこと 引き続き実験や調査の準備あるいは実施を進めること

16 ・ 17 回	学習内容 予習 復習	中間発表－これまでの成果を発表し、研究内容や進め方について議論する。 ここまでの進捗状況や得られた結果などについて発表する準備をしておくこと 自分や他の人の発表をふまえて、さらに自身の研究を進めていくこと
18 ・ 19 ・ 20 回	学習内容 予習 復習	データ収集・分析－引き続きデータを収集し、データを分析・検討する。 実験や調査によって得られたでデータをまとめ、報告する準備をしておくこと 自分や他の人の発表をふまえて、さらにデータ収集や分析を進めること
21 ・ 22 ・ 23 ・ 24 ・ 25 ・ 26 回	学習内容 予習 復習	論文の執筆－論文の執筆を行う。論文の構成や書き方などについては随時助言、指導する。 実際に論文を書き始める、もしくは書き始めるための準備をしておくこと 構成や書き方などについての助言をふまえて、引き続き論文の執筆を進めること
27 ・ 28 ・ 29 ・ 30 回	学習内容 予習 復習	仕上げ、提出、発表－提出する論文を仕上げ、十分な校正を行い、最終発表の準備をする。 論文の提出に向けての仕上げ、および最終発表に向けての準備を進めること 引き続き論文の提出に向けての仕上げ、および最終発表に向けての準備を進めること

科 目 名	卒業研究演習〔人間文化分野〕				科目コード	31021	
英 文 名	Graduation Research Seminar II 〔Psychology〕				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	佐久間 直人		教員コード	148		単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	心理学分野での卒業研究を行う学生を対象として、研究と論文執筆について個別に指導を行う。研究は、文献研究だけでなく、実証データに基づくものも含まれる。そのための方法や技術的な指導も随時行っていく。						
授業の狙い・到達目標	これまでの学修の仕上げとして、卒業研究の実施および卒業論文の作成、発表を目指す。大学卒業に相応しい企画力(問題の設定・解決能力)・情報収集力・論理的思考力・データ処理能力・表現力などを身につけることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	心理学系の科目を履修しておくことが望ましい。特に、心理学概論、心理学研究法、心理学実験実習を履修しておくことよい。						
授業外学習(予習・復習)	必要に応じて論文などを自分で調べ、収集したデータなどは十分に整理しておくなど、議論に参加できるよう準備してから授業に臨むこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計120時間	
使用教科書	特に指定しない。						
参考書・その他教材	木下是雄『理科系の作文技術』中公新書 大山正・岩脇三良・宮埜壽夫『心理学研究法 データ収集・分析から論文作成まで』サイエンス社						
課題に対するフィードバック	演習形式であるため、当然、進捗状況・成果すべてに対して授業内で評価・指導をしていく。						
成績評価方法	卒論発表会30%、平常点70%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか)						
成績評価基準	到達目標に対して学習がどのくらい進んだかについて、本学の学業成績判定に関する規程の基準に従って評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	話を聞いていればよいという授業ではなく、自分で研究を進めていかなければならないことを自覚すること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	初回に、教員と学生が必ずお互いに連絡を取り合える方法を確保する。						

授業スケジュール

卒業研究演習〔人間文化分野〕

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション:心理学分野で卒業論文を書くということについて 3年次までの復習をしておく。 授業内容を振り返り、研究ノートを準備する。
2 回	学習内容 予習 復習	テーマの選定①:各自の興味関心に基づいて研究テーマの選定を行う 心理学のトピック一覧を見直しておく。 授業で紹介された「研究領域」レベルにはテーマを絞る。
3 回	学習内容 予習 復習	テーマの選定②:各自の興味関心に基づいて研究テーマの選定を行う 心理学の研究手法一覧を見直しておく。 研究対象にする現象等をおおよそ絞る。
4 回	学習内容 予習 復習	テーマの選定③:各自の興味関心に基づいて研究テーマの選定を行う 「興味のある研究手法」も視野に入れて研究テーマを絞っておく。 研究対象の選定を受け、関係する授業内容等をまとめておく。
5 回	学習内容 予習 復習	先行研究の調査① 文献収集と読んだ文献のまとめ方 選定した研究対象に関する文献の題目と要約文を集めておく。 授業で議論した内容から、自身が参考にしたい引用文献を選ぶ。
6 回	学習内容 予習 復習	先行研究の調査② 先行研究の選定 授業で議論した内容から、自身が参考にしたい引用文献を選ぶ。 選んだ文献を読み込む。
7 回	学習内容 予習 復習	先行研究の調査③ 先行研究の報告 選んだ文献の内容を報告するレジュメを作成しておく。 先行研究を受けて、自分自身が明らかにしたいことを整理しておく。
8 回	学習内容 予習 復習	問題設定① 具体的な問題を設定し、研究目的を明らかにする 先行研究を受けて、自分自身が明らかにしたいことを整理しておく。 自身の設定した問題・目的を具体化するアイデアを用意しておく。
9 回	学習内容 予習 復習	問題設定② 仮説の構築と変数の設定 自身の設定した問題・目的を具体化するアイデアを用意しておく。 これまでの研究ノートをしっかりまとめておく。
10 ・ 11 回	学習内容 予習 復習	実験計画・調査計画の確定 データの収集方法をおさらいしておく。 データの収集方法、スケジュール等を教員と確認し、実施準備を進める。
12 ・ 13 ・ 14 ・ 15 回	学習内容 予習 復習	データ収集:実際に実験・調査・文献の収集などを行う しっかりと準備し、教員と一緒に確認すること。 必ずすぐに研究ノートやデータファイルにまとめておくこと。

16 回	学習内容 予習 復習	中間発表:これまでの成果をまとめ、発表し、今後の進め方を議論する 中間発表の準備をしておくこと。 中間発表に関する議論を受けて、これまでのまとめと今後について研究ノートにまとめる。
17 ・ 18 ・ 19 回	学習内容 予習 復習	データ収集・分析:引き続きデータ収集し、分析・検討する しっかりと準備し、教員と一緒に確認すること。 必ずすぐに研究ノートやデータファイルにまとめておくこと。
20 ・ 21 ・ 22 ・ 23 ・ 24 ・ 25 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の作成 卒業論文の作成を進め、その内容を教員に伝えられるようにしておく。 指導内容を反映させて、卒業論文の作成を進める。
26 ・ 27 回	学習内容 予習 復習	仕上げと提出:まとめ、校正、提出を行う 卒業論文をよく読み直しておく。 卒業論文を提出できる状態に仕上げ、確認し、提出する。
28 回	学習内容 予習 復習	卒論発表会の準備① 要旨、発表資料の作成 要旨、発表資料をある程度作成しておく。 発表資料の準備、発表練習を行う。
29 回	学習内容 予習 復習	卒論発表会の準備② 発表練習 発表資料の準備・整理、発表練習をしておく。 発表資料の確認、発表練習を行う。
30 回	学習内容 予習 復習	最終チェックと修正等 卒業論文をよく読み直しておく。 研究ノート、データ、文献等、研究に使用したものを整理する。

科目名	卒業研究演習〔人間文化分野〕				科目コード	31021	
英 文 名	Graduation Research Seminar II [Linguistics and Cultural Anthropology]				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153		単 位 数	2単位
開講期間	通年		曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	◎	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	卒業論文と卒業論文発表・資料の作成						
授業の狙い・到達目標	卒業論文作成の過程を通して、論理的な思考の展開ができるようにすることと、それを文章にまとめる能力を身に付けることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	関連科目：人間文化演習(日本理解)						
授業外学習(予習・復習)	毎回教員が与える課題を期限までに行う。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	各々のテーマに合わせた文献を指定する。						
課題に対するフィードバック	毎回内容に問題点がないか確認する。						
成績評価方法	卒論発表会30%(論文に沿った分かりやすい発表ができたか)、平常点70%(毎回の課題を期限内にきちんとこなしてきたか)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	文献の精読や言語現象(用例)の収集などは短時間ではできないので、教員の指示に従い、週単位で定めた範囲を着実にこなすこと。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 卒業論文について 卒業生の卒業論文を見ておく 教員が提示した課題を行う
2 ・ 3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	テーマの決定 関心のあるテーマについて具体的にまとめてみる・必要な文献を探し読む 教員が提示した課題を行う
5 ・ 6 ・ 7 回	学習内容 予習 復習	論文の骨子、構成を決める 指定された文献を読む 教員が提示した課題を行う
8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 回	学習内容 予習 復習	論文作成(1～2章) 先行研究まで 指定された文献を読む・資料収集 教員が提示した課題を行う
13 ・ 14 ・ 15 回	学習内容 予習 復習	論文作成(3～4章) 調査観察・分析・考察 資料をまとめる 教員が提示した課題を行う

16 ・ 17 ・ 18 ・ 19 回	学習内容 予習 復習	論文作成(3～4章)調査観察・分析・考察 資料をまとめる 教員が提示した課題を行う
20 ・ 21 ・ 22 ・ 23 回	学習内容 予習 復習	論文作成(5～6章)まとめと課題 分析結果を確認しながらまとめる 教員が提示した課題を行う
24 ・ 25 ・ 26 回	学習内容 予習 復習	仕上げ、提出 全体を見直し、表紙、目次などを作成する 指示に従って手直しをする
27 ・ 28 回	学習内容 予習 復習	要旨作成 要旨を作成する 指示に従って要旨の手直しをする
29 ・ 30 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の手直し 再読し間違いがないか確認する 教員が提示した課題を行う

科 目 名	卒業研究演習〔人間文化分野〕				科目コード	31021	
英 文 名	Graduation Research Seminar II 〔Linguistics and Cultural Anthropology〕				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	山崎 寿美子		教員コード	147		単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける			2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	テーマを選び、論文の作成に取り組む。テーマの決定、問いの設定、先行研究の検討、フィールドワークの実施、データ整理、問いの見直し、執筆、推敲という過程を通して、論文を仕上げる。						
授業の狙い・到達目標	論文作成の過程を通して、論理的な思考と的確な表現の記述ができるようになる。また、自分で研究の問いをたて、それに応じた調査を行なうことができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	テーマに関するフィールドワークができ、そのデータをもとに、自分の言葉で、論理的に文章を展開できること。						
授業外学習(予習・復習)	授業の前後に、論文作成に必須である参考文献を読みこなすこと。また、演習で受けたアドバイス等をもとに、論文の推敲をしていくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間	
使用教科書	使用しない。						
参考書・その他教材	学生の論文テーマに応じて、随時指示する。						
課題に対するフィードバック	各回に学生が提出あるいは発表する内容について、授業内でコメントをするほか、論文の添削を行っていく。						
成績評価方法	卒論発表会30%、平常点70%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	USBメモリを用意すること。論文執筆はもちろん、フィールドワークを行なうので、主体的な取り組みの姿勢が不可欠である。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問はメール(yamazaki@aikoku-u.org)で受け付ける。質問の際は、科目名、学籍番号、氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

卒業研究演習〔人間文化分野〕

1 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークの実施と卒業論文を作成するスケジュールについて説明する。 シラバスをよく読み、フィールドワークと論文作成の流れをつかんでおくこと。 授業をふまえて、自分のフィールドワークと論文作成のスケジュールを具体的に考える。
2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 回	学習内容 予習 復習	テーマを決める。そのために、3年次に引き続き、先行研究を読んで発表する。 事前に配布した先行研究を読み、レジュメを作ってくること。 授業での質問やコメントを受けて、先行研究について批判的に検討する。
6 回	学習内容 予習 復習	研究の「問い」を立てる。 先行研究の検討によって出てきた疑問や意見をまとめ、「問い」を考えてくること。 授業での話し合いやコメントを受けて、「問い」を見直し、よりよいものにする。
7 回	学習内容 予習 復習	「問い」に照らして研究目的を書く。研究目的は、内容の執筆過程でブラッシュアップしていく。 これまでに読んだ先行研究と自分が立てた「問い」を見直し、研究の目的を考えてくること。 授業での話し合いやコメントを受けて、研究の目的を書き直してよりよいものにする。
8 回	学習内容 予習 復習	論文全体の構成を考え、目次を書く。 論文全体のおおまかなイメージを持ち、構成を考えてくること。 授業での話し合いやコメントを受けて、構成を練り直す。
9 回	学習内容 予習 復習	これまでに読んだ先行研究、「問い」、研究目的に照らして、序章を書く。 先行研究、「問い」、研究目的を合わせて見直し、序章を考えてくる。 授業での話し合いやコメントを受けて、序章を練り直す。
10 ・ 11 ・ 12 ・ 13 回	学習内容 予習 復習	テーマに合わせて先行研究を検討し、第1章を書く。フィールドワークについて考え始める。 適切な先行研究を読んで、まとめ、自分の研究の「問い」に照らしながら第1章を書くこと。 添削を受けて、第1章をブラッシュアップしていく。調査地の選択肢をあげておく。
14 回	学習内容 予習 復習	調査地を決定し、フィールドワークの準備をする。 教員と話し合えるように調査地を決めておく。 アドバイスやコメントを受けて、調査地を決定し、期間や方法について考える。
15 回	学習内容 予習 復習	インフォーマントと連絡を取り、調査のスケジュールを立てる。夏季休暇中にフィールドワークを進める。 調査地の情報収集を行ない、窓口となるインフォーマントに連絡を取っておくこと。 アドバイスやコメントを受けて、調査のスケジュールを練り直す。

16 ・ 17 ・ 18 ・ 19 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークを進めながら、データの整理と分析を行なう。 フィールドワークを継続するとともに、収集したデータを書いていくこと。 アドバイスやコメントを受けて、データのまとめを行なうとともに、フィールドワークの方向性を見直す。
20 ・ 21 ・ 22 ・ 23 回	学習内容 予習 復習	フィールドワークを受けて、事例研究の章を書く。 フィールドワークのデータ分析をもとに、事例を書いていくこと。 授業での話し合いやコメントを受けて、事例の記述を練り直す。
24 ・ 25 ・ 26 回	学習内容 予習 復習	先行研究や「問い」に照らし、データを分析し、論文の考察を書く。 第1章でとりあげた先行研究について読み返し、自分のデータと突き合わせて、意見を書いてくる。 授業での話し合いやコメントを受けて、構成を練り直す。
27 ・ 28 回	学習内容 予習 復習	まとめを書き、論文を完成させる。 これまでに書いた本文を読み直し、全体のまとめを書いておく。 授業での話し合いやコメントを受けて、文章を練り直す。
29 ・ 30 回	学習内容 予習 復習	卒論発表会に向けて、プレゼンテーションの準備を行なう。 論文の内容をわかりやすく伝えられるようパワーポイントでスライドを作ってくる。 授業での話し合いやコメントを受けて、スライドを練り直す。

科目名	卒業研究演習〔生活科学分野〕				科目コード	31022	
英 文 名	Graduation Research Seminar II 〔Life science〕				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	市川 遥夏		教員コード	134	単 位 数	2単位	
開講期間	通年	曜日・時限	火曜日・4時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う	◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	○	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	「食文化」、「香料」に関する幅広い学問領域の研究テーマについて、これまで習得してきた内容の集大成として、卒業研究を行う。研究テーマを選び、文献調査を行い、その成果を卒業論文としてまとめ、発表し提出する。						
授業の狙い・到達目標	課題の設定、課題解決方法、課題に対する成果の発表と報告等の実践に役立つ能力を養い、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につけることができる。						
授業内容のレベル・関連科目	問題発見能力や問題解決能力、及びプレゼンテーション・ディスカッション能力を身につける。						
授業外学習(予習・復習)	各回ゼミの内容に応じ、予習として文献を探し、内容について十分に検討を行う。ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、理解を深めたのちに卒業論文に取り組む。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間	
使用教科書	随時紹介する。						
参考書・その他教材	随時紹介する。						
課題に対するフィードバック	随時フィードバックを行う。						
成績評価方法	卒論発表会30%、平常点70%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	積極的にゼミに参加し、わからないことがあれば直ちに質問すること。USBメモリ必携。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし。						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(ichikawa@aikoku-u.org)						

1 回	学習内容 予習 復習	卒業研究の進め方を説明する。 シラバスを熟読し、授業の概要についておおむね理解しておくこと。 論文作成の手順について振り返り、理解を深めること。
2 ・ 3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	3年次に引き続き、関心のあるテーマ発表を続ける。(研究背景・研究目的の確認) ゼミ内容に応じ、発表内容について十分に検討を行う。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、理解を深めること。
5 ・ 6 回	学習内容 予習 復習	研究テーマに関する内容の吟味と討論を行う。 ゼミ内容に応じ、文献を探し、内容について十分に検討を行う。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、理解を深めること。
7 ・ 8 ・ 9 ・ 10 回	学習内容 予習 復習	卒業論文に関するデータの収集を行い、具体的な内容を検討し、整理を行う。 ゼミ内容に応じ、データの収集し、内容について十分に検討を行う。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、理解を深めること。
11 ・ 12 ・ 13 回	学習内容 予習 復習	論文の構成、序章と本論に入る。随時に助言および指導をする。3,000字を目標とする。 論文の執筆すること。3,000字を目標に書き進めていく。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、改善を行うこと。
14 ・ 15 回	学習内容 予習 復習	中間報告、夏季休暇時の課題提示。 中間報告のまとめ、プレゼンテーションの準備をすること。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、改善を行うこと。

授業スケジュール

卒業研究演習〔生活科学分野〕

16 ・ ・ ・	学習内容 予習 復習	夏季休暇時の課題についてプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答をする。 プレゼンテーションを準備し、自己練習をすること。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、改善を行うこと。
17 ・ 18 回	学習内容 予習 復習	論文の本論に入る。随時に助言および指導をする。6, 000字を目標とする。 論文の執筆すること。6, 000字を目標に書き進めていく。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、改善を行うこと。
19 ・ 20 ・ 21 ・ 22 回	学習内容 予習 復習	論文の本論に入る。随時に助言および指導をする。9, 000字を目標とする。 論文の執筆すること。9, 000字を目標に書き進めていく。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、改善を行うこと。
23 ・ 24 ・ 25 ・ 26 回	学習内容 予習 復習	論文を完成させる。12, 000字以上を目標とする。 論文の執筆すること。12, 000字以上を目標に書き進めていく。 ゼミ後、検討した内容を自主的に整理し、改善を行うこと。
27 ・ 28 回	学習内容 予習 復習	論文の校正を行う。最終発表の準備をする。 要旨および作成したスライドを見直すこと。 ゼミ後、フィードバックをもらった内容を自主的に整理し、手直しを行うこと。
29 ・ 30 回	学習内容 予習 復習	論文最終発表の準備をする。 発表の練習を行うこと。 ゼミ後、フィードバックをもらった内容を自主的に整理し、発表練習を行うこと。

科目名	卒業研究演習〔環境福祉分野〕				科目コード	31023	
英 文 名	Graduation Research Seminar II 〔Environmental Study and Social Welfare〕				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	岡庭 義行		教員コード	159		単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	木曜日・4時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	環境福祉分野における自己の関心テーマに基づいた卒業論文の作成と指導を目的とする。演習は「課題の設定」「資料の収集」「整理と分析」「卒業論文の作成」「口頭発表」から構成され、各領域において履修生と教員が対話を行いながら、指導と作業を進めていくことをその目途とする。						
授業の狙い・到達目標	〔到達目標①〕卒業論文の課題を自らの関心領域に従って設定し、的確に説明することができる。 〔到達目標②〕適切な表現と構成により、論理的な卒業論文を作成することができる。 〔到達目標③〕自身の卒業論文について、口頭発表等により分かりやすく説明することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	卒業論文を作成するのに必要な論理的思考、表現力、構成力を求められるため、関連する講義や演習を積極的に履修し、幅広い視野と思考力を積極的に養うことが望ましい。						
授業外学習(予習・復習)	〔事前学習〕自己の関心テーマに基づいた資料や情報の収集と課題領域の課題考察を深める。〔事後学習〕演習後に取り組むべき課題を振り返り、新たな問題の探究を心がける。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、合計120時間	
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	各テーマに基づき演習中に関係資料を明示するとともに、参考文献の一覧を配布する。						
課題に対するフィードバック	提出課題はすべてコメントを記して返却し、適宜、関連資料を付して解説する。						
成績評価方法	卒論発表会30%、平常点70%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	自己を高める意識と努力をもって、自身の学修成果と関心領域を積極的に結びつること。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(okaniwa@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 達成目標の解説と卒業論文の意義 シラバスを精読し演習の概要と方法について確認しておくこと。 演習の目的や内容について確認し、卒業論文の目標と展望を深める。
2 回	学習内容 予習 復習	課題設定① 自己への問いかけと省察 各自の関心領域に学問的な整合性を持たせた卒業論文課題を設定する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
3 回	学習内容 予習 復習	課題設定② 先行研究の参照 各自の関心領域に学問的な整合性を持たせた卒業論文課題を設定する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
4 回	学習内容 予習 復習	課題設定③ 課題の仮設定 各自の関心領域に学問的な整合性を持たせた卒業論文課題を設定する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
5 回	学習内容 予習 復習	資料の収集① 図書館のリファレンス利用 資料収集の技術と知識を学び、設定された課題に関連した文献、調査資料、統計等を収集する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
6 回	学習内容 予習 復習	資料の収集② ネット検索の技法とリテラシー 資料収集の技術と知識を学び、設定された課題に関連した文献、調査資料、統計等を収集する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
7 回	学習内容 予習 復習	資料の収集③ 統計資料の収集方法 資料収集の技術と知識を学び、設定された課題に関連した文献、調査資料、統計等を収集する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
8 回	学習内容 予習 復習	資料の収集④ 社会調査(量的調査) 資料収集の技術と知識を学び、設定された課題に関連した文献、調査資料、統計等を収集する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
9 回	学習内容 予習 復習	資料の収集⑤ 社会調査(質的調査・アクションリサーチ) 資料収集の技術と知識を学び、設定された課題に関連した文献、調査資料、統計等を収集する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
10 回	学習内容 予習 復習	整理と分析① ラベリングとコーディング 整理技法と分析的枠組みを用いて、収集された論文資料を考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
11 回	学習内容 予習 復習	整理と分析② 資料の解析と解釈 整理技法と分析的枠組みを用いて、収集された論文資料を考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
12 回	学習内容 予習 復習	整理と分析③ 因果関係と相関関係 整理技法と分析的枠組みを用いて、収集された論文資料を考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
13 回	学習内容 予習 復習	整理と分析④ 資料の保存と保管 整理技法と分析的枠組みを用いて、収集された論文資料を考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
14 回	学習内容 予習 復習	整理と分析⑤ 人権と倫理 整理技法と分析的枠組みを用いて、収集された論文資料を考察する。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
15 回	学習内容 予習 復習	前期のまとめ・総括 -資料の論理性と客観性- 前期までの成果を総括して、後期までに取り組むべき課題を確認する。 演習内容を各自の学問的関心に接続させ、今後の学びを発展させていく。

16 回	学習内容 予習 復習	イントロダクションー達成目標の再確認と調整ー シラバスを精読し演習の概要と方法について確認しておくこと。 演習の目的や内容について確認し、以降の講義の目標と展望を深める。
17 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の作成①ー仮題と目次ー 整理・分析された資料を用いて、構成を省察しながら、卒業論文の作成を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
18 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の作成②ー問題の所在1(1)ー 整理・分析された資料を用いて、構成を省察しながら、卒業論文の作成を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
19 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の作成③ー問題の所在(2)ー 整理・分析された資料を用いて、構成を省察しながら、卒業論文の作成を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
20 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の作成④ー研究史(1)ー 整理・分析された資料を用いて、構成を省察しながら、卒業論文の作成を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
21 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の作成⑤ー研究史(2)ー 整理・分析された資料を用いて、構成を省察しながら、卒業論文の作成を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
22 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の作成⑥ー事例の記述(1)ー 整理・分析された資料を用いて、構成を省察しながら、卒業論文の作成を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
23 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の作成⑥ー事例の記述(2)ー 整理・分析された資料を用いて、構成を省察しながら、卒業論文の作成を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
24 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の作成⑦ー事例の記述(3)ー 整理・分析された資料を用いて、構成を省察しながら、卒業論文の作成を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
25 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の作成⑧ー考察と展望(1)ー 整理・分析された資料を用いて、構成を省察しながら、卒業論文の作成を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
26 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の作成⑨ー考察と展望(2)ー 整理・分析された資料を用いて、構成を省察しながら、卒業論文の作成を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
27 回	学習内容 予習 復習	口頭発表① 意義と準備 卒業論文の目的と内容を資料にまとめ、ICTを活用した口頭発表の準備作業を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
28 回	学習内容 予習 復習	口頭発表② 資料作成とコミュニケーション・スキル 卒業論文の目的と内容を資料にまとめ、ICTを活用した口頭発表の準備作業を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
29 回	学習内容 予習 復習	口頭発表③ ICTを活用した実践 卒業論文の目的と内容を資料にまとめ、ICTを活用した口頭発表の準備作業を行う。 指導教員からの指導と自身の考えやアイデアを振り返り、論文の内容と構成を精査する。
30 回	学習内容 予習 復習	まとめ・総括ー新しい知の地平を求めてー これまでの演習を振り返り、可能な限り近接する課題や日常の問題意識に結びつけること。 学習内容を各自の学問的関心に接続させ、今後の学びを発展させていく。

科 目 名	卒業研究演習〔環境福祉分野〕				科目コード	31023	
英 文 名	Graduation Research Seminar II 〔Environmental Study and Social Welfare〕				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	赤羽根 和恵		教員コード	152		単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	水曜日・2時限		授業形態	演習	
学位授与方針との 対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	前年度の人間文化演習を一步進めた学習により、卒業論文作成に向けた指導を行う。						
授業の狙い・ 到達目標	到達目標:社会福祉、生活経済、キャリア開発といった分野において、自ら関心のあるテーマについて、問題を設定し、データの収集、調査・分析を行い卒業論文にまとめることができる。						
授業内容の レベル・関連科目	学修の集大成として、卒業研究を行い卒業論文の作成・発表を目指す。						
授業外学習 (予習・復習)	準備をして臨むこと(参考文献を読む。収集したデータを分析する。自分の研究をまとめて発表をする。議論を整理して必要に応じて研究に反映させるなど)。指導を受けた課題については、都度、修正・追加等を行うこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計120時間	
使用教科書	特になし						
参考書・ その他教材	必要に応じて提示するが、自ら図書館に足を運び探していくことが基本である。						
課題に対する フィードバック	卒業研究演習では、1年計画で卒業論文の作成に向けて取り組む。毎回、進捗状況を確認して課題の提示・補足を行う。						
成績評価方法	卒業論文発表会30%、平常点70%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	復習を行うこと。特に教員が演習中に指示した課題をきちんとこなして次回に臨むこと。USBメモリを持参すること。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:akabane@aikoku-u.org) 件名に科目名、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

授業スケジュール

卒業研究演習〔環境福祉分野〕

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本演習及び卒業論文完成までのスケジュールの明示。 シラバスをよく読み、本演習のスケジュールを把握しておくこと。 授業の目的・内容、授業の進め方などについて振り返り、自分の手帳にスケジュールを書き込む。
2 回	学習内容 予習 復習	論文の形式・参考文献の取り扱い、注など、基本的な論文作成の作法を学ぶ。 人間文化演習の復習をしておく。参考文献と資料の収集を行う。 研究テーマを再考して、次週の発表に向けて内容を整理しておく。
3 回	学習内容 予習 復習	各自関心のあるテーマについて発表を行い、議論をする。 研究テーマを再考して、発表の準備をする。参考文献と資料の収集を行う。 教員のアドバイスを参考に、必要に応じて修正、追加等をまとめる。
4 ・ 5 回	学習内容 予習 復習	参考文献と資料の収集を行い、論文の構成について検討を行う。 参考文献と資料を持参する。 教員のアドバイスを参考に、必要に応じて修正、追加等をまとめる。
6 ・ 7 回	学習内容 予習 復習	論文の骨子・章立てを発表する。 発表資料を作成し、人数分のコピーを持参すること。 教員の講評及びピア・リーディングを受け、卒論の構成・章立てを修正する。
8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 回	学習内容 予習 復習	論文作成に取り組む。イントロダクション、第1章の発表、教員講評、構成・章立てを修正する。 イントロダクション、第1章の発表資料を作成し、人数分のコピーを持参すること。 教員の講評及びピア・リーディングを受け、構成・章立ての修正を行う。
13 ・ 14 ・ 15 回	学習内容 予習 復習	第2章の作成、発表、教員講評及びピア・リーディング、構成・章立てを修正・加筆を行う。 イントロダクション、第2章の発表資料を作成し、人数分のコピーを持参すること。 教員の講評及びピア・リーディングを受け、必要箇所の修正を行う。

16 ・ 17 ・ 18 回	学習内容 予習 復習	第3章の作成、発表、教員講評及びピア・リーディング、構成を修正する。 イントロダクション、第2章の発表資料を作成し、人数分のコピーを持参すること。 教員の講評及びピア・リーディングを受け、必要箇所の修正・加筆を行う。
19 ・ 20 ・ 21 回	学習内容 予習 復習	結論の作成、発表、教員講評及びピア・リーディング、構成・章立てを修正する。 イントロダクション、第2章の発表資料を作成し、人数分のコピーを持参すること。 教員の講評及びピア・リーディングを受け、必要箇所の修正を行う。
22 ・ 23 ・ 24 回	学習内容 予習 復習	論文の見直し、テーマ、構成、章立てを確認して、手直しを行う。 原稿を確認して、テーマと内容を確認しておくこと。 教員の指導を受けて、修正を行う。
25 ・ 26 ・ 27 回	学習内容 予習 復習	参考文献の作成、引用個所の確認、要旨作成、卒業論文の仕上げを行う。 原稿の確認、フォント、ページ、フォームの微調整等、レイアウトも含め確認をする。 教員の指導を受けて、修正を行う。
28 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の最終確認。 誤字脱字、レイアウト等の最終確認を行う。 教員の指摘があれば修正を行う。
29 ・ 30 回	学習内容 予習 復習	卒業論文発表会の準備、パワーポイント原稿の作成と口頭発表の練習。 発表資料を作成し、発表時間(5分間)に収まるように練習をしておくこと。人数分のコピーを持参。 教員の講評及びピア・リーディングを受け、再度練習を行っておくこと。

科目名	卒業研究演習〔情報科学分野〕				科目コード	31024	
英 文 名	Graduation Research Seminar II [Information Science]				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	栴澤 恭子		教員コード	160		単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		◎	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う			4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	研究論文を完成させること。 研究を要約した発表を行うこと。						
授業の狙い・到達目標	これまで学んだことを踏まえ、自分自身で考え、オリジナリティを有し、新しい視点などを持つ論文を作成することができる。 他者に自身の研究を理解してもらえるような発表ができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	ビジネス専攻に関係する知識を得ていることが前提となる。 これまで履修した科目がすべてが関連する。						
授業外学習(予習・復習)	自分の研究であることを意識し、受け身にならず自ら調べ疑問を解決できるように心がけること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間	
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	研究内容によって個人ごとに通知する。						
課題に対するフィードバック	課題に対するフィードバックは個別に行う。						
成績評価方法	課題への取り組み(70%)、卒論発表会(30%)						
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)のサイクルを心がけること。 各自の進度によって講義の内容が前後する場合がある。夏休み中も指導を行う。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kabasawa@aikoku-u.org)またはオフィスアワー(初回講義時にアナウンスする)。メールでの問合せは、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(年間スケジュール、研究および論文作成について) どんな研究がしたいのか大まかに考えておくこと 興味のある分野について調べること
2 回	学習内容 予習 復習	研究のテーマ探し 先行研究から既存にはないテーマはどんなものであるか検討しておくこと どのような先行文献に目を通したのか必ず記録しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	研究のテーマ探し 先行研究から既存にはないテーマはどんなものであるか検討しておくこと どのような先行文献に目を通したのか必ず記録しておくこと
4 回	学習内容 予習 復習	研究のテーマ探し 自分に必要になりそうな文検等を調べ読んでおくこと どのような先行文献に目を通したのか必ず記録しておくこと
5 回	学習内容 予習 復習	研究のテーマ探し 自分に必要になりそうな文検等を調べ読んでおくこと 各自指導された点について研究をすすめること
6 回	学習内容 予習 復習	研究のテーマ決定 自分に必要になりそうな文検等を調べ読んでおくこと 各自指導された点について研究をすすめること
7 回	学習内容 予習 復習	研究をすすめる(テーマに必要な材料をそろえる) 研究をすすめる 各自指導された点について研究をすすめること
8 回	学習内容 予習 復習	研究をすすめる(テーマに必要な材料をそろえる) 研究をすすめる 各自指導された点について研究をすすめること
9 回	学習内容 予習 復習	研究をすすめる(テーマに必要な材料をそろえる) 研究をすすめる 各自指導された点について研究をすすめること
10 回	学習内容 予習 復習	研究をすすめる(テーマに必要な材料をそろえる) 研究をすすめる 各自指導された点について研究をすすめること
11 回	学習内容 予習 復習	研究をすすめる(論文の章構成を考える) わからないことや質問したいことがある場合、それを明確にしておくこと 各自指導された点について研究をすすめること
12 回	学習内容 予習 復習	研究をすすめる(論文の章構成を考える) わからないことや質問したいことがある場合、それを明確にしておくこと 各自指導された点について研究をすすめること
13 回	学習内容 予習 復習	発表準備 発表に際して疑問点や不安な点を相談しておくこと 発表の準備をすること
14 回	学習内容 予習 復習	発表準備 発表に際して疑問点や不安な点を相談しておくこと 発表の準備をすること
15 回	学習内容 予習 復習	中間発表(先行研究、研究の主題、方法) 中間発表の練習をしておくこと 修正やテーマの変更などがある場合早めに軌道修正できるように問題点をまとめること

16 回	学習内容 予習 復習	夏休み中の進捗報告(夏休み中に論文7割を目標に書き上げておくこと) 論文を作成する 論文を作成する
17 回	学習内容 予習 復習	論文の書き方を指導(引用の方法、レポートとの書き方の違いについての確認) 論文を作成する 論文を作成する
18 回	学習内容 予習 復習	論文を作成(都度、修正を行う) 論文を作成する 論文を作成する
19 回	学習内容 予習 復習	論文を作成(都度、修正を行う) 論文を作成する 論文を作成する
20 回	学習内容 予習 復習	論文を作成(都度、修正を行う) 論文を作成する 論文を作成する
21 回	学習内容 予習 復習	論文を作成(都度、修正を行う) 論文を作成する 論文を作成する
22 回	学習内容 予習 復習	論文を作成(都度、修正を行う) 論文を作成する 論文を作成する
23 回	学習内容 予習 復習	論文を作成を完了 論文を作成する 論文を作成する
24 回	学習内容 予習 復習	発表スライドの作成 発表の準備をする 発表の準備をする
25 回	学習内容 予習 復習	発表スライドの作成 発表の準備をする 発表の準備をする
26 回	学習内容 予習 復習	発表スライドの作成 発表の準備をする 発表の準備をする
27 回	学習内容 予習 復習	発表スライドの作成 発表の準備をする 発表の準備をする
28 回	学習内容 予習 復習	発表の予演を行う 発表の準備をする 本番に向けての修正を行う
29 回	学習内容 予習 復習	発表の予演を行う 発表の準備をする 本番に向けての修正を行う
30 回	学習内容 予習 復習	発表の予演を行う 発表の準備をする 本番に向けての修正を行う

科 目 名	卒業研究演習〔情報科学分野〕				科目コード	31024	
英 文 名	Graduation Research Seminar II 〔Information Science〕				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	日坂 彰		教員コード	137		単 位 数	2単位
開講期間	通年		曜日・時限	月曜日・5時限		授業形態	演習
学位授与方針と の対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	日常生活に関連したさまざまな問題や課題についてICT(情報通信技術)を利用した問題解決の手法を体系的に学び、卒業研究に展開する。						
授業の狙い・ 到達目標	学生の自由な発想と創造を尊重する。PBL(問題解決型学習)を応用して、課題の探究、解決手法についての理解、ICTの適用と手法の創造、システムの検証、成果の公開を通して、卒業研究を進めることができる。						
授業内容の レベル・関連科目	共通科目全般、ビジネス専攻科目及び「人間文化演習(情報科学分野)」に加えて、本学開講科目のあらゆる科目との関連可能性あり						
授業外学習 (予習・復習)	予習は資料を読み、用語を辞典、事典で調べておくこと。 復習は学習内容を定着させ、未理解事項を残さないこと。 各回に特化した予習、復習は授業スケジュールを参照のこと。				授業外学習に 必要な時間	各回4時間、 合計120時間	
使用教科書	桑田てるみ「学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版」実教出版						
参考書・ その他教材	石井一成「ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方」ナツメ社						
課題に対する フィードバック	各工程毎に点検し、フィードバックを行う。						
成績評価方法	卒論発表会30%、平常点70%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか)						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを、本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の 注意事項や 学習上の助言	標準的なスケジュールであり、進捗次第で繰り上げ進行する。						
科目に関連した 教員の実務経験	特になし						
担当教員への 連絡方法	本学 Google Workspace for Education Gmail:anissaka@aikoku-u.org						

授業スケジュール

卒業研究演習〔情報科学分野〕

1 回	学習内容 予習 復習	卒業研究とは ― 研究の進め方、研究倫理、スケジュール管理 人間文化演習の成果をまとめておくこと。 一年間の計画を立てること。
2 回	学習内容 予習 復習	論文作成の基礎(1) 論文作成の基礎、問題抽出、PBL 人間文化演習の成果も含めて、自分の関心・興味のある問題や課題を整理しておくこと。 自分の関心・興味のある問題や課題をまとめること。
3 回	学習内容 予習 復習	論文作成の基礎(2) アカデミック・ライティング 指定資料を読んでおくこと。 指定練習問題を解くこと。
4 回	学習内容 予習 復習	論文作成の基礎(3) テーマ方向性選定とリサーチ・クエスチョンの設定 テーマ(題目)の草案を考えてくること。 研究目的を明確にすること。
5 回	学習内容 予習 復習	論文作成の基礎(4) 論文構成考案 指定資料を読んでおくこと。 論文構成からストーリー(論理展開)を構築すること。
6 回	学習内容 予習 復習	先行研究調査(1) 情報検索、文献検索及び文献収集 指定資料を読んでおくこと。 指定数以上の文献を収集・管理し、記録する。
7 回	学習内容 予習 復習	先行研究調査(2) 文献の引用と著作権 指定資料を読んでおくこと。 指定数以上の文献を収集・管理し、記録する。
8 回	学習内容 予習 復習	先行研究調査(3) 先行研究レビュー 収集済み文献を指定数以上読んでおくこと。 先行研究レビューレポートを作成する。
9 回	学習内容 予習 復習	先行研究調査(4) アカデミック・リーディング 指定資料を読んでおくこと。 先行研究レビューレポートを作成する。
10 回	学習内容 予習 復習	テーマ確定と論証過程確認 指定資料を読んでおくこと。 テーマと論証過程を明確にすること。
11 回	学習内容 予習 復習	研究方法設計、フィージビリティー検証 指定資料を読んでおくこと。 研究方法を明確にすること。
12 回	学習内容 予習 復習	オリジナリティー検証 指定資料を読んでおくこと。 オリジナリティーを明確にすること。
13 回	学習内容 予習 復習	中間報告ディスカッション それまでの研究内容をレポートとしてまとめる。 中間報告をまとめる。
14 回	学習内容 予習 復習	中間報告まとめ 中間報告をまとめる。 中間報告発表(プレゼンテーションファイル作成を含む)を作成する。
15 回	学習内容 予習 復習	中間報告発表 中間報告発表(プレゼンテーションファイル作成を含む)を完成する。 中間報告発表の振り返り・検証を行う。

16 回	学習内容 予習 復習	研究方針と論文構成の再確認 論文執筆(後期開始時点までに3000字目標) 残り期間の計画を立てること。
17 回	学習内容 予習 復習	論文作成(1) 論文執筆 フィードバックへの対応
18 回	学習内容 予習 復習	論文作成(2) 論文執筆 フィードバックへの対応
19 回	学習内容 予習 復習	論文作成(3) 論文執筆(6000字目標) フィードバックへの対応
20 回	学習内容 予習 復習	論文作成(4) 論文執筆 フィードバックへの対応
21 回	学習内容 予習 復習	論文作成(5) 論文執筆(9000字目標) フィードバックへの対応
22 回	学習内容 予習 復習	論文作成(6) 論文執筆 フィードバックへの対応
23 回	学習内容 予習 復習	論文作成(7) 論文執筆(12000字目標) フィードバックへの対応
24 回	学習内容 予習 復習	論文作成(8) 論文執筆 フィードバックへの対応
25 回	学習内容 予習 復習	卒業論文完成、提出準備、形式要件チェック 提出ファイルの購入を済ませ、提出票を作成しておく。 卒業論文の振り返り・検証を行う。
26 回	学習内容 予習 復習	発表方針決定 プレゼンテーションに関する指定資料を読んでおく。 プレゼンテーションファイルの作成を開始する。
27 回	学習内容 予習 復習	発表準備(1) プレゼンテーションに関する指定資料を読み理解、反映する。 フィードバックへの対応
28 回	学習内容 予習 復習	発表準備(2) プレゼンテーションに関する指定資料を読み理解、反映する。 フィードバックへの対応
29 回	学習内容 予習 復習	発表リハーサル 発表リハーサルの準備をする。 フィードバックへの対応
30 回	学習内容 予習 復習	卒業論文と発表の総合評価 発表の準備をする。 発表の振り返り・検証を行う。

科目名	卒業研究演習〔ビジネス経営分野〕				科目コード	31025	
英 文 名	Graduation Research Seminar II 〔Business Administration〕				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	溝田 俊之		教員コード	156		単 位 数	2単位
開講期間	通年	曜日・時限	木曜日・3時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	ビジネス経営分野の中からテーマを選び、学生生活の総仕上げとしての論文作成に取り組む。テーマ決定、関連論文収集、データ収集、分析、執筆、指摘に対する見直しを通して論文を完成させる。						
授業の狙い・到達目標	卒業論文作成過程を通して、教養を身につけ、論理的な考え方を養い、問題解決能力を身につける。						
授業内容のレベル・関連科目	大学生生活の総仕上げである。						
授業外学習(予習・復習)	演習では報告の都度指摘をするので、それに基づいた改善をしていく。 参考文献の収集、講読や、分析作業は演習に先立って行っておく。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間	
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	特にないが、文献はテーマに合わせ検索し、収集する。						
課題に対するフィードバック	演習では1年間をかけて論文完成までフォローアップするものであり、演習自体がフィードバックである。						
成績評価方法	卒論発表会30%、平常点70%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか)						
成績評価基準	学習の到達目標にどれくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	授業外学習をしっかりと行うこと。これができなければ良い論文にはならない。						
科目に関連した教員の実務経験	千葉県で農業経営・経済に関する試験研究に従事していた。卒業研究では試験研究に従事した経験から得た視点で、テーマ選定、分析の論理性など全般について指導する。						
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける(mail to:mizota@aikoku-u.org)が、論文の内容に関することは対面が望ましい。						

授業スケジュール

卒業研究演習〔ビジネス経営分野〕

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション、本演習のスケジュールまた卒業論文作成までのスケジュールを説明する。 シラバスをよく読み、本演習のスケジュールを把握しておく。 本日の授業内容を振り返り、スケジュールを意識する。
2 回	学習内容 予習 復習	テーマの方向性決定 そのために、過去の卒論等、参考文献検索を行う 3年次の演習の経過からテーマの方向性を考え、書き出しプレゼンにまとめる。文献入手、講読。 教員からの指摘事項に基づきプレゼンを改善する。
3 回	学習内容 予習 復習	テーマの方向性、調査、分析方法等をプレゼンする 前回講義時に抽出された課題等について調査し、プレゼンにまとめる。 教員からの指摘事項に基づきプレゼンを改善する。
4 回	学習内容 予習 復習	第3回と同様。 前回講義時に抽出された課題等について調査し、プレゼンにまとめる。 教員からの指摘事項に基づきプレゼンを改善する。
5 回	学習内容 予習 復習	テーマを発展させる。 調査・分析の厚みを増し、報告済みのプレゼンの内容および量を充実させる。 教員からの指摘事項に基づきプレゼンを改善する。
6 回	学習内容 予習 復習	第5回と同様。 調査・分析の厚みを増し、報告済みのプレゼンの内容および量を充実させる。 教員からの指摘事項に基づきプレゼンを改善する。
7 回	学習内容 予習 復習	第5回と同様。 調査・分析の厚みを増し、報告済みのプレゼンの内容および量を充実させる。 教員からの指摘事項に基づきプレゼンを改善する。
8 回	学習内容 予習 復習	第5回と同様。 調査・分析の厚みを増し、報告済みのプレゼンの内容および量を充実させる。 教員からの指摘事項に基づきプレゼンを改善する。
9 回	学習内容 予習 復習	テーマを決定する。 ここまでの調査・分析から、報告済みのプレゼンを更に充実させる。 教員からの指摘事項に基づきプレゼンを改善する。
10 回	学習内容 予習 復習	第9回と同様。 ここまでの調査・分析から、報告済みのプレゼンを更に充実させる。 教員からの指摘事項に基づきプレゼンを改善する。
11 回	学習内容 予習 復習	第9回と同様。 ここまでの調査・分析から、報告済みのプレゼンを更に充実させる。 教員からの指摘事項に基づきプレゼンを改善する。
12 回	学習内容 予習 復習	第9回と同様。 ここまでの調査・分析から、報告済みのプレゼンを更に充実させる。 教員からの指摘事項に基づきプレゼンを改善する。
13 回	学習内容 予習 復習	論文の構成を考え、書き、示す。導入部分(目的、研究の対象と方法)を考え、書く。 教員の指示の下、卒論の構成と導入部分を考え、書く。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
14 回	学習内容 予習 復習	第13回と同様。 教員の指示の下、卒論の構成と導入部分を考え、書く。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
15 回	学習内容 予習 復習	第13回と同様。 教員の指示の下、卒論の構成と導入部分を考え、書く。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。

授業スケジュール

卒業研究演習〔ビジネス経営分野〕

16 回	学習内容 予習 復習	導入部分に続き、分析結果に入る。 夏季休暇中に論文内容を1,500字程度(A4標準で1.2枚程度)まで書き上げる。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
17 回	学習内容 予習 復習	第16回に同じ。分析結果の提示に必要な図表を作成する。 3,000字(A4標準で2.5枚程度)を目標に書き進めていく。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
18 回	学習内容 予習 復習	第16回に同じ。分析結果の提示に必要な図表を作成する。 3,000字(A4標準で2.5枚程度)を目標に書き進めていく。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
19 回	学習内容 予習 復習	第16回に同じ。分析結果の提示に必要な図表を作成する。 3,000字(A4標準で2.5枚程度)を目標に書き進めていく。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
20 回	学習内容 予習 復習	論文の本論を執筆する。目標を6,000字(A4標準で5枚程度)とする。 図表、文章含め6,000字(A4標準5枚程度)を目標に書き進めていく。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
21 回	学習内容 予習 復習	第20回に同じ。論文の本論を執筆する。目標を6,000字(A4標準で5枚程度)とする。 図表、文章含め6,000字(A4標準5枚程度)を目標に書き進めていく。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
22 回	学習内容 予習 復習	第20回に同じ。論文の本論を執筆する。目標を6,000字(A4標準で5枚程度)とする。 図表、文章含め6,000字(A4標準5枚程度)を目標に書き進めていく。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
23 回	学習内容 予習 復習	第20回に同じ。論文の本論を執筆する。目標を6,000字(A4標準で5枚程度)とする。 図表、文章含め6,000字(A4標準5枚程度)を目標に書き進めていく。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
24 回	学習内容 予習 復習	論文の本論を執筆する。9,000字(A4標準7.5枚程度)を目標とする。 図表、文章含め9,000字(A4標準7.5枚程度)を目標とする。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
25 回	学習内容 予習 復習	第24回に同じ。 図表、文章含め9,000字(A4標準7.5枚程度)を目標とする。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
26 回	学習内容 予習 復習	第24回に同じ。 図表、文章含め9,000字(A4標準7.5枚程度)を目標とする。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
27 回	学習内容 予習 復習	考察およびまとめを書き、論文を完成させる。 12,000字(A4標準10枚程度)以上という卒論の要請にこたえとともに、論文を完成させていく。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
28 回	学習内容 予習 復習	第27回に同じ。 12,000字(A4標準10枚程度)以上という卒論の要請にこたえとともに、論文を完成させていく。 講義中に教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。
29 回	学習内容 予習 復習	卒論発表会に向けて①、プレゼンの作成と練習。 卒論発表会のためのプレゼンを作ってくる。 演習内での質疑、指摘、指導に基づき必要な修正を行う。
30 回	学習内容 予習 復習	卒論発表会に向けて②、プレゼンの作成と練習。 卒論発表会のためのプレゼンを作ってくる。 演習内での質疑、指摘、指導に基づき必要な修正を行う。

科 目 名	卒業研究演習〔ビジネス経営分野〕				科目コード	31025	
英 文 名	Graduation Research Seminar II 〔Business Administration〕				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	呉 鷲		教員コード	157		単 位 数	2単位
開講期間	通年		曜日・時限	火曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応	○	1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う		◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する		○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	前年度の人間文化演習を踏まえ、自分が関心を持っているテーマで卒業論文を作成し、発表する。						
授業の狙い・到達目標	卒業研究演習を通じて、履修生自身が関心を持っているテーマに対して、課題の発見、検証(実態調査)、結果の検討・考察というプロセスを踏まえ、自らの考えを論理的に述べるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	論理的な文章の書き方を習得する。関連科目：人間文化演習に限らない。						
授業外学習(予習・復習)	卒業論文の完成を目指して、毎回の演習での指導内容を踏まえて、内容を着実に更新していく。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間	
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	研究テーマによって、自ら参考文献・資料を探す必要がある。						
課題に対するフィードバック	毎回の演習で、研究テーマ、内容、進め方に対して、履修生の自主性を重視しながら、建設的な意見を提示する。						
成績評価方法	卒論発表会30%、平常点70%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか)						
成績評価基準	卒業論文の完成度、卒論発表の状況及び普段の取り組みなどを踏まえ、本学の「学業成績判定に関する規定の基準」に基き、到達度を総合的に評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	計画通りに主体的に取り組む。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問や相談など、メール(wu@aikoku-u.org)あるいは対面で対応する。メールの場合、件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載する。対面の場合、授業終了後あるいはオフィスアワー(新年度に掲示)に対応する。						

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション(スケジュール、達成目標、進め方などを説明する。)、テーマ報告(1名5分) シラバスを事前に確認し、関心のあるテーマを1人当たり5分間で説明できるように準備する。 テーマに対するコメントを確認し、年間計画(どのように進めるか)を立ててみる。
2 回	学習内容 予習 復習	関心のあるテーマに関する課題の提示(1)、順番に報告 関心のあるテーマにどのような課題があるか、それについてレジュメを作成する。 指導教員からのコメントを踏まえ、関連情報・知識を取得し、課題検討をさらに深めていく。
3 回	学習内容 予習 復習	関心のあるテーマに関する課題の提示(2)、順番に報告 関心のあるテーマにどのような課題があるか、それについてレジュメを作成する。 指導教員からのコメントを踏まえ、関連情報・知識を取得し、課題検討をさらに深めていく。
4 回	学習内容 予習 復習	先行研究に関する報告(1) 研究テーマに含まれた課題は先行研究ではどのように述べられたか。調べて報告できるように。 先行研究と指導教員からのコメントを踏まえて、自分の問題意識を醸成する。
5 回	学習内容 予習 復習	先行研究に関する報告(2) 研究テーマに含まれた課題は先行研究ではどのように述べられたか。調べて報告できるように。 先行研究と指導教員からのコメントを踏まえて、自分の問題意識を醸成する。
6 回	学習内容 予習 復習	研究テーマとその進め方に関する報告(1) 研究テーマをどのように明かにするか、を考えて、報告できるようにレジュメを作成する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、課題解明の方法を探る。
7 回	学習内容 予習 復習	研究テーマとその進め方に関する報告(2) 研究テーマをどのように明かにするか、を考えて、報告できるようにレジュメを作成する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、課題解明の方法を探る。
8 回	学習内容 予習 復習	課題の調べ方に関する報告(1)～研究対象の明確化 自分が提示した課題をどのように明かにするかというシナリオを踏まえ、その調べ方を述べる。 指導教員のコメントと自身の考えを踏まえ、どこで何を調べて、何かを明かにするか、を決める。
9 回	学習内容 予習 復習	課題の調べ方に関する報告(2)～研究対象の明確化〆 自分が提示した課題をどのように明かにするかというシナリオを踏まえ、その調べ方を述べる。 指導教員のコメントと自身の考えを踏まえ、どこで何を調べて、何かを明かにするか、を決める。
10 回	学習内容 予習 復習	文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査に向けた準備(1) 調べる項目の整理、質問項目の作成などを進めて、報告できるように準備する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、調べる項目、質問項目などを改善する。
11 回	学習内容 予習 復習	文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査に向けた準備(2) 調べる項目の整理、質問項目の作成などを進めて、報告できるように準備する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、調べる項目、質問項目などを改善する。
12 回	学習内容 予習 復習	文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査の実施計画／結果に関する報告(1) 実施可能性を踏まえ、実施計画を見直す。あるいは実行して、その結果を報告する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、調査を実行する。(進捗の個人差を尊重する。)
13 回	学習内容 予習 復習	文献調査、アンケート調査、ヒアリング調査の実施計画／結果に関する報告(2) 実施可能性を踏まえ、実施計画を見直す。あるいは実行して、その結果を報告する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、調査を実行する。(進捗の個人差を尊重する。)
14 回	学習内容 予習 復習	調査結果に関する報告 調査した結果を整理して、報告できるようにレジュメや報告書を作成する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、その結果に基づいて論文の構成を考えてみる。
15 回	学習内容 予習 復習	論文の構成に関する報告 論文の構成を報告できるように、これまでのプロセスを踏まえて内容を整理する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、論文の構成を見直し、本文を書き始める。

授業スケジュール

卒業研究演習〔ビジネス経営分野〕

16 回	学習内容 予習 復習	夏休み期間中の進捗の報告(1)(書き終えた部分を提出する。電子版のみ。) 夏休み期間中も卒業論文の作成を計画的に進める。補足調査も実施する(指導教員と相談)。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、見直ししながら、先に進める。
17 回	学習内容 予習 復習	夏休み期間中の進捗の報告(2)(書き終えた部分を提出する。電子版のみ。)□ 夏休み期間中も卒業論文の作成を計画的に進める。補足調査も実施する(指導教員と相談)。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、見直ししながら、先に進める。
18 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の共通問題点に関する説明(参考文献、引用文献、注など) 前回のコメントを踏まえ、卒業論文を書き進める。 第18回の指導教員からの説明、コメントを踏まえて、卒業論文の要注意箇所を改善していく。
19 回	学習内容 予習 復習	論文全体の1/4まで書き進め、その進捗を報告する。 論旨が明確かどうか、チェックしながら、論文全体の1/4まで書き進めるように専念する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、卒業論文を修正する。
20 回	学習内容 予習 復習	履修生の間で相互チェックを行い、意見を出し合う。 論文全体の1/3まで書き進め、履修生の間で相互チェックできるように準備する。 履修生からのコメント、指導教員の総合的判断と自身の考えを踏まえ、卒業論文を修正する。
21 回	学習内容 予習 復習	論文全体の1/2まで書き進め、その進捗を報告する。 論文全体の1/2まで書き進めることに専念し、進捗の報告ができるように準備する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、卒業論文を修正する。
22 回	学習内容 予習 復習	論文全体の2/3まで書き進め、その進捗を報告する。 論文全体の2/3まで書き進めることに専念し、進捗の報告ができるように準備する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、卒業論文を修正する。
23 回	学習内容 予習 復習	論文全体の3/4まで書き進め、その進捗を報告する。 論文全体の4/4まで書き進めることに専念し、進捗の報告ができるように準備する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、卒業論文を修正する。
24 回	学習内容 予習 復習	結論の部分を検討し、論文初稿の完成(12,000字以上)を目指す。 結論の部分についてよく検討し、それについて報告できるように準備する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、結論の部分を修正し、初稿の完成を目指す。
25 回	学習内容 予習 復習	論文初稿の修正 自分で修正し、修正した部分を報告する。 指導教員からのコメントと自身の考えを踏まえ、論文全体を修正する。
26 回	学習内容 予習 復習	卒業論文のミニ発表(1) 卒業論文の内容をMicrosoft PowerPointでプレゼンテーションできるように、準備を進める。 指導教員と履修生からのコメント並びに自分の考えを踏まえ、スライドを修正する。
27 回	学習内容 予習 復習	卒業論文のミニ発表(2) プレゼンテーションの内容を改善するように取り組む。 指導教員と履修生からのコメント並びに自分の考えを踏まえ、スライドを修正する。
28 回	学習内容 予習 復習	卒業論文のミニ発表(3) プレゼンテーションの内容をさらに改善するように取り組む。 指導教員と履修生からのコメント並びに自分の考えを踏まえ、スライドを修正する。
29 回	学習内容 予習 復習	卒業論文のミニ発表(4) プレゼンテーションの内容をより明確に分かりやすく表現するように取り組む。 指導教員と履修生からのコメント並びに自分の考えを踏まえ、スライドを修正する。
30 回	学習内容 予習 復習	総合的なコメント、卒業論文本体とプレゼンテーションの内容の最終チェック 卒業論文をわかりやすく説明できるように着実に準備を進める。 指導教員と履修生からのコメント並びに自分の考えを踏まえ、論文本体とスライドを修正する。

科目名	卒業研究演習〔国際協力分野〕				科目コード	31026	
英文名	Graduation Research Seminar II 〔International Cooperation〕				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	伏見 親子		教員コード	121		単位数	2単位
開講期間	通年		曜日・時限	火曜日・5時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
	○	3.論理的・批判的なものの見方を養う		○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する			6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	指導分野の中からテーマを選び、学生生活の総仕上げとしての論文に取り組む。テーマ決定から資料収集、アウトラインの作成、執筆、見直し、仕上げという過程を経て、論文を仕上げ、発表する。						
授業の狙い・到達目標	卒業論文作成の一連の過程を通して、論理的な思考の展開ができるようになることを目標とする。また、その結果を整理しまとめ、聴衆に説明できるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	3年次までの国際協力分野の専門科目(特に必修科目)と人間文化演習を受講し、基礎的、および専門的な知識を得ていること						
授業外学習(予習・復習)	参考文献を授業の前に読んでおくこと 与えられた課題をこなしておくこと				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間	
使用教科書	特に用いない。						
参考書・その他教材	教員によるプリントなどの配付資料、および教員が提示する参考文献・図書						
課題に対するフィードバック	卒業論文の章ごとに、受講者によるピア・リーディングと教員による講評を行う。						
成績評価方法	卒業論文発表会(30%)、課題を含む授業への積極的な貢献(70%)で総合的に評価する。						
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	指示された参考文献を授業の前に読んでおくこと 各自、章ごとに発表内容をまとめておくこと 常に自分の研究テーマと内容をチェックして、ずれがないか確認しておくこと 後半、パソコンを使用するので、USBメモリを持参すること						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問は、原則的にfushimi@aikoku-u.orgアドレスへのメール、または教員の指示した連絡方法で受け付ける。件名に科目名、曜日・時限、本文に学籍番号、氏名を必ず記載すること						

1 回	学習内容 予習 復習	論文を書く心構え、論文作成のおおまかな手順を説明する。 人間文化演習の資料を復習しておくこと 卒業論文の作成に関する資料をよく読んでおくこと
2 回	学習内容 予習 復習	論文の書式、参考文献の扱い、注の付け方など、基本的な論文作成方法を教授する。 人間文化演習の資料を復習しておくこと 各自人間文化演習のレポートを持参 配付されたサンプルを読んで理解しておくこと
3 回	学習内容 予習 復習	学生は各自関心のあるテーマを発表し、教員はそれが卒業論文として妥当であるか、チェックする。 各自人間文化演習のレポートをもとに、研究テーマを決めておくこと 教員のアドバイスを受け、必要な場合は研究テーマの修正案を考えること
4 ・ 5 回	学習内容 予習 復習	参考文献や資料から論文として成立するかどうか検討し、テーマの変更を含めて見直す作業をする。 自分の研究テーマに必要な参考文献などを読んで、授業に持参すること 教員のアドバイスを受け、必要な場合は研究テーマの再修正案を考えること ↓
6 ・ 7 ・ 8 回	学習内容 予習 復習	学生は論文の構成を考え、論文の骨旨・章立てを発表する。(1回に2名ずつ)ピア・リーディング有 発表担当者は、論文の構成・章立て(目次)をA41ページ程度にまとめ、授業人数分用意すること ピア・リーディングを受け、自分の構成・章立てを修正すること ↓
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 ・ 13 回	学習内容 予習 復習	論文作成に取り掛かる。イントロダクション、第1章の発表(1回に1名) 教員講評、ピア・リーディング有 発表担当者は、イントロダクション、第1章を作成し、授業人数分コピーを用意すること 教員の講評、ピア・リーディングを受け、自分の原稿を修正すること ↓
14 ・ 15 回	学習内容 予習 復習 学習内容 予習 復習	第2章の発表(1回に1名) 教員講評、ピア・リーディング有 発表担当者は、第2章を作成し、授業人数分コピーを用意すること 教員の講評、ピア・リーディングを受け、自分の原稿を修正すること ↓

16 ・ 17 ・ 18 回	学習内容 予習 復習	第2章の発表(1回に1名) 教員講評、ピア・リーディング有 発表担当者は、第2章を作成し、授業人数分コピーを用意すること 教員の講評、ピア・リーディングを受け、自分の原稿を修正すること ↓
19 ・ 20 ・ 21 ・ 22 ・ 23 回	学習内容 予習 復習	第3章及び結論の発表(1回に1名) 教員講評、ピア・リーディング有 発表担当者は、第3章及び結論を作成し、授業人数分コピーを用意すること 教員の講評、ピア・リーディングを受け、自分の原稿を修正すること ↓
24 ・ 25 回	学習内容 予習 復習	論文の見直し。最初のテーマとのずれなどを確認し、手直ししていく。 自分の原稿を通して読んで、テーマと内容にずれがないか確認しておくこと。 ずれがあった場合、全体を眺めて統一を図るよう手直しをすること ↓
26 ・ 27 回	学習内容 予習 復習	概要、参考文献の作成、卒業論文の仕上げ 概要、参考文献をつけ、インデント、フォントなどが、途中で変わっていないか確かめること 教員の指導に従って、修正すること ↓
28 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の訂正 提出した論文は図書館に収められ、後輩の参考になるので、誤字脱字を含めて丁寧に確認すること 教員の指摘があれば直すこと
29 ・ 30 回	学習内容 予習 復習	卒業論文発表会の準備 パワーポイント原稿作成と口頭発表の練習 5分間に収める必要があるので、要点をピックアップしておくこと 一度スライドを作成したら、声に出して読んでみて時間内に終わるか確認すること ↓

科目名	卒業研究演習〔国際協力分野〕				科目コード	31026	
英 文 名	Graduation Research Seminar II 〔International Cooperation〕				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	梶原 健嗣		教員コード	145	単 位 数	2単位	
開講期間	通年	曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	演習	
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う	◎	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	○	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	前年度の人間文化演習を一步進めた学習により、卒業論文作成のための指導を行う。 <u>演習形式のため、学生の学習状況にあわせた進度の調整を行う場合がある。</u>						
授業の狙い・到達目標	卒業論文は大学生活の集大成である。自分が関心をもったテーマに対し、問題の所在、重要性を示し、事実即して自己の見解を論理的に主張・展開することができるようになる。 教員の指導の下に、二人三脚でこの目標に到達することができる。						
授業内容のレベル・関連科目	授業のレベルは、「大学生活の集大成」である。関連科目は特に明示しないが、これまでに本学履修したすべての科目が、「課題の発見・探究」に役だったはずである。						
授業外学習(予習・復習)	卒業論文の完成に向けて、丁寧に毎回の演習を積み重ねる。 パズルのピースを埋め合わせていくように、1つずつ課題を提示していくので、それを着実にこなすこと。また、教員の指導を受けた修正をきちんと積み重ねていくこと。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間	
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	特になし。講義のなかで指示する課題をこなすための参考書・資料を自ら発見することが、ゼミ学習の基本である。						
課題に対するフィードバック	卒業研究演習では、卒業論文の作成に向けて1年計画で課題を出していく。毎回の授業は、そのフォローアップである。						
成績評価方法	卒論発表会30% 平常点70%(毎回の課題をきちんとこなしてきたか)						
成績評価基準	授業の狙いにあげた学習到達目標にどのくらい到達したかを、本学の「学業成績判定に関する規程の基準」に基づき評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	復習をきちんとすること。特に、教員が演習中に指示した課題をしっかりとこなすこと。 そうすれば、おのずと卒業論文はできあがるはずである。						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	メールでの質問(kajiwara@aikoku-u.org)、またはオフィスアワー(新年度に掲示)。 もちろん授業終了後に、直接聞くことも可。						

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス、本演習のスケジュールまた卒業論文作成までのスケジュールを説明する。 シラバスをよく読み、本演習のスケジュールを把握しておくこと。 講義を踏まえて、シラバスを改めて読み返し、本演習のスケジュールを頭に叩き込む。
2 ・ 3 ・ 4 回	学習内容 予習 復習	テーマを決めるための基礎作業 卒論の充実度を決めるのは、何よりもテーマの的確性／妥当性である。 そのために、3年次に引き続き、複数の課題発表を続ける。 教員が前回講義時に指定した課題で調べものをし、プレゼンにまとめる。 (指定日までに、課題をメールで送ること) 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、予習時に作成したプレゼンを修正する。
5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 回	学習内容 予習 復習	テーマを決め、基本事項を調査する。 なるべく卒論のテーマを決め、課題に取りかかることが内容の充実した卒論に仕上げる最大の「コツ」である。テーマ設定と並行(試行錯誤)になるが、基礎的な事実を調査することで、最も自分にあった卒論テーマを見つけてほしい。 研究の「問い」を作りこんでいくために、プレゼン形式の基礎調査を続ける。 この時、プレゼンテーマそのものから、自分で設定する。 (指定日までに、課題をメールで送ること) 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、予習時に作成したプレゼンを修正する。
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12 回	学習内容 予習 復習	テーマを決める【完成編】 遅くとも、この時期にはテーマを決定していく。 文章化すれば、論文の序章となる程度の内容でプレゼンを仕上げる。 1度報告済みのテーマのプレゼンを、時間・内容面でバージョンアップさせる。 過去の発表・報告を振り返ることで、卒業論文のテーマを絞り込んでいく。内容上、発展が期待できるものを発見していく。ここでも、指定日までに課題をメールで送ること。 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、予習時に作成したプレゼンを修正する。
13 ・ 14 ・ 15 回	学習内容 予習 復習	論文の構成と序章を考え、書く。 前期までに1,500字を超えることが目標。 教員の指示の下、卒論の構成と序章を考え、書く。 添削を受け、論文をブラッシュアップしていく。やはり、指定日までに課題をメールで送ること 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。 夏季休暇中に、論文内容を3,000字程度まで書き上げる。

16 ・ 17 ・ 18 ・ 19 回	学習内容 予習 復習	論文の本論に入る。 秋初頭までに、5,000字を目標とする。 そのためには、 <u>夏季休暇中にきちんと課題に取り組んでおくことが重要となる。</u> 5,000字を目標に書き進めていく。 そのための材料を集める。 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。 (ゼミに先立ち、 <u>修正した論文をメールで送ること</u>)
20 ・ 21 ・ 22 ・ 23 回	学習内容 予習 復習	論文の本論に入る。 秋中盤までに、8,000字を目標とする。 8,000字を目標に書き進めていく。 そのための材料を集める。 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。 (ゼミに先立ち、 <u>修正した論文をメールで送ること</u>)
24 ・ 25 ・ 26 回	学習内容 予習 復習	まとめを記し、論文を完成させる。 (参考資料の表記や注釈など、細かい点もきちんと見直す) 12,000字以上という卒論の要請にこたえとともに、論文を完成させていく。 (ゼミに先立ち、 <u>修正した論文をメールで送ること</u>) 演習内で教員から指導されたことを踏まえ、論文を修正する。 内容だけでなく、形式も整えていくこと。
27 ・ 28 ・ 29 ・ 30 回	学習内容 予習 復習	卒論発表会に向けて、プレゼンの作成と練習を行う。 練習を繰り返すことで、卒論の内容をわかりやすく伝えるには、どうすればいいかを考える。この試行錯誤が、自分の完成させた論文を見つめ直すことにもつながっていく。 卒論発表会のためのプレゼンを作ってくる。 演習のなかで、発表会本番を模した練習を行う。そこで指摘されたことをふまえ、プレゼンを訂正する。この時、 <u>声に出して読んでみる練習</u> も同時並行することが望ましい。 演習内で指摘された事項を、修正すること。 <u>自宅で、実際に話して練習すること。</u>

科目名	卒業研究演習〔国際協力分野〕				科目コード	31026	
英 文 名	Graduation Research Seminar II 〔International Cooperation〕				科目区分	【卒業研究】 (必修科目)	
担当教員	栗林 慶		教員コード	158		単 位 数	2単位
開講期間	通年		曜日・時限	木曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける	○	2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する			
	◎	3.論理的・批判的なものの見方を養う	○	4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する			
	◎	5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う			
授業概要	卒業論文の執筆に関する指導とディスカッションを行う。前期は論文執筆に必要な学術的スキルの確認をしながら、研究の具体化に向けた指導をする。後期は執筆指導と研究発表に向けた準備を行う。						
授業の狙い・到達目標	本科目のねらいは、卒業研究への取り組みを通じて、自分なりに問いを立てる能力と、その問いに対し、理論的もしくは実証的に検証する能力を身につけることである。 到達目標)卒業研究を学術的に論文としてまとめ、また学術成果として発表することができるようになる。						
授業内容のレベル・関連科目	これまで履修した教養科目、専攻科目での学修を土台に、興味関心のあるテーマや専門知識のあるテーマを用意・設定できる状態で演習にのぞむことが必要である。						
授業外学習(予習・復習)	教員の助言・指導に従って授業外学習をすること。					授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計120時間
使用教科書	特になし						
参考書・その他教材	各自の進行に応じて案内する。						
課題に対するフィードバック	随時、口頭やメールなどにより、修正点などのフィードバックを行う。						
成績評価方法	平常点(70%) 卒論発表会(30%)						
成績評価基準	平常点は、卒業研究の計画的進行、授業への参加意欲、発言等による授業への貢献、周囲との共同・協調の各項目を評価する。卒論発表会は、当日のプレゼンテーションを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づいて評価する。						
履修上の注意事項や学習上の助言	履修者に次のようなことがあった場合には、指導は継続できない。 ①度重なる無断欠席・遅刻 ②教員からの連絡に対して、長期にわたって応答しない場合 ③研究活動に全く意欲がみられない場合 ④ディスカッション等に対して完全に不参加が続く場合						
科目に関連した教員の実務経験	特になし						
担当教員への連絡方法	質問、連絡等はメール(kei@aikoku-u.org)にて受け付ける。 教員は必ず返信をするので、もし返信がない場合は各自、連絡方法を再確認すること。						

授業スケジュール

卒業研究演習〔国際協力分野〕

1 回	学習内容 予習 復習	イントロダクション 卒業研究に使用する機材とソフト、教員との連絡方法、研究の進め方の確認 研究に必要なソフトウェア(ワープロ、表計算、プレゼンテーション、PDFの閲覧)を確認しておく。 不足するパソコンスキルやソフトウェアを確認し、対処が難しければ教員に相談をする。
2 回	学習内容 予習 復習	研究テーマの選び方、資料収集の案内、執筆演習 どのような研究テーマを扱いたいのか、案を考える。参考になりそうな資料を用意する。 演習で執筆したものに指導内容を反映させ、提出する。研究テーマを再考し、資料を収集する。
3 回	学習内容 予習 復習	研究テーマ選び、資料収集、執筆演習 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
4 回	学習内容 予習 復習	研究テーマ選び、資料収集、執筆演習 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
5 回	学習内容 予習 復習	研究テーマ選び、資料収集、執筆演習 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
6 回	学習内容 予習 復習	研究テーマ選び、資料収集、執筆演習 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
7 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の構想、資料収集、執筆演習 これまでのディスカッションと資料収集をふまえて、卒業論文の構想を考える。 演習で執筆したものを修正し、提出する。卒業論文の構想については、指摘箇所を修正する。
8 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の構想、資料収集、執筆演習 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
9 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の構想、資料収集、執筆演習 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
10 回	学習内容 予習 復習	研究計画の再スケジュール、卒業論文の執筆指導 卒論に必要な資料収集やデータ収集を考慮したスケジュールを考えておく。 執筆した卒業論文を、指示に従って修正する。
11 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の執筆指導 調査研究を進め、卒業論文を執筆する。 前回と同様に復習をする。
12 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の執筆指導。 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
13 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の執筆指導。 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
14 回	学習内容 予習 復習	中間報告 これまでの研究成果の口頭発表 調査研究を進め、卒業論文を執筆する。口頭発表の準備をする。 前回と同様に復習をする。
15 回	学習内容 予習 復習	夏期休業中の研究計画の確認 夏期休業中の研究計画を具体的に想定する。 前回と同様に復習をする。

16 回	学習内容 予習 復習	夏期休業中の進捗報告 調査研究を進め、卒業論文を執筆する。夏期休業中の研究の進捗報告の準備をする。 執筆した卒業論文を、指示に従って修正する。
17 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の執筆指導 調査研究を進め、卒業論文を執筆する。 執筆した卒業論文を、指示に従って修正する。
18 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の執筆指導。 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
19 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の執筆指導。 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
20 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の執筆指導。 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
21 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の執筆指導。 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
22 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の体裁調整 卒業論文の執筆要綱を再確認し、本文の不備を再点検しておく。 執筆した卒業論文を、指示に従って修正する。
23 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の体裁調整。 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
24 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の体裁調整、最終稿の作成 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
25 回	学習内容 予習 復習	卒業論文の体裁調整、最終稿の作成。 前回と同様に予習をする。 前回と同様に復習をする。
26 回	学習内容 予習 復習	卒論発表会の準備(その1) スライドの構成を考える 卒論発表会で用いるスライドの構成を考える。 添削の内容を反映させる。
27 回	学習内容 予習 復習	卒論発表会の準備(その2) スライドの添削 卒論発表会で用いるスライドを、おおむね作成する。 添削の内容を反映させる。冬季休業中の作業内容を確認する。
28 回	学習内容 予習 復習	卒論発表会の準備(その3) スライドの最終添削 卒論発表会で用いるスライドを完成させる。 最終添削の内容を反映させる。
29 回	学習内容 予習 復習	卒論発表会の準備(その4) 発表の予行練習 効果的なプレゼンテーション技法について検討する。 授業で指摘された箇所を修正する。
30 回	学習内容 予習 復習	卒論発表会の準備(その5) 発表の予行練習 プレゼンテーションの時間をあらかじめ計測する。 授業で指摘された箇所を修正する。

科目名	日本語ⅠA-1前（日本語ⅠA-1）			科目コード	41071	
英文名	JapaneseⅠA (JapaneseⅠA・JapaneseⅠB)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単位数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの文字・語彙、文法。実際JLPT試験と同じ形式で問題を解いて、試験に慣れる。JLPT試験には、読解も聴解も出題する。これらの出題問題を解けるためには、その基礎として、文字・語彙、文法の知識が必要である。文字・語彙では、漢字の読み方・書き方、語彙の意味・使い方を行う。文法では、N2の文法項目を中心に行う。文字・語彙、文法の学習は根気がいるものなので、前期・後期一年間かけて行う。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。文字・語彙、文法では、すべての基礎になるもので、漢字の読み方や書き方、語彙の意味や使い方、文法の意味を理解し、大学の講義がより分かるようになり、レポート作成がよりできるようになる。また、JLPT試験でも文字・語彙、文法は点数が取れやすい部分なため、繰り返し学習をし、知識が定着することを目標とし、文字・語彙、文法の点数が取れるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTN2相当レベル 関連科目:「日本語ⅠA-1後」					
授業外学習(予習・復習)	予習として、その回で行う模擬テストをやってもらうこと。復習として、授業内でやった内容を見直すこと。小テストに備えて、内容を復習すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『日本語能力試験 直前対策 N2文字・語彙・文法』国書刊行会					
参考書・その他教材	必要に応じて教員が補足資料を渡す。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回確認小テストで行った文字・語彙、文法について、解説を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのぐらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業でやった内容だけでJLPTに合格することは難しいため、授業外でも自律的に学習することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to : shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語ⅠA-1前（日本語ⅠA-1）

1 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第1回 シラバスを熟読し、授業の内容についておおむね理解しておく 講義内容を再確認する
2 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第1回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
3 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第1回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
4 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第2回 模擬テスト問題をやってくること 講義内容を再確認する
5 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第2回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
6 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第2回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
7 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第3回 模擬テスト問題をやってくること 講義内容を再確認する
8 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第3回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
9 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第3回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
10 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第4回 模擬テスト問題をやってくること 講義内容を再確認する
11 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第4回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
12 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第4回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
13 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第5回 模擬テスト問題をやってくること 講義内容を再確認する
14 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第5回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
15 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第5回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する

科目名	日本語ⅠA-1後（日本語ⅠB-1）			科目コード	41072	
英 文 名	JapaneseⅠA (JapaneseⅠA・JapaneseⅠB)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの文字・語彙、文法。実際JLPT試験と同じ形式で問題を解いて、試験に慣れる。JLPT試験には、読解も聴解も出題する。これらの出題問題を解けるためには、その基礎として、文字・語彙、文法の知識が必要である。文字・語彙では、漢字の読み方・書き方、語彙の意味・使い方を行う。文法では、N2の文法項目を中心に行う。文字・語彙、文法の学習は根気がいるものなので、前期・後期一年間かけて行う。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。文字・語彙、文法では、すべての基礎になるもので、漢字の読み方や書き方、語彙の意味や使い方、文法の意味を理解し、大学の講義がより分かるようになり、レポート作成がよりできるようになる。また、JLPT試験でも文字・語彙、文法は点数が取れやすい部分なため、繰り返し学習をし、知識が定着することを目標とし、文字・語彙、文法の点数が取れるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTのN2相当レベル 関連科目:「日本語ⅠA-1前」					
授業外学習(予習・復習)	予習として、その回で行う模擬テストをやってもらうこと。復習として、授業内でやった内容を見直すこと。小テストに備えて、内容を復習すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『日本語能力試験 直前対策 N2文字・語彙・文法』国書刊行会					
参考書・その他教材	必要に応じて教員が補足資料を渡す。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回確認小テストで行った文字・語彙、文法について、解説を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業でやった内容だけでJLPTに合格することは難しいため、授業外でも自律的に学習することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to : shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語ⅠA-1後（日本語ⅠB-1）

1 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第6回 シラバスを熟読し、授業の内容についておおむね理解しておく 講義内容を再確認する
2 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第6回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
3 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第6回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
4 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第7回 模擬テスト問題をやってくること 講義内容を再確認する
5 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第7回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
6 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第7回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
7 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第8回 模擬テスト問題をやってくること 講義内容を再確認する
8 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第8回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
9 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第8回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
10 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第9回 模擬テスト問題をやってくること 講義内容を再確認する
11 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第9回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
12 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第9回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
13 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第10回 模擬テスト問題をやってくること 講義内容を再確認する
14 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第10回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する
15 回	学習内容 予習 復習	模擬テスト第10回 テスト問題確認、分からない語彙など調べておく 講義内容を再確認する

科目名	日本語 I A-2前 (外国語としての日本語 I -2)			科目コード	41081	
英 文 名	Japanese I A (Japanese as Foreign Language I)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	高橋 優美		教員コード	262	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの文字・語彙、文法。実際JLPT試験と同じ形式で問題を解いて、試験に慣れる。JLPT試験には、読解も聴解も出題する。これらの出題問題を解けるためには、その基礎として、文字・語彙、文法の知識が必要である。文字・語彙では、漢字の読み方・書き方、語彙の意味・使い方を行う。文法では、N2の文法項目を中心に行う。文字・語彙、文法の学習は根気がいるものなので、前期・後期一年間かけて行う。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。文字・語彙、文法では、すべての基礎になるもので、漢字の読み方や書き方、語彙の意味や使い方、文法の意味を理解し、大学の講義がより分かるようになり、レポート作成がよりできるようになる。また、JLPT試験でも文字・語彙、文法は点数が取れやすい部分なため、繰り返し学習をし、知識が定着することを目標とし、文字・語彙、文法の点数が取れるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTN2相当レベル 関連科目:「日本語 I A-2後」					
授業外学習(予習・復習)	予習として、その回で行う模擬テストをやってもらうこと。復習として、授業内でやった内容を見直すこと。小テストに備えて、内容を復習すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『日本語能力試験 直前対策 N2文字・語彙・文法』国書刊行会					
参考書・その他教材	必要に応じて、適宜プリントを配布する。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回確認小テストで行った文字・語彙、文法について、解説を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業でやった内容だけでJLPTに合格することは難しいため、授業外でも自律的に学習することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。 本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語 I A-2前(外国語としての日本語 I -2)

1 回	学習内容 予習 復習	ガイダンス／第1回模擬テスト シラバス及び教科書の構成の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
2 回	学習内容 予習 復習	第1回模擬テストの解説 第1回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
3 回	学習内容 予習 復習	第2回模擬テスト 第2回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
4 回	学習内容 予習 復習	第2回模擬テストの解説 第2回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
5 回	学習内容 予習 復習	第3回模擬テスト 第3回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
6 回	学習内容 予習 復習	第3回模擬テストの解説 第3回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
7 回	学習内容 予習 復習	第4回模擬テスト 第4回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
8 回	学習内容 予習 復習	第4回模擬テストの解説 第4回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
9 回	学習内容 予習 復習	第5回模擬テスト 第5回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
10 回	学習内容 予習 復習	第5回模擬テストの解説 第5回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
11 回	学習内容 予習 復習	第6回模擬テスト 第6回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
12 回	学習内容 予習 復習	第6回模擬テストの解説 第6回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
13 回	学習内容 予習 復習	第7回模擬テスト 第7回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
14 回	学習内容 予習 復習	第7回模擬テストの解説 第7回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
15 回	学習内容 予習 復習	第8回模擬テスト 第8回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること

科目名	日本語 I A-2後 (外国語としての日本語 I -2)			科目コード	41082	
英 文 名	Japanese I A (Japanese as Foreign Language I)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	高橋 優美		教員コード	262	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・3時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの文字・語彙、文法。実際JLPT試験と同じ形式で問題を解いて、試験に慣れる。JLPT試験には、読解も聴解も出題する。これらの出題問題を解けるためには、その基礎として、文字・語彙、文法の知識が必要である。文字・語彙では、漢字の読み方・書き方、語彙の意味・使い方を行う。文法では、N2の文法項目を中心に行う。文字・語彙、文法の学習は根気がいるものなので、前期・後期一年間かけて行う。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。文字・語彙、文法では、すべての基礎になるもので、漢字の読み方や書き方、語彙の意味や使い方、文法の意味を理解し、大学の講義がより分かるようになり、レポート作成がよりできるようになる。また、JLPT試験でも文字・語彙、文法は点数が取れやすい部分なため、繰り返し学習をし、知識が定着することを目標とし、文字・語彙、文法の点数が取れるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTのN2相当レベル 関連科目:「日本語 I A-2前」					
授業外学習(予習・復習)	予習として、その回で行う模擬テストをやってもらうこと。復習として、授業内でやった内容を見直すこと。小テストに備えて、内容を復習すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『日本語能力試験 直前対策 N2文字・語彙・文法』国書刊行会					
参考書・その他教材	必要に応じて、適宜プリントを配布する。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回熟方語彙や漢字、表現等について、記述や口頭などで確認を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業でやった内容だけでJLPTに合格することは難しいため、授業外でも自律的に学習することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。 本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語 I A-2後(外国語としての日本語 I-2)

1 回	学習内容 予習 復習	第8回模擬テストの解説 第8回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
2 回	学習内容 予習 復習	第9回模擬テスト 第9回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
3 回	学習内容 予習 復習	第9回模擬テストの解説 第9回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
4 回	学習内容 予習 復習	第10回模擬テスト 第10回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
5 回	学習内容 予習 復習	第10回模擬テストの解説 第10回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
6 回	学習内容 予習 復習	第11回模擬テスト 第11回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
7 回	学習内容 予習 復習	第11回模擬テストの解説 第11回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
8 回	学習内容 予習 復習	第12回模擬テスト 第12回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
9 回	学習内容 予習 復習	第12回模擬テストの解説 第12回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
10 回	学習内容 予習 復習	第13回模擬テスト 第13回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
11 回	学習内容 予習 復習	第13回模擬テストの解説 第13回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
12 回	学習内容 予習 復習	第14回模擬テスト 第14回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
13 回	学習内容 予習 復習	第14回模擬テストの解説 第14回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
14 回	学習内容 予習 復習	第15回模擬テスト 第15回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること
15 回	学習内容 予習 復習	第15回模擬テストの解説 第15回模擬テストに関する語彙の確認 学習内容の確認。授業内の表現を運用できるようにすること

科目名	日本語 I B-1前 (外国語としての日本語 I -1)			科目コード	41091	
英 文 名	Japanese I B (Japanese as Foreign Language I)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	長谷川 文映		教員コード	246	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの読解。内容理解を重視した精読と、JLPTに対応するための読解問題を解く。新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論、お知らせの日常的な文書や手紙など幅広い読解を行う。JPLTに沿った読み物に慣れ、内容や情報を時間内に正確に理解すること。短文・中文・統合理解・長文・情報検索の読み物を繰り返し練習することで、JLPT読解のポイントやコツを掴むこと。同時にJLPT読解に関する語彙や文法にも触れる。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。幅広い話題について書かれた文章(新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論、お知らせの日常的な文章や手紙)の内容を限られた時間の中で正確に理解することと一般的な話題に関する文章を読んで、話の流れや言いたいことを理解することができるようになる。JPLTに沿った読み物を繰り返し読み、問題を解くことで、試験に慣れ、問題形式を知り、試験対策につなげることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTのN2相当レベル 日本語 I B-1後					
授業外学習(予習・復習)	授業で扱った語彙や表現を定着させるように復習用課題を毎回行う。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『N2読解スピードマスター』リサーチ出版					
参考書・その他教材	参考資料は、随時適宜配布する。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回扱った語彙や漢字、表現などについて、記述や口頭などで確認を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業でやった内容だけでJLPTに合格することは難しいため、授業外でも自律的に学習することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	企業、専門学校、日本語学校において日本語学習者に対しての日本語指導					
担当教員への連絡方法	メール(hasegawa@aikoku-u.org)で受け付ける。 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語 I B-1前(外国語としての日本語 I-1)

1 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)1, 2 シラバスを読み, 1年間のスケジュールを確認しておく 授業で学んだ内容を再確認する
2 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)3, 4 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
3 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)5 小テスト① 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
4 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)6 小テスト①フィードバック 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
5 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)7, 8 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
6 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)9 小テスト② 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
7 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)10 小テスト②フィードバック 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
8 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)11 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
9 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)12 小テスト③ 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
10 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)1 小テスト③フィードバック 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
11 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)2 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
12 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)3 小テスト④ 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと。 授業で学んだ内容を再確認する
13 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)4 小テスト④フィードバック 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
14 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)5 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
15 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)6 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する

科目名	日本語 I B-1後 (外国語としての日本語 I -1)			科目コード	41092	
英 文 名	Japanese I B (Japanese as Foreign Language I)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	長谷川 文映		教員コード	246	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの読解。内容理解を重視した精読と、JLPTに対応するための読解問題を解く。新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論、お知らせの日常的な文書や手紙など幅広い読解を行う。JPLTに沿った読み物に慣れ、内容や情報を時間内に正確に理解すること。短文・中文・統合理解・長文・情報検索の読み物を繰り返し練習することで、JLPT読解のポイントやコツを掴むこと。同時にJLPT読解に関する語彙や文法にも触れる。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。幅広い話題について書かれた文章(新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論、お知らせの日常的な文章や手紙)の内容を限られた時間の中で正確に理解することと一般的な話題に関する文章を読んで、話の流れや言いたいことを理解することができるようになる。JPLTに沿った読み物を繰り返し読み、問題を解くことで、試験に慣れ、問題形式を知り、試験対策につながるができる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTのN2相当レベル 日本語 I B-1前					
授業外学習(予習・復習)	授業で扱った語彙や表現を定着させるように復習用課題を毎回行う。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『N2読解スピードマスター』リサーチ出版					
参考書・その他教材	参考資料は、随時適宜配布する。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回扱った語彙や漢字、表現などについて、記述や口頭などで確認を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	特になし					
科目に関連した教員の実務経験	企業、専門学校、日本語学校において日本語学習者に対しての日本語指導					
担当教員への連絡方法	メール(hasegawa@aikoku-u.org)で受け付ける。 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語 I B-1後(外国語としての日本語 I-1)

1 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)7 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
2 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)8 小テスト⑤ 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
3 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)9 小テスト⑤フィードバック 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
4 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)10 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
5 回	学習内容 予習 復習	統合理解 1 一回目 小テスト⑥ 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
6 回	学習内容 予習 復習	統合理解 1 二回目 小テスト⑥フィードバック 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
7 回	学習内容 予習 復習	統合理解 1 三回目 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
8 回	学習内容 予習 復習	統合理解 2 一回目 小テスト⑦ 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
9 回	学習内容 予習 復習	統合理解 2 二回目 小テスト⑦フィードバック 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
10 回	学習内容 予習 復習	統合理解 3 一回目 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
11 回	学習内容 予習 復習	統合理解 3 二回目 小テスト⑧ 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
12 回	学習内容 予習 復習	主張理解(長文)1 一回目 小テスト⑧フィードバック 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
13 回	学習内容 予習 復習	主張理解(長文)1 二回目 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
14 回	学習内容 予習 復習	主張理解(長文)1 三回目 小テスト⑨ 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ 小テスト⑨フィードバック 前もってプリントが渡されている時は、語彙の意味を調べておくこと 授業で学んだ内容を再確認する

科目名	日本語 I B-2前 (日本語 I A-2)			科目コード	41101	
英 文 名	Japanese I B (Japanese I A・Japanese I B)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの読解。内容理解を重視した精読と、JLPTに対応するための読解問題を解く。新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論、お知らせの日常的な文書や手紙など幅広い読解を行う。JPLTに沿った読み物に慣れ、内容や情報を時間内に正確に理解すること。短文・中文・統合理解・長文・情報検索の読み物を繰り返し練習することで、JLPT読解のポイントやコツを掴むこと。同時にJLPT読解に関する語彙や文法にも触れる。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。幅広い話題について書かれた文章(新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論、お知らせの日常的な文章や手紙)の内容を限られた時間の中で正確に理解することと一般的な話題に関する文章を読んで、話の流れや言いたいことを理解することができるようになる。JPLTに沿った読み物を繰り返し読み、問題を解くことで、試験に慣れ、問題形式を知り、試験対策につながるができる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTのN2相当レベル 関連科目:「日本語 I B-2後」					
授業外学習(予習・復習)	予習として、次回予定の読解問題の語彙など調べておく。復習として、授業でやった内容を見直すこと。小テストに備えて、内容を復習すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『N2読解スピードマスター』リサーチ出版					
参考書・その他教材	必要に応じて教員が補足資料を渡す。					
課題に対するフィードバック	小テストは翌週返却し、間違いが多い箇条を再度解説を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業でやった内容だけでJLPTに合格することは難しいため、授業外でも自律的に学習することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to : shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語 I B-2前 (日本語 I A-2)

1 回	学習内容 予習 復習	読解力アップのポイントと練習 シラバスを熟読し、授業の内容についておおむね理解しておく 講義内容を再確認する
2 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
3 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)問題前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
4 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)問題前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
5 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)問題前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
6 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)問題前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
7 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)問題前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
8 回	学習内容 予習 復習	統合理解問題前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
9 回	学習内容 予習 復習	第1回模擬試験 問題を解く 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
10 回	学習内容 予習 復習	第1回模擬試験 解説と精読 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
11 回	学習内容 予習 復習	第1回模擬試験 解説と精読 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	統合理解問題前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
13 回	学習内容 予習 復習	主張理解(長文)問題前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
14 回	学習内容 予習 復習	主張理解(長文)問題前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
15 回	学習内容 予習 復習	情報検索問題前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する

科目名	日本語 I B-2後 (日本語 I B-2)			科目コード	41102	
英 文 名	Japanese I B (Japanese I A・Japanese I B)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	火曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの読解。内容理解を重視した精読と、JLPTに対応するための読解問題を解く。新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論、お知らせの日常的な文書や手紙など幅広い読解を行う。JPLTに沿った読み物に慣れ、内容や情報を時間内に正確に理解すること。短文・中文・統合理解・長文・情報検索の読み物を繰り返し練習することで、JLPT読解のポイントやコツを掴むこと。同時にJLPT読解に関する語彙や文法にも触れる。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。幅広い話題について書かれた文章(新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論、お知らせの日常的な文章や手紙)の内容を限られた時間の中で正確に理解することと一般的な話題に関する文章を読んで、話の流れや言いたいことを理解することができるようになる。JPLTに沿った読み物を繰り返し読み、問題を解くことで、試験に慣れ、問題形式を知り、試験対策につながるができる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTのN2相当レベル 関連科目:「日本語 I B-2前」					
授業外学習(予習・復習)	予習として、次回予定の読解問題の語彙など調べておく。復習として、授業でやった内容を見直すこと。小テストに備えて、内容を復習すること。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『N2読解スピードマスター』リサーチ出版					
参考書・その他教材	必要に応じて教員が補足資料を渡す。					
課題に対するフィードバック	小テストは翌週返却し、間違いが多い箇条を再度解説を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業でやった内容だけでJLPTに合格することは難しいため、授業外でも自律的に学習することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to : shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語 I B-2後 (日本語 I B-2)

1 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)問題後半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
2 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)問題前半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
3 回	学習内容 予習 復習	内容理解(短文)問題後半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
4 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)問題後半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
5 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)問題後半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
6 回	学習内容 予習 復習	第2回模擬試験 問題を解く 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
7 回	学習内容 予習 復習	第2回模擬試験 解説と精読 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
8 回	学習内容 予習 復習	第2回模擬試験 解説と精読 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
9 回	学習内容 予習 復習	内容理解(中文)問題後半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
10 回	学習内容 予習 復習	統合理解問題後半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
11 回	学習内容 予習 復習	統合理解問題後半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
12 回	学習内容 予習 復習	主張理解(長文)問題後半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
13 回	学習内容 予習 復習	主張理解(長文)問題後半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
14 回	学習内容 予習 復習	主張理解(長文)問題後半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する
15 回	学習内容 予習 復習	情報検索問題後半 分からない語彙などを調べておく 講義内容を再確認する

科目名	日本語ⅡA-前 (外国語としての日本語Ⅱ-1)			科目コード	41111	
英文名	JapaneseⅡA (Japanese as Foreign LanguageⅡ)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	高橋 優美		教員コード	262	単位数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	金曜日・4時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの文字・語彙、文法。実際JLPT試験と同じ形式で問題を解いて、試験に慣れる。JLPT試験には、読解も聴解も出題する。これらの出題問題を解けるためには、その基礎として、文字・語彙、文法の知識が必要である。文字・語彙では、漢字の読み方・書き方、語彙の意味・使い方を行う。文法では、N2の文法項目を中心に行う。文字・語彙、文法の学習は根気がいるものなので、前期・後期一年間かけて行う。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。文字・語彙、文法では、すべての基礎になるもので、漢字の読み方や書き方、語彙の意味や使い方、文法の意味を理解し、大学の講義がより分かるようになり、レポート作成がよりできるようになる。また、JLPT試験でも文字・語彙、文法は点数が取れやすい部分なため、繰り返し学習をし、知識が定着することを目標とし、文字・語彙、文法の点数が取れるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTN2相当レベル 関連科目:「日本語ⅡA-後」					
授業外学習(予習・復習)	授業で学習した文字・語彙、文法を定着するために確認小テストを毎回行う。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『日本語能力試験N2予想問題集(改訂版)』 国書日本語学校編 国書刊行会					
参考書・その他教材	必要に応じて教員が細く資料を渡す。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回熟方語彙や漢字、表現等について、記述や口頭などで確認を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業でやった内容だけでJLPTに合格することは難しいため、授業外でも自律的に学習することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。 本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語ⅡA-前(外国語としての日本語Ⅱ-1)

1 回	学習内容 予習 復習	問題1漢字読み 1～4 問題2 表記 1～4 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
2 回	学習内容 予習 復習	問題3 語形成 1～4 問題4 文脈規定 1～4 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
3 回	学習内容 予習 復習	問題5 言い換えと類義 1～4 問題6 用法 1～4 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
4 回	学習内容 予習 復習	問題7 文の文法1 1～4 問題8 文の文法2 1～4 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
5 回	学習内容 予習 復習	問題9 文章の文法 9-1 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
6 回	学習内容 予習 復習	問題1漢字読み 5～8 問題2 表記 5～8 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
7 回	学習内容 予習 復習	問題3 語形成 5～8 問題4 文脈規定 5～8 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
8 回	学習内容 予習 復習	問題5 言い換えと類義 5～8 問題6 用法 5～8 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
9 回	学習内容 予習 復習	問題7 文の文法1 5～8 問題8 文の文法2 5～8 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
10 回	学習内容 予習 復習	問題9 文章の文法 9-2 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
11 回	学習内容 予習 復習	問題1漢字読み 9～12 問題2 表記 9～12 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
12 回	学習内容 予習 復習	問題3 語形成 9～12 問題4 文脈規定 9～12 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
13 回	学習内容 予習 復習	問題5 言い換えと類義 9～12 問題6 用法 9～12 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
14 回	学習内容 予習 復習	問題7 文の文法1 9～12 問題8 文の文法2 9～12 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
15 回	学習内容 予習 復習	問題9 文章の文法 9-3 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。

科目名	日本語ⅡA-後 (外国語としての日本語Ⅱ-1)			科目コード	41112	
英文名	JapaneseⅡA (Japanese as Foreign LanguageⅡ)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	高橋 優美		教員コード	262	単位数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	金曜日・4時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの文字・語彙、文法。実際JLPT試験と同じ形式で問題を解いて、試験に慣れる。JLPT試験には、読解も聴解も出題する。これらの出題問題を解けるためには、その基礎として、文字・語彙、文法の知識が必要である。文字・語彙では、漢字の読み方・書き方、語彙の意味・使い方を行う。文法では、N2の文法項目を中心に行う。文字・語彙、文法の学習は根気がいるものなので、前期・後期一年間かけて行う。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。文字・語彙、文法では、すべての基礎になるもので、漢字の読み方や書き方、語彙の意味や使い方、文法の意味を理解し、大学の講義がより分かるようになり、レポート作成がよりできるようになる。また、JLPT試験でも文字・語彙、文法は点数が取れやすい部分なため、繰り返し学習をし、知識が定着することを目標とし、文字・語彙、文法の点数が取れるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTN2相当レベル 関連科目:「日本語ⅡA-前」					
授業外学習(予習・復習)	授業で学習した文字・語彙、文法を定着するために確認小テストを毎回行う。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『日本語能力試験N2予想問題集(改訂版)』 国書日本語学校編 国書刊行会					
参考書・その他教材	必要に応じて教員が細く資料を渡す。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回熟方語彙や漢字、表現等について、記述や口頭などで確認を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業でやった内容だけでJLPTに合格することは難しいため、授業外でも自律的に学習することが望ましい。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。 本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語ⅡA-後(外国語としての日本語Ⅱ-1)

1 回	学習内容 予習 復習	問題1漢字読み 13～17 問題2 表記 13～17 シラバスを熟読し、授業の内容についておおむね理解しておく 授業内容を確認し、復習課題を行う。
2 回	学習内容 予習 復習	問題3 語形成 13～17 問題4 文脈規定 13～17 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
3 回	学習内容 予習 復習	問題5 言い換えと類義 13～17 問題6 用法 13～17 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
4 回	学習内容 予習 復習	問題7 文の文法1 13～17 問題8 文の文法2 13～17 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
5 回	学習内容 予習 復習	問題9 文章の文法 9-4 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
6 回	学習内容 予習 復習	問題1漢字読み 18～22 問題2 表記 18～22 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
7 回	学習内容 予習 復習	問題3 語形成 18～22 問題4 文脈規定 18～22 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
8 回	学習内容 予習 復習	問題5 言い換えと類義 18～22 問題6 用法 18～20 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
9 回	学習内容 予習 復習	問題7 文の文法1 18～22 問題8 文の文法2 18～22 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
10 回	学習内容 予習 復習	問題9 文章の文法 9-5 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
11 回	学習内容 予習 復習	問題1漢字読み 23～26 問題2 表記 23～26 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
12 回	学習内容 予習 復習	問題3 語形成 23～26 問題4 文脈規定 23～26 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
13 回	学習内容 予習 復習	問題5 言い換えと類義 23～26 問題6 用法 21～23 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
14 回	学習内容 予習 復習	問題7 文の文法1 23～26 問題8 文の文法2 23～26 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。
15 回	学習内容 予習 復習	問題9 文章の文法 9-6 問題をやってくること 授業で扱った内容を確認し、復習課題を行う。

科目名	日本語ⅡB-前（日本語ⅡA-1）			科目コード	41121	
英 文 名	JapaneseⅡB (JapaneseⅡA・JapaneseⅡB)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの読解。内容理解を重視した精読と、JLPTに対応するための読解問題を解く。新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論、お知らせの日常的な文書や手紙など幅広い読解を行う。JPLTに沿った読み物に慣れ、内容や情報を時間内に正確に理解すること。短文・中文・統合理解・長文・情報検索の読み物を繰り返し練習することで、JLPT読解のポイントやコツを掴むこと。同時にJLPT読解に関する語彙や文法にも触れる。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。幅広い話題について書かれた文章(新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論、お知らせの日常的な文章や手紙)の内容を限られた時間の中で正確に理解することと一般的な話題に関する文章を読んで、話の流れや言いたいことを理解することができるようになる。JPLTに沿った読み物を繰り返し読み、問題を解くことで、試験に慣れ、問題形式を知り、試験対策につなげることができる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTのN2相当レベル 関連科目:「日本語ⅠB(前期・後期)」、「日本語ⅡB(後期)」					
授業外学習(予習・復習)	授業で扱った語彙や表現を定着させるよう復習用課題を毎回行う。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『日本語能力試験N2予想問題集(改訂版)』国書刊行会					
参考書・その他教材	必要に応じて教員が補足資料を渡す。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回扱った語彙や漢字、表現などについて、記述や口頭などで確認を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	模擬試験の結果で可否を判定する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業内だけでなく普段から日本語を読むという習慣をつけ、長い文章に対する苦手意識をなくすよう努力すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to : shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語ⅡB-前（日本語ⅡA-1）

1 回	学習内容 予習 復習	読解 短文1, 2, 3 中文1 短い文章を黙読、音読してみる 日本語ⅡBで使用したテキストの内容を復習しておく
2 回	学習内容 予習 復習	読解 中文2, 3 統合理解1 中程度の文章を読み、内容理解を測る 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
3 回	学習内容 予習 復習	読解 長文1 情報検索1 中程度の文章を読み、内容理解を測る 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
4 回	学習内容 予習 復習	読解 長文2 情報検索 長い文章を読み、内容理解を測る 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
5 回	学習内容 予習 復習	聴解 課題理解1～7 ポイント理解1～5 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
6 回	学習内容 予習 復習	聴解 概要理解1～5 即時応答1～10 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
7 回	学習内容 予習 復習	聴解 概要理解6～9 統合理解1～3 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
8 回	学習内容 予習 復習	聴解 ポイント理解6～10 統合理解4～6 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
9 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解問題を解く 1年次等過去に行った模擬試験問題等をもう一度解き、長時間読解の準備をする もう一度自身の誤答にについて、その原因を把握する。難しかった文章をもう一度確認する
10 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解問題の解説と精読 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
11 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解問題の解説と精読 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解問題の解説と精読 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
13 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験聴解 教員が指示した聞き取り問題をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験聴解 教員が指示した聞き取り問題をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	まとめ テキストに目を通すこと 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う

科目名	日本語ⅡB-後（日本語ⅡB-1）			科目コード	41122	
英 文 名	JapaneseⅡB (JapaneseⅡA・JapaneseⅡB)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	清水 聖子		教員コード	132	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	中上級レベルの読解と聴解。内容理解を重視した精読と、JLPTに対応するための読解問題を解く。後半は、実際の新聞記事を使用した内容や情報を読み取る。聴解は、JLPTの聴解問題を中心に長い会話文や即時応答等を正確に聞き取る練習をする。JLPTの読解、聴解とも関連する語彙や文法にも触れる。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身につけ、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。読解では、様々な文章スタイルや内容を多読することによって日本語表現形式に慣れ、瞬時に内容を理解し、重要な情報を読み取れる能力をつける。聴解では、日常生活や授業での聞き逃しや聞き間違いをなくし、話し言葉特有の言い回し等を習得することで自然なコミュニケーションができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTのN2相当レベル 関連科目:「日本語ⅠB(前期・後期)」、「日本語ⅡB(前期)」					
授業外学習(予習・復習)	授業で扱った語彙や表現を定着させるよう復習用課題を毎回行う。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『日本語能力試験N2予想問題集(改訂版)』国書刊行会					
参考書・その他教材	必要に応じて教員が補足資料を渡す。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回扱った語彙や漢字、表現などについて、記述や口頭などで確認を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	模擬試験の結果で合否を判定する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業内だけでなく普段から日本語を読むという習慣をつけ、長い文章に対する苦手意識をなくすよう努力すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	質問はメールでも受け付ける。(mail to : shimizu@aikoku-u.org) 件名に科目名・曜日・時限、本文に学籍番号・氏名を必ず記載すること。					

授業スケジュール

日本語ⅡB-後（日本語ⅡB-1）

1 回	学習内容 予習 復習	読解 短文4, 5, 6 統合理解3 短い文章を黙読、音読してみる 日本語ⅠBで使用したテキスト、または日本語ⅡB前期で扱った問題を見ておく
2 回	学習内容 予習 復習	読解 中文4, 5 情報検索3 中程度の文章を読み、内容理解を測る 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
3 回	学習内容 予習 復習	読解 長文3 聴解 即時応答11～18 長い文章を読み、内容理解を測る 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
4 回	学習内容 予習 復習	聴解 課題理解8～12 概要理解10～14 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
5 回	学習内容 予習 復習	聴解 ポイント理解11～14 統合理解7～10 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
6 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解 問題を解く 1年次や2年前期等過去に行った模擬試験問題等をもう一度解き、長時間読解の準備をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
7 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解 解説と精読 教師の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
8 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解 解説と精読 教師の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
9 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験聴解 教員の指示した聞き取り問題をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
10 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験聴解 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
11 回	学習内容 予習 復習	聴解 課題理解13～15 即時応答19～25 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
12 回	学習内容 予習 復習	聴解 課題理解13～15 即時応答19～25 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
13 回	学習内容 予習 復習	短編小説を読む① 教員が指示したところまで読み、内容を簡単に把握しておく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
14 回	学習内容 予習 復習	短編小説を読む② 教員が指示したところまで読み、内容を簡単に把握しておく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う
15 回	学習内容 予習 復習	短編小説を読む③ 教員が指示したところまで読み、内容を簡単に把握しておく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う

科目名	日本語ⅡC-前（日本語ⅡA-2）			科目コード	41131	
英 文 名	Japanese Ⅱ C (Japanese Ⅱ A・Japanese Ⅱ B)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単 位 数	1単位
開講期間	前期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	上級レベルの読解と聴解。内容理解を重視した精読と、JLPTに対応するための読解問題を解く。後半は、実際の新聞記事を使用し内容や情報を読み取る。聴解は、JLPTの聴解問題を中心に長い会話文や即時応答等を正確に聞き取る練習をする。J読解、聴解とも関連する語彙や文法にも触れる。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身に付け、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。読解では、様々な文章スタイルや内容を多読することによって日本語表現形式に慣れ、瞬時に内容を理解し、重要な情報を読み取れる能力をつける。聴解では、聞き取る力を養うだけでなく、話し言葉特有の言い回し等を習得することで自然なコミュニケーションができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTN2～N1レベル 関連科目:「日本語ⅠB(前期・後期)」、「日本語ⅡC(後期)」					
授業外学習(予習・復習)	授業で扱った語彙や表現を定着させるよう復習用課題を毎回行う。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『日本語能力試験N2予想問題集(改訂版)』国書日本語学校編 国書刊行会					
参考書・その他教材	必要に応じて教員が補足資料を渡す。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回扱った語彙や漢字、表現等について、記述や口頭などで確認を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業内だけでなく普段から日本語を読むという習慣をつけ、長い文章に対する苦手意識をなくすよう努力すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org					

授業スケジュール

日本語ⅡC-前（日本語ⅡA-2）

1 回	学習内容 予習 復習	読解 短文1、2、3 中文1 短い文章を黙読、音読してみる 日本語ⅡBで使ったテキストの内容を復習しておく
2 回	学習内容 予習 復習	読解 中文2、3 統合理解1 中程度の文章を読み、内容理解を測る 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
3 回	学習内容 予習 復習	読解 長文1、情報検索1 中程度の文章を読み、内容理解を測る 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
4 回	学習内容 予習 復習	読解 長文2 情報検索2 長い文章を読み、内容理解を測る 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
5 回	学習内容 予習 復習	聴解 課題理解1～7 ポイント理解1～5 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
6 回	学習内容 予習 復習	聴解 概要理解1～5 即時応答1～10 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
7 回	学習内容 予習 復習	聴解 概要理解6～9 統合理解1～3 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
8 回	学習内容 予習 復習	聴解 ポイント理解6～10 統合理解4～6 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
9 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解 問題を解く 1年次等過去に行った模擬試験問題等をもう一度解き、長時間読解の準備をする もう一度自身の誤答に関しその原因を把握する。難しかった文章をシド確認する。
10 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解 問題の解説と精読 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
11 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解 問題の解説と精読 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
12 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験聴解 教員が指示した聞き取り問題をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
13 回	学習内容 予習 復習	ニュース記事を読む(1) 事前に与えられたニュース記事を一通り読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
14 回	学習内容 予習 復習	ニュース記事を読む(2) 事前に与えられたニュース記事を一通り読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
15 回	学習内容 予習 復習	ニュース記事を読む(3) 事前に与えられたニュース記事を一通り読んでおく これまでの課題プリントや資料等を再度読み、

科目名	日本語ⅡC-後（日本語ⅡB-2）			科目コード	41132	
英 文 名	Japanese ⅡC (Japanese ⅡA・Japanese ⅡB)			科目区分	【外国人留学生 日本語支援科目】(必修)	
担当教員	部田 和美		教員コード	153	単 位 数	1単位
開講期間	後期	曜日・時限	月曜日・2時限		授業形態	演習
学位授与方針との対応		1.大学生としての幅広い教養を身につける		2.学修を通じて得た専門的な知識を表現する		
		3.論理的・批判的なものの見方を養う		4.自己の潜在能力を発見し、問題を解決する		
		5.学習の過程で発見した課題を探究する	◎	6.卒業後の社会生活を豊かに過ごす基礎を養う		
授業概要	上級レベルの読解と聴解。内容理解を重視した精読と、JLPTに対応するための読解問題を解く。後半は、実際の短編小説を使用し内容を読み取る。聴解は、JLPTの聴解問題を中心に長い会話文や即時応答等を正確に聞き取る練習をする。J読解、聴解とも関連する語彙や文法にも触れる。					
授業の狙い・到達目標	専門性を増す大学の講義に対応する日本語能力を身に付け、より高いレベルの日本語試験に合格することが第一の目標である。読解では、様々な文章スタイルや内容を多読することによって日本語表現形式に慣れ、瞬時に内容を理解し、重要な情報を読み取れる能力をつける。聴解では、聞き取る力を養うだけでなく、話し言葉特有の言い回し等を習得することで自然なコミュニケーションができるようになる。					
授業内容のレベル・関連科目	JLPTN2～N1レベル 関連科目：「日本語ⅠB(前期・後期)」、「日本語ⅡC(前期)」					
授業外学習(予習・復習)	授業で扱った語彙や表現を定着させるよう復習用課題を毎回行う。				授業外学習に必要な時間	各回4時間、 合計60時間
使用教科書	『日本語能力試験N2予想問題集(改訂版)』国書日本語学校編 国書刊行会					
参考書・その他教材	必要に応じて教員が補足資料を渡す。					
課題に対するフィードバック	毎回、前回扱った語彙や漢字、表現等について、記述や口頭などで確認を行う。					
成績評価方法	JLPTN2レベルの日本語定期試験					
成績評価基準	学習の到達目標にどのくらい到達したかを本学の学業成績判定に関する規程の基準に基づき評価する。					
履修上の注意事項や学習上の助言	授業内だけでなく普段から日本語を読むという習慣をつけ、長い文章に対する苦手意識をなくすよう努力すること。					
科目に関連した教員の実務経験	特になし					
担当教員への連絡方法	torita@aikoku-u.org					

授業スケジュール

日本語ⅡC-後（日本語ⅡB-2）

1 回	学習内容 予習 復習	読解 短文4、5、6 統合理解3 短い文章を黙読、音読してみる 日本語ⅡBで使用したテキスト、または日本語ⅡC前期で扱った問題を見ておく
2 回	学習内容 予習 復習	読解 中文4、5 情報検索3 中程度の文章を読み、内容理解を測る 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
3 回	学習内容 予習 復習	読解 長文3 聴解 即時応答11～18 長い文章を読み、内容理解を測る 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
4 回	学習内容 予習 復習	聴解 課題理解8～12 概要理解10～14 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
5 回	学習内容 予習 復習	聴解 ポイント理解11～14 統合理解7～10 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
6 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解 問題を解く 1年次や2年前期等過去に行った模擬試験問題等をもう一度解き、長時間読解の準備をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
7 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解 解説と精読 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
8 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験読解 解説と精読 教員の指示に従い、授業で扱う部分の読解問題を読んでおく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
9 回	学習内容 予習 復習	JLPT模擬試験聴解 教員が指示した聞き取り問題をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
10 回	学習内容 予習 復習	聴解 課題理解13～15 即時応答19～25 日本語のニュース等を何度も聞き、内容把握をする 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
11 回	学習内容 予習 復習	短編小説を読む(1) 教員が指示したところまで読み、内容を簡単に把握しておく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
12 回	予習 復習	短編小説を読む(2) 教員が指示したところまで読み、内容を簡単に把握しておく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
13 回	学習内容 予習 復習	短編小説を読む(3) 教員が指示したところまで読み、内容を簡単に把握しておく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
14 回	学習内容 予習 復習	短編小説を読む(4) 教員が指示したところまで読み、内容を簡単に把握しておく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。
15 回	学習内容 予習 復習	短編小説を読む(5) 教員が指示したところまで読み、内容を簡単に把握しておく 授業で扱った内容を確認し復習課題を行う。



Aikoku Gakuen University